松本市文化財調査報告No.82

AGATAMACHI

# 松本市県町遺跡

## ——緊急発掘調査報告書——

## （本　文　編）

1990・3
長野県松本県ヶ丘高等学校
松本市教育委員会

AGATAMACHI

# 松本市県町遺跡

## ——緊急発掘調査報告書——

## （本　文　編）

1990・3
長野県松本県ヶ丘高等学校
松本市教育委員会

# 序

県町遺跡は、松本県ヶ丘高等学校を含む周辺一帯に存在する大遺跡ですが、今回、本校々舎改築事業に伴い、この県町遺跡について、埋蔵文化財調査が行われたものであります。

発掘調査は、県・市教育委員会の皆様との打合せを経て、松本市教育委員会に全面的に受託していただき、改築工事の工期にあわせ、昭和61年10月～11月、昭和62年９月～10月、昭和63年12月、平成元年９月の４回行われました。

校舎改築事業の間隙を縫って行われた調査ではありましたが、結果としては、改築する建物（４棟）の建設予定地のみという、県町遺跡全体に比べれば、ほんの一部の発掘であったにも関わらず、弥生時代・古墳時代、及び奈良・平安時代の竪穴住居址や、土器・鉄器など貴重な遺構・遺物が多数出土し、多大な成果をあげることとなりました。

当時、この地域が重要な土地であったことを窺わせる内容となっており、この調査結果が、県地区周辺の歴史を探るための貴重な資料となることを願ってやみません。

最後に、この発掘調査を無事完了できましたことは、県・市教育委員会の適切な御指導と、お忙しいなか調査団に参画され、発掘調査にあたられた皆様の御尽力の賜と感謝しております。

平成２年３月

長野県松本県ヶ丘高等学校長　小林榮一

# 序

県町遺跡はあがたの森から蚕糸記念公園、県ヶ丘高校、蚕糸試験場にかけて広がるたいへん大きな遺跡です。そしてそれは単に大きいだけでなく、「県」という地名が冠せられていることもあって、歴史的にも特に重要な遺跡であると考えられてきました。松本市教育委員会では昭和61年から平成元年の4年次にわたり県ヶ丘高校敷地内にある当遺跡の発掘調査を実施してまいりました。これは県ヶ丘高校校舎の改築にさいして、遺跡の滅失が懸念される箇所を、埋蔵文化財保護の立場から記録保存するために行われたものです。

調査は県ヶ丘高校からの委託を受けて市教育委員会職員が中心となり、校長先生を始めとする諸先生方および学校関係者の方々、地元考古学研究者の皆様の御協力により推し進められました。埋蔵文化財の重要性とその保護について、尋常ならぬ御理解と御協力を下さいましたことに厚く御礼申し上げます。また厳しい作業条件のなかで発掘調査にあたられた調査員・作業員の皆様にも深く感謝いたします。

調査の成果としては、弥生時代から平安時代にわたる各時代の住居跡、土器その他の遺構・遺物を数多く発見することができました。今回の調査をふまえ、さらに今後も調査が進められたとき、「県」の歴史的解明に大いに貢献できることとなりましょう。

平成2年3月

松本市教育委員会　教育長　松村好雄

# 例　言

1　本書は、長野県松本市県３丁目一帯に所在する、県町遺跡の発掘調査報告書のうち、第１分冊（本文・写真図版編）である。

2　本調査は、昭和61年から平成元年にわたり長野県松本県ヶ丘高等学校長　安江昭祐（昭和61・62年度）、小林榮一（昭和63・平成元年度）と松本市長　和合正治の間に締結された、県町遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約に基き、同期間中に松本市教育委員会が実施したものである。

3　本調査の各年次別調査期間は以下のとおりである。

昭和61年度（第Ⅳ・Ⅶ次）10月13日～11月16日　昭和62年度（第Ⅴ次）９月７日～10月14日

昭和63年度（第Ⅵ次）12月２日～12月７日　平成元年度（第Ⅷ次）９月11日～９月21日

4　本書は、遺跡、遺構、および遺物についての記述と一部の挿図、写真図版により構成される。遺跡・遺構の測量図・実測図、遺物の実測図・拓影等は第２分冊（図版編）でまとめて示してある。このため、本文中の「第○図」は第２分冊（図版編）中の図番号を指す。

5　本書では、本遺跡の理解を深めるために、本調査以前に行われた周辺での調査（Ⅰ～Ⅲ次調査）の成果についても『第８章　調査地周辺の発掘調査』で触れてある。その際の遺構番号は、本調査とともに一連の通し番号になっているので、調査年度の検索は、本書掲載の各遺構の一覧表を参照されたい。

6　本書作成にあたって（社）長野県史刊行会から一部の土器と石器について実測図の提供をうけた。記して感謝する。

7　本調査の実施、本書の作成にあたって、次の方々から援助・指導・助言をうけた。記して感謝する。（敬称略）

石上周蔵　市沢英利　神村透　桐原健　桜井弘人　笹沢浩　田中正治郎　原明芳　三村肇　宮下健司　百瀬長秀　山下誠一

8　本書掲載の測量図類、遺物図類の原図、印刷用製図、および現場で作成したその他の測量図類、遺物のすべては松本市立考古博物館（松本市中山3738－１☎0263-86-4710）が保管している。

9　本書作成の総括は直井雅尚、編集は滝沢智恵子が担当した。

10　本書作成にあたっての執筆分担は下記の通りである。

第１章：事務局

第２章第１節：森義直、第２節：新谷和孝、第３節：直井雅尚

第３章：直井雅尚

第４章～８章：直井雅尚・久保田剛

第９章第１節：直井雅尚、第２～５節：関沢聡

第10章第１・２・４・５節：直井雅尚、第３節：関沢聡

第11章：直井雅尚

遺構写真：直井雅尚、遺物写真：宮嶋洋一

# 目　次

第１章　調査経過

第１節　調査に至る経緯……5

第２節　調査日程の記録……5

第３節　調査体制……6

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と地形及び地質……7

1　位置と地形……7　2　礫質及び土質……7

第２節　周辺遺跡……9

第３節　県町遺跡の過去の調査……11

1　昭和32年以前……11　2　昭和32～56年……11

3　昭和56年以降……11　4　遺跡名について……12

第３章　調査の概要

第１節　調査・提示の方法……13

1　調査地……13　2　発掘調査……13

3　報告書への提示・掲載……14

第２節　調査結果の概要……14

第４章　昭和61年度の調査（第Ⅳ・Ⅶ次調査）

第１節　調査の概要……15

第２節　遺構と遺物……16

1　住居址……16　2　土坑……19

3　集石……19　4　溝……20

5　遺構外出土の遺物……20

第５章　昭和62年度の調査（第Ⅴ次調査）

第１節　調査の概要……21

第２節　遺構と遺物……21

1　住居址……21　2　土坑……28

3　集石……29　4　溝……29

5　ピット群……29　6　遺構外出土の遺物……30

第６章　昭和63年度の調査（第Ⅵ次調査）

第１節　調査の概要……31

第２節　遺構と遺物……31

1　住居址……31　2　土坑……31

第７章　平成元年度の調査（第Ⅷ次調査）
第１節　調査の概要……33
第２節　遺構と遺物……33
1　住居址……33　2　土坑……33
第８章　調査地周辺の発掘調査
第１節　概要……34
第２節　昭和54年度の発掘調査……34
第３節　昭和59・60年度の発掘調査（第Ⅱ・Ⅲ次調査）……35
1　調査の概要……35　2　遺構と遺物……35
第９章　遺物
第１節　土器・陶磁器……53
1　土器・陶磁器の概要……53　2　弥生時代の土器……53
3　古墳時代の土器……57　4　奈良・平安時代の土器・陶磁器……57
5　中世以降の陶磁器……58
第２節　石器……59
1　弥生時代の石器……59　2　奈良・平安時代の石器……64
第３節　骨器・石製品……66
1　骨器……66　2　石製品……66
第４節　土製品……68
第５節　金属製品……69
第10章　調査のまとめ
第１節　遺構について……128
1　弥生時代の住居址……128　2　古墳時代以降の住居址……129
3　平安時代の集石……130
第２節　弥生時代の土器……130
1　中期後半～末の土器……130　2　後期以降の土器……134
第３節　弥生時代の石器……135
1　石器の組成……135　2　磨製石鏃について……136
3　問題点……140
第４節　古墳時代以降の土器・陶器について……142
1　古墳時代の土器……142　2　奈良・平安時代の土器・陶器……144
3　緑釉陶器……145
第５節　遺跡と集落……147
1　各時期の遺構分布……147　2　集落の断続……148
第11章　結語……150

# 表 目 次

第1表　住居址一覧表……47
第2表　土坑一覧表……50
第3表　溝一覧表……52
第4表　集石一覧表……52
第5表　骨器一覧表……67
第6表　石製品一覧表……67
第7表　土製品一覧表……68
第8表　弥生土器観察表……71
第9表　古墳時代土器観察表……93
第10表　奈良・平安時代土器観察表……95
第11表　石器一覧表……119
第12表　鉄滓一覧表……123
第13表　金属製品一覧表……124
第14表　炭化材・獣骨・顔料一覧表……125
第15表　遺構別出土石器一覧表……137
第16表　古墳時代中期～後期前半の土器を出土した主な遺構……143

# 挿図目次

挿図1　土層柱状図……8
挿図2　周辺遺跡……10
挿図3　第86・87号住居址（第Ⅶ次）……15
挿図4　第Ⅵ・Ⅷ次調査地区全体図……32
挿図5　磨製石鏃の製作工程……139
挿図6　打製・磨製石鏃の重量分布、長さと幅分布……141

# 写真図版目次


第1図版　昭和61年度（第Ⅳ次）の調査……153
第2図版　昭和61年度（第Ⅳ次）の調査……154
第3図版　昭和61年度（第Ⅳ次）の調査……155
第4図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……156
第5図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……157
第6図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……158
第7図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……159
第8図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……160
第9図版　昭和62年度（第Ⅴ次）の調査……161
第10図版　昭和63年度（第Ⅵ次）の調査……162
第11図版　調査地周辺の調査（第Ⅱ次）……163
第12図版　調査地周辺の調査（第Ⅱ次）……164
第13図版　調査地周辺の調査（第Ⅱ次）……165
第14図版　調査地周辺の調査（第Ⅲ次）……166
第15図版　調査地周辺の調査（第Ⅲ次）……167
第16図版　弥生時代の土器（1）……168
第17図版　弥生時代の土器（2）……169
第18図版　弥生時代の土器（3）……170
第19図版　弥生時代の土器（4）……171
第20図版　弥生時代の土器（5）……172
第21図版　弥生時代の土器（6）……173
第22図版　弥生時代の土器（7）……174
第23図版　弥生時代の土器（8）・古墳時代の土器……175
第24図版　奈良・平安時代の土器・陶器（1）……176
第25図版　奈良・平安時代の土器・陶器（2）……177
第26図版　奈良・平安時代の土器・陶器（3）……178
第27図版　奈良・平安時代の土器・陶器（4）……179
第28図版　奈良・平安時代の土器・陶器（5）……180
第29図版　奈良・平安時代の土器・陶器（6）……181
第30図版　奈良・平安時代の土器・陶器（7）……182
第31図版　奈良・平安時代の土器・陶器（8）……183
第32図版　奈良・平安時代の土器・陶器（9）……184
第33図版　弥生時代の石器（1）……185
第34図版　弥生時代の石器（2）……186
第35図版　弥生時代の石器（3）……187
第36図版　弥生時代の石器（4）……188
第37図版　弥生時代の石器（5）……189
第38図版　奈良・平安時代の石器……190
第39図版　骨器・石製品・土製品……191
第40図版　鉄器……192

# 第1章　調査経過

## 第1節　調査に至る経緯

県町遺跡が周知される契機は大正8年の旧制松本高等学校が建設される際に土器が出土したことに遡る。その後も長野県松本県ヶ丘高等学校やあがたの森公園、蚕糸試験場の敷地内からは散発的に遺物の出土があり、かなり広範囲にわたる遺跡であることが推定されていた。その後、昭和55年と59・60年に行われた、あがたの森公園内の発掘調査では弥生時代や平安時代の多数の住居址が検出され、時期の複合する大規模な遺跡であることが確認された。

このような状況のなかで、昭和61年度から松本県ヶ丘高等学校の全面改築が行われることとなり、工事によって破壊される恐れのある埋蔵文化財の保護について、昭和61年9月16日に長野県教育委員会、県ヶ丘高等学校、松本市教育委員会の間で協議が実施された。その結果、昭和61年度については、校舎の工事の際には事前に緊急発掘調査を行うこととなり、10月11日に県町遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、同月13日から発掘調査を実施した。また仮設校舎等の設置に伴う小規模な工事については立ち会い調査を実施した。

また、昭和62年度以降も同様の経緯で調査を行うに至った。

## 第2節　調査日程の記録

昭和61年以来行われた一連の工事に伴う主な調査の日程は以下のとおりである。このなかで遺構・遺物の検出があったものについてのみ調査次数をつけて本遺跡の調査として学術的な記録に残した。なお調査次数がIVから始まるのは、昭和54・59・60年に行われた、あがたの森公園内での発掘調査にI～IIIをふってあり、今回の調査次数をそれに継続させたためである。このことは、行政的にはそれぞれの調査原因が異なっても、考古学的には同一遺跡の中の調査地点の違いにすぎないという見解に基き、かつ今後の調査成果の整理の際の混乱を少しでも避けようとしたためである。

昭和61年9月10・11日　校舎改築工事付帯工事（U字溝敷設）立ち会い調査：第VII次

61年10月11日～11月16日　校舎改築工事（特別教室棟）に伴う緊急発掘調査：第IV次

62年5月7日　校舎改築工事付帯工事（U字溝敷設）立ち会い調査

62年9月7日～10月14日　校舎改築工事（本館）に伴う緊急発掘調査：第V次

63年12月2日～12月7日　校舎改築工事（部室棟）に伴う緊急発掘調査：第VI次

平成元年9月11日～9月22日　校舎改築工事（倉庫）に伴う緊急発掘調査：第VIII次

元年11月20日　校舎改築工事（倉庫）に伴う立ち会い調査

## 第3節　調査体制

［昭和61年度］

**調査団長**：中島俊彦（松本市教育長）**調査担当者**：神沢昌二郎（松本市立考古博物館長）

**現場担当者**：直井雅尚（社会教育課主事）　**事務局**：浜慈幸（社会教育課長）　岩淵世紀（文化係長）　熊谷康治（主事）　木下守

**発掘作業員**：石合英子　今井修　大出六郎　大島淳一　大谷成嘉　大塚袈裟六　倉科由加理　小池直人　神戸巌　小松弘　酒井文雄　瀬川長広　鶴川登　中込孝久　中島新嗣　西川卓志　藤井尚子　藤田英博　藤本嘉平　穂刈松子　丸山恵子　行武瑞恵　吉澤克彦

**整理作業員**：岩野公子　大蔵映美　大村幸子　猿田隆　土橋久美子　中沢強　野口栄子　柳沢博人

［昭和62年度］

**調査団長**：中島俊彦（松本市教育長）**調査担当者**：神沢昌二郎（松本市立考古博物館長）

**現場担当者**：直井雅尚（社会教育課主事）　**調査員**：太田守夫　竹原学　土橋久子　三村肇　三村竜一　**事務局**：浅輪幸市（社会教育課長）　小松晃（文化係長）　柳沢忠博（主査）　大村敏博（主査）　熊谷康治（主事）　洞田睦子

**発掘作業員**：青柳洋子　赤羽包子　朝倉定人　石合英子　石川末四郎　大出六郎　大久保忠光　太田千尋　大塚袈裟六　金井要二郎　金子富人　小池直人　小岩井初美　小岩井美津子　神戸巌　小松啓吾　酒井文雄　沢柳秀利　瀬川長広　袖山勝美　鶴川登　永井玲子　中島新嗣　西川卓志　西原千代子　林昭雄　藤本嘉平　降旗大太郎　丸山恵子　丸山よし子　百瀬二三子　横山光代　若井孝夫

**整理作業員**：五十嵐周子　岩野公子　小松正子　土屋君子　中村恵子　林佳孝　洞田睦子

［昭和63年度］

**調査団長**：中島俊彦（松本市教育長）　**調査担当者**：神沢昌二郎（松本市立考古博物館長）

**現場担当者**：直井雅尚（社会教育課主事）　**事務局**：浅輪幸市（社会教育課長）　田口勝（文化係長）　熊谷康治（主査）　降旗英明（主事）　山岸清治（事務員）　三沢利子

**発掘作業員**：石川末四郎　大出六郎　太田千尋　大塚袈裟六　金子富人　瀬川長広　袖山勝美　鶴川登　中島新嗣

［平成元年度］

**調査団長**：松村好雄（松本市教育長）

**現場担当者**：熊谷康治（社会教育課係長）　三村竜一　**事務局**：浅輪幸市（社会教育課長）　田口勝（文化係長）　直井雅尚（主事）　降旗英明（主事）　山岸清治（主事）　高林美保

**発掘作業員**：石川末四郎　太田千尋　岡部登喜子　小松正子　中村恵子　藤本嘉平

**整理作業員**：下里みつへ　滝沢直美　宮嶋洋一

# 第２章　遺跡の環境

## 第１節　遺跡の位置と地形及び地質

### １．位置と地形

県町遺跡は松本平の南東部にあり、薄(すすき)川の扇状堆積地である。標高はほぼ600ｍで北西に僅かに傾斜しており、松本市の中心街へと続く。位置は薄川へは南へ約400ｍ、女鳥羽川の清水橋へは北西に700ｍの地点にあり、松本市街地の東端にあたる。東には２～３㎞で美ヶ原から続く里山辺の東部山地があり、西側は奈良井川、梓川を越えて、15㎞あまりでフォッサマグナ西縁の断層崖である西部山地に至る。

本遺跡は、薄川の度重なる氾濫により急速に堆積してできた扇状地上にある。薄川は三峯山に源を発して北西に流下し、入山辺地区を扇頂として西に広がる扇状地を作っている。その扇端は松本市街地にあり、北は清水付近で女鳥羽川扇状地に接し、南は神田付近まで広がっている。遺跡は扇端近くの右岸にある。薄川の流路は約16㎞あり、松本市中条で田川と合流する。河床は急勾配で、その結果、出水率、河況係数共に非常に大で有史以後もしばしば洪水を起こし、土砂の堆積量は殊にはなはだしい。

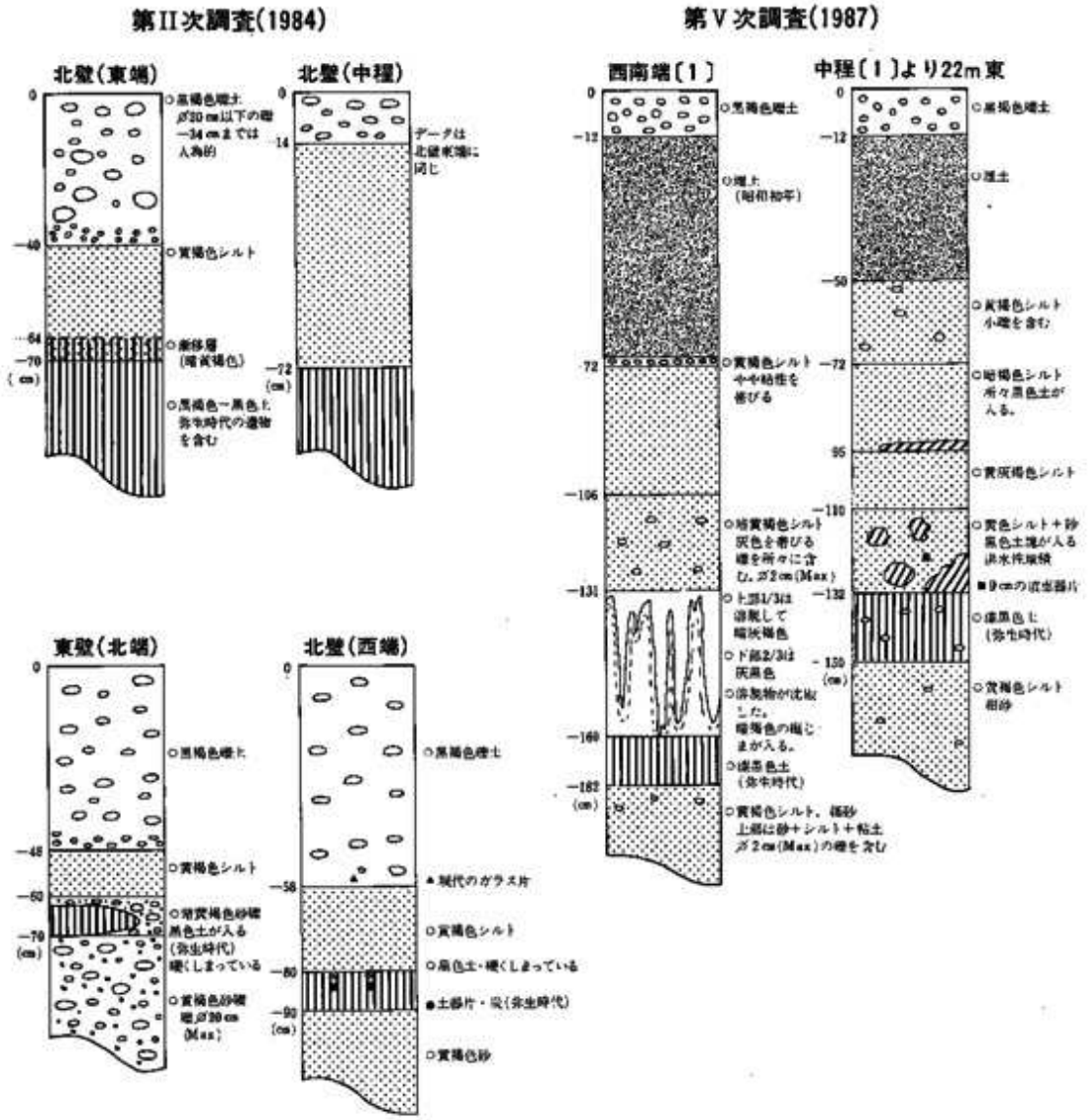
本遺跡付近の土層は、土層柱状図の如く、厚さ数ｍの黄褐色細砂、シルト層をベースとして、その上部に同層へ腐植土の混入した漆黒色土～黒褐色土が乗る。そして、この黒褐色土中に最下部の遺構（弥生時代）がある。この黒色土中特に漆黒色を呈するものは、当時低湿地であり腐植物の含有が特に多かった所である。この県町遺跡付近で特に注意すべき点は、上述した如く洪水の多発地であるため、土層はレンズ状に、あるいは、こぶし状にと変化が激しく「鍵層」としては、この弥生時代の黒色～漆黒色土層くらいである。県ヶ丘高校付近では、この黒色土の上に古墳～平安時代を通じて、灰黒色～暗褐色土が堆積し住居が営まれた。平安時代後半のこの付近一帯は洪水に見舞われ、これは、先年プール付近の発掘で見られた10～11世紀と推定される住居の洪水による破壊と同時期と見られる。この洪水の様子は柱状図〔２〕の如くであり、それより西側で低湿地の〔１〕では、水分が多く鉄、マンガンなどが溶脱して縞模様となっている。

この洪水以後も大小の洪水が重なり、篩分けのよい所と、極めて悪い所など場所により大きく異なった堆積を繰り返しながら近世を迎えたが、明治以後の度重なる人工的攪乱により、県ヶ丘高校付近では60～70㎝まで、あがたの森付近では40～50㎝までの土層は攪乱を受けている。

### ２．礫質及び土質について

この薄川が上流で、内村累層を浸食し流下しているので、岩質も半深成岩が変成作用を受けた緑色火成岩が最も多く、続いて石英閃緑岩、ヒン岩安山岩、砂岩などやや変質した礫である。

土質は細砂、シルト、粘土の混成したものが基本で篩分け作用の程度により配分が異なっている。色調は明黄褐色であるが、腐植酸の混入により、暗褐色～漆黒色まで変化する。更に地下水位の変化する所では鉄分やマンガンなどが溶脱して灰色を帯び、それ等が沈澱している層では赤褐～黒褐色の縞が見られる。




挿図1　土層柱状図

## 第2節　周辺遺跡

県町遺跡は薄川により形成された山辺谷から続く扇状地の扇端部に位置する。そこからさらに西側の現在の市街地部分は近世に至るまで低湿地となっており、遺跡は、ごく一部に点在するのみである。扇状地上と、その周辺には多くの遺跡が分布しており、近年の調査により次第に、その様相が明らかになりつつある。ここでは調査が行なわれた遺跡を中心に、時期別に周辺遺跡の様相を概観してみたい。

旧石器時代の遺跡は、市内で10数ヶ所が確認されているが、この扇状地周辺では、弘法山古墳東麓で尖頭器が採集されているのみである。今後の調査が期待される。

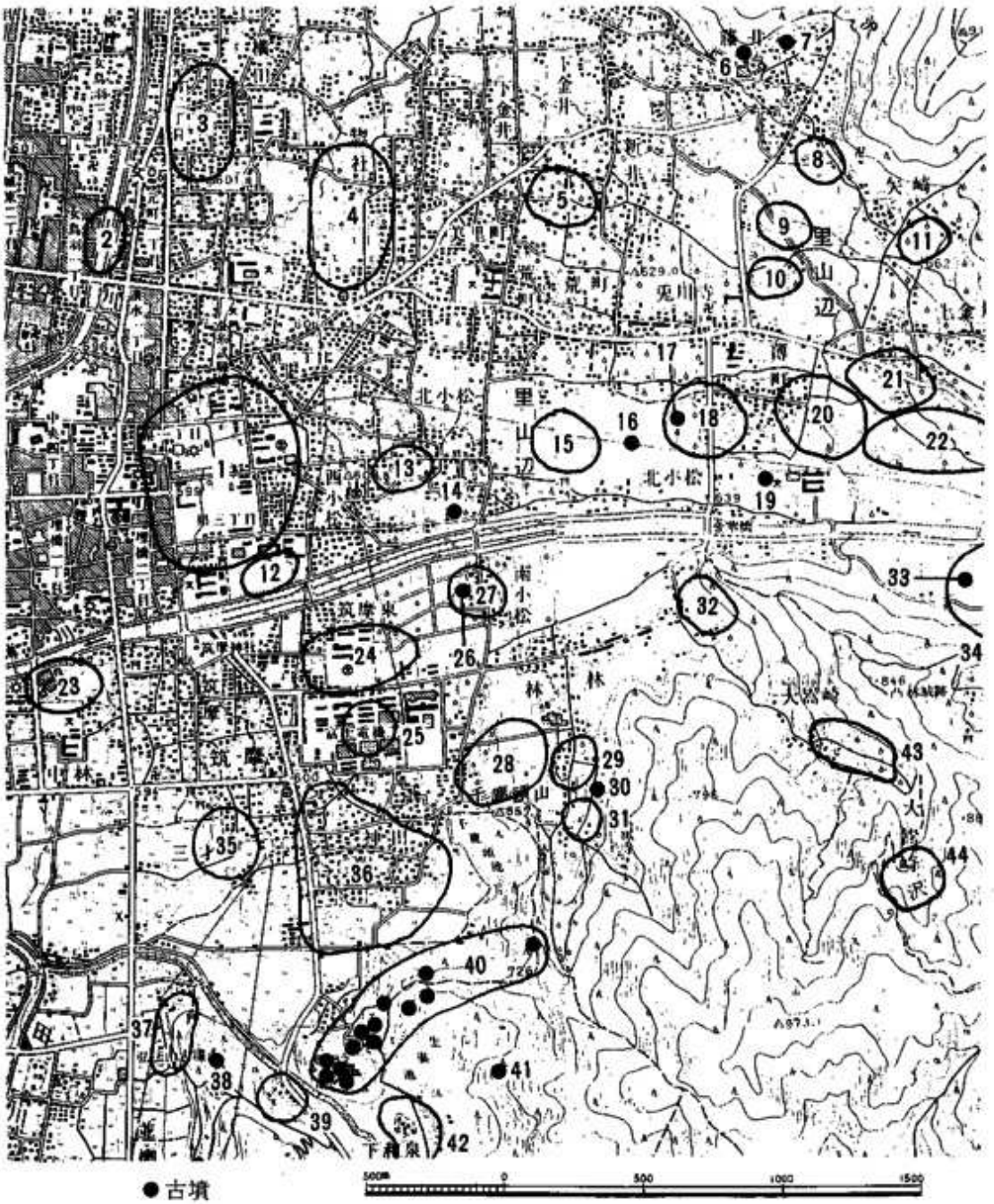
縄文時代の遺跡は、扇状地上の奥部及び山麓に分布している。薄川右岸では1989年調査の石上遺跡で、前期の住居址3軒、鎌田遺跡で住居址1軒が検出されているほか、晩期の土器が、まとまって出土している。また扇央部の針塚遺跡では、早期～後期の遺物の出土が知られているほか、山麓の堀ノ内、藤井、上金井遺跡からも縄文時代の遺物の出土が知られている。薄川左岸では1987年調査の林山腰遺跡で中期初頭の住居址3軒、後期の敷石住居址1軒が検出されている。1988年調査の南方遺跡では早期～晩期の遺物が知られている。現在の市内中央部では1970年調査の女鳥羽川遺跡から後、晩期の遺物が、まとまって出土したほか、丸ノ内、本町5丁目遺跡からも同期の遺物が出土している。この地域の様相は不明な点が多く、今後の調査が期待される。

弥生時代の遺跡では、県町遺跡がこの地域の遺跡群の中心的なものとして位置づけられる。扇状地上では、弥生時代前期の再葬墓群が検出された針塚遺跡が著名である。また近接する鎌田遺跡では1989年の調査で後期の住居址2軒が検出された。この他には本屋敷遺跡より中期、惣社宮北遺跡より後期の遺物が出土している。これらのことより中期の生活の場は扇端部にあり、後期になると扇央部へ拡大していったものと推定される。薄川左岸では筑摩遺跡などが知られている。

古墳時代になると山辺の谷の各地に古墳が造られるが、調査例がなく、その様相は不明であった。しかし近年、針塚、南方、大塚の3古墳が相次いで調査され、次第に解明されつつある。集落遺跡では、薄川左岸の千鹿頭北遺跡が1987年に調査され住居址47軒が検出されている。薄川右岸では惣社宮北遺跡周辺で、1982～86年の推定信濃国府確認調査の際、住居址数軒が検出されている。しかし地域全体での様相は不明な点が多く、その解明は今後に期待したい。

奈良、平安時代では、薄川右岸では、県町遺跡のほか、惣社宮北、薄町、石上、左岸では、南方、千鹿頭北、林山腰、神田の各遺跡で、過去の調査の際、住居址が検出されている。分布の状況等から、薄川右岸の扇央部及び、左岸の松本工業高校周辺から神田の広い範囲に、この時期の集落が展開していたものと予想される。

中近世の遺跡については、調査例が少なく、様相の解明は今後に期待したい。




1．県町遺跡　2．女鳥羽川遺跡　3．元屋敷遺跡　4．惣社宮北遺跡　5．新井遺跡　6．鬼山辺15号古墳　7．里山辺8号古墳
8．山出遺跡　9．藤井遺跡　10．堰ノ内遺跡　11．上金井遺跡　12．堰橋遺跡　13．北小松遺跡　14．里山辺11号古墳　15．筑町遺跡
16．大塚古墳　17．針塚古墳　18．針塚遺跡　19．猫塚古墳　20．御町遺跡　21．鎌田遺跡　22．石上遺跡　23．筑摩遺跡
24．松本工業高校遺跡　25．富士電機工場敷地遺跡　26．里山辺10号古墳　27．南小松遺跡　28．下鹿須北遺跡　29．御神符遺跡
30．御神符古墳　31．林遺跡　32．林山麓遺跡　33．南方古墳　34．南方遺跡　35．二才遺跡　36．神田遺跡　37．平畑遺跡
38．弘法山古墳　39．下和泉遺跡　40．稲荷山古墳群　41．生妻1号古墳　42．生妻遺跡　43．大嶽崎遺跡　44．わび沢遺跡

**挿図2　周辺遺跡**

## 第３節　県町遺跡の過去の調査

### 1　昭和32年以前

本遺跡からの遺物出土は、古くは大正８年の旧制松本高等学校開校まで遡るが、桐原健氏が昭和32年にその間の本遺跡の調査や遺物出土例をまとめている（桐原1957）。ここではそれを基に他の関係文献も含めて簡単に紹介する。各高校の校友会誌等に報告されて管見に触れなかったものについては御容赦頂きたい。遺物のなかにはかなりの変転を辿ったものもあるようだ。

①信州大学文理学部構内（現あがたの森公園）から土師器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土。灰釉陶器、緑釉陶器各１点は文献１で報告。緑釉陶器は文献６に再録され日本民俗資料館が所蔵。土師器は所在不明。

②松商学園短期大学敷地内（現松商学園高校）から瑞花双鸞八稜鏡、緑釉陶器が出土。文献５に報告。文献６に再録。これらの他に土師器、古瓦、石庖丁もあり文献６に報告。松商学園高校考古資料室所蔵。

③蚕業試験場桑園（農林水産省蚕糸試験場松本支場）内に県ヶ丘高校風土研究会がトレンチ調査。土師器、須恵器、緑釉陶器、木炭が出土（昭和24年６月）。緑釉陶器は文献１で報告。

④県ヶ丘高校校庭に防空壕を掘った際、骨壺らしきもの出土（昭和20年）。

⑤同校プール建設工事に伴い土師器、須恵器、灰釉陶器出土（昭和28年11月）。主な土器・陶器は文献１で報告。同校風土研究会所蔵。

⑥同校グランド拡張工事・排水溝構築工事に伴い灰釉陶器、緑釉陶器出土（昭和30年）。灰釉陶器２点、緑釉陶器１点は文献１で報告。緑釉陶器は文献６で再録され平出遺跡考古博物館所蔵。

### 2　昭和32～56年

昭和32年の桐原論文（文献１）以後も、本遺跡の各所からは工事などが行われる度に遺物の出土があったと想像されるが、それについて触れた文献は少ない。この間の資料は、昭和55年に松本市教育委員会が行った本遺跡の第Ⅰ次発掘調査の報告書中で篠宮正氏が報告したもの（文献７）が中心となる。それによると、県ヶ丘高校敷地内で昭和33年に土師器・須恵器片100余点が、また昭和52年には家庭科教室棟建設の際、土師器・須恵器・灰釉陶器が採集されている。

### 3　昭和56年以降

今回調査以前では、昭和57～61年に県ヶ丘高校敷地内でオイルタンク埋設、ケーブル埋設、小規模建築などで数回立ち会い調査が行われているが、１・２点の遺物を得たのみで遺構の検出はない。また昭和59・60年にあがたの森公園内で松本市教育委員会が発掘調査（第Ⅱ・Ⅲ次）を実施してい

るが、この成果については第８章で触れる。

## 4　遺跡名について

今回の一連の調査（第Ⅳ～Ⅷ次）は事務手続き上、遺跡名は、長野県教育委員会が作成した『長野県遺跡分布地図』の市町村別遺跡一覧表の名称「県町遺跡」、および文化庁作成の『全国遺跡地図　長野』に従っている。

しかし、第１章でも触れたように本遺跡は非常に広範囲にわたるため、以前は遺物出土地点を中心にいくつかに分割されて、それぞれに遺跡名が付けられていた。昭和31年の『信濃考古綜覧』では、「信大文理学部敷地」「県ヶ丘高校敷地」「蚕業試験場敷地」「松商学園敷地」「四谷」の各遺跡名が見られ、『長野県史考古資料編』でも「信大文理学部敷地」を「あがたの森」と改称しただけで、まったくこれを踏襲していた。昭和56年に刊行された本遺跡の第Ⅰ次発掘調査の報告書も、基本的にこれと同じ立場で「県ヶ丘高校」「蚕糸公園」「松商学園」と個々に遺跡を分け、調査地点が含まれる遺跡名は「あがた」としていた。ところがこれら各遺跡の位置を実際に地図上におとしてみると非常に集中しており、極端な皮肉を言えば、二つの遺跡が道１本を挟んで隣り合っている。さらに第Ⅰ～Ⅷ次の調査で「県ヶ丘高校敷地」の北部から「信大文理学部敷地（あがたの森）」まで連綿と遺構が続くことも実証され、先の皮肉は現実のものとなっている。このような状況を解消するためは、上記４～５か所の遺跡を一つものと捉え、それらを包括する遺跡名を冠することが必要であり、その点からみても県教育委員会および文化庁の地図の「県町遺跡」は範囲・名称ともに適切と考える。

本書ではこのような立場から、以前の４～５か所の遺跡名を包括して「県町遺跡」と呼び、「本遺跡」あるいは「当遺跡」といった場合、この「県町遺跡」を指すこととする。


**参考文献**

1　桐原健　1957「長野県松本市県ヶ丘遺跡出土土師器の様相」『信濃』Ⅲ９－５

2　風土研究会　1953「校庭を探る」『縣陵』26号　県ヶ丘高校報道委員会

3　長岡壽　1954「古代本校附近の一考察」『縣陵』27号　県ヶ丘高校報道委員会

4　古川久　1955「古代松本の情想」『縣陵』28号　県ヶ丘高校報道委員会

5　原嘉藤　1955「平出遺跡及びその周辺の考古学的調査」『信濃』Ⅲ７　６

6　熊谷康治　1981「第２章４節２　周辺遺跡の既出遺物」『あがた遺跡』松本市教育委員会

7　藤宮正　1981「第２章４節３　県遺跡　県ヶ丘高等学校地点」『あがた遺跡』

8　信濃史料刊行会　1956『信濃考古綜覧』

9　長野県史刊行会　1981『長野県史考古資料編』１巻１

# 第３章　調査の概要

## 第１節　調査・提示の方法

### １　調査地

今回の一連の調査地は、長野県松本市県２－１－１に所在する長野県松本県ヶ丘高等学校の敷地内にすべて属する。このうち昭和61年度の調査（第Ⅳ次調査）は敷地北西部の特別教室棟２棟分建設予定地が対象で、調査面積は853㎡。昭和62年度の調査（第Ⅴ次調査）は敷地南西部の本館建設予定地が対象で、調査面積は696㎡。昭和63年度の調査（第Ⅵ次調査）は敷地中央部の部室棟建設予定地が対象で、調査面積は84㎡と狭いが南北に細長い。平成元年度の調査（第Ⅷ次調査）は第Ⅴ次の調査地東部の北側10m程のところで、調査面積は48㎡。これは倉庫建設に先立つものである。このほか昭和61年度に行った付帯工事（U字溝敷設）の立ち会い調査の際、浸透桝を埋設するためにグランドの西側部分に掘った２か所の縦坑にそれぞれ住居址の一部が検出され、急遽その部分のみ行った調査を第Ⅶ次調査とする。最終的には（本格的な）調査は４年間で第Ⅳ次から第Ⅷ次まで５次５回７地点にわたって行われ、調査面積は総計で1681㎡を測る。

各調査地は学校敷地内のため、原地形が改変されていなかったところはなく、場所によっては調査前まで旧校舎が建っていた。このため同一の調査地区内でも遺構面までの深さが著しく異なり、しかも建物の基礎などで遺構が破壊されている部分も少なくなかった。ただし西に傾く原地形を盛土して平坦にしてあったために、第Ⅳ・Ⅴ次調査地区では西側部分は厚い盛土に守られて東側より遺構の残存が良好だった。また第Ⅴ調査地区には大正時代の建築とはいえ鉄筋コンクリートの本館が建っていたので、下部の破壊は徹底的であろうと予想していたが、案外、残っている部分が多く、今後のコンクリート建物の跡地についての対応に指針を残した。

### ２　発掘調査

各次の発掘調査は次のように進めた。まず旧校舎あるいは残件の撤去後、建物の建つ輪郭を白線で引き、その枠内の表土・盛土を重機で除去し、遺物包含層に達する。さらに重機で慎重に削り、遺構検出面近くになって人力に切り替え、重機作業の残土片付けや遺構検出を行う。遺構検出作業に平行してオフセット測量用の基準点を現場一面に３m方眼で設置するが、その軸は磁北に合せている。ただし第Ⅵ～Ⅷ次調査地区は調査面積が狭小であったため、測量は平板を用い、オフセット測量用の基準点設置は行わなかった。遺構は検出順あるいは掘り下げ開始順に番号を付した。このため同一調査地区内で一定の方向に揃ってはいない。また住居址については各次調査を通して一連番号になるようにした。具体的には第Ⅳ次調査は第44号から、第Ⅴ次は第57号から、第Ⅵ次は第84号から、第Ⅶ次は第86号から、第Ⅷ次は第88号から始まっている。住居址以外の遺構番号は各次１

から付けた。測量は基本的に掘り上げ状態で調査地区全域を1/20の縮尺で網羅し、遺物や礫の特殊な出土状態を示した遺構に限って1/20縮尺で出土図を作成した。カマド、炉、局所的な遺物出土などは1/10で細部図を作った。

3　報告書への提示・掲載

遺構の提示については、記述はそれぞれ章を起こして各調査次ごとにまとめ、さらにその中で遺構種類別に遺構番号順に行った。測量図の提示は図版編（別冊）の中で行い、各次調査の枠を取り払い、基本的に、遺構種類別、時期別、遺構番号順、の順序で掲載した。住居址以外の遺構の番号については各次調査とも1から付けてあり重複が生じたので、整理段階で振り替えを行い、旧来の順番は変えずに、集石は1から、土坑と溝については401から通し番号にした。土坑と溝は第II・III次調査でも検出がありそれらとの区別も必要だったからである。

遺物の提示については、各遺物の形態的特徴や分類の記述は第9章で各次調査・各遺構の枠を超えて、遺物の種類別・時期別に行った。遺物の実測図は図版編（別冊）に掲載し、遺構測量図同様に各次調査の枠を外して、種類別、時期別、遺構別の順序で分類して並べてある。なお各遺構からの遺物の出土状態については遺構の記述に含めている。

遺物番号については、調査時に取り上げた番号・記号と実測作業段階の番号、本書に掲載された報告段階の番号がそれぞれ異なっている。実見の検索のために各遺物一覧表・観察表に「出土地点」あるいは「注記・実測番号」の欄を設けた。

## 第2節　調査結果の概要

県町遺跡の一連の調査（第IV～VIII次）で発見された遺構、遺物の概要は次のとおりである。

**遺構**　住居址：弥生時代2、古墳時代4、奈良・平安時代40

土　坑：奈良・平安時代3

溝　：弥生2、奈良・平安時代2、中世以降2

集　石：奈良・平安時代5、平安時代以降2

**遺物**　土　器：弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、青磁

石　器：打製・磨製石鏃、石錐、スクレイパー、ピエス・エスキーユ、打製石斧、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石庖丁、敲・凹・磨石、砥石、凹石

骨　器：鏃

石製品：管玉、紡錘車、海浜石、帯飾り

土製品：有孔土製品、土製円盤、土錘、羽口、ミニチュア土器

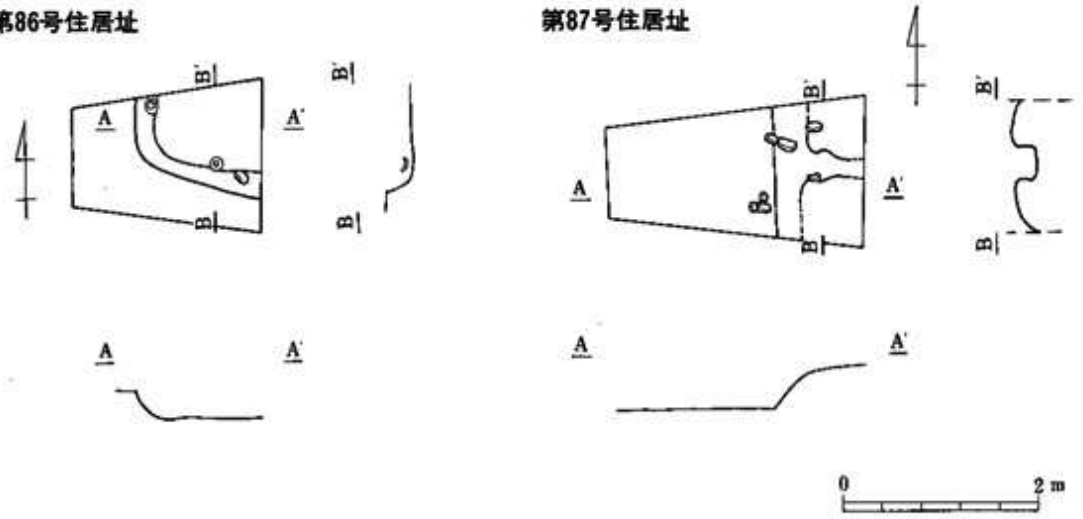
鉄製品：釘、刀子、鏃、その他不明品

# 第４章　昭和61年度の調査（第Ⅳ・Ⅶ次調査）

## 第１節　調査の概要

昭和61年の調査（第Ⅳ次調査）は特別教室棟建設に伴うもので、対象面積853m²を測る。調査地区は２地区に分かれ、北側を１地区、西側を２地区とした（第２図）。検出された遺構は竪穴住居址（以下、単に「住居址」と略す）13軒、土坑４基、溝４本、集石３基で、時期は土坑に奈良時代のものが、また溝に平安時代以降（おそらく中世）のものがあるが、他はすべて平安時代に属する。遺物は鏃、土器・陶磁器（土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁）、石器（砥石・凹石）、鉄器（釘・刀子・その他不明品）、土製品（土錘・羽口）、石製品（帯飾り）など多種多様なものが遺構及び検出面・包含層から出土した。特にこの中で緑釉陶器、青磁、白磁、石製帯飾りは松本市内でも出土例が少なく、貴重なものである。

上記の調査に先立って実施した、校庭西側のU字溝敷設に伴う立ち合い調査で、浸透マス埋設用の縦坑２か所にそれぞれ住居址が検出されている。この立ち合い調査を第Ⅶ次調査とし、検出された住居址を第86・87号住居址と命名した。いずれも平安時代に属するもので土師器、須恵器の出土を見た。




挿図３　第86・87号住居址（第Ⅶ次）

## 第2節　遺構と遺物

### 1　住居址

（1）第44号住居址（第35図）

第IV次調査1地区中央やや西寄りに位置する。規模・平面形は南北4.3m、東西4.0mの方形を呈し、主軸方向はN-10°-Eを指す。壁はほぼ直に掘り込まれており、深さは48cmを測る。床面は極度に砂礫質の地山上に、わずかに黒灰色粘質土を貼った部分が中央部に残る程度で、全体的に軟弱だった。カマドは北壁西寄りに設けられ、芯の一部に使われたと見られる石が2個残る。カマドの最大幅（内法）は20cmである。炭化物、焼土の混入が確認された。床面積は15.3m²を測る。本址覆土中には10～40cm大の礫が多量に含まれており、人為的な投入が想定される。またこの礫を含む第II層は0.5～3.0cm大の小石を多量に含み、分層不可能な暗～黒褐色を呈しており、人為的な一括埋没の状況が考えられる。

遺物は礫層中から出土している。土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、砥石、鉄器（刀子・釘）など多種にわたっている。平安時代中期の住居であろう。

（2）第45号住居址（第36図）

第IV次調査1地区北端に位置する。北側は調査区域外にかかり、南側半分を検出したのみである。規模は現況で南北6.0m、東西2.0m、床面積は10.8m²を測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。主軸は不明である。壁は高さが32cmでほぼ直に掘り込まれている。床面は砂性の強い地山上にあって、わずかに粘性を示していたが、判然としないものであった。施設はピットが5つ検出されただけで、カマド・柱穴は捉えられなかった。

土師器、黒色土器、灰釉陶器が出土しており、平安時代中期の住居と考える。

（3）第46号住居址（第36図）

第IV次調査1地区北端東寄りに位置する。第45号住居址と同様に、北側は調査区域外にかかり南側のみの検出である。主軸・規模ともに不明であるが、現況で南北2.1m、東西4.7mで、床面積は9.3m²を測る。平面形は方形を呈すると推定される。壁高は32cmで直に近い傾斜で掘り込まれている。床面は地山である褐色の砂礫質土に黄褐色砂質土を貼っているが概して軟弱で、地山が露出している部分も多い。カマドなどの確認はなく、ピットが3つ検出されただけである。

遺物の量は多く、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄器（器種不明）が出土している。平安時代前～中期の住居であろう。

（4）第47号住居址（第37図）

第IV次調査2地区最北端に位置する。北側及び東側の一部が調査区域外にかかっている。規模は現況で南北3.9m、東西5.2m、床面積18.5m²を測るが、平面形は方形と推定される。壁高は32cmで

やや斜めに掘り込んである。床面は褐色砂質土の地山を用いているが、中央部は灰白～灰褐色粘質土を貼って構築してあり、比較的堅い。カマド・ピットなどの施設は検出されなかった。本址覆土は中央部を中心に径10～40cm大の礫が多数存在しており、周辺覆土に中小の礫がほとんど見られなかった点からみて、明らかに埋没時の人為的な投入の産物と考えられる。

土師器、須恵器、灰釉陶器、砥石、凹石、鉄器（刀子）、羽口の出土がある。83の須恵器は混入品であろう。平安時代中期の土器群であり、本址の時期もそこに求めたい。

（5）第48号住居址（第38図）

第IV次調査2地区中央部の西寄りに位置し、北隅1/4が第404号土坑と調査区域外に重複する。規模・平面形は南北5.6m、東西5.4mの不整方形を呈すると推定され、主軸方向はN-15°-Eを示す。床面積は現況で18.5㎡、復元推定で26.8㎡である。壁はやや斜めに掘り込まれており、壁高は24cmを測る。床面は全体的に極めて不明瞭で、覆土下部からすぐに地山の洪水性砂礫層に移行する状況であった。施設はピットが1つ検出されたのみである。カマドなどは本址埋没後に襲った洪水の砂礫によって、破壊されたものとみられる。

また本址は多数の一括土器が出土したことも特記される。南東隅を中心として東半部に30個近い土師器・灰釉陶器の坏・椀・皿類が集中して存在した。意図的な廃棄の状況が考えられる。この他、鉄器（釘・その他）、砥石、羽口や緑釉陶器片の出土もある。土器からみて本址は平安時代中期に位置付けられる。

（6）第49号住居址（第38図）

第IV次調査2地区北端の西側に位置する。他の遺構との重複関係は第401号溝に切られ、北西側が調査区域外にかかっている。主軸方向はN-15°-Eを指し、平面形は南北5.6m、東西4.3mの長方形を呈すると推定される。壁は高さ16cmで、なだらかな立ち上がりを示す。床面は褐色砂礫土の地山を直接用いているが、非常に不明瞭で、調査時に一部を削りすぎている。床面積は現況で14.6㎡を測る。本址は掘り込みが緩やかで、床面もはっきりしない上に、カマドなどの施設も全くなく、住居址とするには問題があるかもしれない。

遺物は土師器、灰釉陶器と羽口である。平安時代中期の遺構と考えられる。

（7）第50号住居址（第40図）

第IV次調査2地区中央の南東寄りに位置する。他の遺構との関係は、北側を第1号及び第2号集石に、東隅を第51号住居址に南西隅を第401号溝にそれぞれ切られる。主軸方向・規模は不明であるが、南北5.3m、東西4.7mの長方形を呈すると推定する。現況の床面積は16.0㎡であった。壁高は12cmと浅く、緩やかな立ち上がりが確認される。床面は褐色砂礫土の地山そのままで、非常に不明瞭なものであった。ピット・カマドなど本址に伴う施設は検出されなかった。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器（刀子？）が出土している。土器は時期的にまとまりがなく、どれをもって本址の時期とするか決めかねる。

（8）第51号住居址（第40図）

第IV次調査2地区南端やや東寄りに位置し、第50号住居址の東隅を切り、南側は調査区域外にかかっている。主軸をN-90°-Eにとり、現況で南北2.4m、東西3.9m、床面積は8.6㎡を測る。平面形は方形を呈するものと推定され、復元面積は13.4㎡である。壁は斜めに掘り込まれ、壁高は24cmを測る。床面は褐色砂礫土をそのまま用いているが、比較的平坦で堅緻であった。東壁の北寄りに位置するカマドは石組カマドで、人頭大～拳大の石を使用したと推定され、数個の石が残る。最大幅（内法）は28cmを測る。カマドの他に施設は検出されなかった。

土師器と灰釉陶器が少量出土したのみで、これらから平安時代中期以降の住居と考える。

（9）第52号住居址（第41図）

第IV次調査2地区中央南寄りに位置し、北東側半分を第401号溝に切られる。主軸・規模ともに不明であるが、現況で南北3.8m、東西3.7m、床面積8.6㎡を測り、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。壁はなだらかで、壁高は12cmを測る。床面は褐色砂礫土の地山直床で、不明瞭なものであった。カマド・ピットなどの施設は全く検出されなかった。

遺物は土器・陶器のみで、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土している。時期は平安時代の中期であろう。

（10）第53号住居址（第41図）

第IV次調査1地区北東端に位置し、ほとんどが調査区域外にかかっているため、検出された部分はわずかに南西隅のみである。主軸・平面形ともに不明で、現況で南北2.8m、東西1.1m、床面積2.4㎡を測る。壁はやや斜めにしっかりと掘り込まれており、壁高は60cmとかなり深い。床面は全体的に堅さがあり、部分的に黄灰褐色砂礫土を貼っているが、他は暗黄褐色礫土の地山をそのまま用いている。前述のとおり本址は調査区域外にかかったため、土層観察を調査地区の壁で行なうことができ、検出面よりさらに20cmほど上層から本址が掘り込まれていることが判明した。

土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土している。時期は平安時代中期と考える。

（11）第54号住居址（第41図）

第IV次調査1地区南西端に位置する。第53号住居址と同様、ほとんどが調査区域外にかかり、北東隅の一部を調査できたにすぎない。壁は傾斜をもち、壁高は20cmを測る。床面は端部のためか非常に軟弱で、褐色砂質土の地山直床である。規模は現況で南北1.9m、東西1.0m、床面積は1.5㎡である。

土師器が数点出土しており、平安時代中期に相当する。

（12）第55号住居址（第3図）

第IV次調査2地区西端に位置する。第402号溝と中世の砂礫層に破壊され、床が4×1mの範囲で確認されたのみである。壁の立ち上がりも壊されていて、規模・主軸の他すべて不明である。

遺物は土器が数点出土したのみである。土師器と須恵器で、これらから平安時代の遺構であった

と推定される。

(13) 第56号住居址（第41図）

第IV次調査1地区北西端に位置し、その大部分が調査区域外にかかっている。検出された部分は南北3.2m、東西1.2m、床面積は3.2㎡である。主軸・規模などは不明である。壁は直に掘り込まれており、壁高は28cmを測る。床面の状態は軟弱で不明瞭であるが、床上にわずかに炭化物の散布があって判別できた。この他覆土の間層にも炭化物が集中する部分があった。

土師器がわずかに出土しただけで図示できるものはない。時期は不明である。検出層位から平安時代に属すると推定する。

(14) 第86号住居址（挿図3）

第VII次調査地区第1グリットで南西隅部が検出された。現況で1.3×1.2m、床面積0.9㎡を測る。壁は砂礫質の褐色土をやや斜めに掘り込んであり、壁高は29cmを測る。床面は地山をそのまま用いているが、比較的堅緻で平坦なものであった。範囲が狭いため、施設の検出はない。

土師器と須恵器が出土している。平安時代初頭くらいの様相を示す。

(15) 第87号住居址（挿図3）

第VII次調査地区第2グリットにおいて、東壁とカマド、その西側に続く床面の一部が検出された。確認した部分の床面積は2.0㎡を測り、カマドの位置から推定される主軸方向はN-90°-Eを指す。壁高は35cmとかなり高めで、壁はやや斜めである。床面は砂礫質褐色土の地山で微細な起伏に富むが、比較的堅い。カマドは検出された東壁のほぼ中央に設置されている。かなり崩れて原形をとどめてはいないが、袖の一部を構築していたと思われる8～20cm大の石が数個残っている。また煙道も痕跡をとどめており、確認された範囲だけでも64cmを測る。

土師器と須恵器がカマド周辺からまとまって出土した。平安時代中期に属する土器群と考える。

## 2 土坑

第IV次調査では4基の土坑（第401号～第404号土坑）が検出された。これらはいずれも長軸100cmを超え、特に176×176cmを測る第402号土坑は大形である。第404号土坑の他は重複もなく、単独で発見されている。平面形は楕円形2基、方形・不整円形各1基であった。時期は第404号土坑が平安時代の他、3基は奈良時代であった。

第404号土坑は上部全面を第48号住居址に切られ、同址の床面で確認されたものであるが、内部に完形の須恵器長頸壺(563)と土師器椀2点(568･569)、砥石が数個の礫とともに、覆土中層にまとめられていた。楕円形の比較的浅い土坑だが、墓なのであろうか。

## 3 集石

第IV次調査で発見された集石は3基である。2地区の第50号住居址の北壁を切る形で2基（第1

号集石・第2号集石）、1地区で1基（第3号集石）が存在する。

第1号集石は第50号住居址の北西壁を切る。規模は1.7×1.6m程でほぼ円形の範囲内に、約30個の径16～40cm大の石が同じ位のレベルで集められていた。釘2点の他に遺物はなかった。第142図592の土師器長胴甕は第4号集石出土の誤りである。第2号集石は第50号住居址の北東壁を切っている。長径2.7m、短径2.3mの楕円に近い平面形を呈し、その範囲内に径16～48cm大の石がそれほど重複せずに集められていた。その数はおよそ40個であった。遺物は伴っていない。両者とも平安時代の住居址を破壊していることから、平安時代以降の遺構であると思われる。

第3号集石は第44号住居址の東側に位置し、3.4×2.4mの長方形を形成している。径12～48cm大の石が40個程まばらに散在する。それらの間からは土師器、須恵器、灰釉陶器が多数出土した。平安時代の遺構と考えられる。

### 4　溝

第IV次調査では4本の溝（第401～404号溝）が発見された。

第401号溝は検出部分だけでも長さ16.2m、最大幅1.2mを測る大規模な遺構である。両端は調査区域外にかかるが、2地区の中央を北西から南東に横切っており、第49号・第50号・第52号住居址を破壊している。覆土は砂層と砂礫層からなり、小規模な洪水の痕跡であろう。

第402号溝は2地区南西に位置する。南北に伸びているが、南は調査区域外に、北は攪乱及び洪水性の砂礫によって破壊されている。現況の長さは6.3m、幅は52～84cmを測った。なお深さは20cmで、本址は下の第55号住居址を破壊している。

以上2遺構はごく少量の陶磁器の小片を出土し、中世以降のものと推定される。

第403号溝と第404号溝は1地区中央、第44号住居址の周辺で検出された。同住居址に切られ、西に伸びて調査区域外にかかるのが前者で、長さ5.6m、最大幅68cmを測る。後者は同住居址の南東にあり、長さ5.6mで南北に伸びる。幅は40cm、深さはそれぞれ24cm、13cmを測る。両者とも平安時代の遺構である。

### 5　遺構外出土の遺物

検出面、包含層及び排土中から土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・白磁片（第147～149図）、鉄器（釘・刀子）、石製品（帯飾り）が出土している。時期的には平安時代のものが主体を占めるが、一部に若干古いものも混じる。緑釉には陰刻花文をもつものや、緑彩陶の様な破片もある。第148図708・709の灰釉陶器あるいは須恵器の短頸壺とみられるものの破片には陰刻文が施文されている。

# 第５章　昭和62年度の調査（第Ⅴ次調査）

## 第１節　調査の概要

昭和62年の調査（第Ⅴ次調査）は本館建設に伴うもので調査面積696㎡を測る。検出された遺構は時期別に見ると、弥生時代の住居址２軒と溝２本、古墳時代中期末の住居址４軒、奈良・平安時代の住居址21軒、土坑４基、集石４基、ピット群１か所で、合計すると住居址27軒、土坑４基、溝２本、集石４基、ピット群１か所となる。調査地は東から西に緩傾する地形で、西側は旧校舎建設時に厚く盛土がされており、遺構検出面まで２m近くもあった。また旧校舎のコンクリート基礎が各所で検出面や遺構を破壊しており、遺構の切り合いと重なって、検出作業を非常に困難なものとした。さらに調査地西側1/3程では古墳～奈良・平安時代遺構掘り込み土層がそのまま弥生時代遺物包含層となり、その下部で弥生時代中期末の住居址が検出されるという複雑な様相を呈した。

## 第２節　遺構と遺物

### １　住居址

#### （１）第57号住居址（第42図）

第Ⅴ次調査地区の北側西寄りに位置する。他の遺構との重複は、東部が第58号住居址の南隅を切る。規模・平面形は南北3.1m、東西2.8mの方形を呈し、主軸方向は N-25°-E を示す。壁高は12cmと低く、緩やかな立ち上がりをもつ。床面であるが、西半部は地山の黒褐色粘質土をそのまま用い、東半部は本址に切られる第58号住居址の覆土第１層（含礫褐色砂質土）に構築されていたが、比較的堅く、識別は容易であった。カマドは北壁やや東寄りに認められた焼土をその痕跡と推定した。カマドの他にはピットが１つ検出されたのみである。床面積は7.8㎡を測る。

遺物は土器・陶器のみだが比較的多い。土師器、須恵器、灰釉陶器がみられ、須恵器坏は軟質なもの、土師器坏は内黒のものがほとんどである。灰釉陶器は図示した２点しか出土していない。平安時代前期に位置付けたい。

#### （２）第58号住居址（第43図）

第Ⅴ次調査地区の北側西寄りに位置する。他の遺構とは、第57号住居址に西側を切られ、本址東側が第59号住居址を切る関係にある。平面形は南北4.1m、東西3.8mの方形を呈し、主軸方向はN-100°-Eにとる。壁高は36cmとやや高く、壁はほぼ直に掘り込む。床面は黒褐色粘質土の地山直床だが、全体的に堅く平坦であった。カマドは東壁中央に設けられ、焼土及び炭化物の混入が確認された。カマドの他に本址に伴う施設は検出されなかった。床面積は14.2㎡を測る。

本址覆土中には完形に近い土器や径10～30cmほどの礫があり、土器は20点を超える。これらは東半部を中心に集中することなく点在していたが、覆土の様相とは異質な感じで、人為的な廃棄が想定される。

土器・陶器類が多量に出土している。土師器、須恵器があり、土師器の食器・煮炊具など多種の器形が発見された。須恵器皿（202）は珍しい形態で内面には朱墨が残る。

（3）第59号住居址（第42図）

第Ⅴ次調査地区の中央西寄りに位置し、第58号住居址に西側を切られる。規模・平面形は南北3.3m、東西3.5mの方形を呈し、N-70°-W に主軸をとる。壁高は20cmを測り、壁はなだらかに立ち上がる。床面は黒褐色粘質土の地山をそのまま用いており、平坦だが軟弱なものであった。本址に伴う施設はピットが4つ検出された。位置から主柱穴と想定してよいと考える。またカマドは調査区域内では検出されなかったが、西側すなわち第58号住居址によって切られた部分にあるのではないかと推定される。床面積は現況で9.9㎡、復元推定では10.5㎡を測る。

出土遺物は少なく、小形甕1点を図示できたのみである。奈良時代前半まで遡る可能性がある。

（4）第60号住居址（第44図）

第Ⅴ次調査地区南東隅に位置する。他の遺構との関係は、第406号土坑及び第74号住居址にそれぞれ切られ、東側は調査区域外にかかる。また第83号住居址に重複し、その上面を破壊するという非常に複雑なものであった。規模は現況で南北5.3m、東西3.4m、床面積は16.2㎡を測り、平面形は方形を呈すると推定する。主軸方向は不明である。重複のない北側壁はやや斜めに掘り込まれ、壁高は60cmと高い。床は砂礫質の地山上に黄色砂質土ブロックを含む暗褐色砂質土をわずかに貼っているが、第83号住居址覆土に重複する部分も同様であった。カマド・ピットなどの施設は全く検出できなかった。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器がある。かなり時期幅があるが、遺構の重複等も考慮して平安時代前～中期の住居と考えたい。

（5）第61号住居址（第32図）

第Ⅴ次調査地区の中央北西端に位置する。北側が調査区域外にかかり、南縁を第59号住居址に、東縁を第65号住居址に切られる。現況では5.4×2.8m、床面積は12.0㎡（復元推定は23.7㎡）を測る。平面形は隅丸方形を呈すると推定されるが、主軸方向は不明である。壁の高さは24cmを測り、緩やかな立ち上がりをもつ。床面は地山の礫混暗褐色土で、起伏があり軟弱なものであった。施設は2個のピットを発見したのみである。規模はそれぞれ$P_1$が(84×84、-20)cm、$P_2$が(68×40、-36)cmを測る。

遺物は土師器と須恵器が出土しているが、須恵器(239)は隣接する59住からの混入品であろう。土師器は古墳時代中期末の様相を示す。

（6）第62号住居址（第44図）

第Ⅴ次調査地区の南側やや西寄りに位置し、第63号住居址の北壁を切る。主軸方向は N-10°-E を指し、平面形は南北3.9m、東西3.3mのやや不整な長方形を呈する。壁高は12cmと低く、壁はなだらかに立ち上がっている。床面は地山の黒褐色粘質土をそのまま用いた平坦なもので、堅さはあまりなく、不明瞭なものであった。カマド・ピットなど本址に伴う施設は検出されなかった。床面積は11.4m²を測る。

土師器、灰釉陶器が出土している。これらから平安時代中期の住居と推定する。

（7）第63号住居址（第32図）

第Ⅴ次調査地区の南端やや西寄りに位置する。南側が調査区域外にかかり、北側の上面を第62号住居址に切られている。現況では4.5×1.4m、床面積5.3m²（復元推定19.1m²）であった。推定される平面形は隅丸方形で、主軸はわからない。壁はほぼ直に掘り込んであり、その高さは40cmを測る。床面の状態は起伏に富み、黄褐色砂質土の地山で軟弱なものである。施設はピットが5個検出された。柱穴に想定できるものはないが、$P_3$は他の4つと比べて44cmと深い。

土師器、灰釉陶器が出土しているのみである。古墳時代中期末に属する土器とみられ、本址の時期もそこに求められる。

（8）第64号住居址（第33図）

第Ⅴ次調査地区の西寄り中央に位置し、北隅部が調査区域外にかかる。規模・平面形は5.4×4.8mを測り、やや横に長い隅丸長方形を呈する。床面積は現況で18.2m²（復元推定23.0m²）を測り、主軸方向は N-80°-W を示す。壁は高く52cmを測り、直にしっかりと掘り込まれている。床面は、礫混暗褐色土の地山をタタキ固めた平坦で良好なものである。施設はピット6個とカマドを発見した。ピットは方形に配列される$P_1$・$P_2$・$P_3$を主柱穴と想定したが、これらは一様に深さ48cmを測り、柱痕も確認されている。カマドは西壁中央に設けてある。粘質土で構築されており、石は用いられていない。袖長は1.2mを測り、開口部の最大幅（内法）は40cmであった。支脚は袖のほぼ中間に置かれ、約20cm大の石を用いている。

カマド周辺の床上からいくつかまとまった土器が出土した。いずれも土師器で、坏・鍋・甕・壺などの器種がみられ、良好な一括遺物と考えたい。時期は古墳時代中期末に位置付けられよう。

（9）第65号住居址（第45図）

第Ⅴ次調査地区の中央南端に位置する。東隅を第67号住居址に、南隅を第66号住居址にそれぞれ切られ、南側1/3程は調査区域外にかかっている。現況で南北4.7m、東西5.2m、床面積は19.5m²を測り、平面形は方形を呈すと推定する。主軸方向は N-65°-W を示す。壁高は12cmと低く、壁の立ち上がりは緩やかである。床面は黒褐色粘質土の地山をそのまま用いており、若干の起伏がある軟弱なものであった。ピットは5つ検出され、その内$P_1$・$P_2$は主柱穴となるかもしれない。また他の3つはかなり深く、$P_3$は（100×88, −48）cm、$P_4$は（88×68, −44）cm、$P_5$は（68×48, −56）cmを測る。用途は不明である。カマドの位置は明らかにできなかった。

土師器、須恵器が出土しているが、土師器には古墳時代中期末の様相を示すものがいくつか混じる（第109図22～25）。しかし須恵器や土師器長胴甕（第125図254・255）の示す奈良時代が本址の所属する時期である。

(10) 第66号住居址（第45図）

第Ⅴ次調査地区の中央南端に位置し、第65号住居址の南隅を切る。南側がほとんど調査区域外にかかっていたため、検出された部分は全体の1/8程度であろうか。規模・平面形・主軸方向は不明で、現況で南北2.0m、東西0.9m、床面積は1.5㎡を測る。壁はなだらかで、深さは14cmを測る。床面は黒褐色粘質土の地山で軟弱なものであった。

遺物は少なく図示できるものはない。重複関係からみて奈良・平安時代のものであろう。

(11) 第67号住居址（第46図）

第Ⅴ次調査地区の中央東寄りに位置し、南西隅が第65号住居址を切る。規模・平面形は南北3.7m、東西3.8mの不整方形を呈し、主軸方向は N-70°-W を示す。壁は高さが28cmで緩やかな立ち上がりをもつ。床面は小礫混暗褐色粘質土の地山で、平坦だが軟弱なものであった。カマド・ピットなどの施設は検出されなかった。床面積は12.1㎡を測る。

遺物は土師器、須恵器、凹石がある。土器からみて、奈良時代末～平安時代初頭の住居と考える。

(12) 第68号住居址（第46図）

第Ⅴ次調査地区の中央やや北寄りに位置する。第69号住居址の南側を切り、東半部で第405・407・408号土坑を貼る。また全体の1/2程が攪乱を受けている。規模・平面形は南北4.9m、東西5.0mの方形を呈し、主軸方向は N-110°-E を指す。壁高は40cmでやや斜めに掘り込まれている。床面は各所に攪乱があり残存が少ないが、比較的平坦で堅い。床面積は残存12.1㎡、復元推定21.7㎡を測る。東壁やや南寄りに設置されたカマドは石組カマドで、芯として使われた石が数個残っている。最大幅（内法）は60cmの広さをもつ。カマドの他、本址に伴う施設はピットが2つ検出された。

土師器、須恵器が出土している。一部に古墳時代中期まで遡るものが混じるが、その他の土器は平安時代前期に属するものである。

(13) 第69号住居址（第47図）

第Ⅴ次調査地区の中央北端に位置する。重複関係は南側を第68号住居址に切られ、北側は調査区域外にかかっている。またほぼ全域に攪乱を受けていたが、浅い部分では床の確認ができた。現況で南北5.2m、東西5.7m、平面形は方形と推定され、床面積27.9㎡（復元推定29.8㎡）を測る。主軸方向は N-90°-E を指している。壁高は48cmとやや高く、掘り込みは直に近い。床面は小礫混暗褐色土の地山をそのまま用いており、平坦で堅い。カマドは東壁中央南寄りに検出された焼土、被熱面をあてたい。北側には袖の石芯を抜去した跡とみられる穴も確認された。ピットは4つ検出され、$P_2$・$P_1$・$P_3$が主柱穴の一部と考える。残りは攪乱に破壊された部分にあったと推定される。

土師器、須恵器が出土しているが、食器類は須恵器ばかりである。1点古墳時代の須恵器（第

101図30）が混じるが、他は奈良時代のものである。

（14）第70号住居址（第48図）

第Ⅴ次調査地区の西側中央に位置する。規模・平面形は南北3.1m、東西3.0mを測り、方形を呈する。主軸方向は N-80°-W を示す。床面積は8.8㎡である。壁はなだらかな立ち上がりで、壁高は32cmを測る。床面は地山直床で平坦だが、軟弱で不明瞭なものであった。西壁やや南寄りに設けられたカマドはわずかに袖が残り、焼土粒・灰の混入がみられた。他の施設はピットが1つ検出されたのみである。本址一帯の古墳～平安時代の遺構検出面（地山）は暗褐色のわずかに粘性を帯びた土で、下層にある弥生時代遺構の遺物包合層でもあり、本址の検出は困難を極めた。このため壁や床面の識別は、非常に微妙な土の色調や粒子の状態で行なったが、ピットなどの検出漏れがあるかもしれない。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。若干時期幅がありすぎるが、住居は規模等からみて平安時代前～中期のものと考えたい。

（15）第71号住居址（第34図）

第Ⅴ次調査地区の中央南東端に位置する。南側が調査区域外にかかり、北隅を第72号住居址に切られている。現況で確認されたのは6.1×2.2m、床面積12.2㎡（復元推定48.8㎡）であった。推定される平面形は隅丸方形だが、主軸方向は不明である。壁高は44cmで、掘り込みは直に近い。床面は礫混褐色土の地山で軟弱なものであった。ピットは全部で6個発見されているが、主柱穴を想定することは難しい。

土師器のみが出土している。ミガキの施される坏、高坏、壺、甑、甕など古墳時代の器種ばかりで、中期末頃のものと考える。

（16）第72号住居址（第48図）

第Ⅴ次調査地区西寄りの南側に位置し、第73号住居址を切る。主軸方向は N-100°-E を指し、平面形は南北4.0m、東西3.8mの方形を呈する。壁高は52cmと高く、直に近い傾斜で掘り込んでいる。床面は地山の小礫混褐色土や褐色砂礫土をそのままタタキ固めて用いており、やや起伏をもつが良好なものである。カマドは東壁の中央に設けられており、袖のかなりの部分が残っている。周辺には径20cm弱の石が10数個散在しているが、カマドの構築に関わるものであるかどうかは不明である。ピットなどの検出はない。床面積は12.2㎡を測る。

土師器、須恵器、鉄器（刀子他）が出土している。土器の種類は多く、まとまったものもいくつか見られた。平安時代前期の良好な一括資料と考える。

（17）第73号住居址（第49図）

第Ⅴ次調査地区西よりの中央に位置し、第72号住居址に南側を切られる。主軸方向は N-100°-E をとり、一辺4.8m四方の方形を呈する。床面積は現況で16.7㎡、復元推定で19.4㎡を測る。壁はほぼ直に掘り込まれ、壁高は44cmを測る。床面は礫混暗褐色土の地山をそのまま用いており、堅い。

東壁やや北寄りに設けられたカマドは原形が崩れ、焼土を確認したにすぎない。この他にはピットが1個検出された。

土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器（刀子）が出土している。土器の量は比較的多く、様相がよく捉えられる。前記72住に切られるが、ほぼ同時期と推定する。

(18) 第74号住居址（第49図）

第V次調査地区南東隅に位置する。他の遺構との関係は、第406号土坑に切られ、第60号及び第83号住居址に重複して、その上面を破壊する。また東側は調査区域外にかかっている。規模は現況で南北5.0m、東西4.2m、床面積18.1㎡を測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定する。主軸方向はN-70°-Wを指す。壁は直に掘り込まれ、壁高は52cmと高い。床面は大半が第60号住居址の覆土中にあり、貼床がなされていなかったので、微細な炭化物の散布により認定した。カマドは西壁中央に設置され、構築に使用された径20cm前後の石が数個残っている。ピットなどの検出はない。

前述のとおり本址一帯は遺構の重複が著しく、加えて調査地区端部であったことや攪乱の多さもあり、プラン検出は非常に困難であった。本址についても当初北壁は第60号住居址覆土との区別がつかずに掘り下げてしまい、最終的に土層観察用の土手で確認するという不手際を行なってしまった。このため推定復元線が大半を占める結果となった。

遺物は土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、鉄器（釘・刀子）、砥石、凹石が出土している。土器・陶器類の量は多く、39点を図示できた。ただし須恵器有台坏類は他より古く、おそらく本址下の第83号住居址に伴う奈良時代のものであろう。他の土師器、灰釉陶器は平安時代中期の良好な一括資料である。

(19) 第75号住居址（第50図）

第V次調査地区東側北端に位置する。他の遺構との重複関係は第82号住居址に北側を切られ、第77号住居址を切る。また北側は調査区域外にかかっていると推定される。規模・平面形及び主軸方向は不明である。規模は現況で南北3.0m、東西1.8m、床面積は6.5㎡を測る。壁は直に掘り込み、壁高は20cmを測る。カマド・ピットなどは検出されなかった。一帯は遺構の重複が非常に煩雑で検出に難渋し、何とかラインを確定して掘り下げた。しかし床面、壁ともに非常に不明瞭であり、結果として正しく把握できているかどうか疑問を残した。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器1点、砥石、凹石、鉄器（鏃・釘・刀子）、羽口が出土しており、土器・陶器類はきわめて多量で実に79点が図示できている。しかし前述の通り遺構の把握が適切か疑わしいため、これらの遺物も一括性を評価することはできない。とはいえ、数点の古相を示すものを除くと、ほぼ平安時代前期末～中期にかけての様相に等しい。

(20) 第76号住居址（第50図）

第V次調査地区北端やや東寄りに位置し、北側は調査区域外にかかる。重複関係は第77号及び第80号住居址を切り、第81号住居址の上部を破壊している。主軸はN-100°-Eにとり、現況で南北5.

1m、東西5.4m、床面積23.4m²（復元推定25.6m²）を測る。平面形は長方形を呈するであろうと推定する。壁はやや斜めにしっかりと掘り込まれ、壁高は48cmとかなり高い。床は第81号住居址の覆土中にある。中央部にわずかな黄色砂質土の貼床がみられたため確認することができたが、非常に不明瞭なものであった。東壁やや南寄りに設けられたカマドは原形をとどめてはいないが、火床が確認されている。この他には1個のピットが検出されている。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、砥石、凹石がある。土器・陶器の量は多く、37点を図示できた。本址一帯は遺構の重複が著しく、これらすべてが本址に厳密に伴うものとは言えないが、灰釉陶器など数点を除くと、ほぼ平安時代前期にまとまると考える。

(21) 第77号住居址（第50図）

第Ⅴ次調査地区北側やや東寄りに位置し、西側を第76号住居址に、北側を第75号及び第82号住居址にそれぞれ切られる。現況で南北3.9m、東西1.7m、床面積は5.1m²を測る。主軸方向・平面形はわからない。壁は直に掘り込み、壁高は28cmを測る。床面は礫混暗褐色砂質土の地山をそのまま用いており、軟弱で不明瞭なものであった。なお本址に伴う施設は全く確認できなかった。

少量の須恵器が出土している。これらから本址は奈良時代の住居と推定する。

(22) 第78号住居址（第31図）

第Ⅴ次調査地区の南西隅、弥生時代遺構面より検出された。大部分が調査区域外にかかり、北東部が検出されたのみである。現況の床面積は1.7m²を測る。壁高はわずかに8cmを確認した。床面は地山の黄褐色砂質土で、極めて軟弱なものであった。

遺物は弥生土器、石器（砥石）、石製品が出土している。土器からみて弥生時代中期末の住居と推定される。

(23) 第79号住居址（第32図）

第Ⅴ次調査地区の北西隅、弥生時代遺構面より検出された。西部と北部は調査区域外にかかっている。上層の古墳～平安時代遺構面には第70号住居址、第4号集石が存在している。現況で床面積16.8m²を確認した。覆土の高さは40cmを測る。床面は黄褐色砂質土の地山そのままで平坦だが、極めて軟弱なものであった。ピットが2個確認されている。

遺物は弥生土器、石器（磨製・打製石鏃、扁平片刃石斧、砥石、スクレイパー）が出土している。土器からみて時期は弥生時代中期末である。

(24) 第80号住居址（第51図）

第Ⅴ次調査地区北端やや東寄りに位置し、西側に攪乱を受け、北側は調査区域外にかかっている。また東側のほとんどが第76号住居址に切られており、検出された部分は南北4.5m、東西1.0mの範囲にすぎない。床面積は2.8m²を測る。主軸・規模などはわからない。壁はなだらかな立ち上がりで、壁高は15cmを測る。床面は暗褐色砂質土の地山をそのまま用い、平坦だが軟弱であった。

土師器と須恵器が少量出土しているが、1点を図示できたのみである。奈良時代に属するもので

あろう。

(25) 第81号住居址（第51図）

第Ⅴ次調査地区の北端やや東寄りに位置する。北側が調査区域外にかかっている。第76号住居址の掘り下げを完了した後、下部より本址を確認した。床面を検出することができたが、時間的な制約により、調査は西側のみになった。検出された部分は南北5.0m、東西2.0m、床面積は9.6m²を測る。壁は直に掘り込まれ、その壁高は56cmと高い。床面の状態は非常に起伏に富み、しかも各所にピットがあって、他住居の床とは全く異なる感じのものであった。また貼床などはなく、深い部分の地山の黄色砂質土をそのまま用いている。ピットは4個検出されている。$P_4$がかなり深く、主柱穴の一部かもしれない。

土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。平安時代前期の様相を呈すが、上部の第76号住居址とよく似ている。この点からみると、本址は単独の遺構と捉えるのは問題かもしれない。

(26) 第82号住居址（第50図）

第Ⅴ次調査地区の北端やや東寄りに位置し、北側が調査区域外にかかる。第75号及び第77号住居址を切るが、攪乱のため第76号住居址との前後関係は不明である。検出された部分は南北2.3m、東西1.0mのごく狭い範囲で、床面積は2.2m²を測る。壁高は24cmで、壁はなだらかに立ち上がる。床面は地山の黄色砂質土中にあるが、非常に軟弱で不明瞭であった。

土師器、須恵器、灰釉陶器が出土しているが、量は少ない。これらには若干の混入品もあるが、全体としては平安時代中期の様相を示す。

(27) 第83号住居址（第51図）

第Ⅴ次調査地区南東隅に位置する。他の遺構との関係は、東側が調査区域外にかかり、第2号土坑、第60号及び第74号住居址が重複し、その上部を破壊している。規模は現況で南北3.2m、東西3.5m、床面積は9.2m²を測り、平面形は長方形を呈すると推定する。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は最も残りの良い部分で36cmを測る。床面は砂礫質褐色土の地山をそのまま用いており、小さな凸凹に富んでいる。本址に伴う施設は検出されなかった。

2　土坑

この調査では4基の土坑（第405～408号土坑）を発見した。うち3基は奈良時代のもので第68号住居址の周辺に集中し、それぞれが重複関係にある。残る第406号土坑は平安時代のものであり、4基のうちで最大の240×240cmを測り、第74号・60号・83号住居址の上面を破壊している。これらは最小でも80×40cm（第408号土坑）と規模はかなり大きい。

第405号土坑からは須恵器の坏、土師器の小形甕、第408号土坑からは須恵器の坏、長頸壺片が出土している。

### 3　集石

この調査では計4基の集石（第4～7号集石）を検出した。

第4号集石は調査区域の北西端に位置する。長径7.0m、短径4.3mを測る不整形をしており、径28～84cm大の石が広範囲に散在する。その約20個の石の中には北側部分で被熱石もみられ、また焼土も確認された。さらに土師器、須恵器がこの一帯から出土したが、これらは遺存状態が非常によく完形品、一括品が多数ある。これらの土器は3か所のブロックにまとまっており、2枚重ねられた坏類もあった。

第5号集石は調査地区の中央に位置する。周りを第65号・67号・68号住居址に囲まれ、長径7.2m、短径3.6mを測る。かなり大きめの石（最大で径58cm）が約20個、広い範囲に散在し、その中には被熱石も含まれる。土師器、須恵器、灰釉陶器が、坏・椀類を中心に出土している。また鉄器（釘）の出土もあった。

第6号集石は中央やや東寄り、第76号住居址の南に位置する。長径4.9m、短径3.8mを測る範囲内には、最大径60cm～最小16cmの石が約50個散在している。前述の2遺構と同様に土器が出土している。土師器、須恵器、灰釉陶器で、須恵器の大甕の大破片もある。

第7号集石は中央東寄り、第72号住居址の北東隅に位置する。広範囲にわたる他の3遺構とは異なり、やや小さめで2.1×1.9mの不整形を呈する。13個を数える石は最大で径68cmを測り、全体的に大形である。またわずかではあるが土師器、灰釉陶器、鉄器（釘）及び炭化物が出土している。

本次調査の集石は土器から平安時代の遺構と推定される。

### 4　溝

この調査では2本の溝（第405号・406号溝）を検出した。双方とも調査地区のやや西寄りに位置し、古墳～平安時代検出面の下層の弥生時代検出面から掘り込まれていた。検出部分の長さが6.8mを測る第405号溝は北側を第64号住居址に切られ、南が調査区域外にかかっている。幅は12～28cm、深さは16cmを測る。その西南で第406号溝が確認されている。調査区域の南壁から長さにして1.4m伸びており、幅は狭いところで8cm、南壁にかかる部分では84cmを測った。深さは8cmと極めて浅い。この2遺構の時期は弥生時代である。

### 5　ピット群（第64図）

調査地区中央西寄り、第62号住居址一帯に検出された。直径30～50cmのピットが集中している遺構である。2～3棟の掘立柱建物が重複しているようにも見えるが、列が通らない部分があったため一応「ピット群」と呼称した。本来は掘立柱建物址であったのだろう。遺物は少量の土師器、須恵器が出土しており、奈良時代に属するものと推定する。

6　遺構外出土の遺物（第149・150図）

古墳～平安時代の検出面、包含層及び排土中から土師器、須恵器、灰釉陶器、中世以降の陶器などが出土している。時代はほとんどが平安時代に属するものである。第149図730の須恵器は一対の把手がついた珍しい器形をしたもので甑にでもなるのであろうか。第Ⅳ次調査の検出面出土品に比べて量的には変わらないが、緑釉陶器など貴重な遺物が少ない。

# 第6章　昭和63年度の調査（第VI次調査）

## 第1節　調査の概要

昭和63年度の調査（第VI次調査）は部室棟建設に伴うもので、調査面積は84㎡を測る（第2図）。調査区は幅2m、長さ30mと南北に細長く、遺構は北部の一帯から検出された。住居址2軒、土坑2基でいずれも平安時代のものと考えられる。この他、調査地南側を大きな自然流路が横切っていた。洪水の跡であろう。また遺物は土師器ばかりで、しかも非常に少ない。

## 第2節　遺構と遺物

### 1　住居址

#### （1）第84号住居址（第52図）

第VI次調査地区の東端やや北寄りに位置する。第410号土坑を切り、西側の大部分が調査区域外にかかる。確認された床面積は3.5㎡であった。平面形・主軸方向など詳細は不明である。壁の傾きは緩やかであり、高さは12cmを測る。床面は黒褐色弱粘質土の地山をそのまま用いており、軟弱で覆土と地山の差異により何とか把握できた。施設としては、規模(40×32,-8)cmのピットが1個発見されているが、用途は不明である。

遺物は土師器の坏が1点出土しただけである。時期は平安時代中期以降であろう。

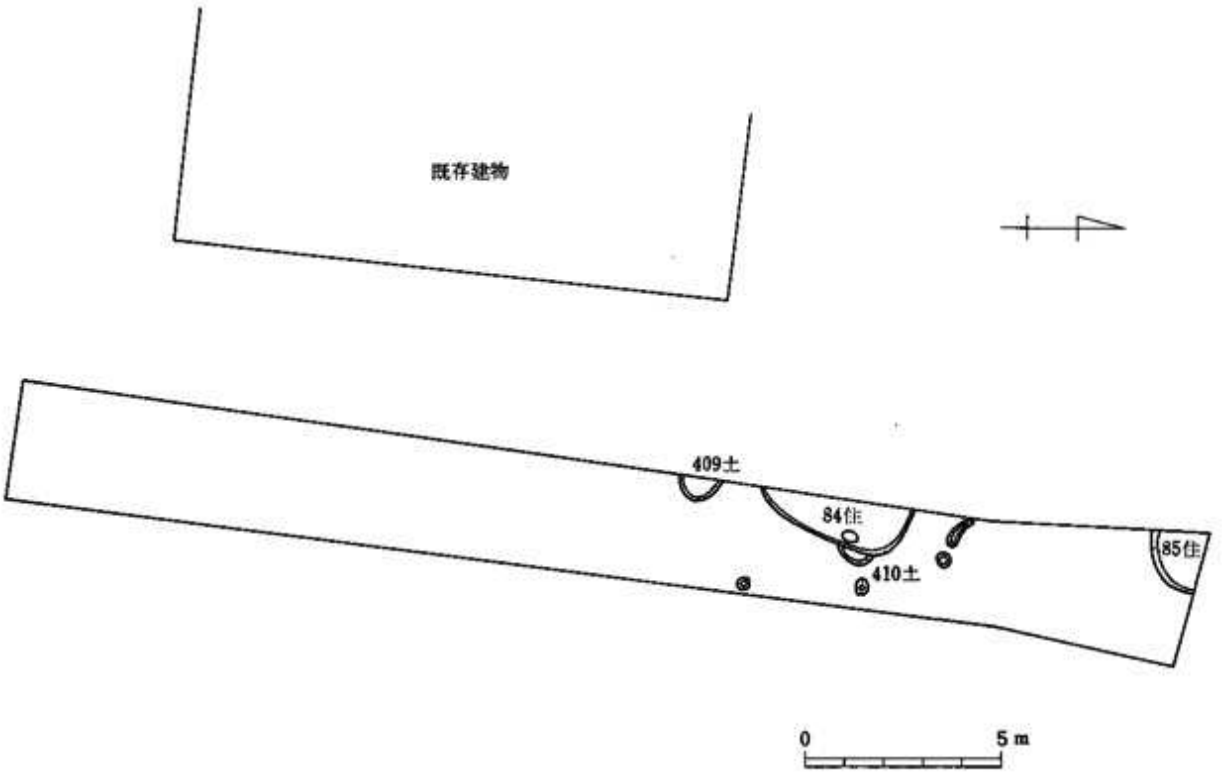
#### （2）第85号住居址（第52図）

第VI次調査地区に位置する。北側と東側が調査区域外にかかり、確認された部分は南西隅だけである。壁はなだらかで、その高さは15cmを測る。床面は暗褐色砂質土の地山そのままで、非常に軟弱で不明瞭なものであった。ピット・カマド等の施設は発見されなかった。

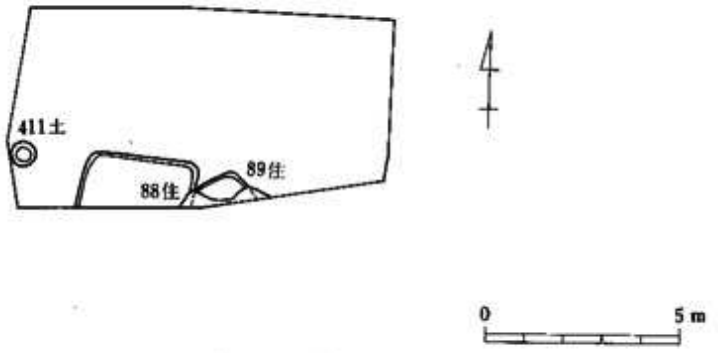
遺物は土師器の小形甕が1点出土しただけである。時期は平安時代前期と考える。

### 2　土坑

この調査では2基を発見した。第409号土坑は調査区中央の西壁にあり、そのおよそ半分が確認され、推定で116×58cmの円形を呈すると思われる。深さは14cmを測り、断面形は台形二段底を呈する。第410号土坑は第84号住居址の東壁に上面を切られ、100×90cmの不整方形を呈する。断面形は方形で、深さは13cmを測る。出土遺物はないが、検出面からみて平安時代のものと推定する。




第Ⅵ次調査地区




第Ⅷ次調査地区

挿図4　第Ⅵ・Ⅷ次調査地区全体図

# 第７章　平成元年度の調査（第Ⅷ次調査）

## 第１節　調査の概要

平成元年度の調査（第Ⅷ次調査）は倉庫建設に伴うもので、調査面積48㎡を測る（第２図）。検出された遺構は住居址２軒、土坑１基でいずれも平安時代に属する。遺物は遺構内から土師器、須恵器、灰釉陶器、石器（凹石）が出土しているが、量は少ない。

## 第２節　遺構と遺物

### １　住居址

（１）第88号住居址（第52図）

第Ⅷ次調査地区の南端に位置する。南側は大部分が調査区域外にかかり、攪乱も受けている。さらに第89号住居址と重複するが、前後関係は不明である。規模・平面形など詳細は不明で、現況で3.1×1.5m、床面積3.6㎡を測る。壁は緩やかに立ち上がり、高さ21cmを測る。床面は明褐色砂礫質土の地山で、小礫が露出して良好なものではない。

遺物は少量の土師器・須恵器・灰釉陶器と石器が出土した。平安時代前期に位置付けられるものであろう。

（２）第89号住居址（第52図）

第Ⅷ次調査地区の南端に位置する。第88号住居址と重複し、南側は大部分が調査区域外にかかる。攪乱も受けているため、確認された床面積はわずかに0.5㎡である。壁の高さは15cmで、緩やかな立ち上がりを見せる。床面は第88号住居址と同様に砂礫質土の地山をそのまま用いているため、小礫が露出して起伏に富む。

少量の土師器が出土しただけである。平安時代前期のものと考える。

### ２　土坑

この調査では第411号土坑１基が発見された。第88号住居址の南、調査区の西側にあり、62×58cmの円形を呈する。深さは14cmを測り、断面形は台形である。土師器小片が出土した。時期は平安時代と考える。

# 第8章　調査地周辺の発掘調査

## 第1節　概要

第2章でも触れたように本遺跡内では、今回の調査以前にも各地で発掘調査や立ち合い調査が行われてきた。この中で本格的な発掘調査が行われたのは、昭和55年3月のあがたの森公園造成に伴う緊急発掘調査、昭和59年12月の同公園駐車場建設に伴う緊急発掘調査、昭和60年10・11月の同公園造成工事に伴う緊急発掘調査の3回である。これらをそれぞれ第Ⅰ次、第Ⅱ次、第Ⅲ次調査という名称で扱う。

位置的には第Ⅰ次調査地区はあがたの森公園のほぼ中央部、第Ⅱ次、第Ⅲ次調査地区は北東隅にあたるが、いずれからも弥生時代中期末と平安時代の遺構が検出されており、あがたの森公園全域に遺跡の拡がりが予想される（弥生時代遺構の拡がりについては、今回第Ⅴ次調査で県ヶ丘高校敷地南西隅に1つの限界があることがわかった）。遺構検出面までの深さは西に行くほど深く、弥生時代についていうなら、第Ⅱ次調査地区東端では約40cmだが、第Ⅰ次調査地区東部になると約1mに達した。このため同公園の西に続く、あがたの森文化会館（旧制松本高校々舎）敷地内一帯の遺構は、その深さのためかなりの部分は撹乱から守られていると推定される。

## 第2節　昭和54年度の発掘調査

昭和55年3月に行った、あがたの森公園造成に伴う緊急発掘調査（第Ⅰ次調査）については、昭和56年3月に正式報告が刊行されているので、ここではその内容の紹介を簡単に行いたい。

調査期間は昭和55年3月10日から3月31日の21日間で、対象面積は約4000m²であった。ただしグリット法により、表土から人力で掘り下げたため、実際に調査できた面積はずっと少ない。発見された遺構は弥生時代中期末の住居址2軒、平安時代の住居址1軒、礫敷遺構1か所で、遺物は弥生時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器、古瓦、金属器などが遺構内や包含層から多数出土した。特に注目されるものとしては弥生第1号住居址床面から一括出土した完成及び未成品の石器群（磨製石鏃・石庖丁・砥石）、土師第1号住居址からの「地金は銅で金鍍金または金箔をほどこされた」鍍子（ヘアピン状金属製品）があげられる。

この調査によって本遺跡が弥生時代中期後半と平安時代に核をもつ複合遺跡であることが明確になった。また松本市内では久々の弥生時代の本格的調査となったことも見逃せない。

## 第3節　昭和59・60年度の発掘調査（第II・III次調査）

### 1　調査の概要

昭和59年度の調査は、あがたの森公園駐車場建設工事に伴う緊急発掘調査（第II次調査）で、調査地はあがたの森公園の北東隅部にあたり、面積は1338㎡を測る。調査期間は昭和59年12月3日から翌60年1月13日で、この様な厳冬期に建設工事とほとんど並行して行われた。このため各遺構の検出と掘り上げで精一杯であり、排土の整理、遺構写真用の清掃も思うに任せなかった。発見された遺構は弥生時代中期末の住居址14軒、同後期後半以降の住居址3軒、土坑11基、溝3本、遺物は多量の該期土器・石器、石製品、骨器などである。特に焼失住居が4軒あり、ここからは夥しい量の土器・石器が出土し、この時期を代表する良好な一括遺物となった。

昭和60年度の調査はあがたの森公園造成に伴う緊急発掘調査（第III次調査）で、調査地は前年度調査地の南隣にあたり、面積は1372㎡である。調査期間は昭和60年10月21日から12月6日にわたった。第II次調査より表土が薄く、各所に攪乱が並なり、調査は困難を窮めた。発見された遺構は弥生時代中期後半～末の住居址20軒、同後期の住居址3軒、土坑44基、溝6本、遺物は多量の弥生土器・石器、石製品などである。ただし第II次調査より遺構の重複が著しい上に残存状態が悪く、遺物の量もその分だけ少ない。この調査により弥生時代遺構群がさらに南方へ広がることが判明した。

第III次調査に先立つ同年4月、第III次調査予定地の一部で工事により採土が行われたため立ち合い調査を実施したが、この時平安時代の住居址を検出し、何点かの同期土器を得た。この住居址は遺構番号を第II次調査のものに続けて第22号住居址とし、調査次区分では第III次調査に含めることとした。

### 2　遺構と遺物

#### （1）住居址

##### 1）第4号住居址（第5図）

第II次調査地区北東端に位置し、東側が調査区域外にかかっている。長軸は確認された範囲で4.2m、短軸4.3m、床面積11.9㎡（復元推定24.3㎡）を測り、平面形は楕円形を呈すると推定する。主軸方向は東西を指す。壁は表土剥ぎの際に削られてしまい、覆土を4㎝確認したのみである。床面は、黄褐色砂礫質土の地山に黒褐色粘質土を貼ったもので中央部は堅い。炉など本址に伴う施設は発見できなかった。

少量の土器、土製品が出土している。土器からみて弥生時代中期末のものと考える。

##### 2）第5号住居址（第5図）

第II次調査地区中央の東寄りに位置し、東側と南側の一部に攪乱を受けている。規模・平面形は

長軸5.9m、短軸5.1mの楕円形を呈する。現況の床面積は22.7m²を測り、主軸方向は N-20°-E をとる。表土除去の際の重機による削りすぎで壁はなくなっていたが、深さ10cm前後の周溝が残っていたためプランを確認することができた。床面は黄褐色砂質土の地山をタタキ固めた良好なものである。炉は石囲炉で中央に設けられ、4個の石が北側に半円形に残っている。炉の他にはピットが9個発見された。そのうち $P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_8$が長方形に並び、主柱穴になるものと推測される。

土器、石器、石製品が出土している。土器によって時期は弥生時代中期末と考える。

3）第6号住居址（第6図）

第II次調査地区北側のやや東寄りに位置する。第207号土坑に切られ、南側のほとんどに攪乱を受けている。平面形は楕円形であり、長軸7.0m、短軸は現況で3.2m、推定で6.2mを測る。現況床面積は33.7m²で、主軸方向は N-90°-E を指す。本址も第4号・第5号住居址と同様に表土を削りすぎていたが、北側に残った深さ4～12cmの周溝によって、プランが確認された。床面は黄褐色砂礫土の地山そのままで礫が露出している。施設はピットが7つ発見されている。主柱穴には、$P_1$・$P_2$・$P_5$・$P_3$が相当すると考える。炉は発見できなかったが、中央の$P_7$が炉である可能性も残されている。

少量の土器、石器が出土している。出土遺物より本址の時期は弥生時代中期末と考えられる。

4）第7号住居址（第7図）

第II次調査地区の中央やや北寄りに位置し、床面中央と東隅に攪乱を受けている。規模・平面形は長軸7.0m、短軸4.6mを測り、楕円形を呈する。主軸方向は N-90°-E を指し、床面積は25.6m²を測る。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は16cmを測る。南半部の壁の内側には周溝が巡り部分的に二重になっている。床面は黄褐色砂質土の地山を固めたもので、平坦だが部分的に軟弱であった。施設はピットが8つ発見され、$P_1$・$P_2$・$P_4$・$P_3$が主柱穴になると考えられる。炉は発見できなかったが、中央の攪乱に破壊されたと推定される。

本址は炭化材の出土こそなかったが、炭層や焼土が各所にあり、一種の焼失住居と推定する。このためか多数の土器、磨製石鏃、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石庖丁、砥石などの石器、土製品が出土している。なお第67図21・22の大形の甕は本址遺構外からの出土である。土器によって、本址の時期は弥生時代中期末と考える。

5）第8号住居址（第8図）

第II次調査地区の中央に位置する。北西から南東に攪乱が入り、自らは第19号・第20号住居址及び第210号土坑を切っている。規模・平面形は長軸6.9m（現況では6.0m）、短軸4.8mを測り、主軸方向を N-70°-E にとる。床面積は22.2m²（復元推定25.3m²）である。壁の高さは20cmで直に掘り込まれ、さらに4cmほど深くそのまま周溝へとつながっている。床面は黄褐色砂質土の地山をタタキ固めた良好なものであった。中央に設けられた炉は石囲炉で、径20cm弱の4個の石を用い東側が開口する「コ」の字形に組んでいる。炉の他にはピットが8つ検出された。$P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_8$

が長方形に配列されるため主柱穴と考えるが、$P_8$が壁に近すぎるようにも感じる。

本址は典型的な焼失住居で、床面の各所に炭化材が存在していた。これらの間から多数の完形・半完形の土器、磨製・打製石鏃、太形蛤刃石斧、石庖丁、砥石などの石器、石製品が出土した。強い廃棄（遺棄）の同時性を有する良好な一括資料といえよう。出土した土器から、本址の時期は弥生時代中期末と考えられる。数点出土した土師器、灰釉陶器は上層からの混入である。

6）第9号住居址（第10図）

第II次調査地区の中央南端に位置し、第17号住居址の西端を切る。規模・平面形は長軸6.0m、短軸5.0mの長方形を描く。床面積は25.5㎡を測り、主軸方向は N-90°-W を示す。壁は直に近く掘り込まれ、壁高は32cmを測る。床面は地山の黄褐色砂質土を固めた堅緻で平坦なものであった。伴う施設はピットが8個検出され、主柱穴は長方形に並ぶ$P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_4$が想定される。炉は中央西側の$P_1$と$P_4$の中間に設置してあり、土器（甕）の上半部を逆位に埋め込んだ埋甕炉である。本址覆土は非常に特徴的で、上層中央部を占める土層が黄色を呈して地山の様であり、検出当初は長方形の周溝状に見えた。

床面から数点の一括土器が出土した。土器からみて弥生時代後期後半の住居と推測される。

7）第10号住居址（第11図）

第II次調査地区の南東端に位置する。北側は攪乱を受け、南側は調査区域外にかかっているため規模その他は不明である。現況で長軸4.6m、短軸0.8m、床面積5.7㎡を測る。壁高は24cmで、壁はやや斜めに掘り込まれる。床面の状態は平坦だが軟弱である。施設はピットが2個確認されている。

遺物は少量の土器片が出土したのみである。住居址形からみて弥生時代後期後半の住居址と推定する。

8）第11号住居址（第11図）

第II次調査地区の中央に位置し、第15号住居址の北西側を切る。規模・平面形は長軸5.0m、短軸5.0mの不整方形を呈し、床面積は20.4㎡を測る。主軸方向は N-95°-E を指している。壁は直に掘り込み、高さは24cmを測る。また南壁に沿って深さ12cmほどの周溝が確認された。床面は黄褐色砂質土の地山をそのまま用い、軟弱である。8個のピットと2.3×0.6m の浅いくぼみが1つ検出されている。

本址は当初15住との重複がよくわからず、同時に掘り下げてしまい、床面の周溝、ピット等の切り合いで新旧を判断した。このため15住の遺物も本址のものとして扱っている可能性がある。遺物は多数の土器、石器、管玉が出土したが、一括性については、前記の様に良好なものではない。土器より時期は弥生時代中期末と推定する。

9）第12号住居址（第12図）

第II次調査地区の南西側に位置する。東側が攪乱によって破壊され、第13号及び第14号住居址を切る。規模・平面形は長軸5.7m、短軸5.4mを測る隅丸方形を呈し、主軸方向は N-0° を示す。壁

は直に掘り込まれており、壁高は48cmを測る。床面は地山の黄褐色礫混砂質土をタタキ固めており、平坦だが所々に小礫が露出する。床面積は23.8m²を測り、推定される全面積は29.2m²である。ピットは5個発見されたが、その内の$P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_4$を主柱穴と考える。中央北寄り$P_1$と$P_2$の間に炉が設置されている。甕の胴部を正位に埋め込んだ埋甕炉であり、掘り方は径50cmを測る。

遺物は土器、石器が出土しているが、本址と重複する13住のものがかなり混入している。住居址形や炉からみて、本址は弥生時代後期後半の住居と推定される。灰釉陶器が1点出土しているが、上層からの混入品である。

10) 第13号住居址（第13図）

第II次調査地区の南西側に位置し、東側を第12号住居址に切られている。長軸6.7m、短軸5.4mの短辺が張る隅丸長方形を呈し、検出された床面積は17.0m²（復元推定では33.5m²）を測る。主軸方向はN-25°-Wを示している。壁はやや斜めに掘り込まれ、壁高は40cmを測る。床面は黄褐色礫混砂質土で小礫が露出している。ピットは全部で6個発見された。$P_1$・$P_2$が主柱穴の一部であり、重複部分に残りがあったと考える。炉は地床炉で中央にあるが、重複する第12号住居址により半分を破壊されている。

多数の土器と石器、土製品が出土している。土器からみて、弥生時代中期末の住居であると推測される。

11) 第14号住居址（第14図）

第II次調査地区の南西側に位置し、北西側を第12号住居址及び攪乱によって破壊されている。検出部分は全体の1/10程であろうか。主軸方向はN-0°をとると推測され、現況の床面積は2.6m²（復元推定で29.7m²）を測る。推定される平面形は長軸6.3m、短軸5.5mの隅丸長方形である。壁高は28cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。床面は黄褐色砂質土の地山で軟弱なものであった。このような小範囲ではあるがピット1個と炉址が発見された。炉は地床炉で中央にあり、検出されたわずかな部分で確認できた。

遺物は少量の土器片が出土したのみである。土器からみて弥生時代中期末の住居であると考える。

12) 第15号住居址（第15図）

第II次調査地区の中央に位置し、第11号住居址に北壁を破壊される。N-85°-Wに主軸をとり、長軸5.3m、短軸4.8mの隅丸長方形を呈する。壁高は24cmで直に掘り込まれ、北側を除く壁の内側に周溝を伴っている。床面積は21.9m²を測る。床面は黄褐色砂質土の地山をそのまま用いた軟弱なものであった。発見されたピットは8個で$P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_4$を主柱穴と想定した。$P_5$はその両脇に$P_7$と$P_8$を伴う形で検出されたが、用途は不明である。なお炉の発見はなかった。

遺物はすべて第11号住居址出土品として扱われてしまっている。その中の古相を示すものが本址に属するのであろうか。本址の時期は、切り合いや平面形からみて弥生時代中期後半と考えられる。

13) 第16号住居址（第16図）

第II次調査地区の南東端に位置する。第17号住居址の東側を切り、第208号土坑に切られる。また南東側から攪乱を受け、さらに東側は調査区域外にかかる。平面形は長軸13.2m（現況では10.5m）、短軸8.4mの楕円形を呈し、本遺跡の弥生住居の中で最大規模を誇る。現況での床面積は50.3m²（復元推定で94.3m²）を測り、N-90°-Eに主軸をとる。壁高は36cmを測り、壁は緩やかな立ち上がりを見せる。床面は本来は黄褐色から暗褐色砂質土の軟弱なものだったようだが、後述する火災の被熱のため大半が焼土化して焼け締まっていた。発見されたピットは13を数える。$P_1$は第208号土坑（2.4×0.8m、-24cm）に上面を削られ、下部を検出した。また南側の壁内側には数個のピットを伴う短い周溝が見つかった。主柱穴の比定は難しいが、$P_9$・$P_{10}$・$P_{11}$・$P_{12}$が列を成し、$P_1$・$P_2$・$P_3$がそれに対応するような位置にあることから、これらを主柱穴の一部と考えていいかもしれない。炉も発見されてはいないが、攪乱に破壊されたのであろう。

本址はいわゆる焼失住居の一種で、覆土・床上に炭化材の遺存はなかったが、床面から壁にかけて著しい被熱痕があった。建材等は焼き尽くされてしまう程の強い火災であったのだろう。遺物も土器、石器、石製品、土製品など多量に出土したが、強い被熱のため石器は割れて剥離し、土器は再焼成で歪んだもの、器面が荒れるものなどが多い。また骨製鏃も被熱のため腐らずに残っていた。一括性の高い良好な遺物群といえよう。遺物から本址は、弥生時代中期末の住居であると推定する。土師器の羽釜が出土しているが、上層からの混入品である。

14）第17号住居址（第20図）

第II次調査地区の南側に位置する。第9号住居址に西側を、第16号住居址に東側をそれぞれ切られ、西側に2箇所約60cm四方の攪乱を受ける。主軸方向をN-75°-Wにとり、長軸5.0m、短軸4.6mの楕円形を呈する。現況の床面積は13.5m²（復元推定で22.0m²）を測る。壁は緩やかな立ち上がりをもち、壁高は24cmであった。床面は黄褐色砂質土の地山で軟弱なものであった。炉は地床炉で床面中央に設けられ、深さは24cmを測る。ピットは8個発見された。そのうち$P_1$・$P_2$・$P_3$・$P_4$が長方形に配列され、これらが主柱穴であったと推測する。

遺物は少量の土器片と石器が出土したのみである。本址の時期は出土遺物から、弥生時代中期末と考える。

15）第18号住居址（第18図）

第II次調査地区の中央に位置し、第19号及び第20号住居址を切る。またあらゆる方向から攪乱を受けていて、壁は断片的にしか検出されていない。規模・平面形は長軸5.9m（現況で5.7m）、短軸4.5m（同3.4m）を測り楕円形と推測する。現況の床面積は12.5m²を測り、N-20°-Eに主軸をとる。推定復元面積は22.4m²である。わずかに確認された壁の高さは32cmで、緩やかな立ち上がりを示す。床面は黄褐色砂質土の地山で軟弱なものであった。発見されたピットは9個であるが、主柱穴の比定は難しい。

本址もいわゆる焼失住居で、壁沿いの床上から多数の炭化材が検出され、それに伴って多数の土

器、石器が出土した。特に土器は北壁沿いに、また石器は中央部に集中する傾向があった。土器からみて本址の時期は弥生時代中期末と推定する。

16) 第19号住居址（第21図）

第II次調査地区の中央に位置する。第20号住居址の上面を破壊し、東側を第8号住居址に、西側を第18号住居址に、そして北側を第209号土坑にそれぞれ切られる。また南側と中央部分に攪乱を受けている。現況の床面積は12.8㎡である。平面形は楕円形を呈すると推測され、現況で長軸5.7m、短軸6.5mだが、本来は長軸8m以上の大形住居であろうか。主軸方向はN-90°-Eを示す。壁はなだらかで、壁高は16cmを測る。南側部分に周溝が2本走っている。床面は黄褐色砂質土を貼っており、良好なものであった。施設としてはピットが5個発見された。なお検出当初は北側の部分を第21号住居址としていたが、掘り下げを進める過程で本址の一部であることが判明したため急遽変更した。

少量の土器片と石器が出土したにすぎない。土器からみて、弥生時代中期末の住居と推測する。

17) 第20号住居址（第14図）

第II次調査地区の中央に位置し、第19号住居址の床を掘り上げた段階で検出された。東側を第8号住居址に、西側を第18号住居址にそれぞれ切られ、第19号住居址には上面を破壊され、さらに攪乱も受けている。規模は現況で長軸3.7m、短軸3.1m、床面積は8.5㎡を測り、平面形は周溝の形から隅丸方形と推定する。壁は破壊されていて、ほとんど確認できない。床面は黄褐色砂質土の地山を用い軟弱なものである。第18号住居址の東壁を確認中に発見された焼土が本址の炉にあたる。地床炉で床面中央部に位置していたと考えられる。炉の他にはピットが2個あり、位置からみて主柱穴の一部と推定される。

少量の土器片と石器が出土したのみで、図示できる土器はない。ただし切り合い関係等からみて、本址は弥生時代中期末の住居と考える。

18) 第22号住居址（第2図）

第III次調査地区の中央部に位置する。土取り用の穴を重機で掘削中に多数の土器が出土したため、遺構の存在を推定し、第22号住居址と命名した。規模・平面形その他の詳細は不明である。土器より平安時代の遺構と考える。

19) 第23号住居址（第22図）

第III次調査中央部の中央北端に位置し、南隅及び西に攪乱を受け、北隅は調査区域外にかかる。第301号及び第303号土坑に切られ、第24号住居址と第302号土坑を切っている。平面形は長軸5.2m、短軸4.9mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-100°-Eを指す。現況床面積は19.3㎡で、復元推定面積は22.5㎡である。壁の傾きは緩やかで、高さは12cmを測る。床面は黄褐色砂質土の地山で、平坦だが堅さはあまりない。中央北東寄りに設けられた炉は地床炉で、その深さは20cmを測る。ピットは8個であり、$P_2$・$P_3$・$P_4$・$P_8$を主柱穴と想定するが、$P_6$・$P_1$・$P_3$という並びも可能性が残さ

れる。ただしいずれのピットも浅い。

遺物は少量の土器と石器がある。土器より弥生時代中期末の住居と考える。

20）第24号住居址（第23図）

第Ⅲ次調査地区中央部の中央北端に位置する。第23号住居址に北東隅を貼られ、第313号土坑を切り、第324号土坑に北壁西側を切られる。また東壁北寄りと、西壁から中央にかけて攪乱を受けている。規模・平面形は長軸4.9m、短軸4.6m を測る隅丸方形を呈し、主軸方向を N-0°にとる。床面積は19.1㎡である。壁高は24cmを測り、しっかりした掘り込みをもつ。床面は黄褐色砂質土の地山を用い、平坦で良好なものであった。発見されたピットは12個を数え、主柱穴は $P_1$・$P_2$・$P_5$・$P_7$もしくは $P_8$が想定される。ただし $P_2$については浅い点で疑問が残る。炉は地床炉で規模は80×60cm、深さは約20cmで、中央に設定されている。

多数の土器と石器が出土している。土器には全形を知り得るものもある。時期は弥生時代中期後半と推定する。

21）第25号住居址（第24図）

第Ⅲ次調査地区中央部の北端やや西寄りに位置する。第309号土坑に床面を、第319号及び第320号土坑に南壁の東寄りを切られ、北側のほとんどが調査区域外にかかる。検出された範囲はわずかであり、主軸方向も不明である。現況で東西4.4m、南北1.4m、床面積4.3㎡を測る。壁の高さは8cmであった。床面は黄褐色砂質土であまり堅さはない。施設はピットが4つ検出された。

遺物は少量の土器片が出土したのみである。これからみると弥生時代中期後半～末と推定される。

22）第26号住居址（第24図）

第Ⅲ次調査地区南部の北側に位置し、第304号溝を切っている。また第326号及び第327号土坑に床面を切られ、南東部分は攪乱によって破壊される。検出された部分の床面積は 5.9㎡を測る。規模・平面形は現況で、長軸3.2m、短軸3.5m を測り、長方形を呈するものと推定する。壁高は16cmで、北西部に深さ12～20cmの周溝をもつ。床面は平坦だがあまり堅さはない。発見されたピットは1個（68×40,-28cm）で、主柱穴の一部と推定される。

少量の土器片と石器が出土している。土器からみて本址の時期は弥生時代中期末と考える。

23）第27号住居址（第25図）

第Ⅲ次調査地区中央部の東端に位置する。北側、西側及び東側に攪乱を受け、第316号・第318号土坑に床面を、南西側を第301号溝にそれぞれ切られる。現況で長軸4.2m、短軸2.0m、床面積11.1㎡を測り、主軸方向は不明である。壁高は確認された北側で8cmを測り、深さ8～12cmの周溝を伴っていた。床面は黄褐色砂質土の地山で、平坦だが軟弱であった。施設はピットが8個検出されている。$P_6$が深さ24cmを測り、他は比較的浅い。

少量の土器と石器が3点出土している。本址の時期は出土した土器からみて、弥生時代中期末と推定する。

24) 第28号住居址（第25図）

第III次調査地区中央部の中央やや南東寄りに位置する。北壁の西側を第308号及び第315号土坑に、同じく東側を第310号土坑にそれぞれ切られ、北側と南側に攪乱を受けている。現況床面積は12.5㎡を測る。規模・平面形は長軸6.2m、短軸4.0mの楕円形を呈すると推定され、主軸をN-50°-Eにとる。復元推定面積は18.8㎡である。壁高は32cmを測り、なだらかな立ち上がりをもつ。床面の状態は非常に良好で、褐色砂質土の地山をタタキ固めた平坦なものであった。炉は中央に設けられた地床炉で、深さ24cmを測る。ピットは9個発見され、$P_1$・$P_2$・$P_3$が主柱穴の一部と推測される。

遺物は土器と石器が出土している。量的には少ないが、土器は一括品もある。これらから弥生時代中期末の住居と考える。

25) 第29号住居址（第26図）

第III次調査地区南部の中央に位置する。北隅を第30号住居址に、南壁を第328号土坑にそれぞれ切られる。西側と南隅の一部分、さらに中央から東壁にかけての広範囲を攪乱で破壊されている。また南側では第31号住居址と重複している。現況の床面積は5.3㎡を測る。規模・平面形は長軸約5.0m、短軸約4.4mを測る隅丸方形を呈すると推定され、主軸方向はN-75°-Wを指す。復元推定面積は17.8㎡を測る。壁の傾斜は緩やかで、高さは20cmである。床面は褐色砂質土で平坦だが軟弱なものであった。ピットは6個発見されている。その中で$P_2$・$P_4$が主柱穴の一部になると想定するが、$P_1$・$P_3$あるいは$P_1$・$P_4$にもその可能性がある。

少量の土器片が出土したのみである。土器片は弥生時代中期末を示すものが多く、本址の時期も一応そこに求めた。

26) 第30号住居址（第26図）

第III次調査地区南部の中央やや北寄りに位置する。第29号住居址の北隅を切り、第329号土坑に北側を切られる。西側はほとんど攪乱によって削り取られているために、平面形・主軸などは全く分からない。現況で床面積0.6㎡を確認したのみである。床面は軟弱で若干の傾斜を有す。

遺物は土器片が少量あるのみで、2点を提示できたにすぎない。このため判断はしにくいが、切り合いからみて弥生時代後期の可能性がある。

27) 第31号住居址（第27図）

第III次調査地区南部の中央やや南寄りに位置し、南側を攪乱で破壊される。第340号土坑に西壁を、第341号・第342号土坑に南壁をそれぞれ切られ、第32号住居址の北側大部分と第36号住居址を切る。また北側では第29号住居址と重複関係にある。規模・平面形は長軸5.8m(現況では5.3m)、短軸4.6mの隅丸長方形を呈し、主軸方向はN-65°-Eを示す。床面積は現況で17.6㎡、復元推定では21.5㎡を測る。壁はほぼ直に近い掘り込みをもち、壁高は20cmを測る。床面は褐色砂質土の地山をそのまま用い、平坦であった。ピットは6つ発見され、$P_1$・$P_2$・$P_3$が主柱穴の一部であると想定した。また$P_1$・$P_2$間の西寄りに炉がある。地床炉で規模56×40,-20cmのものである。遺物は土

器と石製品が出土している。

この周辺は狭い範囲に住居址が多数重複し、切り合いも非常に複雑であった。遺構調査時の所見では第29号住居址に切られるものと判断したが、出土した土器の検討によると弥生時代後期のものであり、新旧の関係が逆転する可能性もある。

28）第32号住居址（第26図）

第Ⅲ次調査地区南部の南寄りに位置し、第39号住居址を切っている。大部分を第31号住居址と撹乱によって破壊され、床面積1.5㎡を検出したにすぎない。壁は高さ16cmを測るなだらかな立ち上がりが確認されている。床面は平坦だが軟弱なものである。本址に伴う施設としてはピットが3個発見された。

少量の土器片が出土したのみである。弥生時代中期末の住居と考える。

29）第33号住居址（第27図）

第Ⅲ次調査地区南部の南端に位置する。第334号・第338号土坑に切られ、西側は撹乱によって破壊されている。確認できた床面積は3.3㎡、壁高は12cmであった。床面は褐色土の軟弱なものである。施設はピット3個検出している。

ごく少量の土器片が出土したのみで、1点を拓影で示したにすぎない。住居址形や土器から、時期は弥生時代中期末としたい。

30）第34号住居址（第29図）

第Ⅲ次調査地区南部の南東端に位置する。第305号溝に北側の覆土上面を、第331号土坑に東側をそれぞれ切られ、東側と南側は調査区域外にかかる。現況の床面積は6.0㎡であった。壁はやや斜めにしっかり掘り込まれていて、高さは44cmを測った。床面は褐色砂質土の平坦で軟弱なものである。施設はピットを1つ発見している。

少量の土器片が出土したのみで、これらからみて弥生時代中期末の住居と推測する。

31）第35号住居址（第28図）

第Ⅲ次調査地区南部の東端南寄りに位置する。第36号住居址に上面を破壊され、さらに近代のゴミ捨て穴が切り込んでいる。また東側のほとんどが調査区域外にかかり、検出された部分の床面積は1.0㎡にすぎない。調査地区東壁のセクションで確認したところ、覆土の深さは64cmを測った。

出土土器は極めて少ないが、弥生時代中期の可能性が高い。

32）第36号住居址（第28図）

第Ⅲ次調査地区南部の東端やや南寄りに位置し、東側が調査区域外にかかる。第31号住居址に西側を切られ、第35号住居址の上部を破壊する。広い範囲に撹乱を受け、特に南側は近代のゴミ捨て穴に床面まで破壊されている。現況の床面積は7.1㎡である。本址の深さは、調査地区東壁セクションから52cmを確認した。床面は地山の黄褐色砂質土をそのまま用いており、平坦だが軟弱である。施設としてはピットを3個発見した。

時期決定の根拠となるような遺物がなく、第35号住居址よりも新しいとしか言えない。

33) 第37号住居址（第28図）

第Ⅲ次調査地区南部の中央東端、調査地区東壁セクションで確認した。規模・平面形など詳細は全く不明である。遺物は１点を拓影で示したのみである。時期は弥生時代中期のものではないかと考える。

34) 第38号住居址（第28図）

第Ⅲ次調査地区南部の中央東端、調査地区東壁セクションで確認した。第37号住居址と同様に、規模・平面形など詳細は全く不明である。少量の土器と石器１点が出土した。時期は土器から弥生時代中期末と推定する。

35) 第39号住居址（第29図）

第Ⅲ次調査地区南部の南寄りに位置する。第32号住居址に北側を切られ、攪乱を受ける。現況で確認された床面積は4.7㎡にすぎない。規模・平面形などは不明、壁高は4～8cmで極めて浅い。床面は褐色土で平坦だが軟弱なものであった。ピットが２個検出されている。土器片がわずかにあるだけで、時期は不明である。切り合い関係より弥生時代中期末であろう。

36) 第40号住居址・第41号住居址（第３図）

第Ⅲ次調査地区西部の中央東寄りで住居址の覆土らしい黒色土が認められた。多数の土器や石器が出土したため、存在を推定した。検出・掘り下げをするために番号を付けたのであるが、時間的制約その他諸事情により検出までには至らなかった。平面形・規模の他すべて不明である。双方とも土器により弥生時代中期末と考えられる。

37) 第42号住居址（第30図）

第Ⅲ次調査地区西部の中央に位置する。西側を第43号住居址に切られ、東壁部分に攪乱を受ける。規模・平面形は長軸4.2m、短軸3.8m（現況では3.7m）の長方形を呈すると推測される。床面積は残存で9.9㎡、復元推定で14.4㎡を測り、主軸方向は N-45° W を示す。壁は28cmの高さがあり、やや斜めの立ち上がりをもつ。床面の状態は被熱で堅く焼き締まり、極めて良好なものであった。施設はピットが４個検出された。

前述の通り本址はいわゆる焼失住居の一種とみられ、覆土中に炭化物と焼土の混じる層が広がり、床面は被熱していた。遺物も多数の土器と石器が出土して、良好な一括遺物として扱うことのできるものである。時期は出土した土器からみて、弥生時代中期後半～末と推定する。

38) 第43号住居址（第30図）

第Ⅲ次調査地区西部のやや西寄りに位置する。第42号住居址の西側を切り、攪乱を受けている。平面形は方形に近い長方形と推定され、N-90§-E に主軸をとる。短軸は6.8m を測り、長軸は7.0m 前後になるものと思われる。本址は時間的制約により、東側の1/3程度を検出したのみで、掘り上げることができなかった。中央部に入れた先行トレンチから炉が検出されている。炉は埋甕炉で、

甕の上半を逆位に埋め込んであった。炉体土器から弥生時代後期後半の住居と考える。

（2） 土坑

第II次調査で発見された土坑は総数11基（第201～211号土坑）である。調査区の東半分に散在している。平面形は方形が4基（うち隅丸が1基）、楕円形が3基（不整のもの1基）、円形が3基という内訳になる。規模は最小44×(40)cm（第204号土坑）から最大400×(332)cm（第210号土坑）までである。時期は弥生時代が8基、不明が2基で、残る1基は出土した土器からみて古墳時代のものではないかと思われる。

第III次調査では43基（第301～344号土坑）が検出され、そのうち第330号土坑は欠番である。本次調査では、小形の穴をも土坑と認定しているために、他の調査次に比して数量が多くなっている。43基中28基の土坑に他の遺構との切り合いが見られ、住居址との重複が著しいといってよい。その傾向は特に中央部の北側、南部の南側に多い。規模は最小16×14cm（第315号土坑）から最大(440)×(300)cm（第339号土坑）までである。長軸で100cmを超えるようなものは9基に過ぎない。平面形は楕円形(18基)、円形（17基）が圧倒的に多く、次に方形、台形（第329・337号土坑）、そして不整形（第339号土坑）と続く。時期は26基が弥生時代であり、残りは不明であった。

（3） 溝

第II次調査では3本の溝（第201号～203号溝）が検出された。

第201号溝は調査地区の北端、第6号住居址の西北に位置し、第206号土坑に切られている。大部分を撹乱によって破壊されており、その全容は明らかではない。確認されうる範囲で長さ約16m、幅は最も広いところで2.6m、深さ28cmを測る。弥生土器の小片が少量出土しているにすぎない。

第202号溝は調査地区の中央にあり、北から南へと伸びている。南北とも撹乱で壊され、特に南側は第18号住居址にも切られているものと推測される。検出部分より長さは3.1m以上、幅は36cmを測る。深さは12cmと浅いものであった。弥生土器の小片が少量出土している。

第203号溝は調査地区の中央南側、第9号住居址の西にある。極めて浅いものであったらしく、深さはわずか4cmを確認したのみであった。ところどころをピットや第211号土坑に切られてはいるが、本来はわずかに蛇行していたものと思われ、幅は12cmを測り、長さは5.1mと推定する。弥生土器の小片が少量出土している。

いずれも用途は不明であるが、弥生時代の遺構と推測される。

第III次調査では6本の溝（第301号～第306号溝）を確認した。

第301号溝は調査地区中央部の東端に位置し、第27号住居址の西南部を切る。北から南に伸びているが、両側を撹乱で破壊され、全長は把握できなかった。検出部分の長さは2.7m、幅は72～112cm、深さは36cmを測る。

第302号溝は調査地区中央部の北西にあって、東西に長く伸びており、第317号土坑に切られる。全長4.1m、幅は狭いところで12cm、広いところで72cmを測る。両端が楕円形に膨らんでいて、この部分が一番深く最大で32cmを測る。

以上2本は弥生時代の遺構である。

第303号溝は調査地区中央部の西に位置し、北西から南東へ伸びている。あまりに規模が大きく、時間的制約もあったために完掘することができなかった。肉眼で確認できた北西部のラインから推定して、第24号住居址の南西に3本のトレンチを入れ、そこで本址北半分の立ち上がりを検出した。これにより深さ68cm、幅は少なくとも1.0m以上あり、長さも6.4mを超える大規模な溝であることが判明した。全容を捉えることができなかったのが残念である。

第304号・第305号溝は、それぞれ調査地区南部の北端と南端に位置し、深さは双方とも20cmを測る。前者は東側を攪乱で壊され、第26号住居址に西側を切られているため、確認されたのは長さ4.8mであった。幅は0.6～1.4mを測り、規模の大きなものであることが予想される。時期は不明である。後者は第34号住居址を破壊し、東は調査区域外にかかり、西は攪乱を受ける。それでも長さ7.2m、幅は現況最大で1.1mを測り、前者と同様に規模の大きさがうかがえる。時期は平安以降と推定する。

第306号溝は西部のやや南東寄りに位置し、ほぼ東西に伸びる。西側で2つに分かれており、Y字形を描く。長さこそ6.0mを測るが、幅は10～40cmと狭く、深さもわずかに9cmと浅い。時期は不明である。

# 第1表　住居址一覧表

## （弥生時代）

註）第1号・第2号住居址は昭和56年3月に報告済　※床面積（現況残存面積／復元推定面積）。なおーは完存を示し、空欄は計測不能を示す。

| 遺構No. | 調査次 | 平面形 | 規模 長軸・短軸 m | 深さcm | 床面積 ㎡ | 主軸方向 | 炉形態 種別 | 位置 | 備考 | 時期 | 重複関係 旧 | 新 | 掲載図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | I | 隅丸方形 | (4.6)×(4.4) | | ／ | 不明 | 地床炉？ | 中央？ | 焼土が点在する | 中期末 | | | 註） |
| 2 | I | 不明 | × | | ／ | 不明 | 地床炉？ | 不明 | 部分的に焼土確認 | 中期末 | | | 註） |
| 4 | II | 楕円形？ | (4.2)×4.3 | 4 | 11.9／24.3 | 東西 | | | | 中期末 | | | 5図 |
| 5 | II | 楕円形？ | (5.9)×5.1 | 8 | 22.7／ | N−20°−E | 石囲炉 | 中央 | 北、4石を半円に | 中期末 | | | 5図 |
| 6 | II | 楕円形 | 7.0×(3.2) | 8 | ／33.7 | N−90° E | | | 中央のP6？ | 中期末 | | 207土 | 6図 |
| 7 | II | 楕円形 | 7.0×4.6 | 16 | 25.6／ | N−90°−E | | | 中央撹乱部？ | 中期末 | | | 7図 |
| 8 | II | 楕円形 | (6.0)×4.8 | 20 | 22.2／25.3 | N−70° E | 石囲炉 | 中央 | コの字形に東開口 | 中期末 | 19住・20住・210土 | | 8図 |
| 9 | II | 長方形 | 6.0×5.0 | 32 | 25.5／ | N−90°−W | 埋甕炉 | 中央西柱穴間 | 土器上部を逆位 | 後期後半 | 17住 | | 10図 |
| 10 | II | 不明 | (4.6)×(0.8) | 24 | 5.7／ | 不明 | | | | 後期後半 | | | 11図 |
| 11 | II | 不整方形 | (5.0)×(5.0) | 24 | 20.4／ | N−95°−E | | | | 中期末 | 15住 | | 11図 |
| 12 | II | 隅丸方形 | 5.7×5.4 | 48 | 23.8／29.2 | N O° | 埋甕炉 | 中央北柱穴間 | 土器中間部を正位 | 後期後半 | 13住・14住 | | 12図 |
| 13 | II | 隅丸長方形 | 6.7×5.4 | 40 | 17.0／33.5 | N−25°−W | 地床炉 | 中央 | 12住により半壊 | 中期末 | | 12住 | 13図 |
| 14 | II | 隅丸長方形 | (6.2)×5.5 | 28 | 2.6／29.7 | N−O°？ | 地床炉 | 中央 | | 中期末 | | 12住 | 14図 |
| 15 | II | 隅丸長方形 | 5.3×(4.8) | 24 | 21.9／ | N−85°−W | | | | 中期末 | | 11住 | 15図 |
| 16 | II | 楕円形 | (10.5)×8.4 | 36 | 50.3／94.3 | N−90°−E | | | 撹乱部？ | 中期末 | 17住 | 208土 | 16図 |
| 17 | II | 楕円形 | (5.0)×(4.6) | 24 | 13.5／22.0 | N−75°−W | 地床炉 | 中央 | | 中期末 | 9住・16住 | | 20図 |
| 18 | II | 楕円形 | (5.7)×(3.4) | 32 | 12.5／22.3 | N−20°−E | | | | 中期末 | 19住・20住 | | 18図 |
| 19 | II | 楕円形 | (5.7)×(6.5) | 16 | 12.8／ | N−90°−E | | | | 中期末 | 20住 | 8住・18住・209土 | 21図 |
| 20 | II | 不明 | (5.7)×(3.1) | 8 | 8.5／ | 不明 | 地床炉 | 中央？ | 18住東壁で確認 | 中期末 | | 8住・18住・19住 | 14図 |
| 23 | III | 隅丸方形 | 5.2×4.9 | 12 | 19.3／22.5 | N−100 °−E | 地床炉 | 中央北東寄 | | 中期末 | 24住・302土 | 301土・303土 | 22図 |
| 24 | III | 隅丸方形 | 4.9×4.6 | 24 | 19.1／ | N−O° | 地床炉 | 中央 | | 中期後半 | 313土 | 23住・324土 | 23図 |
| 25 | III | 不明 | (4.4)×(1.4) | 8 | 4.1／ | 不明 | | | | 中期末 | | 308土・319土・320土 | 24図 |
| 26 | III | 長方形？ | (3.2)×(3.5) | 16 | 5.9／ | 不明 | | | | 中期末 | 304溝 | 326土・327土 | 24図 |
| 27 | III | 不明 | (4.2)×(2.0) | 8 | 11.1／ | 不明 | | | | 中期末 | | 316土・318土・301溝 | 25図 |
| 28 | III | 楕円形？ | (4.2)×(4.0) | 32 | 12.5／18.8 | N−50°−E | 地床炉 | 中央 | | 中期末 | | 308土・310土・315土 | 25図 |
| 29 | III | 隅丸方形？ | (5.0)×(4.4) | 20 | 5.3／17.8 | N−75°−W | | | | 中期？ | | 30住・328土・329土 | 26図 |
| 30 | III | 不明 | (1.7)×(0.8) | 12 | 0.6／ | 不明 | | | | 後期？ | 29住 | 328土 | 26図 |
| 31 | III | 隅丸長方形 | (5.3)×4.6 | 20 | 17.6／21.5 | N−65°−E | 地床炉 | 西柱穴間 | | 後期後半 | 32住・36住 | 29住・339・340・341・342土 | 27図 |
| 32 | III | 不明 | (2.1)×(1.3) | 16 | 1.5／ | 不明 | | | | 中期末 | 39住 | 31住 | 26図 |
| 33 | III | 不明 | (3.4)×(1.1) | 12 | 3.3／ | 不明 | | | | 中期末 | | 334土・328土 | 27図 |
| 34 | III | 不明 | (4.9)×(1.8) | 44 | 5.9／ | 不明 | | | | 中期末 | | 331土・305溝 | 29図 |

※床面積（現況残存面積／復元推定面積）。なお－は完存を示し、空欄は計測不能を示す。

| 遺構No. | 調査次 | 平面形 | 規模 長軸・短軸 m | 規模 深さcm | 規模 床面積 ㎡ | 主軸方向 | 炉形態 種別 | 炉形態 位置 | 炉形態 備考 | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 | 掲載図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | III | 不明 | (1.9)×(0.8) | 64 | 1.0／ | 不明 | | | | 中期？ | | 36住 | 28図 |
| 36 | III | 不明 | (3.2)×(3.1) | 52 | 7.1／ | 不明 | | | | 35住より新 | 35住 | 31住 | 28図 |
| 37 | III | 不明 | × | | ／ | | | | | 中期？ | | | 28図 |
| 38 | III | 不明 | × | | ／ | | | | | 中期末 | | | 28図 |
| 39 | III | 不明 | (3.6)×(1.4) | 8 | 4.7／ | 不明 | | | | 不明 | | 32住 | 29図 |
| 40 | III | 不明 | × | | ／ | | | | | 中期末 | | | |
| 41 | III | 不明 | × | | ／ | | | | | 中期末 | | | |
| 42 | III | 長方形？ | (4.2)×(3.7) | 28 | 9.9／14.4 | N－45°－W | | | | 中期末 | | 43住 | 30図 |
| 43 | III | 長方形？ | ？×(6.8) | ？ | ／ | N－90°－E | 埋甕炉 | | 上器上部を使用 | 後期後半 | 42住 | | 30図 |
| 78 | V | 不明 | (1.8)×(1.3) | 8 | 1.7／ | 不明 | | | | 中期末 | | | 31図 |
| 79 | V | 不明 | (4.5)×(4.1) | 40 | 16.8／ | 不明 | | | | 中期末 | | | 31図 |

## （古墳時代）

| 遺構No. | 調査次 | 平面形 | 規模 長軸・短軸 m | 規模 深さcm | 規模 床面積 ㎡ | 主軸方向 | 炉形態 種別 | 炉形態 位置 | 炉形態 備考 | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 | 掲載図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | V | 隅丸方形？ | 5.0×(2.8) | 24 | 12.0／23.7 | 不明 | | | | 中期末 | | 59住 | 32図 |
| 63 | V | 隅丸方形？ | 4.5×(1.4) | 40 | 5.3／19.1 | 不明 | | | | 中期末 | | 62住 | 32図 |
| 64 | V | 隅丸長方形 | 5.4×4.8 | 52 | 18.2／23.0 | N－80°－W | カマド | 西壁中央 | | 中期末 | | | 33図 |
| 71 | V | 隅丸長方形？ | 6.2×(2.2) | 44 | 12.2／48.8 | 不明 | | | | 中期末 | | 72住 | 34図 |

## （奈良・平安時代）

注）第3号住居址は昭和56年3月に報告済

| 遺構No. | 調査次 | 平面形 | 規模 長軸・短軸 m | 規模 深さcm | 規模 床面積 ㎡ | 主軸方向 | 炉形態 種別 | 炉形態 位置 | 炉形態 備考 | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 | 掲載図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | I | 長方形 | 4.2×5.0 | 36 | 16.3／— | 不明 | カマド | 東壁やや北寄 | 焼土・焼石を確認 | 平安 | | | 注） |
| 32 | III | 不明 | × | | ／ | 不明 | | | | 平安 | | | |
| 44 | IV | 方形 | 4.3×4.0 | 48 | 15.3／— | N－16°－E | カマド | 北壁西寄 | 袖石？が2個残る | 平安 | | | 35図 |
| 45 | IV | 隅丸長方形？ | 2.0×6.0 | 32 | 10.8／ | 不明 | | | | 平安 | | | 36図 |
| 46 | IV | 方形？ | 2.1×4.7 | 32 | 9.3／ | 不明 | | | | 平安 | | | 36図 |
| 47 | IV | 方形？ | 3.9×5.2 | 32 | 18.5／ | 不明 | | | | 平安 | | | 37図 |
| 48 | IV | 不整方形？ | 3.6×5.4 | 24 | 18.5／26.8 | N－15°－E | | | | 平安 | | 404土 | 38図 |
| 49 | IV | 長方形？ | 3.6×4.3 | 16 | 14.6／ | N－15° E | | | | 平安 | | 401溝 | 38図 |
| 50 | IV | 長方形？ | (5.3)×(4.7) | 19 | 16.0／ | 不明 | | | | 平安 | | 51住・1集・2集・401溝 | 40図 |
| 51 | IV | 方形？ | (2.4)×3.9 | 24 | 8.6／13.4 | N－90°－E | カマド | 東壁北寄 | 石組カマド | 平安 | 50住 | | 40図 |
| 52 | IV | 隅丸長方形？ | (3.8)×3.7 | 12 | 8.6／ | 不明 | | | | 平安 | | 401溝 | 41図 |

※床面積（現況残存面積／復元推定面積）。なおーは充存を示し、空欄は計測不能を示す。

| 遺構No. | 調査次 | 平面形 | 規模 長軸・短軸 m | 規模 深さcm | 規模 床面積 ㎡ | 主軸方向 | 炉形態 種別 | 炉形態 位置 | 炉形態 備考 | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 | 掲載図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 53 | IV | 不明 | (2.9)×1.1 | 60 | 2.4／ | 不明 | | | | 平安 | | | 41図 |
| 54 | IV | 不明 | (1.9)×1.0 | 20 | 1.5／ | 不明 | | | | 平安 | | | 41図 |
| 55 | IV | 不明 | × | | ／ | 不明 | | | | 平安 | | 402溝 | 無 |
| 56 | IV | 不明 | (3.2)×(1.2) | 28 | 3.2／ | 不明 | | | | 平安 | | | 41図 |
| 57 | V | 方形 | 3.1×2.8 | 12 | 7.8／— | N−25°−E | カマド | 北壁やや東寄 | 焼土のみ確認 | 平安 | 58住 | | 42図 |
| 58 | V | 方形 | 4.1×3.8 | 36 | 14.2／ | N−110°−E | カマド | 東壁中央 | 焼土確認 | 平安 | 59住 | 57住 | 43図 |
| 59 | V | 方形 | 3.3×(3.5) | 20 | 9.9／10.5 | N−70°−E | | | | 平安 | | 58住 | 42図 |
| 60 | V | 方形？ | 5.3×(3.4) | 60 | 16.2／ | 不明 | | | | 平安 | 83住 | 74住・406土 | 44図 |
| 62 | V | 長方形 | 3.9×(3.3) | 12 | 11.4／ | N−10°−E | | | | 平安 | 63住 | | 44図 |
| 65 | V | 方形？ | (4.7)×5.2 | 12 | 19.5／ | N 65° W | | | | 奈良 | | 66住・67住 | 45図 |
| 66 | V | 不明 | 0.9×2.0 | 14 | 1.5／ | 不明 | | | | 平安 | 65住 | | 45図 |
| 67 | V | 不整方形 | 3.7×3.8 | 28 | 12.1／— | N 70°−W | | | | 平安 | 65住 | | 46図 |
| 68 | V | 方形 | (4.9)×5.0 | 40 | 12.1／21.7 | N−110°−E | カマド | 東壁やや南寄 | 石組カマド | 平安 | 69住・406土・407土・408土 | | 46図 |
| 69 | V | 方形？ | 5.2×5.7 | 48 | 27.9／29.8 | N−90° E | カマド | 東壁中央南寄 | 焼土・火床を確認 | 奈良 | | 68住 | 47図 |
| 70 | V | 方形 | 3.1×3.0 | 32 | 8.8／— | N−80°−E | カマド | 西壁やや南寄 | 焼土粒・灰を確認 | 平安 | | | 48図 |
| 72 | V | 方形 | 4.0×3.8 | 52 | 12.2／ | N−100°−E | カマド | 東壁中央 | 袖石？10数個残る | 平安 | 73住 | | 48図 |
| 73 | V | 方形 | 4.8×4.7 | 44 | 16.7／19.4 | N 100°−E | カマド | 東壁やや北寄 | 焼土のみ確認 | 平安 | | 72住 | 49図 |
| 74 | V | 隅丸方形？ | (5.0)×(4.2) | 52 | 18.1／ | N−70°−W | カマド | 西壁中央 | 構築石が数個残る | 平安 | 60住・83住 | 406土 | 49図 |
| 75 | V | 不明 | 3.0×1.8 | 20 | 6.1／ | 不明 | | | | 平安 | 77住 | 82住 | 50図 |
| 76 | V | 長方形？ | 5.1×5.4 | 48 | 23.4／25.6 | N−10°−E | カマド | 東壁やや南寄 | 火床確認 | 平安 | 77住・80住・81住 | | 50図 |
| 77 | V | 不明 | (3.9)×(1.7) | 28 | 5.1／ | 不明 | | | | 平安 | | 75住・76住・82住 | 50図 |
| 80 | V | 不明 | (4.5)×(1.0) | 15 | 2.8／ | 不明 | | | | 平安 | | 76住 | 51図 |
| 81 | V | 不明 | (5.0)×(2.0) | 56 | 9.6／ | 不明 | | | | 平安 | | 76住 | 51図 |
| 82 | V | 不明 | (2.3)×(1.0) | 24 | 2.2／ | 不明 | | | | 平安 | 75住・77住 | | 50図 |
| 83 | V | 長方形 | 3.2×3.5 | 36 | 9.2／ | 不明 | | | | 平安 | | 60住・74住・406土 | 51図 |
| 84 | VI | 不明 | 3.8×1.3 | 12 | 3.5／ | 不明 | | | | 平安 | 410土 | | 52図 |
| 85 | VI | 不明 | (1.2)×1.0 | 15 | 1.0／ | 不明 | | | | 平安 | | | 52図 |
| 86 | VII | 不明 | (1.3)×(1.2) | 29 | 0.9／ | 不明 | | | | 平安 | | | 掲図 |
| 87 | VII | 不明 | ？×1.4 | 35 | 2.0／ | N−90° E | カマド | 東壁 | 煙道64cm | 平安 | | | 掲図 |
| 88 | VII | 不明 | 3.1×(1.5) | 21 | 3.6／ | 不明 | | | | 平安 | | | 52図 |
| 89 | VII | 不明 | (1.0)×(0.6) | 15 | 0.5／ | 不明 | | | | 平安 | | | 52図 |

## 第2表　土坑一覧表

| 遺構No. | 調査次 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 規模 長軸・短軸・深さ | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | II | 201 溝東 | 不整楕円形 | 台形 | 124×84×28 | 弥生 | | |
| 202 | II | 206 土東 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| 203 | II | 5住北 | 楕円形？ | 皿形 | (300)×(136)×24 | 弥生 | | |
| 204 | II | 5住北 | 楕円形？ | 皿形 | (136)×(120)×20 | 弥生 | | 205土 |
| 205 | II | 5住北 | 円形？ | 皿形？ | (212)×(104)×24 | 弥生 | 204土 | |
| 206 | II | 201溝内？ | 方形？ | 台形 | 76×(56)×8 | 古墳 | | |
| 207 | II | 6住北西壁 | 円形 | 皿形 | 76×68×16 | 弥生 | 6住 | |
| 208 | II | 16住内 | 方形 | 台形 | 204×76×24 | 弥生 | 16住 | |
| 209 | II | 19住北壁 | 円形 | 不整皿形 | 72×56×16 | 弥生 | 19住 | |
| 210 | II | 8住東壁 | 隅丸方形？ | 三角形 | 400×(332)×7 | 不明 | | 8住 |
| 211 | II | 9住西 | 方形 | 台形二段底 | 84×52×32 | 弥生 | 203溝 | |
| 301 | III | 23住東壁 | 不整楕円形 | 皿形 | 108×76×16 | 弥生 | 23住 | |
| 302 | III | 23住東壁 | 隅丸方形 | 台形 | 52×40×8 | 弥生 | 303土 | 23住 |
| 303 | III | 23住東壁 | 不整楕円形 | 台形 | 112×104×16 | 弥生 | 23住 | 302土 |
| 304 | III | 28住西壁 | 円形 | 皿形 | 76×64×8 | 弥生 | | |
| 305 | III | 28住西壁 | 円形？ | 半円形 | (26)×(10)×10 | 不明 | | 28住 |
| 306 | III | 28住西 | 円形 | 半円形 | 28×26×20 | 不明 | | |
| 307 | III | 28住西 | 円形 | 半円形 | 32×30×14 | 不明 | | |
| 308 | III | 28住北西壁 | 不整方形 | 皿形 | (92)×80×12 | 弥生 | 28住 | 314土 |
| 309 | III | 25住内 | 円形 | 台形 | 40×36×12 | 弥生 | 25住 | |
| 310 | III | 28住北東壁 | 円形？ | 台形 | 48×(12)×20 | 弥生 | 28住 | |
| 311 | III | 24住西・313土南 | 楕円形 | 皿形 | 88×60×12 | 弥生 | 313土 | |
| 312 | III | 313土西 | 円形 | 半円形 | 40×40×16 | 弥生 | | |
| 313 | III | 24住北西壁 | 不明 | 皿形 | (292)×(100)×12 | 弥生 | | 24住・311土・322土 |
| 314 | III | 28住北西 | 円形？ | 台形 | (440)×(300)×10 | 不明 | 308土 | |
| 315 | III | 28住北西壁 | 円形 | 三角形 | 16×14×12 | 不明 | 28住 | |
| 316 | III | 27住西壁 | 円形？ | 台形 | (48)×(24)×24 | 弥生 | 27住 | |
| 317 | III | 302溝中 | 楕円形 | 半円形 | 30×24×12 | 不明 | 302溝 | |
| 318 | III | 27住西壁 | 円形？ | 台形二段底 | (40)×(16)×8 | 弥生 | 27住 | |
| 319 | III | 25住南 | 楕円形 | 不整円形 | 68×56×24 | 不明 | 25住 | |
| 320 | III | 25住南 | 楕円形 | 台形二段底？ | 72×60×16 | 不明 | 25住 | |
| 321 | III | 312土南・302溝西 | 楕円形？ | 台形？ | 40×(24)×14 | 不明 | | |
| 322 | III | 313土内 | 円形 | 台形 | 48×44×8 | 弥生 | 313土 | |
| 323 | III | 302溝西北 | 隅丸方形 | 半円形 | 56×28×14 | 不明 | | |

| 遺構No. | 調査次 | 位置 | 平面形 | 断面形 | 規模 長軸・短軸・深さ | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 324 | III | 24住北壁西側 | 楕円形 | 半円形 | 30×22×22 | 不明 | 24住 | |
| 325 | III | 302溝西端 | 楕円形 | 半円二段底 | 36×28×20 | 弥生 | | |
| 326 | III | 26住内 | 楕円形？ | 台形 | (64)×60×16 | 弥生 | 26住 | |
| 327 | III | 26住内 | 楕円形 | 半円二段底 | 42×40×28 | 弥生 | 26住 | |
| 328 | III | 29住南壁 | 不整楕円形 | 方形二段底 | 112×52×28 | 弥生 | 30住 | |
| 329 | III | 30住北壁 | 台形 | 台形 | (92)×(60)×24 | 弥生 | 30住 | |
| 330 | III | 303溝確認トレンチ内 | 楕円形 | 半円形 | 32×28×8 | 不明 | | |
| 331 | III | 34住内 | 円形？ | 三角形 | (26)×(16)×28 | 不明 | 34住 | |
| 332 | III | 33住北西 | 円形 | 方形二段底 | 40×36×24 | 弥生 | | |
| 333 | III | 33住北西 | 不整円形 | 台形 | 40×36×16 | 弥生 | | |
| 334 | III | 33住東壁 | 楕円形 | 不明 | 42×(36)×? | 不明 | | 33住 |
| 335 | III | 39住寄りのトレンチ内 | 楕円形 | 皿形 | (72)×(28)×8 | 弥生 | | |
| 336 | III | 39住東南 | 楕円形 | 皿形 | 124×68×8 | 弥生 | | |
| 337 | III | 34住北西 | 台形 | 不整方形 | 116×68×20 | 弥生 | | |
| 338 | III | 33住内 | 方形 | 不明 | 44×36×? | 不明 | | |
| 339 | III | 29住南西 | 不整形 | 不整形 | (168)×(96)×40 | 弥生 | 340土 | |
| 340 | III | 31住西壁 | 不整長方形 | 台形二段底 | (176)×68×28 | 弥生 | 31住 | 339土 |
| 341 | III | 31住南西壁 | 楕円形 | 半円形二段底 | 36×20×18 | 不明 | 31住 | |
| 342 | III | 31住南西壁 | 楕円形 | 半円形 | 48×24×20 | 弥生 | 31住 | |
| 343 | III | 306溝北 | 円形 | 台形 | 32×32×10 | 不明 | | |
| 344 | III | 306溝北 | 楕円形 | 不整台形 | 36×32×14 | 不明 | | |
| 401 | IV | 44住東南 | 楕円形 | 台形 | 113×88×8 | 奈良 | | |
| 402 | IV | 51住東北 | 不整円形 | 台形 | 176×176×32 | 奈良 | | |
| 403 | IV | 1地区調査区域東壁 | 方形 | 台形三段底 | 104×(92)×32 | 奈良 | | |
| 404 | IV | 48住内 | 楕円形 | 半円形 | 131×95×53 | 平安 | 48住 | |
| 405 | V | 68住東 | 不整楕円形 | 三角形 | (141)×128×88 | 平安 | | 68住・407・408土 |
| 406 | V | 74住・60住・83住内 | 隅丸方形 | 三角形 | 240×240×44 | 平安 | 74・60・83住 | |
| 407 | V | 68住東 | 楕円形 | 不整形 | (92)×(48)×44 | 奈良 | 405土 | 68住 |
| 408 | V | 68住東 | 不整楕円形 | 不整形 | 80×48×44 | 奈良 | 405土 | 68住 |
| 409 | VI | 84住南 | 円形？ | 台形二段底？ | (116)×(58)×14 | 平安 | | |
| 410 | VI | 84住東壁 | 不整方形 | 方形 | 100×90×13 | 平安 | | 84住 |
| 411 | VIII | 88住西 | 円形 | 台形？ | 62×58×14 | 平安 | | |

## 第3表　溝一覧表

| 遺構No. | 調査次 | 位置 | 規模 長さ(cm) | 規模 幅(cm) | 規模 深さ(cm) | 時期 | 重複関係 旧 | 重複関係 新 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201 | II | 6住西北 | (1600) | (258) | (28) | 弥生 | | 206土(集石?) |
| 202 | II | 18住北 | (312) | 36 | 12 | 弥生 | | |
| 203 | II | 9住西 | 508 | 12 | 4 | 弥生 | | 211土 |
| 301 | III | 27住西南 | (268) | 72～112 | 36 | 弥生 | 27住 | |
| 302 | III | 24住西 | 412 | 12～72 | 32 | 弥生 | | 317土 |
| 303 | III | 24住西南 | (640) | 104～? | 68 | 不明 | | |
| 304 | III | 26住東 | (480) | 56～140 | 20 | 不明 | | 26住 |
| 305 | III | 34住北 | (720) | 22～110 | 20 | 平安以降 | 34住 | |
| 306 | III | 42住東南 | 610 | 10～40 | 9 | 不明 | | |
| 401 | IV | II地区中央北～南 | (1620) | 24～120 | ? | 中世以降 | 49住・50住・52住 | |
| 402 | IV | 48住西 | (632) | 52～84 | 20 | 中世以降 | 55住 | |
| 403 | IV | 44住西 | 560 | 40～68 | 24 | 平安 | | 44住 |
| 404 | IV | 44住南東 | 295 | 36～40 | 13 | 平安 | | |
| 405 | V | 64住南 | (684) | 12～28 | 16 | 弥生 | | 64住 |
| 406 | V | 405溝西南 | 144 | 8～84 | 8 | 弥生 | | |

## 第4表　集石一覧表

| 遺構No. | 調査次 | 位置 | 平面形 | 規模 長径×短径(cm) | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | IV | 50住北西壁 | 円形 | 172×160 | 平安以降 | 50住を切る |
| 2 | IV | 50住北東壁 | 楕円形 | 268×228 | 平安以降 | 50住を切る |
| 3 | IV | 44住東 | 長方形 | 344×236 | 平安 | 土器出土 |
| 4 | V | 79住(弥)上層 | 不整形 | 704×428 | 平安 | 50cm下方に弥生時代の層有り/土器出土/被熱石・焼土 |
| 5 | V | 65住北・67住西・68住東 | 楕円形 | 724×360 | 平安 | 土器出土/被熱石 |
| 6 | V | 76住南 | 長方形 | 492×380 | 平安 | 土器(須恵器甕)出土 |
| 7 | V | 72住北東隅 | 不整形 | 208×192 | 平安 | 土器出土/炭化物確認 |

# 第9章　遺　　物

## 第1節　土器・陶磁器

### 1　土器・陶磁器の概要

当遺跡からは今回の一連の発掘調査（IV～VIII次調査）や、以前の周辺地区の調査（I～III次調査）で多量の土器や若干の陶磁器が出土しており、総量は整理用コンテナーに80箱近くある。時期別の内訳は、弥生、古墳、奈良・平安の各時代に属するものと、ごくわずかな中世以降のものである。細かく見ると、弥生時代の土器は中期後半から末と後期後半から終末（古墳時代前期に含められる場合もある）に位置付けられるもの、古墳時代は中期の後半から後期の初めくらい、奈良・平安時代は8世紀の後半から11世紀にわたるもので占められ、これ以外の時期に属するものは皆無である。

### 2　弥生時代の土器（第65～107図）

第I～III・V次調査の該期竪穴住居址内を中心に多量に出土し、実測図304点、拓影343点を図化・提示した。これらの大半は中期の後半から終末の時期に属し、少量、後期後半以降のものが伴っている。中期のものを中心に、器種と器形、文様についての特徴を概観してみたい。

（1）　器種と器形

器種は、壺、甕、台付甕、蓋、高坏、鉢、甑（有孔鉢）、が見られる。一部には全形がわからなかったため台付甕と高坏、あるいは鉢と高坏との区別が明確にできなかったものもある。また現段階ではどのような器形になるかわからないものも1点ある(226)。壺、甕には特大から特小まで様々な法量（寸法）の個体がみられるが、段階的に規格があるかどうかは疑わしい。

①壺　口縁部に第一の多様性が認められる。外反するもの（外反口縁：口縁A）、反りがなく素直に外開するもの（外開口縁：口縁B）、内湾して立ち上がる受け口のもの（受け口口縁：口縁C）、稜を持つくらい強く屈曲して立ち上がるもの（有稜口縁：口縁D）、の4種類に分類できる。胴部の形態、最大径の位置にもかなり特徴がある。基本的には、胴部の下から1/3前後に最大径を有する屈曲部を持ち、屈曲はかなり強く「く」の字状を呈してそれ以上の部分は頸部にむかって内傾しながらもわずかに外側に反る器形をとる。しかし36・44～46・239に代表される、最大径の屈曲が比較的弱く、従って胴部の張りも弱く見えるものや、150のように最大径が胴部中位に上り、胴部全体が丸味を持って見えるものもある。

この他に、器形は甕だが施文からみて広口の壺としたほうが良いと考えられるもの（227）、小

形で外面全面を赤彩し胴部の屈曲部に注口をもつもの(158)、など特殊なものも壺に含める。

②甕　口縁部の多様性は壺と同様である（口縁A～D）。胴部は張りをもつもの(20・55・171～175・278他）と張らずに徐々に下方へ細くなっていくもの(135・170・221他）の2者があり、前者の胴部最大径は上半1/3ほどにくる。これに連関して、個体全体の最大径が明らかに口縁端部または胴部にあるか、あるいはいずれか不明瞭なものの違いも器形の特徴として注目されよう。

③台付甕　全形がわかるものは27の1点しかなく、他は脚部片を除いては文様等から本器種に属すると推定できるだけである。いずれも受け口あるいは有稜の口縁で、胴部には若干の張りをもつ。また、口径20cm以下の小形品ばかりである。

④蓋　2点(296・297)を示せただけであるが、296は小形の鉢である可能性も残されている。

⑤高坏　全形がわかるものは小形の191の1点のみで、それ以外のものは、脚部と坏部の接合部破片は坏部内面の赤彩を、また坏部片は形態と口径を指標として、それぞれ台付甕の脚部や鉢・壺の口縁部から区別した。しかし特に鉢の口縁部との区別は不明瞭で決め手に欠ける。

坏部の形態は、端部近くが内湾するもの(284、ただしこれは鉢の可能性も強い）、ほぼ直線的に開いて端部が強く短く横方向に反り出すもの(191・254)、が見られる。脚部は丈が短く、強く外方に張り出すものが多いが、細身でやや丈が高くなると考えられるもの(192)もある。

⑥鉢　内外面にミガキがあり、赤彩をする小形の土器を一括したが、形態的には逆台形をした単純な形のもの（鉢A）と、頸部に若干のくびれをもつ甕形を呈するもの（鉢B）の2種がある。鉢Aは体部が底部際からほぼ直線的か内湾気味で逆台形に開き、端部付近で急に内湾の度合いを強めて上方に立ち上がったり、著しいものでは内傾して終る。122・125・200・283・294などがその形態を知ることができる例である。口縁部外面に4～8単位で小突起を貼りつけるもの(66・200・229・235・294)、口縁の立ち上がり部分に文様帯をもつもの(295)も見られる。鉢Bの器形は、基本的に小形の甕に類似するもの(32・63・123)と、壺に近いもの(201)の2種類がある。

⑦甑　9点を図示できたが全形のわかるものは3点しかない。それによると平底の底部に小さめの1孔が穿たれ、体部は直線的に外開して逆台形を呈す。鉢Aのように端部が内湾したり赤彩されることはないようである。器面調整でミガキもあまり行われていない。口唇部に縄文、体部上方に文様帯をもつもの（33）がまれにある。

（2）文様

壺、甕、台付甕には小形品を除き、ほとんど例外なく文様が施されている。文様は各器種ごとにかなり共通性を有し、施文される部位にもまとまりがある。各器種を、施文部位（文様帯）と文様帯構成要素からみてみたい。

①壺　口唇部、口縁部、頸部、胴上部、胴中央部の5段の文様帯が認められる。ただし口縁部文様帯は外反口縁（口縁A）の器形には伴わない。また胴上部・胴中央部文様帯は存在しない個体の方が多い。

口唇部文様帯には縄文、刻み、まれに指頭圧痕が併用される。口縁部文様帯は縄文地文に櫛描波状文、篦描山形文・波状文（「篦描」は実際には棒状施文具あるいは竹管凸面を使用していると推定する。しかし以後も便宜的に「篦描」の語を用いる。）か、縄文のみで構成される。受け口口縁のものには円形浮文や短い棒状浮文が、また外反口縁には突起が、4～8単位で付されることもある。頸部文様帯は横走する2本以上の篦描沈線で3～数段に区切った後、そのなかに篦描山形文やそれが崩れた波状文・斜行沈線、櫛描波状文・簾状文、竹管による刺突や刻みを施文するのを基本とする。しかも縄文を地文にもつことが多く、横走する沈線以外は縄文のみの場合もみられる。また横走する沈線で区切らずに直接縄文や櫛描波状文・簾状文を横帯に施文するものや、篦描の緩い連弧を重ねるもの(3·89·288)、文様帯の下端に下向きの篦描鋸歯文をもつもの（6）もまれにある。櫛描簾状文はすべて等間隔止めである。胴上部文様帯はいわゆる懸垂横帯文と呼ばれるもので、これを持つ個体は全体的に少なく5点を図化、4点を拓影で示せたにすぎない。頸部文様帯から、縦方向の櫛描波状文や直線文が2～4本ほどまとまったものを6単位前後で垂下させ、それぞれのまとまりのまわりを列点の刺突や篦描沈線で囲っている。しかしまわりの囲いが省略されて櫛描文がむき出しのもの(9·164·437)や、櫛描文の各まとまりの間にさらに縦方向の篦描山形文を垂下している例(241·491)もある。胴中央部文様帯は胴上部文様帯に次いで少ない。胴部最大径の屈曲部の上下に横帯で施文されており、1～2段くらいの局所的なものから、数段を重ねる広範囲のものまで様々である。また個々の文様も各文様帯のなかでは最も多様性に富み、規格がない。下向きの鋸歯文を連ねるもの（6·37·453）、篦描の横走沈線間に篦描山形文・波状文を描くもの(234·373·457·511)、またそれを何段にも重ねるもの(84·85·150·317·378)、同様に篦描山形文のかわりに櫛描波状文を巡らすもの(159·163)、斜めの篦描平行沈線を並べて（重山形文）その間にひとつおきに縄文を施文するもの(452·489·491)、篦描沈線で連弧を重ねその間に縄文を充填するもの(271·637)などで、それらがさらに組合される場合もある。

例外的なものとして、口縁部内面に文様のあるもの(89·211·435)、口縁部文様帯と頸部文様帯の間にも文様をもつもの(161)も見られる。

②甕　基本的に壺と同様の文様帯の区分ができる。しかし胴上部と胴中央部の文様帯が分離しているものはきわめてまれで、一括して胴部文様帯としたほうが理解しやすい。また外反口縁（口縁A）には口縁部文様帯が伴わないことも壺と同様である。さらに小形品に各文様帯の省略された例もある（2·53·171·221·220·291）。

口唇部文様帯と口縁部文様帯の構成は基本的に壺と同一である。頸部文様帯は単条の櫛描簾状文か波状文で、ごくまれに櫛描平行線文が見られるが、これ以外のものはない。櫛描波状文の場合、胴部の同文様と区分ができないということはあるが、その他の変化のない非常に規則的な文様帯といえよう。胴部文様帯は横位の櫛描波状文が重ねられるものと、縦の櫛描羽状条痕文が描かれるものが大半で、少数に横の櫛描羽状条痕文が認められる。櫛描羽状条痕文のなかにはかなり配列がま

ばらなものや、形が崩れて単なる斜行条線に見えるものもあるが、甕の胴部文様帯は基本的にこの3種類の文様要素のいずれかで構成される。ただし横位の櫛描波状文が重ねられる文様要素の中には波状文と同一施文具で波状文を切るように縦の直線を引くモチーフを持つもの（140・329）が若干混じっている。胴部文様帯の上部と中央部が明らかに分離しているのは183の1点のみで、上部が横位の櫛描波状文、中央部が縦の櫛描羽状条痕文となっている。なお頸部文様帯の櫛描簾状文はすべて右回りに施文され、波状文は基本的に上から順次描かれている。

まったく例外的なものとして、胴部文様帯が縄文ばかりで構成される139がある。各文様帯の規格が非常に一定している甕にあって、きわめて異質な感じを受ける。

③台付甕　文様帯の構成は基本的に甕と同様と考えてよい。文様要素も口唇部と口縁部文様帯は甕に準ずるものである。大きな違いは胴部文様帯のいわゆる「コ」の字重ね文の存在で、この文様は当該器種にのみ見られる特徴的なものである。これに対して羽状条痕文や横位の櫛描波状文も台付甕の胴部文様帯の要素としてあったと推定されるが、甕と共通の文様であるために台付甕が底部以下を欠く場合、かえって甕との識別が困難で、結果として今回はよくわからなかった（実際は台付甕であるものも甕と扱われていることがあろう）。この「コ」の字重ね文が施文される個体には頸部文様帯はない。

④その他の器種　壺、甕、台付甕以外の器種は基本的に文様で加飾されない。例外的に鉢の口縁部に文様のつけられているものを見るが、これも壺や甕の口縁部文様帯の構成と異ならない。

（3）　後期以降の土器について

今回提示したもののうち、明らかに弥生時代後期以降に属すると確認できるものは少ない。具体的には、71～81・117・261～265・285・304・411・602が該当し、わずか21個体にすぎない。このうちまとまった資料としては第9号住居址出土品（71～81）、第31号住居址出土品（261～265）が挙げられるだけである。器種は、壺、甕、高坏、小形高坏などがある。

壺は頸部以下を欠くもの（71・72）と胴部下半（264・265）ばかりで全形を知り得ないが、外開する口縁の端部がわずかに上方につまみ上げられるように内湾する。文様は雑な2連止めの簾状文を組み込んだ櫛描T字文を頸部に持つ。

甕は、櫛描文で口縁部から胴部まで飾られるもの（73～76・117・285・411）と、口縁部に擬凹線文状の文様をもつもの(77)、小形のもの(78)の3種類がある。主体となる櫛描文で飾られるものは、頸部に1～2条の2連あるいは3連止めの簾状文を巡らし、その上下を波状文で埋めているが、施文はかなり雑である。特に75などは一見しただけでは波状文と簾状文の区別がつきにくいほど乱れている。285は頸部に簾状文を持たず、口縁部から胴上部まで上から順に波状文が施文される。すべて櫛描文は右回りで、施文順は頸部の簾状文の後、それ以上は下から上の順に、またそれ以下は上から下の順に波状文を巡らしている。79の断面実測の個体はきわめて薄い器肉と特徴的な器形から外来系の甕あるいは台付甕の一部と推定して収録した。

高坏は赤彩される大形のものでは口縁端部が内湾気味になるもの(263)と、外方へ短く外反するもの(262)、一旦、稜をなしてから大きく外反するもの(261)の3種類が見られる。このほか柱状の脚部破片(80)もある。81は坏部の断面形が箱形を呈す小形のもので、脚部には2孔一単位で3単位、計6孔が穿たれる。小型高坏の一種と考えたい。

### 3　古墳時代の土器（第108～111図）

中期末から後期初頭くらいに位置付けられるものが、第V次調査の該期竪穴住居址を中心に若干出土している。特に第61・64・71号の各住居址からはまとまった資料が得られた。52点を図化・提示できたが、このうちには須恵器の破片2点が混じっている。器種は、坏、高坏、壺、坩、甕、甑、鉢がある。

坏は口縁部が外反するものと内湾気味に収まるものの2器形があり、後者は13の1点のみである。また前者にも、比較的器高が高く頸部的なくびれを有するもの（4～6・14・23・31）や、口縁部の外反がごくわずかばかりのもの（3・17・24・33・34・47）、体部の下方に稜のあるもの(1)など多様性が見られる。内面には入念にミガキが施され、半数以上の個体に黒色処理がある。高坏は、坏部片1点、脚部片4点のみで、全形を知ることはできない（39・40・50・51）。壺は口縁部5点（7・12・21・41・46）、底部周辺1点（43）を図化できただけだが、口縁部はいずれも途中にわずかな稜をもって立ち上がる器形をとり、二重口縁（複合口縁）の末期的な様相を示す。坩は口頸部のみ2点（29・38）で、38の内面には黒色処理がある。甕は二重口縁の壺以外を対象としたが、やはり全形がわかるものはない(9·10·25·42·52)。ミガキの多用される例もあり、これらは本来的に甕としてよいか疑問が残る。甑は大形のものが4点あり(2·18·19·45)、うち2点は全形を知りうる貴重な例であろう。最大径を口縁端部にとり、やや長胴で底部に大きな単孔をもつ。全面ミガキが施され、18には一対の大きな把手が付されている。

2点の須恵器は小片で不明な点が多いが、30が壺坏、27が鉢になるとみたい。

### 4　奈良・平安時代の土器・陶磁器（第112～151図）

第IV～VIII次調査の該期遺構内および検出面から多量に出土した。また第II・III次調査でも上層や遺構内に混入して、わずかではあるが出土している。図化・提示できた数は744点にのぼる。種別は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、白磁と多種にわたるが、主体は土師器、須恵器とそれらよりやや量的に劣るが灰釉陶器である。緑釉陶器は破片が30数点、青磁、白磁は1点づつときわめて少ない。以下では種別毎に概観したい。なお器種の分類・名称は松本市島立条里的遺構調査報告（文献1）、同第3次調査報告（文献2）に従う。

①土師器　黒色土器、黒色土師器と呼ばれているものを含む。器種は、供膳形態（食器）には坏・椀・皿・耳皿・鉢・盤・台付鉢・小形壺、煮沸形態（煮炊具）には甕・小形甕・羽釜がみられる。

また用途不明のものとして、346·612·742·743·745の筒形土器（仮称）、器種不明のものとして697がある。細分ができる器種としては、坏（BⅠ、CⅠ、CⅡ、DⅡ、DⅢ）、椀（A、B）、小形甕（C、E、F、G）が挙げられよう。

技法的な特徴としては、供膳形態の器種にはすべてロクロ調整が施されており、また坏・椀・皿・鉢の多くや一部は小形甕まで内面にミガキと黒色処理を行っている。小形壺(376)は内外面が黒色処理された今回唯一の黒色土器Bである。

②須恵器　器種は、供膳形態には坏・有台坏・皿・蓋・高坏・長頸壺・短頸壺・貯蔵形態には耳付短頸壺・広口甕・長頸甕がみられる。さらに法量（寸法）や形態で、坏（B、D、E）、有台坏（坏CⅠ、CⅡ、CⅣ）、蓋（B、C）、長頸壺（A、B）に細分できる。量的に見ると図示した須恵器の大半は坏B・C・D・E、蓋Cで占められ、その他器種は数点づつしかない。特に皿(202)は珍しい器種といえよう。730は一対の小さな把手が付されると推定される破片であるが、どのような器形になるのであろうか。

③灰釉陶器　供膳形態の器種は、椀・皿・段皿・小瓶・長頸瓶、貯蔵形態は短頸瓶・蓋（短頸瓶の蓋）・広口瓶がある。椀には、口径にたいして器高の高い深椀、小椀なども含まれている。また椀と皿にはわずかだが輪花をもつものがある。33と464は胎土や焼きから灰釉陶器としたが、それにしては類例のない器形で疑問が残る。708と709は肩部に線刻のある灰釉陶器の短頸瓶破片と想定したが、やや胎土が異質な感もあり、あるいは須恵器の一種かもしれない。

④緑釉陶器　特に第Ⅳ次調査を中心に出土した。前述のとおり総数で30数片しかなく、しかも小破片が大半で図示できたものは13点にすぎない。器形はいずれも椀あるいは皿と推定されるが、全形を知り得るものはない。82には線状の、689には花文の陰刻があり、図示できなかったもののなかにも陰刻花文や、緑彩陶の破片と見られるものが含まれている。釉色は草色から淡い緑色を呈すものが多く、濃緑色のものは1点のみである。胎土は、堅緻で灰色の須恵器質を呈すものと、軟質で白色のもの、同じく軟質で橙褐色のものが見られる。

⑤青磁・白磁　第Ⅳ次調査でそれぞれ1点づつ出土した。青磁は第48号住居址の検出面出土で、オリーブ色を呈す越州窯系青磁の椀の口縁部、白磁は1地区遺構検出面出土で、椀あるいは皿の体部片と推定される。いずれも小破片で図示できなかった。

### 5　中世以降の陶磁器

各次調査の検出面、洪水層、撹乱のなかから少量出土した。陶器、磁器片が20数点あるのみで、691（青磁：図中に白磁とあるのは誤り）・741（陶器）の2点を図化・提示した。741の内面には中央の1字を囲むように円形に墨書が記されている。この他は瀬戸・美濃系の陶器、青磁などである。

文献1　松本市教育委員会　1986『松本市島立南栗遺跡』
2　同　上　1988『松本市島立条里的遺構』

## 第2節　石器（第152～166図）

県町遺跡の第II～VIII次調査で出土した石器は総計169点である。内訳は弥生時代の石器150点、奈良・平安時代の石器19点である。これらは竪穴式住居址からの出土がほとんどであるが、土坑・集石・溝などの遺構や検出面からも出土している。

弥生時代の石器は打製石鏃、磨製石鏃、ピエス・エスキーユ、石錐、スクレイパー、打製石斧、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石庖丁、凹・敲・磨石、砥石が出土している。発掘調査では縄文時代の遺構や土器が出土していないことから、これらは弥生時代の石器として限定できる貴重な資料である。奈良・平安時代の石器は砥石・凹石が出土している。

整理にあたっては図示可能なものはできるだけ実測して掲載している。また、すべての石器について出土地点・寸法・重量・破損状況等を一覧表に登載している。一覧表の寸法は最大長・幅・厚である。また、破損している石器の寸法・重量については、現存値を（　）で示している。また、小破片で寸法を計測しても意義のないものは重量のみ示している。実測図の展開は素材剥片の背面側を左に、腹面（主要剥離面）側を右に配している。素材剥片が不明なもの、礫を素材にしているものは、石器の特徴をよく表している面を左側に配している。

記述は石器の種類毎に概要と特徴的な石器について簡潔に述べている。なお、文中の石器を説明する番号は図番号を意味している。

### 1．弥生時代の石器

#### ①打製石鏃（1～15）

15点が出土している。石材は黒曜石製10点、チャート製5点である。縄文時代と比較してチャートの占める割合が多い。打製石鏃を茎の有無で分類すると有茎鏃8点、無茎鏃6点がある。特に、凹基・無茎鏃4点、凹基・有茎鏃3点、平基・有茎鏃3点が多い。なお、縄文時代晩期にしばしば見られる飛行機鏃や5角形鏃は出土していないが、凹基・無茎鏃は弥生時代以降も有茎鏃と供伴していると考えられる。これらのほかに凸基鏃2点（12・13）が出土している。

#### ②磨製石鏃（16～29）

総計14点が出土している。石材は千枚岩製6点（42.9%）・粘板岩製3点（21.4%）などの薄く剥ぎやすい性質の岩石を主に利用している。このほかに珪質凝灰岩製3点（21.4%）が多く、他に硬砂岩製1点（7.15%）・チャート製1点（7.15%）がある。

磨製石鏃は長さが5cmを超える大形品（18）から2cm未満の小形品（29）まで変異に富んでいるが、形態的には凹基・無茎で中軸線上の下寄りに両面穿孔の孔をもつものがほとんどである。孔がないものは、小破片の17と16・19の3点のみである。側縁は基部からまっすぐに伸びながら先端部近くでわずかに屈曲するものが多く、基部から先端まで直なもの（23）・長側縁が外湾するもの

(22・27) は少ない。研磨については、中軸線を境に2方向から研磨しているものが多い。しかし、砥ぎわけによる明瞭な鏑のあるものは29のみで、多くは先端部付近に、ごくかすかな稜をもつ程度である。また、刃縁部付近を特に丁寧に研磨した結果、側縁に沿って内側に砥ぎ分けの稜が生じているものがある (22・23・27)。また、凹部を作り出す研磨は、両面から砥いだ結果、断面がV字状を呈するものが多い。18・19については、凹基部が垂直になっており1方向の研磨だけで作り出されたものである。

**③磨製石鏃未成品** (30～58)

総計32点が出土している。石材は、千枚岩製11点 (34.4%)・粘板岩製3点 (9.4%)・結晶片岩製2点 (6.2%)・珪質凝灰岩製10点 (31.3%)・緑色凝灰岩製1点 (3.1%)・ホルンフェルス (砂岩) 製4点 (12.5%)・砂岩1点 (3.1%) である。これは粘板岩の占める割合が少ないが、ほぼ成品と対応している。このうち結晶片岩は本遺跡周辺で採集できないので、石材が搬入されたと考えられる。磨製石鏃の製作工程については、北原遺跡・恒川遺跡出土の未成品を分析した先学の研究がある[1]。ここでは、恒川遺跡の報告書に基づいて未成品を4工程に分類して述べることにする。

**1) 粗割** (46・47) —素材から適当な大きさと薄さをもった剥片を剥取る段階

2点出土している。いずれも千枚岩製で、側片に擦り切り技法で溝をほって折りとった痕跡 (以下、擦切施溝痕と記述) をもっている。46は2側辺が擦切施溝され、長方形の剥片が取られている。47は1辺に擦切施溝痕をもつものである。いずれも擦り切りは片面から行われているが、途中で止めて折りとっているようである[2]。 なお、剥離による粗割工程の未成品が出土していないことから、粗割—剥離調整までは一連の工程として行われたことが考えられる。

**2) 剥離調整** (30・32・34～37・42・53・56) —粗割した剥片の周囲に剥離を加えて成形する段階

9点が出土している。調整はホルンフェルス・珪質凝灰岩製の剥離は細かく丁寧であり、結晶片岩・粘板岩等は奥行きのある薄い剥離である。調整の初期段階は35・42・56のように長側辺が平行するような剥離を加えている。これは磨製石鏃の幅が決定される段階である。調整が進んだ段階で尖頭部が作り出される (30・34・36)。なお、本遺跡ではこの段階で抉りを作り出しているのは出土していない。

**3) 研磨**—研磨によって厚さ・形を整える段階。

研磨工程については研磨の目的と施される部位に着目して、以下の4段階に細分した。なお、( ) は細分の略号である。

**ア. 平面研磨** 身厚を薄くする目的で行われる。完成品では両面に研磨がみられるが、未製品では片面研磨 (A) と両面研磨 (B) に分けた。

**イ. 側縁研磨** (I) 平面を二等辺三角形に成形する目的で行われる。側縁部が研磨される結果、側縁は面取りされる。実測図では研磨の範囲を←　　→ (平面) で表現している。

**ウ．抉部研磨**（II）　基部に抉りを成形する目的で行われる。本段階では側縁研磨は終了している。

**エ．刃部研磨**（III）　刃部を作出することが目的で行われる。側縁研磨で面取りされた側縁に沿って研磨が行われる。

製作工程はA→B、I→II→IIIと推移する。ただし、平面研磨が厚さの調整を目的とするのに対し、他の研磨が整形を目的とするため、同一の時系列の中では扱えない。実際の製作では平面研磨は側縁研磨の段階で随時行われたと考えられる。このことを考慮して本遺跡出土の研磨段階の未製品を以下の通り分類した。

A　：片面に研磨が行われる段階。1点出土している（57）。

B　：両面に研磨が行われる段階。2点出土している（49・50）。

I　：剥片の側縁部に研磨が施される段階。1点出土している（54）。これは原石から剥片が薄く剥離できたため、平面研磨を省略して側縁研磨に入ったものである。

IA：片面研磨と側縁研磨が行われる段階（38・43）。2点出土している。

IB：両面研磨と側縁研磨が行われる段階。6点出土している（39～41・52・55）。なお、39の片面には赤色顔料の付着が観察される。

II　：基部に抉りを作り出す段階。2点出土している（31・45）。いずれも両面からの研磨で抉部を作り出している。なお、45の側辺部には擦切施溝痕がある。

III　：刃付けの段階。4点出土している(33・44・51・58)。33は背面に礫の表皮を残す横長剥片で、剥離調整を行わずに両面・側縁を研磨している。まだ抉りは作られていない。44は側辺部の一部である。58は基部に抉りがつけられているものである。

**4）穿孔**（48）　長軸線上の基部よりに矢柄を固定するための孔をあける段階。

1点出土している。片面から穿孔した後、反対側から錐を通して孔径をわずかに大きくしている。先端部付近は刃つけが行われているが、それ以下では側面研磨の面を残している。刃部研磨の途中で穿孔が行われたものである。

**④ピエス・エスキーユ**（59～62）

4点が出土している。石材は黒曜石製1点、チャート製3点である。61が上端に打面状の平坦面をもち、上・下、左右方向の剥離面をもつほかは、いずれも断面形が紡錘形を呈し、上・下方向の剥離をもつものである。なお59は片側辺に連続する微細な剥離痕（使用痕）が見られる。

**⑤石錐**（63～65）

3点が出土している。すべて黒曜石製である。63は明瞭なつまみは無いが幅広の頭部をもつもので、手で保持して使用する錐と考えている。錐部は両面加工で、断面は3角形を呈する。64・65は両面加工で、断面が菱形～多角形の錐部が作り出されている。2点とも錐部末端の剥離面の稜は摩耗している。

**⑥スクレイパー**（66～71）

6点が出土している。精製・小形品（66～70）と粗製・大形品（71）がある。前者のうち、66～69は黒曜石の縦長剥片を素材にして、背面の一方の長側辺に刃部を作り出している。66・67は片面加工でわずかに内湾する刃部をもつものである。68・69は両面加工の直刃をもつが、腹面（主要剥離面）側の調整が不連続で浅い剥離のため、刃部は片刃状を呈している。70はチャート製で、縦長剥片を素材にしている。刃部は背面からみて左側辺が両面加工の両刃状、右側辺が片面加工の片刃状を呈している。特に、後者の縁辺部には連続する微細な剥離痕が見られるので、右側辺を主に使用していたと考えられる。71は砂岩製で、背面に礫の表皮を残す横長剥片を素材にしている。平面は剥離調整で長方形に整形されている。刃部は剥片の末端を利用した片面加工の直刃である。

**⑦打製石斧**（72・73）

2点が出土している。石材はホルンフェルス製である。72は短冊形を呈する小形品の頭～胴部である。両側縁には着柄のための敲打痕が観察される。73は短冊形または撥形を呈する大形品の頭～胴部である。なお、72については石槍・石剣などの基部の可能性も考えられる。

**⑧太形蛤刃石斧**（74～77）

8点が出土している。このうち4点は使用時に破損したと考えられる刃・胴部の小破片である。石材は閃緑岩製7点・安山岩製1点である。なお、泉町遺跡の南側を流れる薄川では閃緑岩を採集することができるので、石材の獲得は容易であったと考えている。研磨は全面に及ぶが、頭・胴部に敲打痕をわずかに残すものが多い。研磨の方向は基本的に右下がりが主体であるが、胴部と刃部の境で方向をわずかに変えている。

74は破損した刃部を再生するために敲打を行った段階のものである。頭～胴部が丁寧に研磨されているのに対し、刃部は研磨されずに敲打痕を残している。なお、頭端部は平坦面をもち、研磨が及ばずに敲打痕だけが観察される。

**⑨扁平片刃石斧**（78～88）

成品・未成品を含めて12点が出土している。石材は蛇紋岩製8点、ホルンフェルス製2点、硬砂岩製1点、閃緑岩製1点である。縄文時代から磨製石斧の主要な石材として利用されている蛇紋岩は本遺跡周辺で採集することができないので原石～成品の段階で搬入されたものである。

形態的には縦長の78・88を除けば、長さが幅を少し上回るものが大半である。さらに、これらは大形の一群（79・80・82・85）と小形の一群（83・84・87）に分けることができる。これは木材加工用として理解されている扁平片刃石斧が、加工段階に応じて大小の石斧で使い分けされたためと考えられる。未成品は3点が出土している。86は剥離調整の段階の未成品である。87は刃部の末端に研磨された平坦面をもつものである。背面には刃部の稜が作り出されているので、破損した刃部を再生する段階の未成品かもしれない。88は研磨段階のものである。両面には剥離調整の剥離面の凹部が残り、長側辺はまだ明瞭な側面が作り出されていない。以上の未成品を製作順に並べると86→88→87となる。なお、88では剥離調整の後ただちに研磨を行っており、太形蛤刃石斧のような敲打の

工程はみられない。

また、78は狭長なノミ状の刃部をもつ小形石斧である。一般的な扁平片刃石斧とは異なるが本項で扱っておいた。

**⑩石庖丁**（89～97）

9点が出土している。石材は粘板岩製6点、石墨片岩・凝灰岩・砂岩製が1点である。特に、石墨片岩や粘板岩は薄く剥げやすい性質があるので、石庖丁の石材には適しているものである。なお、石墨片岩は本遺跡周辺で採集することができないので原石～製品段階で搬入されたものである。

石庖丁を平面形と刃部形態から分類すると、半月形・直刃の石庖丁が4点（92･93･95･97）、杏形・外湾刃のものが2点（94･96）、長方形・直刃のものが1点（89）ある。他に未成品と考えられるものが2点出土している。孔については全形がうかがえる5点のうち、92が2孔をもつほかは単孔の石庖丁である。穿孔は両面から行われているものがほとんどである。特に、94は穿孔途中痕が両面の相対する位置にあることから、両面穿孔を意図していたことがうかがえる。97は孔の部分で破損しているが、片面から穿孔されている。なお、92・94には穿孔途中の痕跡がみられ、穿孔には凸型の錐が使用されていたことが推定でき。研磨について背部・胴部・刃部で研磨の方向は異なっている。特に、刃部については縁辺にほぼ平行する丁寧な研磨が施され、片刃状を呈するものが多い。

**⑪凹・敲・磨石**（98～111）

自然礫を素材にし、表面に凹部・敲打痕・磨面が観察される石器である。一般に「凹石」、「敲石」、「磨石」と区別して呼ばれているこれらの石器は、単独で使用痕をもつほかに複数の使用痕をもつことがある。そのため本項では「凹・敲・磨石」として一括で扱った。

縄文時代の凹・敲・磨石の用途については製粉具・クルミ割具・石器製作用工具などが考えられている。県町遺跡では磨製石器の未成品が大量に出土していることから、これらの石器の多くは石器製作用工具として捉えられるのではないかと考えている。

なお、一覧表では使用痕をもつものを○で表している。また、凹部については凹部の数とカ所数を（ ）内に記している。例えば（1×2）は1つの凹部をもつ面が2面あることを意味している。

凹・敲・磨石は総計14点が出土している。石材はすべて安山岩製である。素材の礫は楕円～円礫が多いが、102は棒状礫を素材にしている。以下、使用痕について述べる。

磨面は単独のものが4点（98･102･104･110）、磨面＋凹部が3点（101･103･106）ある。後者の103は両面に2個のアバタ状の凹部と磨面があり、縄文時代によく見られるものである。106は凹部とその周囲に磨面があり、研磨によって凹部が形成されたものと考えている。

敲打痕は単独のものが2点（105･107）、敲打痕＋凹部が2点（99･100）ある。107は両面に敲打痕をもつが、片面は敲打により浅い凹状を呈している。重量が1150gと手で保持して使用すにるは重いので、台石として使用された可能性がある。

凹部は単独のものが2点（108・109）ある。108は他と比較して凹部が深く、後述する平安時代の凹石と類似しているので、混入品の可能性がある。

このほかに、出土地点が不明であるが3つの使用痕を併せもつ111がある。

**⑫砥石**（112～128）

手で保持できる大きさの手持ち砥石（以下、砥石と記述）と大形礫を素材にした置き砥石がある。本報告ではこれらを区別して記述する。

砥石は24点が出土し、17点を図示している。石材は砂岩製が23点、緑色凝灰岩製1点である。これらは厚さ1cm前後の板状の薄い砂岩礫を素材にし、平面形が長楕円または長方形を呈するものが多い。このうち本遺跡で典型的なものは112・120・124・126である。これらは長側辺が特に研磨された結果、側面と平面との間に面が形成されていることを特徴とする。長側辺の研磨は片面だけにおこなわれるもの(112)と両面に行われるもの(124)がある。こうした砥石は出川南遺跡や県町遺跡の1次調査[3]において磨製石鏃未成品と供伴していることから、磨製石器製作用工具として考えられるものである。なお、125は他の砥石に比べて粒子の細かい砂岩を素材にし、刃を立てて研いだと考えられる線条痕を側面に残すもので金属製品用の砥石と考えている。

**⑬置き砥石**（129～134）

7点が出土している。石材は砂岩製6点、閃緑岩製1点が出土している。破損品が多く全形をうかがえるものはないが、いずれも盤状の砂岩礫を素材にしている。これらは厚さ5～8cmの大形礫を素材にするもの（129～131）、厚さ4～5cmの中形礫を素材にするもの（133・134）、厚さ2cm未満の小形の礫を素材にするもの（132）に分類できる。砥面はわずかに内湾するものが多いが、130・132は平坦な砥面をもつ。特に132は片面の中央部に研磨が集中し周辺には研ぎが及んでいない。研ぎの方向は素材礫の長軸方向にそって行われるものが多い（129・130・132）。なお、129・133は焼失住居からの出土で被熱しているが、磨面の一部が特に黒色化している。この変色については砥石の上になんらかの有機物が置かれていた痕跡と考えられる。

**2．奈良・平安時代の石器**

**⑭砥石**（135・136）

弥生時代の砥石と同様に手持ち砥石（以下、砥石と記述）と大形礫を素材にした置き砥石を区別して記述する。

砥石は2点が出土している。135は肌理の細かい凝灰岩を素材にしており、仕上げ砥と考えられる。凝灰岩の礫を直方体に加工し、凹状を呈する砥面をもつものである。136は砂岩製の板状の石材を素材にしている。砥面には金属製品の刃を立てて研いだ幅1mm前後の溝状の条痕が観察される。

**⑮置き砥石**（137～144）

8点が出土している。石材は砂岩製7点、緑色凝灰岩製1点である。これらは素材の礫の形状から分類できる。直方体の礫を素材にするものは3点ある（137・138・143）。表（・裏）・側面にわ

ずかに内湾する砥面をもつものが多い。盤状礫を素材にするものは3点ある。いずれも片面に砥面をもつが、砥面が平坦なもの（140・141）とわずかに内湾するもの（144）がある。なお、144は側面にも凹状の砥面がみられる。棒状の礫を素材にするのは2点ある。（139・142）。139は断面が3角形を呈する棒状礫の側面に研磨痕がみられる。142は横断面が円形の棒状礫で、側面は平滑であるが研磨が行われたものかは不明である。両端には敲打痕がみられる。あるいは2点とも手持ち用砥石かもしれない。

**⑯凹石**（145～153）

9点が出土している。石材はすべて安山岩製である。凹石は素材の形状から円球状の礫を使用するもの（148・152）と、平面が円～楕円形で前者ほど厚さがないもの（145～147・149～151・153）に分類できる。

前者は大形の円球状の礫の頂部に浅いくぼみをもつものである。148の凹部は研磨された平滑な面をもつ。152は敲打による不整円形の浅い凹部をもつことから、凹部の製作段階のものかもしれない。

後者は素材の大きさによって細分される。大形礫を素材にするものに149がある。凹部は最大厚の1/2程の深さで、研磨された平滑な面をもつ。小・中形礫を素材にするものは6点ある。このうち145・147は両面に凹部をもつもので、いずれも裏面の凹部は表面に比べて浅く敲打痕が観察される。150は凹部が浅く、敲打の後に研磨が施されている。

以上の凹石について共通するのは、安山岩の球～楕円礫に平滑な凹部をもつ点である。この凹部は研磨によって形成されたものであるが、その前に敲打によって浅い凹部を成形する段階があったと考えられる。また、研磨は凹部の成形段階と使用段階の2時期にわたって行われ、使用頻度が増すに連れて凹部は深くなっていったと考えられる。これらの凹石の用途は不明であるが、機能的にはモノをすりつぶすための道具であったと考えている。そして、凹部がなだらかなくぼみを呈することから、先端が丸い棒状の工具が使用されたことが推定される。

註1　松島達他　1951「信濃北原遺跡調査概報」『諏訪考古学』6号
藤森栄一　1951「信濃北原遺跡出土石器の考古学的位置について」『諏訪考古学』6号
桜井弘人他　1986『中川遺跡群　遺物編』飯田市教育委員会

2　中部地方の擦切施溝による分割技法は恒川遺跡の報告書（桜井弘人他1986　P.92）ですでに指摘されている。そこでは剥離調整の一技法として擦切施溝が考えられている。本報告では板が二等辺三角形状を呈さずにほぼ直行する2方向の擦切施溝痕をもつこと、上・左側辺に剥離による調整が別に行われていることから、擦切施溝を剥離調整以前の粗割工程の技法として考えている。

3　松本市教育委員会　1981『あがた遺跡』
松本市教育委員会　1987『松本市出川南遺跡』

## 第3節　骨器・石製品（第167図）

### 1．骨器

凹基無茎の骨鏃が1点出土している。中軸線上の下部寄りに両面穿孔の穴があけられている。片面（左図）は骨の表面を活かしているため、断面が扁平なカマボコ状を呈している。その裏面（右図）には鏃の長軸に平行する骨の内部組織が観察されることから、縦割りした骨を素材にしていることがうかがえる。研磨は全面に行われている。形態的にはやや狭長ではあるが、磨製石鏃と同タイプのものである。

### 2．石製品

弥生時代13点、奈良～平安時代1点の総計14点が出土している。内訳は、管玉2点・紡錘車3点・研磨礫3点・海浜石5点・石製帯飾り（巡方）1点である。このうち、石製帯飾りを除く13点は弥生時代の住居址からの出土である。これらのうち使用痕のみられない海浜石以外の9点を図化・掲載している。また、すべてについて出土地点・寸法・重量・石質等を一覧表に登載している。

**①管玉**（1・2）　2点出土している。いずれも細形で、1が緑色の碧玉製、2は赤色の鉄石英製である。2については製作時の側面研磨が入念に行われなかったため、側面には長軸に平行する稜線が観察される。

**②紡錘車**（3～5）　16号住居址から3点が出土している。3は安山岩製、4は玢岩製、5は粒子の細かい砂岩製である。いずれも孔は両面穿孔である。研磨は全面に及んでいるが、周縁部には成形の際の剝離痕が残っている。

**③研磨礫**（6～8）　3点が出土している。約4～6cmの楕円形の礫の表面に、研磨による微細な線条痕がみられるものである(1)。6がチャート製、7・8はホルンフェルス製である。これらは側縁部に研磨が集中して行われた結果、顕著な稜が形成されて側面をもつようになったことを特徴とする。研磨礫については、

1）素材がチャート・ホルンフェルス製の河原石または海浜石などで、弥生時代の装身具の石材とことなること、

2）定形的な形態をもたずに礫の素材をそのまま利用していること、

3）穿孔が施されていないこと　以上の点から装身具や呪具の素材ではなく、実用品と考えたい。具体的な用途は不明であるが、土器の器面を磨くための原体を想定している。これは、

1）片手で保持するのに適当な大きさであること、

2）土器の器面調整であるミガキの際には粘土に含まれている砂粒（＝混和材）が移動・接触して線条痕を形成することが考えられること　以上の点からの推定である。

**④海浜石**　5点が出土している。すべてチャート製である。県町遺跡周辺や薄川流域内では採集で

きない、磨耗が進んで丸みを帯びた円礫である。おそらくは河川の下流または海浜部に由来すると考えられるものである(2)。海がない長野県の場合、これらは在地周辺でみられる礫と安易に区別できるため、調査の際に注目されることが多い。海浜石は当時の集落内に持ち運ばれたことは確かであるが、用途については不明である。本遺跡では研磨礫が出土しているので、研磨礫の素材であった可能性も考えられる。

**⑤帯飾り**（9）　石英閃緑岩製の巡方である。破損しているため大きさは不明だが、厚さ6㎜を計る。左上隅には内部で連結する2個の穴があけられている。三間沢川左岸遺跡の平安時代前半の竪穴式住居址から類例2点が出土している(3)。

註1　研磨礫は縄文時代の遺跡からも出土している。
松本市教育委員会　1990　『松本市坪ノ内遺跡』

2　海浜石の素材については、実際の海浜部で採集された礫が搬入された以外に、内陸部で過去に海浜部だった地層内やその周辺で採集された礫が搬入された可能性も考えなくてはならない。

3　三間沢川左岸遺跡例では3.9cm×3.7cmの方形石板に、2個一対の内部で連結する穴が裏面の四隅に配置されている。連結した孔内には帯に固定するための銅製の針金が残っているものがある。県町遺跡の巡方も同じ形式のものと考えられる。
松本市教育委員会　『三間沢川左岸遺跡（I）』　1988. 10

**第5表　骨器一覧表**

| No. | 出土地点 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 16住 | 鏃 | (3.97) | (1.13) | (0.17) | 0.5 | 片脚欠 | 両面穿孔 |

**第6表　石製品一覧表**

| No. | 図No. | 出土地点 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 11住No.20 | 管玉 | 1.63 | 0.40 | — | 0.4 | 碧玉 | 完形 | 孔径0.19cm |
| 2 | 2 | 41住 | 〃 | (1.66) | 0.26 | | (0.2) | 鉄石英 | 上端欠 | 孔径0.11cm |
| 3 | 3 | 16住No.42 | 紡錘車 | (2.50) | (5.00) | (0.91) | (13.4) | 安山岩 | 約3/5欠 | |
| 4 | 4 | 16住No.50 | 〃 | (3.64) | 4.86 | (0.50) | (8.3) | 粉岩 | 約1/2欠 | |
| 5 | 5 | 16住No.108 | 〃 | 5.42 | 5.27 | 0.58 | 28.3 | 砂岩 | 完形 | |
| 6 | 6 | 5住 | 研磨礫 | 4.22 | 2.48 | 1.35 | 24.4 | チャート | 完形 | |
| 7 | 7 | 31住 | 〃 | 6.30 | 3.04 | 1.62 | 42.5 | ホルンフェルス | 完形 | |
| 8 | 8 | 78住 | 〃 | 4.37 | 3.31 | 1.78 | 34.2 | ホルンフェルス | 完形 | |
| 9 | | 8住No.7 | 海浜石 | (2.20) | (1.51) | (1.74) | (7.5) | チャート | 約4/5欠 | |
| 10 | | 8住No.8 | 〃 | 5.32 | 4.82 | 2.06 | 81.0 | チャート | 完形 | |
| 11 | | 8住No.40 | 〃 | 3.10 | 2.39 | 1.10 | 11.3 | チャート | 完形 | |
| 12 | | 16住 | 〃 | 5.15 | 4.72 | 2.65 | (91.0) | チャート | ほぼ完形 | |
| 13 | | 16住 | 〃 | 5.02 | 2.85 | 2.18 | 49.2 | チャート | 約1/2欠 | |
| 14 | 9 | IV次2区検出面 | 巡方 | (2.36) | (3.42) | (0.60) | (5.9) | 石英閃緑岩 | 約3/5欠 | 巡方 |

## 第4節　土製品（第168図）

**①弥生時代の土製品**（1～5）

4軒の竪穴式住居から5点が出土している。

**有孔土製品**（1・2）　穿孔された穴をもつ土製品を仮称したもので、2点が出土している。いずれも断片で全形はうかがえない。器種・用途は不明である。出川南遺跡で住居址内から土製勾玉が出土している例があるので、土製装身具の可能性も考えられる。

**土製円盤**（3・4）　第7号住居址から2点が出土している。3は周囲を打ち欠いて円形に整形した後に側面を研磨している。4は打ち欠きによる整形だけなので多角形を呈している。外面には器面調整のミガキが観察される。いずれも壺の破片を加工したものと考えている。

**ミニチュア土器**（5）　手捏ねによるもので、短い脚を作り出した際の指頭圧痕が外面の下部と内面に残されている。

**②奈良・平安時代の土製品**（6～13）

平安時代の竪穴式住居4軒から6点、第IV次調査の検出面と土坑402から2点が出土している。

**土錘**（6）　両端が破損しているので全長は不明であるが外径1.9cm、重さ15.4gの錘である。県町遺跡は薄川の北岸に位置するので漁網錘として考えることは可能である。

**鞴の羽口**（7～13）　7点が出土している。いずれも断片で全形はうかがえない。8・13については溶解した鉄が付着しているので羽口の端部であることがわかる。送風孔の（推定）直径に着目すると、直径1cm前後のもの（9・10）と1.6～2.2cmのもの（7・8・11～13）の大小2種類がある。なお、8・13の断面では孔に対し同心円状に平行する粘土の継ぎ目が観察される。これは羽口の製作に粘土を芯棒に巻きつけてある程度乾燥させる段階と、その外側にさらに粘土を巻きつけて成形する段階があったことをうかがわせる。器面調整はヘラによるナデ（9）、ハケ目（10）がある。

**第7表　土製品一覧表**

| No. | 出土地点 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4住 | 有孔土製品 | (2.95) | 1.92 | 1.02 | 6.4 | 下部欠 | |
| 2 | 16住No43 | 有孔土製品 | (1.12) | 0.95 | (0.83) | 0.6 | 中～下部欠 | |
| 3 | 7住南トレンチ | 土製円盤 | 4.49 | 4.60 | 0.96 | 20.0 | 完形 | 側面研磨 |
| 4 | 7住南検出面 | 土製円盤 | 3.62 | 3.39 | 0.75 | 11.0 | 完形 | |
| 5 | 13住No5 | ミニチュア | 2.98 | 3.79 | | 16.3 | ほぼ完形 | |
| 6 | 48住No53 | 土錘 | 5.04 | 1.92 | 1.83 | 15.4 | 両端欠 | |
| 7 | 47住No16 | 羽口 | (4.77) | (6.50) | 3.82 | 81.0 | 残片 | 溶解鉄付着 |
| 8 | 47住北東 | 羽口 | (5.98) | (7.42) | 3.36 | 88.0 | 残片 | 溶解鉄付着 |
| 9 | 48住南隅 | 羽口 | (6.50) | (5.37) | 2.45 | 64.1 | 残片 | 外面ヘラナデ |
| 10 | 49住 | 羽口 | (3.77) | (4.18) | 1.75 | 21.9 | 残片 | 外面ハケ目 |
| 11 | 75住 | 羽口 | (9.93) | (5.20) | 2.68 | 126.0 | 残片 | |
| 12 | 土坑402 | 羽口 | (4.20) | (6.19) | 2.65 | 68.0 | 残片 | |
| 13 | IV次2区検出面 | 羽口 | (5.05) | (4.84) | 2.58 | 43.2 | 残片 | 溶解鉄付着 |

## 第5節　金属製品（第169～171図）

総計52点が出土している。内訳は鉄製品50点、銅製品1点、銭貨1点である。遺構からの出土は住居址12軒から31点、ピット2基から2点、集石4基から5点、溝2から2点が出土している。このうち第44号住居址から5点、第48号住居址から4点とまとまって出土している。これらは時期的には平安時代に属するものが多い。なお、弥生時代の2軒の住居址から出土した鉄製品については遺構が撹乱を受けている点と該期に類例を見ないことから後世の遺物と考えている。

器種別では釘・刀子・雁股鏃が出土しているが、器種不明のものも多い。また、上記のほか鉄滓92点（総重量6342g）が出土している。

なお、本遺跡の調査区は近・現代の建造物の基礎やゴミ穴などによる撹乱が多かったため、後世の遺物の混入が認められる。特に、鉄製品については錆化が進んでいるため遺構に伴う遺物の判定が難しく、不明鉄製品や検出面出土の遺物には近・現代のものが含まれている可能性がある。

整理にあたっては実測可能な43点を図化・掲載している。また、図示できなかった小破片も含めて、出土地点・寸法・破損状況などを一覧表にして登載している。また、鉄滓についても遺構単位の点数・重量等を一覧表に登載している。なお、文中の遺物を説明する数字は図番号である。

**（1）　釘**　19点が出土。これらは断面が方形を呈するもので、釘の長さから3種類に分類できる。

I．約3～6cm（1～2寸前後）の小形の釘（4・6・10・29・40）

5点出土している。いずれも先端を失っている。頭部の形状は、やや幅広になる平坦な頭部をもつもの（6）、扁平な頭端を折り返しているもの（40）、基部を90°近く折り曲げているもの(4·10·29)がある。

II．約6～9cm（2～3寸前後）の中形の釘（18·26·30·33）

4点出土している。26は頭部を残しているが錆化による剝落が激しいため形状は不明である。30は先端部分にわずかに木質部を残している。木目の方向は釘の長軸に平行である。他は両端が破損しているもの。

III．約9～15cm（3～5寸前後）の大形の釘（3·5·14·15·17·20·23·27·31·42）

10点出土している。両側を破損しているものがほとんどである。14は唯一全形をうかがえるもので、基部を折り曲げて平坦な頭部を作り出している。なお、14・15は第74号住居址からの出土であるが、いずれも途中から折れ曲がっている。

**（2）　刀子**　14点が出土している。完形品はなく、全形のうかがえるものは少ない。このうち身部から茎部にかけて残っているものは5点ある。すべて刃側と棟側に関がある両関の刀子である。

7は両側を破損しているが、身部が関の部分から直線的に幅を減じていくものである。13は身部の棟側は直線的に伸びているが刃側が急激に幅を減じていくものである。棟側の関はゆるやかに茎

部へ移行している。19は身部の刃・棟側が破損しているため形状は不明である。32は刃・棟側が関から徐々に幅を減じているが、切先は破損していて不明である。38は小形の刀子である。身部は幅広で刃・棟側とも関から急激に幅を減じている。錆によるふくらみの可能性もあるが、棟側はわずかに外湾している。このほかに身部や茎部の破片がある。このうち16には木目が不定方向の木質部が残存していた。

**（3） 鏃** 雁股鏃が2点出土している。21は第75号住居址からの出土で、右側の刃部端を失っているほかは完形である。股の角度は122°の鈍角である。刃部は股から直線的に伸びるが、先端付近で棟側が急激に幅を減じて先端部を形成している。頸部は下端にむけて徐々に幅を減じていて篦被をもたない。そのため頸部と茎部の境界は不明瞭であるが、木質部の残存部分から下が茎部と考えられる。36は雁股族の頸部から股部にかけての部分で、21に比較して股の角度が小さい鏃である。

**（4） 不明鉄製品** 13点が出土している。このうち図示可能な9点を掲載している。1・9・37は同じ器種と考えられるもので、断面が1辺約1cmの方形を呈する棒状の鉄器である。9・37は平坦面をもつ方形の頭部である。厚さや頭部の形状から大形の釘と考えるよりも別の用途をもった工具と考えている。8は平面・断面が楕円形の塊状鉄に2条の凹部をもつものである。25は薄い鉄片に木質部が付着しているもの。35は薄い鉄板を2つに折り曲げたものである。34・39は棒状を呈する鉄製品の一部である。34はU字形に折り曲げられている残片、39は端部と考えられるが錆ぶくれが激しく詳細は不明である。41は楔状を呈する鉄器の一部である。

**（5） 銅製品** 図示していないが、第46号住居址から1点が出土している。厚さ2㎜前後の2.92×2.83cmの不定形な銅板片に銅製小破片が付着している。器種は不明である。

**（6） 銭貨** 図示していないが、寛永通宝が1点採集されている。出土地点は不明である。

**（7） 鉄滓** 92点が出土している。総重量は6342gである。鉄滓を出土した遺構は住居址12軒のほか、土坑・ピット・集石・溝からも出土している。鉄滓は不定形なものが多いが、直径9～11cmの椀状を呈する鉄滓（3点）・長さ8～10.5cmの板状の鉄滓（2点）、塊状の鉄滓（87点）に分類することができる。なお、塊状の鉄滓は破損品が多く親指大から9.5cm大までと変化に富んでいる。また、黒～黒褐色を呈する物質や黒～暗灰色のガラス質が付着したものがそれぞれ数点見られる。

なお、第47・48号住居址からは特に多量の鉄滓が出土している。第47号住居址からは36点（1291g）の鉄滓が出土している。これらはすべて塊状を呈する鉄滓である。このうち鉄滓に木質部が付着しているものが4点ある。この木質部は明るい茶色を呈し炭化したものではない。また、鉄滓のうち磁性の強い鉄塊と考えられるものが2点ある。第48号住居址からは9点（726g）の鉄滓が出土している。内訳は板状の鉄滓1点、塊状の鉄滓8点である。このうち、暗灰色のガラス質の物質が付着しているもの1点、磁性の強い小鉄塊1点が含まれている。

**参考文献**

長野県教育委員会他 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 -塩尻市内その2－吉田川西遺跡』 1989

# 第8表　弥生土器観察表

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>成形 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4住 | 高坏 | 口1/4 | | 暗褐 | 口縁ヨコナデ，ヘラミガキ | | 4住床 |
| 1 | | 底2/3 | 13.1 | 良好 | 横方向のヘラミガキ，脚部ナデ | | 841203 |
| 65 | | | 5.5 | | | | 4-1 |
| 5住 | 甕 | 口1/5 | | 橙 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→板状工具によるナデ→縦方向のヘラミガキ | | 5住P3 |
| 2 | | | 15.7 | 良好 | 太いハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841214 |
| 65 | | | | | | | 5-2 |
| 5住 | 壺 | | | 暗褐 | 頸部縄文→竹管凸面による沈線，文様帯以外横方向のヘラミガキ | | 5住炉内 |
| 3 | | | | 良好 | 上部横方向のヘラミガキ，下部ナデ | | 841219 |
| 65 | | | | | | | 5-1 |
| 6住 | 甕 | 口1/10 | | 橙褐 | 口唇部刻み，胴部縦の羽状条痕？→頸部櫛描横線文 | | 6住 |
| 4 | | | 16.3 | やや良 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841205 |
| 65 | | | | | | | 6-1 |
| 6住 | 甕？ | 底完 | | 橙 | 摩滅 | | 6住P3 |
| 5 | | | | 良好 | ナデ | | 841213 |
| 65 | | | 7.4 | | | | 6-2 |
| 7住 | 壺 | 口1/5 | 40.5 | 淡黄褐 | 口縁縄文→棒状工具による波状文，頸部横線・刺突文・鋸歯文，胴中央部2段の鋸歯文，口縁・鉛向文内以外赤彩 | | 7住No25 |
| 6 | | 底完 | 17.5 | 良好 | ハケ目→ナデ，口縁部赤彩 | | 841211 |
| 65 | | | 9.4 | | | | 7-8 |
| 7住 | 壺 | 口1/5 | | 淡黄灰 | ナデ→棒状工具による波状文 | | 7住南トレンチ |
| 7 | | | 17.6 | 良好 | 横方向のヘラミガキ | | 841212 |
| 65 | | | | | | | 7-17 |
| 7住 | 壺 | | | 淡黄褐 | 胴部上部縄文→棒状工具による波状文・横線文・刺突文<br>頸部下部ハケ目→棒状工具による横線文 | | 7住南トレンチ |
| 8 | | | | 良好，硬質 | 摩滅 | | 841212 |
| 65 | | | | | | | 7-18 |
| 7住 | 壺 | | | 橙褐 | ハケ目→頸部櫛描波状文・胴上部櫛描懸垂横帯文 | | 7住No26 |
| 9 | | | | やや良 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841211 |
| 65 | | | | | | | 7-6 |
| 7住 | 壺 | 底ほぼ完 | | 淡橙褐 | ハケ目→頸部縄文→沈線・山形文，胴部ハケ目→ヘラミガキ | | 7住No25 |
| 10 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | 841210 |
| 66 | | | 9.0 | | | | 7-9 |
| 7住 | 壺 | | | 灰 | ハケ目→ヘラミガキ | | 7住 |
| 11 | | | | 良 | 摩滅 | | |
| 66 | | | | | | | 7-5 |
| 7住 | 壺 | 底1/3 | | 淡褐 | ハケ目→縦・横方向のヘラミガキ | | 7住南サブトレ |
| 12 | | | | 良好 | ハケ目 | | 841214 |
| 66 | | | 5.6 | | | | 7-22 |
| 7住 | 壺 | 底1/3 | | 淡褐 | ハケ目，底部付近に指圧痕 | | 7住南トレンチ |
| 13 | | | | 良好，硬質 | 細かいハケ目 | | 841212 |
| 66 | | | 9.6 | | | | 7-23 |
| 7住 | 壺 | 底3/4 | | 黄褐 | ハケ目 | | 7住No19<br>841211<br>841210 |
| 14 | | | | 良好 | ハケ目 | | |
| 66 | | | 10.3 | | | | 7-3 |

| 出土地点<br>上器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7住<br>15<br>66 | 甕 | □1/6 | <br>21.0<br> | 黒褐<br>良好，硬質 | □縁櫛描波状文，頸部簾状文<br>横方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ<br>841212<br>7-11 |
| 7住<br>16<br>66 | 甕 | □1/12 | <br>23.4<br> | 茶褐<br>良好，硬質 | □唇部刻み，口縁部櫛描波状文，頸部簾状文<br>横方向のヘラミガキ | | 7住南サブトレ<br>841214<br>7-14 |
| 7住<br>17<br>66 | 甕 | □1/12 | <br>28.8<br> | 黒褐<br>良好，硬質 | □縁ヨコナデ，胴部櫛描波状文<br>横方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ<br>841213<br>7-15 |
| 7住<br>18<br>66 | 甕 | □1/10 | <br>30.0<br> | 淡茶褐<br>良好，硬質 | 頸部櫛描波状文，胴部縦の羽状条痕？<br>横方向のヘラミガキ | 外面摩滅<br>7住外単独<br>出土 | 7住南トレンチ<br>841213<br>単独出土<br>841214<br>7-28 |
| 7住<br>19<br>66 | 甕 | □1/10 | <br>13.2<br> | 淡褐<br>良好，硬質 | □縁ヨコナデ，ハケ目→頸部簾状文・胴部縦の羽状条痕<br>ハケ目 | 7住外単独<br>出土 | 7住南トレンチ<br>841214<br>7-13 |
| 7住<br>20<br>66 | 甕 | □4/5<br>底完 | 16.5<br>16.8<br>6.3 | 橙褐～黄褐<br>良好 | □縁櫛描波状文，ハケ目→頸部簾状文・胴部縦の羽状条痕・胴下部縦方向のヘラミガキ<br>横方向のヘラミガキ，底部ナデ | | 7住No.21<br>841211<br>7-10 |
| 7住<br>21<br>67 | 甕 | □ほぼ完 | <br>30.3<br> | 黄褐<br>やや良 | □唇部縄文，口縁縄文，ハケ目→頸部櫛描波状文→胴部縦の羽状条痕<br>ハケ目 | 7住外単独<br>出土 | <br><br>7-29 |
| 7住<br>22<br>67 | 甕 | 底ほぼ完 | <br><br>7.8 | 黄褐<br>やや良 | ハケ目→胴上部櫛描波状文→胴部縦の羽状条痕<br>摩滅 | 7住外単独<br>出土 | <br><br>7-30 |
| 7住<br>23<br>67 | 甕 | 底完 | <br><br>5.0 | 橙褐<br>良好，硬質 | 胴部縦の羽状条痕，胴下部縦方向のヘラミガキ<br>摩滅 | | 7住No.26<br>841211<br>7-25 |
| 7住<br>24<br>67 | 甕 | □1/5 | <br>14.7<br> | 橙褐<br>良好，硬質 | 口唇部縄文，口縁・胴部櫛描波状文<br>横方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ<br>841212<br>7-12 |
| 7住<br>25<br>67 | 甕 | 口2/3 | <br>14.0<br> | 淡黄褐<br>良好，硬質 | □唇部棒状工具による刻み，頸部櫛描横線文→胴部縦の羽状条痕<br>ハケ目→ヘラミガキ | | 7住南トレンチ<br>841215<br>7-27 |
| 7住<br>26<br>67 | 甕 | □1/5 | <br>17.2<br> | 淡褐<br>良好，硬質 | □唇部ヘラ状工具による刻み，頸部簾状文，胴部縦の羽状条痕？<br>横方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ<br>841213<br>7-16 |
| 7住<br>27<br>67 | 台付甕 | □1/2<br>底完 | 15.1<br>17.0<br>9.0 | 橙褐<br>やや良 | 口縁櫛描波状文，頸部簾状文，胴上部縦の羽状条痕，胴下部ハケ目→ヘラミガキ<br>摩滅，脚部はナデ？ | | 7住No.21-No.24<br>841211<br>7-7 |
| 7住<br>28<br>67 | 台付甕 | □1/12 | <br>17.0<br> | 淡茶褐<br>良好，硬質 | □縁櫛描波状文，胴部ハケ目→コの字重ね文→4単位の円形浮文<br>ハケ目 | | 7住南トレンチ<br>841213<br>7-26 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7住 | 台付甕? | 底1/4 | | 淡茶 | 縦・斜方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ |
| 29 | | | | 良好，硬質 | 一部ヘラミガキ，摩滅 | | 841212 |
| 67 | | | 6.4 | | | | 7-19 |
| 7住 | 甕 | 底1/3 | | 淡橙褐～淡褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 7住No.11 |
| 30 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841211 |
| 67 | | | 8.2 | | | | 7-24 |
| 7住 | 甕 | 底完 | | 黄灰 | ハケ目→ヘラミガキ | | 7住南西 |
| 31 | | | | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841208 |
| 67 | | | 5.8 | | | | 7-1 |
| 7住 | 鉢 | 底1/2 | | 赤褐～橙褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 7住No.27 |
| 32 | | | | やや良 | ハケ目→ヘラミガキ・赤彩 | | 841211 |
| 68 | | | 5.8 | | | | 7-2 |
| 7住 | 甕 | 口ほぼ完<br>底完 | 9.9 | 橙褐～黒褐 | 口唇部縄文，ハケ目→ヘラミガキ→口縁部2本の波状文 | | 7住No.22 |
| 33 | | | 15.4 | 良好，堅 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841211 |
| 68 | | | 6.4 | | | | 7-4 |
| 7住 | 甕 | 底1/4 | | 淡茶 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 7住サブトレ |
| 34 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→ナデ | | 841215 |
| 68 | | | 7.6 | | | | 7-21 |
| 7住 | 甕 | 底1/4 | | 淡黄茶 | 横方向のヘラミガキ | | 7住南トレンチ |
| 35 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 7-20 |
| 68 | | | 7.6 | | | | |
| 8住 | 壺 | 口1/2 | | 暗褐 | 口縁部縄文，頸部縄文→横線→斜線，胴部ハケ目→胴上部縦方向・下部横方向のヘラミガキ | | 8住No.29 |
| 36 | | | 15.8 | 良好 | 口縁摩滅，頸・胴部ハケ目 | | |
| 68 | | | | | | | |
| 8住 | 壺 | 底完 | | 暗黄褐 | 胴中央部鋸歯文，胴下部縦方向のヘラミガキ | | 8住No.16 |
| 37 | | | | ふつう | ハケ目 | | |
| 68 | | | 7.8 | | | | |
| 8住 | 壺 | 口完 | | 暗橙褐 | 口縁摩滅，頸部波状文→沈線 | | 8住No.49 |
| 38 | | | 12.0 | ふつう | 横方向のヘラミガキ？・赤彩 | | |
| 68 | | | | | | | |
| 8住 | 甕 | 口1/6 | | 暗橙褐 | 口縁部縦方向のヘラミガキ，頸部縄文→山形沈線文 | | 8住No.35 |
| 39 | | | 14.8 | ふつう | 横方向のヘラミガキ | | |
| 68 | | | | | | | |
| 8住 | 壺 | 口1/8 | | 茶褐 | 口唇部縄文，口縁ハケ目→ヘラミガキ，頸部縄文→沈線 | | 8住P5 |
| 40 | | | 14.0 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | |
| 68 | | | | | | | 8-12 |
| 8住 | 壺 | 口完 | | 暗褐 | 口縁部ハケ目→櫛描波状文→円形浮文 | | 8住No.30 |
| 41 | | | 18.0 | ふつう | ナデ | | |
| 68 | | | | | | | |
| 8住 | 壺 | 底完 | | 淡橙褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 8住No.18 |
| 42 | | | | 良好 | 摩滅 | | |
| 68 | | | 4.4 | | | | |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8住<br>43<br>68 | 壺 | 底2/3 | <br><br>5.6 | 暗橙褐<br>ふつう | 摩滅<br>摩滅 | | 8住フク土 |
| 8住<br>44<br>69 | 壺 | 口2/3 | <br>11.4<br> | 暗黄褐<br>ふつう | ハケ目→ヘラミガキ<br>ナデ？ | | 8住カクラン<br>8-6 |
| 8住<br>45<br>69 | 壺 | 底完 | <br><br>8.0 | 暗黄橙<br>やや軟質 | 頸部縄文→横線，胴部ハケ目→胴上部縦・胴下部斜方向のヘラミガキ<br>頸部板状工具によるナデ，胴上・下部ハケ目，胴中央部ナデ | | 8住No.36 |
| 8住<br>46<br>69 | 壺 | 口1/2 | 15.4<br>6.8<br>5.8 | 黒褐<br>良好 | 口縁部・胴上半部縦方向・下半部横方向のヘラミガキ<br>口縁ハケ目→ヘラミガキ，胴部ハケ目 | | 8住No.38 |
| 8住<br>47<br>69 | 壺 | 口完<br>底完 | 50.5<br>19.8<br>12.8 | 暗黄褐<br>やや軟質 | 口縁縄文，口縁縄文→櫛描波状文，頸部櫛描波状文・縄文→横線，胴上半部細いハケ目，胴下部粗いハケ目<br>口縁ハケ目，頸・胴部摩滅 | | 8住No.32 |
| 8住<br>48<br>69 | 壺 | 底ほぼ完 | <br><br>4.8 | 暗褐<br>やや軟質 | 頸部縄文→横線→ヘラによる山形文，胴上部縦・中央部横・下部斜方向のヘラミガキ<br>頸・胴上・下部ナデ，胴中央部横方向のハケ目 | | 8住No.31 |
| 8住<br>49<br>69 | 壺 | 口完<br>底完 | 17.8<br>8.0<br>6.0 | 暗褐<br>やや軟質 | 口縁縄文，頸部縄文→ヘラ描きの横線・山形文，胴上・中央部縦方向のヘラミガキ，胴下部横方向のヘラミガキ<br>口縁・頸部ナデ，胴部粗いハケ目 | | 8住No.21・No.52 |
| 8住<br>50<br>70 | 壺 | 底ほぼ完 | <br><br>9.4 | 暗黄橙<br>ふつう | 横・斜方向のヘラミガキ<br>摩滅 | | 8住No.13 |
| 8住<br>51<br>70 | 壺 | 底完 | <br><br>8.2 | 暗褐橙<br>ふつう | 胴上部摩滅，胴中央部ハケ目→横方向のヘラミガキ，胴下部ハケ目→斜方向のヘラミガキ<br>ハケ目 | | 8住No.37 |
| 8住<br>52<br>70 | 壺 | 底完 | <br><br>12.0 | 暗黄橙<br>ふつう | 胴上・下部斜方向のハケ目，胴中央部横方向のハケ目<br>胴上・下部斜方向のハケ目，胴中央部横方向のハケ目 | | 8住 |
| 8住<br>53<br>70 | 壺 | 口2/3<br>底完 | 10.9<br>10.9<br>5.1 | 橙褐<br>ふつう | 口縁摩滅，胴部縦のハケ目→ヘラミガキ<br>ハケ目→ヘラミガキ | | 8住No.19 |
| 8住<br>54<br>70 | 甕 | 口1/8 | <br>23.4<br> | 茶橙<br>やや良 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部櫛描波状文<br>ハケ目→ナデ | | 8住No.48<br>850109 |
| 8住<br>55<br>70 | 甕 | 口7/8<br>底ほぼ完 | 19.5<br>16.9<br>7.7 | 明橙<br>ややもろい | 口縁櫛描波状文，頸部簾状文，胴部ハケ目→ナデ→櫛描波状文，胴下部ヘラミガキ<br>ハケ目→雑なヘラミガキ | | 8住No.23・29 |
| 8住<br>56<br>70 | 甕 | 口完<br>底完 | 18.0<br>17.2<br>6.8 | 暗黄橙<br>ややもろい | 口唇部縄文，頸部簾状文→胴部櫛描波状文，胴下部縦方向のヘラミガキ<br>横・斜方向のヘラミガキ | | 8住No.30 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8住<br>57<br>70 | 壺 | 底完 | <br><br>6.4 | 暗茶褐<br>ふつう | 胴部櫛描波状文，胴下部縦・斜方向のヘラミガキ<br>胴部ヘラミガキ，胴下部ハケ目→ヘラミガキ，底部ナデ | | 8住No14 |
| 8住<br>58<br>70 | 壺 | 底ほぼ完 | <br><br>7.0 | 淡褐<br>ややあまい | 横方向のヘラミガキ・赤彩<br>ハケ目 | | 8住サブトレ |
| 8住<br>59<br>71 | 甕 | 口1/2 | <br>14.4<br> | 淡橙<br>ふつう | 口骨部縄文，頸部簾状文→胴部櫛描波状文，胴下部縦方向のヘラミガキ<br>口縁ヨコナデ，ハケ目→胴上部横・下部縦方向のヘラミガキ | | 8住No25 |
| 8住<br>60<br>71 | 甕 | 口完<br>底完 | 25.5<br>22.7<br>6.4 | 白黄橙<br>ふつう | 口骨部縄文，頸部簾状文，胴部櫛描波状文，胴下部斜・縦方向のヘラミガキ<br>斜・横方向のヘラミガキ | | 8住No27 |
| 8住<br>61<br>71 | 甕 | 口1/6 | <br>6.8<br> | 淡橙～淡灰<br>やや良 | 口縁・胴部櫛描波状文<br>ヘラミガキ | | 8住北東フク土<br>8-10 |
| 8住<br>62<br>71 | 壺 | 底完 | <br><br>6.0 | 灰褐<br>ふつう | 摩滅<br>胴部摩滅，底部ヘラミガキ | | 8住No17 |
| 8住<br>63<br>71 | 鉢 | 口完<br>底ほぼ完 | 7.4<br>10.2<br>4.4 | 淡橙<br>良好 | 横方向のヘラミガキ・赤彩<br>横方向のヘラミガキ・胴上半赤彩 | | 8住No24 |
| 8住<br>64<br>71 | 鉢 | 底1/2 | <br>4.4<br> | 橙褐<br>良好 | ヘラミガキ，底部ナデ→ヘラミガキ<br>ヘラミガキ | | 8住検出面<br>8-9 |
| 8住<br>65<br>71 | 鉢 | 口1/12 | <br>12.0<br> | 茶褐<br>良好 | 口縁ヨコナデ，ヘラミガキ・赤彩<br>ヘラミガキ・赤彩 | | 8住No48<br>8-8 |
| 8住<br>66<br>71 | 鉢 | 口1/8 | <br>12.0<br> | 赤褐<br>良好 | 口縁ヨコナデ→ヘラミガキ・赤彩<br>ヘラミガキ・赤彩 | | 8住炉趾<br>850110<br>8-7 |
| 8住<br>67<br>71 | 高坏 | 底完 | <br><br>7.0 | 橙褐<br>ふつう | 縦方向のヘラミガキ<br>見込部ヘラミガキ | | 8住No16 |
| 8住<br>68<br>71 | 高坏 | 底完 | <br><br>7.1 | 橙褐<br>良好 | 縦方向のヘラミガキ<br>見込部ヘラミガキ，脚部ハケ目→ナデ | | 8住No26<br>8-14 |
| 8住<br>69<br>71 | 高坏 | 底1/3 | <br><br>7.8 | 淡黄橙<br>良好 | ナデ→ヘラミガキ？<br>見込部ヘラミガキ，脚部工具によるナデ | | 8住No28<br>8-5 |
| 8住<br>70<br>71 | 甑 | 口完 | <br>22.0<br> | 明橙褐<br>ふつう | 口縁ナデ？ハケ目<br>板状工具によるナデ | | 8住No51 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>地成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9住 | 壺 | 口ほぼ完 | | 淡褐 | 口縁ヨコナデ，口頸部細かいハケ目→ナデ→簾状文・T字文 | | 9住No.2 |
| 71 | | | 15.2 | | | | |
| 72 | | | | 良好 | ハケ目 | | |
| 9住 | 壺 | 口完 | | 黄褐 | 口縁ヨコナデ，縦方向のハケ目 | | 9住No.5 |
| 72 | | | 18.8 | | | | |
| 72 | | | | やや軟質 | 横方向のハケ目 | | |
| 9住 | 甕 | 口完 | | 淡黒褐 | 頸部簾状文→口縁・胴部櫛描波状文 | | 9住No.13 |
| 73 | | | 17.6 | | | | |
| 72 | | | | やや良 | 横方向のヘラミガキ | | 9-2 |
| 9住 | 甕 | 口1/8 | | 薄橙 | 櫛描波状文→縦方向のナデ | | 9住フク |
| 74 | | | 17.0 | | | | 841221 |
| 72 | | | | 良好 | 横方向のナデ | | 9-3 |
| 9住 | 甕 | 口ほぼ完 | | 淡橙 | 斜方向のハケ目→口縁・胴部櫛描波状文，胴上部簾状文 | 炉体土器 | 9住 |
| 75 | | | 18.2 | | | | |
| 72 | | | | ふつう | ハケ目 | | |
| 9住 | 甕 | 口1/10 | | 暗黄橙 | 口縁櫛描波状文，頸部簾状文→胴部櫛描波状文，胴下部ヘラミガキ | | 9住No.13 |
| 76 | | | 24.6 | | | | |
| 72 | | | | 良好 | 摩滅 | | |
| 9住 | 甕 | 口完<br>底ほぼ完 | 24.9 | 暗褐 | 口縁部擬凹線状文様，胴部斜方向のハケ目→斜方向のヘラミガキ | | 9住No.4 |
| 77 | | | 20.2 | | | | |
| 72 | | | 6.0 | ふつう | 口縁部横方向のヘラミガキ，胴部ヘラケズリ→斜方向のヘラミガキ，底部ヘラミガキ | | |
| 9住 | 甕 | 口1/3<br>底完 | 10.3 | 暗橙褐 | 頸部櫛描横線文，胴部ハケ目 | | 9住No.1 |
| 78 | | | 8.6 | | | | |
| 72 | | | 3.8 | ふつう | 工具ナデ？ | | |
| 9住 | 台付甕 | | | 暗橙 | 斜方向のハケ目→頸部下横線 | 断面実測 | 9住フ |
| 79 | | | | | | | 8412 |
| 72 | | | | 良好 | 横方向のヘラミガキ | | 9-4 |
| 9住 | 高坏？ | | | 橙－灰褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 9住No.10 |
| 80 | | | | | | | |
| 73 | | | | 良好 | 見込部ヘラミガキ，脚部ナデ | | 9-1 |
| 9住 | 高坏 | 口1/3<br>脚1/3 | 9.3 | 暗橙褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 9住No.9 |
| 81 | | | 10.7 | | | | |
| 73 | | | 12.6 | 良好 | 坏部ハケ目→ヘラミガキ，脚部横方向のハケ目→ナデ | | |
| 10住 | 甕 | 口破片 | | 暗黄褐 | 口縁・胴部櫛描波状文 | | 10住フク土 |
| 82 | | | 11.0 | | | | 841221 |
| 73 | | | | 良好 | ナデ | | 10-1 |
| 11住 | 壺 | | | 淡黄褐 | 丁寧なハケ目→棒状工具による横線文→棒状工具による波状文 | | 11住No.18 |
| 83 | | | | | | | |
| 73 | | | | 良好，硬質 | 上半ハケ目→横方向のナデ，下半丁寧なハケ目 | | 11-17 |
| 11住 | 壺 | | | 淡茶 | ハケ目→棒状工具による列点文・波状文・横線文，文様帯以上斜方向のヘラミガキ | | 11住フク土 |
| 84 | | | | | | | 841216 |
| 73 | | | | 良好，硬質 | 胴中央部ハケ目→ナデ，他はナデ | | 11-30 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11住 | 壺 | | | 茶褐 | ハケ目→上半簾状文・櫛描横線文→下半棒状工具による横線→棒状工具による波状文 | | 11住南サブトレフク土 |
| 85 | | | | | | | 841222 |
| 73 | | | | 良好，硬質 | 横方向のハケ目 | | 11-31 |
| 11住 | 壺 | | | 淡黄褐 | ハケ目→頸部縄文→2条の櫛描文・横線，ヘラミガキ | | 11住No.15 |
| 86 | | | | | | | |
| 73 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | 11-29 |
| 11住 | 壺 | 底ほぼ完 | | 暗黄褐 | ハケ目 | | 11住No.8<br>ベルト |
| 87 | | | | | | | 841219 |
| 73 | | | 8.8 | やや良 | ハケ目 | | 11-28 |
| 11住 | 壺 | 口1/6<br>底1/2 | 21.5 | 暗褐 | 口唇部刻み，ハケ目→胴上部縦方向のヘラミガキ・胴下部横方向のヘラミガキ | | 11住No.3 |
| 88 | | | 11.0 | | | | |
| 74 | | | 7.4 | 良好 | 不明 | | |
| 11住 | 壺 | | | 淡茶灰 | 頸部横線・崩れた盛山形文 | | 11住黒土ソウ |
| 89 | | | | | | | 841215 |
| 74 | | | | 良好，硬質 | 上部櫛描による沈線文 | | 11-3 |
| 11住 | 壺 | 口1/5 | | 黒 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→ナデ→頸部沈線 | | 11住フ |
| 90 | | | 14.0 | | | | 841215 |
| 74 | | | | 非常に良好 | 横方向のヘラミガキ | | 11-22 |
| 11住 | 壺 | 口1/5 | | 暗褐 | ハケ目→頸部棒状工具による横線・山形文 | | 11住ベルト |
| 91 | | | 16.1 | | | | 841220 |
| 74 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 11-26 |
| 11住 | 壺 | | | 淡茶褐 | 頸部縄文→羽状文・棒状工具による波状文・山形文，文様帯以下斜方向のヘラミガキ | | 11住フク土 |
| 92 | | | | | | | 841216 |
| 74 | | | | 良好，硬質 | ナデ | | 11-1 |
| 11住 | 壺 | | | 淡茶褐 | ハケ目→頸部縄文→棒状工具による横線・2本の櫛描山形文，文様帯以外縦方向のヘラミガキ | | 11住黒色土<br>ベルト |
| 93 | | | | | | | 8412 |
| 74 | | | | 良好，硬質 | ナデ | | 11-25 |
| 11住 | 壺 | | | 茶褐 | 頸部縄文→棒状工具による横線，文様帯以上ナデ・以下ヘラミガキ | | 11住No.7 |
| 94 | | | | | | | 841219 |
| 74 | | | | 良好，硬質 | ナデ→雑な横方向のヘラミガキ | | 11-2 |
| 11住 | 壺 | 底1/2 | | 淡黄 | 縦方向のヘラミガキ→一部横方向のヘラミガキ | | 11住ベルト |
| 95 | | | | | | | 841220 |
| 74 | | | 7.6 | 良好，硬質 | 横方向のハケ目，底部ナデ | | 11-4 |
| 11住 | 壺 | 底完 | | 淡黄 | ハケ目→横・縦方向のヘラミガキ | | 11住南北ベルト |
| 96 | | | | | | | |
| 74 | | | 7.4 | 良好，硬質 | ハケ目，底部ナデ | | 11-7 |
| 11住 | 壺 | 底2/3 | | 橙褐 | ハケ目→ナデ | | 11住ベルト |
| 97 | | | | | | | 841220 |
| 74 | | | 12.6 | 良好 | ハケ目→ナデ | | 11-27 |
| 11住 | 甕 | 底1/2 | | 淡茶褐 | 縦方向のヘラミガキ，底部ナデ→ヘラミガキ | | 11住フク土 |
| 98 | | | | | | | 841215 |
| 74 | | | 5.8 | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 11-6 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11住 | | | | 淡褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 11住ベルト |
| 99 | 甕？ | 底1/2 | | | | | 841220 |
| 74 | | | 9.5 | 良好，硬質 | 横方向のナデ | | 11-9 |
| 11住 | | | | 褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 11住No2 |
| 100 | 甕？ | 底1/3 | | | | | 841219 |
| 74 | | | 11.3 | 良好，硬質 | 縦方向のヘラミガキ，底部横方向のヘラミガキ | | 11-8 |
| 11住 | | | | 黒～暗褐 | 縦方向のヘラミガキ，底部ナデ→ヘラミガキ | | 11住ベルト |
| 101 | 甕 | 底1/2 | | | | | 841220 |
| 74 | | | 7.3 | 良好，硬質 | 横・斜方向のヘラミガキ | | 11-5 |
| 11住 | | | | 黒褐～茶褐 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→頸部羅状文・胴部櫛描波状文 | | 11住南北ベルト |
| 102 | 甕 | 口1/2 | 13.2 | | | | 841219 |
| 75 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→斜方向の丁寧なヘラミガキ | | 11-11 |
| 11住 | | | | 茶褐～暗褐 | 口唇部縄文，口縁ハケ目，胴部ハケ目→櫛描波状文→円形浮文 | | 11住フク上ベルト |
| 103 | 甕 | 口1/2 | 17.4 | | | | 841219 |
| 75 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 11-12 |
| 11住 | | | | 淡茶褐 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→頸部羅状文・胴部櫛描斜線文 | | 11住ベルト |
| 104 | 甕 | 口1/12 | 14.1 | | | | 841220 |
| 75 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→斜・横方向のヘラミガキ | | 11-10 |
| 11住 | | | | 淡茶褐 | ハケ目→棒状工具による横線 | | 11住黒土ソウ |
| 105 | 甕？ | 口1/5 | 13.6 | | | | 841215 |
| 75 | | | | 良好，硬質 | ハケ目 | | 11-16 |
| 11住 | | | | 橙～黄褐 | 口縁ヨコナデ，頸部羅状文，胴部ハケ目→縦の羽状条線 | | 11住フNo9 |
| 106 | 甕 | 口1/2 | 13.0 | | | | 8412 |
| 75 | | | | 良好 | 板状工具によるナデ | | 11-23 |
| 11住 | | | | 淡黄褐 | 口唇部縄文，口縁部櫛描波状文，頸部羅状文，胴部縦の羽状条線 | | 11住ベルトフク上 |
| 107 | 甕 | 口1/5 | 15.7 | | | | 841220 |
| 75 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 11-13 |
| 11住 | | | | 橙褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 11住No10 |
| 108 | 高坏 | 底完 | | | | | |
| 75 | | | 8.4 | ふつう | 見込部ヘラミガキ，脚部板状工具によるナデ | | |
| 11住 | | | | 暗褐 | 胴部縄文・刺突文，胴下部縦方向のヘラミガキ | | 11住No13 |
| 109 | 台付甕 | 底完 | | | | | |
| 75 | | | 5.4 | 良好 | 底部横方向のヘラミガキ，脚部ヘラミガキ | | |
| 11住 | | | | 橙褐 | ナデ | | 11住黒土ソ |
| 110 | 台付甕？ | 底2/5 | | | | | 841215 |
| 75 | | | 9.2 | 良好 | ナデ | | 11-18 |
| 11住 | | | | 淡橙褐 | 胴部縦方向のヘラミガキ，脚部ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 11住No16 |
| 111 | 台付甕 | | | | | | |
| 75 | | | | 良好，硬質 | ナデ | | 11-14 |
| 11住 | | 口1/15 | 8.75 | 赤褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 11住フク土 |
| 112 | 鉢 | 底1/3 | 15.9 | | | | 841216 |
| 75 | | | 6.1 | やや良 | ハケ目→ヘラミガキ | | 11-20 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>地成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11住 | 甕 | 口1/3<br>底1/2 | | 黄茶褐～淡茶灰 | 上半部横方向のハケ目，下半部縦方向のハケ目 | | 11住フク土<br>ベルト<br>841215 |
| 113 | | | 18.8 | 良好，やや軟質 | 横方向のハケ目 | | |
| 75 | | | 5.0 | | | | 11-24 |
| 11住 | 鉢 | 底3/4 | | 赤褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 11住No4 |
| 114 | | | | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | |
| 75 | | | 7.1 | | | | 11-19 |
| 11住 | 鉢 | 底ほぼ完 | | 濃赤褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 11住No17 |
| 115 | | | | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 841215 |
| 75 | | | 6.0 | | | | 11-21 |
| 11住 | 高坏 | | | 赤 | 縦方向のヘラミガキ・赤彩 | | 11住ベルト |
| 116 | | | | 良好，硬質 | 見込部横方向のヘラミガキ・赤彩，脚部ハケ目→ナデ | | 841220 |
| 75 | | | | | | | 11-15 |
| 12住 | 甕 | | | 黄褐 | 頸部羅状文→胴部上半櫛描波状文，胴下部縦方向のヘラミガキ | 炉体土器 | 12住炉 |
| 117 | | | | 良好 | 横方向の工具ナデ→横方向のヘラミガキ | | |
| 76 | | | | | | | 12-11 |
| 12住 | 壺 | 口1/8 | | 淡赤褐 | 口縁ヨコナデ，ハケ目，赤彩 | | 12住 |
| 118 | | | 15.2 | 良好 | ハケ目，赤彩 | | 841219 |
| 76 | | | | | | | 12-3 |
| 12住 | 鉢 | 口一部 | | 赤褐 | 口縁ヨコナデ，ヘラミガキ・赤彩 | | 12住フク土 |
| 119 | | | | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 841219 |
| 76 | | | | | | | 12-4 |
| 12住 | 鉢 | 口1/6 | | 橙褐 | ナデ，一部ハケ目 | | 12住フク土 |
| 120 | | | 11.0 | 良好 | ナデ，一部ハケ目 | | 841226 |
| 76 | | | | | | | 12-7 |
| 12住 | 鉢 | 口1/4 | | 赤褐 | ナデ？（摩滅） | | 12住No2 |
| 121 | | | 11.4 | 良好 | ナデ，一部ハケ目 | | 841220 |
| 76 | | | | | | | 12-8 |
| 12住 | 鉢 | 口1/10<br>底1/8 | 4.9 | 赤褐 | 口縁ヨコナデ，ヘラミガキ・赤彩 | | 12住No3 |
| 122 | | | 13.8 | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 841220 |
| 76 | | | 3.9 | | | | 12-5 |
| 12住 | 鉢 | | ? | 赤褐 | 横方向のヘラミガキ・赤彩（含底部） | 13住に帰属 | 13住ユカNo4<br>フ841224<br>12住フク<br>841219 |
| 123 | | | 13.1 | 非常に良い | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | |
| 76 | | | 5.2 | | | | 12-6 |
| 12住 | 鉢 | 底1/2 | | 赤 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 12住No4<br>SNベルト<br>S半分<br>III層 |
| 124 | | | | 良好，硬質 | 斜・横方向のヘラミガキ・赤彩 | | |
| 76 | | | 5.2 | | | | 12-2 |
| 12住 | 鉢 | 口1/4<br>底完 | 6.6 | 淡茶褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 12住No5 |
| 125 | | | 12.2 | 良好，硬質 | ナデ | | 841220 |
| 76 | | | 5.0 | | | | 12-1 |
| 13住 | 壺 | 口1/5 | | 暗褐 | 口唇部縄文，ハケ目→頸部縄文→横線，文様帯以下ヘラミガキ・赤彩 | | 13住床直 |
| 126 | | | 16.8 | 良好，硬質 | ハケ目 | | 841224 |
| 76 | | | | | | | 13-20 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13住 | 壺 | 口1/2 | | 黄褐 | 口唇部縄文，頸部上半ナデ→ヘラミガキ，下半ハケ目→縄文→沈線，文様帯以下ヘラミガキ | | 13住フ |
| 127 | | | 15.8 | 良好 | ナデ，頸部下半横方向のハケ目 | | 13住床直 |
| 76 | | | | | | | 13-12 |
| 13住 | 壺 | 底ほぼ完 | | 淡黄褐 | ハケ目→ナデ | | 13住ベルト |
| 128 | | | | | | | 841224 |
| 76 | | | 9.2 | やや良 | ナデ | | 13-9 |
| 13住 | 壺 | 口ほぼ完 | | 淡黄灰 | ハケ目→ヘラミガキ | | 13住フ<br>841214<br>841215 |
| 129 | | | 10.7 | 良好，堅 | ハケ目 | | |
| 76 | | | | | | | 13-10 |
| 13住 | 壺 | 底2/3 | | 白黄褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 13住サブトレ |
| 130 | | | | 良好 | 横方向のハケ目 | | |
| 76 | | | 7.4 | | | | 13-11 |
| 13住 | 甕 | 口1/4 | | 暗灰 | 口縁強いヨコナデ→口唇部縄文，胴部櫛描波状文 | | 13住フク土 |
| 131 | | | 10.5 | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 841224 |
| 77 | | | | | | | 13-4 |
| 13住 | 台付甕？ | 口1/3 | | 淡黄褐～暗褐 | 口唇部縄文，胴部上半櫛描波状文・下半縦方向のヘラミガキ | | 13住フク土下ソウ<br>841222 |
| 132 | | | 11.2 | 良好，硬質 | 口縁強いヨコナデ，ハケ目→横方向のヘラミガキ | | |
| 77 | | | | | | | 13-2 |
| 13住 | 甕 | 口1/3 | | 褐 | 口縁部縄文，ハケ目→頸部簾状文→縦の羽状条痕 | | 13住フク土 |
| 133 | | | 13.6 | 良好，硬質 | 口縁横方向のヘラミガキ，横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841215 |
| 77 | | | | | | | 13-1 |
| 13住 | 甕 | 口3/4 | | 暗黄褐 | 口唇部縄文，ハケ目→頸部櫛描波状文・胴部縦の羽状条痕 | 外面炭化物付着 | 13住床No4 |
| 134 | | | 15.2 | 良好 | ハケ目→一部ヘラミガキ | | |
| 77 | | | | | | | 13-15 |
| 13住 | 甕 | 口1/3 | | 淡茶褐 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部上半斜方向の条痕・下半縦方向のヘラミガキ | | 13住ベルト |
| 135 | | | 13.6 | 良好<br>やや軟質 | 横方向のヘラミガキ | | 12住フク土 |
| 77 | | | | | | | 13-16 |
| 13住 | 甕 | 底2/3 | | 橙灰 | ナデ→斜方向のヘラミガキ | | 13住フ |
| 136 | | | | 良好 | ヘラミガキ | | 841222 |
| 77 | | | 7.5 | | | | 13-7 |
| 13住 | 鉢 | 底1/4 | | 灰黄褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 13住フク土下ソ |
| 137 | | | | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841222 |
| 77 | | | 6.0 | | | | 13-11 |
| 13住 | 甕 | 口1/12 | | 褐 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部縦の羽状条痕，胴下部縦方向のヘラミガキ | | 13住P11 |
| 138 | | | 21.6 | 良好，硬質 | 摩滅 | | 841227 |
| 77 | | | | | | | 13-14 |
| 13住 | 甕 | 口1/3<br>底2/3 | 20.8 | 茶褐 | 口唇部縄文，ハケ目→胴上部縄文・下部ヘラミガキ | | 13住床No4<br>フク土下ソウ<br>841224 |
| 139 | | | 18.0 | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | |
| 77 | | | 7.0 | | | | 13-13 |
| 13住 | 台付甕？ | 口1/3 | | 茶褐 | 口唇部縄文，口縁部櫛描波状文，胴部ハケ目→櫛描波状文→縦方向の櫛描平行線文 | | 13住床面フク土 |
| 140 | | | 13.6 | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841224 |
| 77 | | | | | | | 13-3 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13住 | 甕 | 底ほぼ完 | | 淡橙 | 縦方向のヘラミガキ | | 13住No6 |
| 141 | | | | | | | |
| 77 | | | 9.0 | 良好 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ | | |
| 13住 | 鉢 | 口1/8 | | 赤褐～黄褐 | 口縁強いヨコナデ，体部ヘラミガキ・口縁に赤彩 | | 13住フ |
| 142 | | | 16.3 | | | | 841222 |
| 77 | | | | やや良 | ナデ→ヘラミガキ・赤彩 | | 13-8 |
| 13住 | 鉢 | 口1/5 | | 暗茶 | 横方向のヘラミガキ | | 13住ベルト中 |
| 143 | | | 11.3 | | | | 841224 |
| 77 | | | | 良好，硬質 | ハケ目？→横方向のヘラミガキ | | 13-19 |
| 13住 | 鉢 | 底1/3 | | 赤褐 | 赤彩 | | 13住柱列No4 |
| 144 | | | | | | | 841224 |
| 77 | | | 9.5 | やや良 | ヘラミガキ・赤彩 | | 13-5 |
| 13住 | 鉢 | 口1/5 | | 淡黄茶 | 横方向のヘラミガキ | | 13住ベルト |
| 145 | | | 10.7 | | | | 841224 |
| 77 | | | | 良好，硬質 | ハケ目 | | 13-18 |
| 13住 | 鉢 | 口1/4<br>底2/3 | 5.9 | 赤 | 口縁ヨコナデ，ナデ | | 13住フク土上:ソウ |
| 146 | | | 9.7 | | | | 841222 |
| 77 | | | 5.5 | 良好，硬質 | ナデ→ヘラミガキ | | 13-17 |
| 13住 | 鉢 | 底完 | | 赤褐 | ナデ？ | | 13住フ |
| 147 | | | | | | | 841222 |
| 77 | | | 6.3 | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 13-6 |
| 14住 | 鉢 | 口1/8 | | 赤褐 | 口縁ヨコナデ，横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 14住フ |
| 148 | | | 12.4 | | | | 841221 |
| 78 | | | | 良好，堅 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 14-1 |
| 14住 | 甕 | 底2/3 | | 橙褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 14住カクラン |
| 149 | | | | | | | 841226 |
| 78 | | | 5.4 | 良好 | 横方向のハケ目→ヘラミガキ | | 14-2 |
| 16住 | 壺 | 底完 | | 淡茶褐 | 頸部横線文→棒状工具による波状文，ハケ目→ヘラミガキ→胴上部垂籠横帯文，胴中央部横線・波状文，赤彩 | 被熱で変彩<br>一部硬化 | 16住No21・22・69・79・97 |
| 150 | | | | | | | |
| 78 | | | 9.8 | 不良<br>やや硬質 | ハケ目 | | 16-29 |
| 16住 | 壺 | 口2/3<br>底完 | 15.3 | 暗橙褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ・赤彩 | | 16住No4 |
| 151 | | | 7.0 | | | | |
| 79 | | | 5.6 | ふつう | 不明，口縁部に赤彩 | | |
| 16住 | 壺 | 底完 | | 橙褐～黄褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 16住No21 |
| 152 | | | | | | | |
| 79 | | | 6.2 | 良好 | ナデ | | 16-21 |
| 16住 | 壺 | 口1/4<br>底完 | 18.7 | 淡茶褐 | 口縁ハケ目，頸部棒状工具による縦の羽状文・赤彩，胴部ヘラミガキ | | 16住No49・64・72 |
| 153 | | | 11.7 | | | | 841226 |
| 79 | | | 6.2 | 良好，硬質 | 口縁横方向のハケ目，胴部ハケ目→ナデ | | 16-25 |
| 16住 | 壺 | 口ほぼ完 | | 橙褐 | 口唇部縄文，ハケ目→ナデ→頸部横線 | | 16住フク土 |
| 154 | | | 10.4 | | | | 841229 |
| 79 | | | | やや不良 | 口縁ハケ目→ナデ | | 16-4 |

| 出土地点<br>上器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16住 | | | | 橙褐 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 16住№62 |
| 155 | 壺 | 口ほぼ完 | 8.4 | | | | |
| 79 | | | | ふつう | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | |
| 16住 | | | | 黄褐 | ナデ | | 16住 84 |
| 156 | 壺 | 口1/3 | 9.3 | | | | |
| 79 | | | | やや不良 | ナデ | | 16-3 |
| 16住 | | | | 黄褐 | ナデ | | 16住フク上 |
| 157 | 壺 | 底1/2 | | | | | 841229 |
| 79 | | | 5.2 | 良好 | ハケ目→ナデ | | 16-10 |
| 16住 | | | | 橙褐 | 口縁・胴中央部横方向のヘラミガキ，胴上部縦方向のヘラミガキ・赤彩 | 注口 | 16住№47 |
| 158 | 壺 | 底完 | | | | | |
| 79 | | | 5.6 | ふつう | 口縁部横方向のヘラミガキ・口縁部赤彩 | | |
| 16住 | | | 28.7 | 淡茶褐 | 口唇部縄文，ハケ目→頸部縄文→波状文・横線，胴部縄文→櫛描波状文・沈線 | | 16住№87 |
| 159 | 甕 | 口1/4<br>底完 | 15.0 | | | | 841227 |
| 79 | | | 8.6 | 良好，硬質 | ハケ目 | | 16-27 |
| 16住 | | | | 淡茶褐 | ハケ目→頸部縄文→沈線 | | 16住№24 |
| 160 | 壺 | | | | | | |
| 79 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→ナデ | | 16-28 |
| 16住 | | | | 茶褐 | 口縁櫛描波状文，口頸部ハケ目→棒状工具による鋸歯モティーフ | | 16住№63 |
| 161 | 壺 | 口1/2 | 18.2 | | | | |
| 80 | | | | 良好，硬質 | 摩滅 | | |
| 16住 | | | | 黒褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 16住№180～120 |
| 162 | 壺 | 底完 | | | | | |
| 80 | | | 10.3 | 良 | ハケ目 | | 16-19 |
| 16住 | | | | 赤褐 | 胴上部2本歯の列点文，胴部ハケ目→櫛描波状文 | | 16住№62 |
| 163 | 甕 | | | | | | |
| 80 | | | | ふつう<br>やや軟質 | 摩滅 | | |
| 16住 | | | | 淡灰 | ハケ目→横線→波状文，懸垂横帯文（櫛描波状文） | | 16住№83・89 |
| 164 | 甕 | | | | | | |
| 80 | | | | やや不良<br>軟質 | ナデ | | 16-26 |
| 16住 | | | | 黄褐 | 頸部縄文→横線→櫛描波状文，文様帯以上ハケ目→ヘラミガキ，文様帯以下縦方向のヘラミガキ，頸部以上赤彩 | | 16住№123 |
| 165 | 壺 | | | | | | 841229 |
| 80 | | | | 良好 | 上半ハケ目→一部ヘラミガキ，下半ナデ，頸部以上赤彩 | | 16-12 |
| 16住 | | | | 黄褐 | ハケ目→頸部横線 | | 16住フ |
| 166 | 壺 | | | | | | |
| 80 | | | | 良好 | 横方向のハケ目→ナデ | | 16-9 |
| 16住 | | | | 茶褐 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部ハケ目→縦の羽状条痕 | | 16住№82 |
| 167 | 甕 | 口1/4 | 18.0 | | | | |
| 80 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→ヘラミガキ | | 16-23 |
| 16住 | | | | 淡褐 | 口唇部縄文，ハケ目→櫛描波状文 | | 16住№17 |
| 168 | 甕 | 口1/6 | 21.5 | | | | |
| 80 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 16-22 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16住 | 甕 | 口ほぼ完 | | 黄褐 | 口唇部刻み，口縁櫛描波状文，頸部櫛描横線文，胴部縦の羽状条痕 | | 16住No.55 |
| 169 | | | 20.9 | | | | |
| 80 | | | | 良好 | 板状工具によるナデ | | 16-8 |
| 16住 | 甕 | 口1/8 | | 濃黄褐 | 口唇部縄文，口縁波状文，胴部横の羽状条痕 | | 16住No.20 |
| 170 | | | 25.2 | | | | |
| 80 | | | | 良好 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ | | 16-30 |
| 16住 | 甕 | 口1/2 | 11.0 | 赤褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 16住No.122 |
| 171 | | | 10.8 | | | | |
| 81 | | | 6.8 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | |
| 16住 | 甕 | 口ほぼ完<br>底ほぼ完 | 12.4 | 暗茶褐 | 口唇部ヘラ刻み，胴部櫛描波状文，胴下部縦方向のヘラミガキ | | 16住No.56 |
| 172 | | | 12.5 | | | | |
| 81 | | | 6.4 | ふつう | 横方向のヘラミガキ，底部ナデ | | |
| 16住 | 甕 | 口1/2<br>底1/8 | 11.1 | 暗黄褐 | 口唇部ヘラ刻み，頸部簾状文→胴部櫛描波状文，胴部下部摩滅 | | 16住No.5 |
| 173 | | | 11.8 | | | | |
| 81 | | | 6.4 | ややもろい | 摩滅 | | |
| 16住 | 甕 | 口ほぼ完<br>底完 | 11.5 | 橙褐～黄褐 | 口唇部縄文，頸部櫛描波状文，胴部ハケ目→縦の羽状条痕 | | 16住No.16<br>841224 |
| 174 | | | 10.8 | | | | |
| 81 | | | 5.3 | やや良 | ナデ→横方向のヘラミガキ | | 16-2 |
| 16住 | 甕 | 口1/2<br>底5/6 | 12.2 | 暗橙褐 | 口唇部縄文，胴部櫛描波状文，胴下部ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 16住 |
| 175 | | | 12.0 | | | | |
| 81 | | | 6.0 | 良好 | ハケ目→ナデ | | |
| 16住 | 甕 | 口ほぼ完<br>底ほぼ完 | 12.2 | 赤褐 | ハケ目→頸部簾状文・胴部縦の羽状条痕，胴下部ヘラミガキ | 粘土紐圧痕多数 | 16住No.92・16・18・19・48 |
| 176 | | | 14.2 | | | | |
| 81 | | | 6.8 | ふつう | ハケ目→ヘラミガキ | | |
| 16住 | 甕 | 口ほぼ完<br>底ほぼ完 | 17.0 | 明茶褐 | 口唇部ヘラ刻み，胴部櫛描波状文→円形浮文，胴下部ヘラミガキ | | 16住No.19 |
| 177 | | | 14.2 | | | | |
| 81 | | | 6.8 | ややもろい | 摩滅 | | |
| 16住 | 甕 | 口完<br>底完 | 15.7 | 暗茶褐 | 口唇部ヘラ刻み，ハケ目→胴部櫛描波状文，胴下部ヘラミガキ | | 16住No.56 |
| 178 | | | 13.4 | ややもろい | 上部ハケ目→横方向のヘラミガキ，下部ヘラミガキ，底部ナデ | | |
| 81 | | | 6.4 | | | | |
| 16住 | 甕 | 口1/8<br>底1/2 | 14.4 | 黄褐 | 頸部簾状文，胴部斜行条痕 | 内面に炭化物付着 | 16住No.22 |
| 179 | | | 11.8 | 良好 | ハケ目→ナデ | | |
| 81 | | | 6.4 | | | | 16-18 |
| 16住 | 甕 | 口1/3 | | 暗褐 | 頸部簾状文，胴部櫛描波状文 | | 16住No.97 |
| 180 | | | 11.9 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841228 |
| 81 | | | | | | | 16-1 |
| 16住 | 甕 | 口1/3 | | 明茶褐 | 口唇部ヘラ刻み，胴部櫛描波状文，胴下部ヘラミガキ | | 16住No.82 |
| 181 | | | 12.3 | ややもろい | 摩滅 | | |
| 81 | | | | | | | |
| 16住 | 甕 | 口破片 | | 橙褐 | ハケ目→頸部簾状文，胴部櫛描波状文 | | 16住フク土 |
| 182 | | | 15.3 | 良好 | ナデ | | 841226 |
| 81 | | | | | | | 16-15 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16住 | 甕 | 口1/2 | | 淡暗褐 | 口縁部横描波状文，頸部簾状文，胴上部横描波状文→胴中央部縦の羽状条痕 | | 16住 |
| 183 | | | 19.4 | ややもろい | 口縁ヨコナデ，ハケ目→ナデ | | |
| 81 | | | | | | | |
| 16住 | 甕 | 口1/8 | | 黄灰褐 | 口唇部縄文，口縁・頸部横描波状文，胴部縦の羽状条痕 | | 16住No85 |
| 184 | | | 18.2 | やや不良 | ヘラミガキ？（摩滅） | | 841227 |
| 81 | | | | | | | 16-2 |
| 16住 | 甕 | 底1/2 | | 暗褐 | ハケ目→縦の羽状条痕 | | 16住No27 |
| 185 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | |
| 82 | | | 6.8 | | | | |
| 16住 | 甕 | 底1/2 | | 暗灰褐 | ハケ目→縦の羽状条痕 | | 16住No80 |
| 186 | | | | ふつう | ハケ目 | | |
| 82 | | | 7.4 | | | | |
| 16住 | 甕 | 底完 | | 橙褐 | 縦方向のヘラミガキ | | 16住No123 |
| 187 | | | | 良好 | ヘラミガキ | | 841229 |
| 82 | | | 5.5 | | | | 16-7 |
| 16住 | 甕？ | 底完 | | 暗褐 | ナデ | | 16住No91 |
| 188 | | | | 良好 | ナデ | | 841227 |
| 82 | | | 3.3 | | | | 16-11 |
| 16住 | 台付甕 | 口はぼ完 | | 灰茶褐 | 口唇部刻み，口縁部3本のヘラ描波状文→円形浮文，胴部コの字重ね文→円形浮文 | | 16住No19 |
| 189 | | | 14.6 | 良好 | 横方向のナデ | | |
| 82 | | | | | | | |
| 16住 | 甕 | 口1/5 | | 茶褐 | 口唇部縄文，口縁部横描波状文，胴部ハケ目→コの字重ね文 | | 16住No2 |
| 190 | | | 16.3 | 良好<br>やや軟質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841224 |
| 82 | | | | | | | 16-24 |
| 16住 | 高坏 | 口完<br>底完 | 5.7 | 橙褐 | ナデ？（摩滅），脚部指圧痕 | | 16住No1 |
| 191 | | | 11.1 | 良好 | ハケ目→横方向のヘラミガキ，縦方向のヘラミガキ・赤彩 | | |
| 82 | | | 5.0 | | | | |
| 16住 | 高坏 | | | 明橙褐 | 杯以上横方向のヘラミガキ，杯以下縦方向のヘラミガキ・赤彩 | | 16住カクラン |
| 192 | | | | ふつう | 脚部斜方向のヘラミガキ | | |
| 82 | | | | | | | |
| 16住 | 高坏 | | | 暗褐 | ヘラミガキ | | 16住No18 |
| 193 | | | | 良好 | 見込部ヘラミガキ，脚部横方向のヘラミガキ | | |
| 82 | | | | | | | |
| 16住 | 台付甕 | 底1/2 | | 橙褐 | ナデ | | 16住フク土 |
| 194 | | | | 良好 | ナデ | | 841225 |
| 82 | | | 5.8 | | | | 16-13 |
| 16住 | 台付甕 | 底1/4 | | 黄褐 | 端部ナデ，脚部ハケ目 | | 16住北東 |
| 195 | | | | 良好 | 端部ハケ目，脚部ナデ | | 841224 |
| 82 | | | 6.7 | | | | 16-17 |
| 16住 | 高坏？ | 脚はぼ完 | | 淡橙褐 | 摩滅 | | 16住No82 |
| 196 | | | | ふつう | ハケ目 | | |
| 82 | | | 7.4 | | | | |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16住 | 高坏 | | | 暗橙褐 | 摩滅，赤彩 | | 16住No127 |
| 197 | | | | | | | |
| 82 | | | | ややあまい | 見込部ヘラミガキ・赤彩 | | |
| 16住 | 高坏？ | 底完 | | 橙褐 | 摩滅 | | 16住No3 |
| 198 | | | | | | | |
| 82 | | | 5.6 | ややあまい | 摩滅 | | |
| 16住 | 鉢 | 底1/2 | | 暗赤褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 16住No52 |
| 199 | | | | | | | 841224 |
| 82 | | | 7.2 | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 16-14 |
| 16住 | 鉢 | 口完<br>底完 | 4.6 | 橙褐 | 横方向のヘラミガキ→円形浮文，赤彩 | | 16住No11 |
| 200 | | | 12.4 | | | | |
| 82 | | | 6.0 | ふつう | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | |
| 16住 | 鉢 | 底1/4 | | 明橙褐 | 横方向のヘラミガキ→円形浮文，赤彩 | | 16住No49 |
| 201 | | | | | | | |
| 82 | | | 6.0 | ふつう | 上半ナデ，下半ヘラミガキ | | |
| 16住 | 鉢？ | 口1/3 | | 灰褐 | ナデ | 全体に摩滅 | 16住フク土 |
| 202 | | | 16.0 | | | | 841223 |
| 82 | | | | 良好 | ナデ | | 16-5 |
| 16住 | 甕 | 底7/8 | | 黄褐 | ハケ目→一部ナデ | | 16住フク土<br>No67 |
| 203 | | | | | | | 841226 |
| 83 | | | 5.8 | 良好 | ハケ目 | | 16-6 |
| 17住 | 壺 | 口1/12 | | 淡橙褐 | 口唇部縄文，ハケ目→頸部沈線・波状文，胴上部ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 17住No1 |
| 204 | | | 15.5 | | | | 850108 |
| 83 | | | | 良好，硬質 | 口頸部横方向のヘラミガキ，胴部板状工具によるナデ | | 17-1 |
| 18住 | 壺 | 口1/2<br>底完 | 10.6 | 黒褐 | 胴中央部は横，他は縦方向のヘラミガキ | | 18住No17 |
| 205 | | | 6.8 | | | | |
| 83 | | | 5.4 | 良好 | 摩滅 | | |
| 18住 | 壺 | | | 赤～淡黄褐 | 口縁櫛描波状文，ハケ目→頸部横線・櫛描波状文・簾状文，頸部以下赤彩 | | 18住No21フク土 |
| 206 | | | | | | | 841228 |
| 83 | | | | 良好，硬質 | 口縁部ハケ目，板状工具によるナデ，口縁部赤彩 | | 18-10 |
| 18住 | 壺 | 底完 | | 灰橙褐 | 頸部簾状文・山形文，胴部ハケ目→ヘラミガキ | | 18住No21・22・32 |
| 207 | | | | | | | 841230 |
| 83 | | | 9.0 | やや良 | 上半ナデ，下半ハケ目 | | 18-19 |
| 18住 | 壺 | | | 橙褐 | 頸部縄文→横線，胴部ハケ目→ヘラミガキ | | 18住 |
| 208 | | | | | | | 841227 |
| 83 | | | | 良好 | ハケ目 | | 18-20 |
| 18住 | 壺 | 底完 | | 黄褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 18住No34・36 |
| 209 | | | | | | | 841230 |
| 84 | | | 9.8 | 良好 | ハケ目 | | 18-9 |
| 18住 | 壺 | | | 黒褐 | 頸部縄文→横線，胴部ハケ目→ヘラミガキ | | 18住No37 |
| 210 | | | | | | | 841230 |
| 84 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | 18-18 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18住 | 壺 | 口1/10 | | 淡茶 | ヘラミガキ→頸部横線・横描波状文 | | 18住フク土 |
| 211 | | | 13.9 | 良好，硬質 | 口縁縄文，頸部ハケ目→ナデ | | 841222 |
| 84 | | | | | | | 18-12 |
| 18住 | 壺 | 口ほぼ完 | | 淡明褐 | 頸部縄文，口縁・胴部ヘラミガキ | | 18住No40 |
| 212 | | | 10.2 | 良好 | 口縁ヘラミガキ，胴部工具ナデ | | |
| 84 | | | | | | | |
| 18住 | 壺 | 底1/4 | | 暗褐 | 上半横の羽状条痕，下半ハケ目→ヘラミガキ | | 18住No20 |
| 213 | | | | 良好 | ヘラミガキ？（摩滅） | | 841230 |
| 84 | | | 7.8 | | | | 18-8 |
| 18住 | 壺 | 口1/3 | | 暗褐 | 口唇部刻み，頸部簾状文→胴部横の羽状条痕 | | 18住No34 |
| 214 | | | 18.4 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841230 |
| 84 | | | | | | | 18-3 |
| 18住 | 壺 | 口1/9 | | 暗褐 | 口唇部刻み，頸部簾状文，胴部横の羽状条痕 | | 18住No34フク土 |
| 215 | | | 24.0 | 良好 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ | | 841229～30 |
| 84 | | | | | | | 18-5 |
| 18住 | 壺 | 口1/2 | | 黄褐 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部ハケ目→縦の羽状条痕 | | 18住No11 |
| 216 | | | 18.4 | 良好 | 縦方向のヘラミガキ | | 841230 |
| 84 | | | | | | | 18-6 |
| 18住 | 壺 | 底ほぼ完 | | 明橙褐 | 縦方向のヘラミガキ | | 18住No15 |
| 217 | | | | ふつう | 横方向のヘラミガキ | | |
| 84 | | | 7.0 | | | | |
| 18住 | 壺 | 底完 | | 橙褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 18住フク土 |
| 218 | | | | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841228 |
| 84 | | | 7.6 | | | | 18-4 |
| 18住 | 壺 | 口1/4<br>底完 | | 黄褐～橙褐 | 口唇部縄文，口縁縄文→ヘラによる刻み，ハケ目→頸部簾状文・胴部横の羽状条痕・胴下部ヘラミガキ | | 18住No34フク土<br>841230<br>841228 |
| 219 | | | 28.0 | 良好 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | |
| 85 | | | 12.4 | | | | 18-21 |
| 18住 | 壺 | 口3/4<br>底3/4 | 11.3 | 暗茶褐 | 胴部櫛描斜線文，胴下部ヘラミガキ | | 18住No14 |
| 220 | | | 14.5 | ややもろい | ハケ目→ナデ | | |
| 85 | | | 6.3 | | | | |
| 18住 | 壺 | 口ほぼ完<br>底完 | 7.7 | 暗橙褐 | 口唇部刻み，頸部簾状文，胴部縦方向のヘラミガキ | | 18住No18 |
| 221 | | | 10.0 | ふつう | 摩滅 | | |
| 85 | | | 4.2 | | | | |
| 18住 | 壺 | 口1/4 | | 暗褐 | 口縁ヨコナデ，頸部簾状文，胴部ハケ目→縦の羽状条痕 | | 18住No19 |
| 222 | | | 14.0 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841230 |
| 85 | | | | | | | 18-7 |
| 18住 | 壺 | 口5/6<br>底完 | 9.2 | 暗灰褐 | 口唇部縄文，口縁・胴部櫛描波状文，胴下部縦・斜方向のヘラミガキ | | 18住No16 |
| 223 | | | 12.1 | ややもろい | ナデ・ヘラミガキ | | |
| 85 | | | 5.7 | | | | |
| 18住 | 壺 | 口1/3 | | 暗褐 | 口唇部縄文，胴部櫛描波状文 | | 18住フク土 |
| 224 | | | 13.4 | 良好 | ヘラミガキ | | 841229 |
| 85 | | | | | | | 18-2 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18住 | 甕 | 口1/4 | | 暗褐 | 口縁・胴部櫛描波状文 | | 18住№12 |
| 225 | | | 12.4 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 841230 |
| 85 | | | | | | | 18-1 |
| 18住 | 不明 | | | 暗褐 | ハケ目もしくは棒状工具によるナデ | | 18住№26 |
| 226 | | | | | | | 841230 |
| 85 | | | | 良好，硬質 | ナデ | | 18 17 |
| 18住 | 壺？ | 口1/5 | | 淡茶褐 | 口唇部縄文，胴中央部縄文・他は板状工具によるナデ→横線 | 広口壺か？ | 18住№37 |
| 227 | | | 24.5 | | | | 841230 |
| 86 | | | | 良好，硬質 | 板状工具によるナデ | | 18-11 |
| 18住 | 鉢 | 口1/10 | | 赤～淡黄 | 口唇・口縁部縄文，横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 18住№13 |
| 228 | | | 10.9 | | | | 850109 |
| 86 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ・口縁部赤彩 | | 18-16 |
| 18住 | 鉢 | 口1/5 | | 赤 | ハケ目→横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 18住№19 |
| 229 | | | 12.2 | | | | 841230 |
| 86 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 18-15 |
| 18住 | 台付甕？ | 底1/6 | | 暗褐 | 縦方向のヘラミガキ，脚部ナデ | | 18住フク土 |
| 230 | | | | | | | 850110 |
| 86 | | | 4.6 | 良好，硬質 | ナデ | | 18-14 |
| 18住 | 台付甕 | 底1/4 | | 淡茶灰 | ナデ | | 18住№39 |
| 231 | | | | | | | 841230 |
| 86 | | | 8.1 | 良好，硬質 | ナデ | | 18-13 |
| 23住 | 壺 | 口1/8 | | 淡橙褐 | 口唇部縄文，ハケ目→波状文・横線 | | 23住フク土検<br>851022<br>851112 |
| 232 | | | 19.4 | 良好 | ハケ目 | | |
| 86 | | | | | | | 23-3 |
| 23住 | 甕 | 口1/6 | | 黄褐 | 口唇部縄文，口縁部ハケ目，胴部簾状文・縄文→沈線 | | 23住 |
| 233 | | | 13.6 | 良好 | ハケ目→ナデ | | 851031 |
| 86 | | | | | | | 23-4 |
| 23住 | 甕 | | | 淡黄～暗褐 | 胴上部櫛描横帯文，胴中央部棒状工具による横線・波状文・刺突文 | | 23住№4？フク土<br>851022 |
| 234 | | | | 良好，硬質 | ハケ目 | | |
| 86 | | | | | | | 23-1 |
| 23住 | 鉢 | 口1/8 | | 黄～赤褐 | 摩滅，赤彩 | | 23住フク土 |
| 235 | | | 7.8 | 不良 | ハケ目，赤彩 | | 851030 |
| 86 | | | | | | | 23-2 |
| 19住 | 甕 | 口1/3 | | 淡茶褐 | 口唇部縄文，ハケ目→縦の羽状条痕 | | 19住№3 |
| 236 | | | 21.3 | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | |
| 87 | | | | | | | 19-3 |
| 19住 | 甕 | 底完 | | 暗褐 | ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 19住ベルト |
| 237 | | | | 良好，硬質 | 横方向のハケ目→ヘラミガキ | | 850110 |
| 87 | | | 5.5 | | | | 19-2 |
| 19住 | 鉢 | 口1/2 | | 赤 | ヘラミガキ・赤彩 | | 19住フク土 |
| 238 | | | 27.4 | 良好，硬質 | ヘラミガキ・赤彩 | | 850110 |
| 87 | | | | | | | 19-1 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24住 | 壺 | 口5/6 | 40.3 | 淡橙褐 | 口唇部縄文，頸部縄文→横線・刺突，胴部ヘラミガキ | | 24住No11・12・13・14・23・25・26・28・30<br>851108 |
| 239 | | 底ほぼ完 | 14.9 | 良好 | 上半ナデ，下半ハケ目 | | |
| 87 | | | 10.6 | | | | 24-13 |
| 24住 | 壺 | | | 灰黄褐 | 頸部以上横方向のヘラミガキ，頸部縄文→波状文・沈線，文様帯以下ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 24住<br>No25-2～33-15 |
| 240 | | | | 良好 | 口縁横方向のヘラミガキ，ハケ目 | | |
| 87 | | | | | | | 24-2 |
| 24住 | 壺 | 口ほぼ完 | | 灰褐 | 口唇部縄文，口縁横方向のヘラミガキ，頸部縄文→山形沈線・刺突・刻み→横線，胴上部ハケ目→垂直横帯文・刺突文 | | 24住No27・31・32 |
| 241 | | | 15.0 | 良好 | 口頸部横方向のヘラミガキ，胴部板状工具によるナデ | | |
| 87 | | | | | | | 24-1 |
| 24住 | 壺 | 底1/6 | | 灰褐 | ハケ目 | | 24住No23<br>851108 |
| 242 | | | | 良好，堅 | ハケ目 | | |
| 88 | | | 9.7 | | | | 24-12 |
| 24住 | 甕 | | | 淡茶～黒 | ハケ目→縦の羽状条線 | | 24住No30，P4 |
| 243 | | | | 良好，硬質 | ハケ目 | | |
| 88 | | | | | | | 24-6 |
| 24住 | 壺？ | 口1/6 | | 黒褐 | 口唇部縄文，櫛描波状文→ボタン状浮文 | | 24住フク土<br>851031 |
| 244 | | | 20.2 | やや良 | ナデ→ヘラミガキ？ | | |
| 88 | | | | | | | 24-10 |
| 24住 | 甕 | 口1/4 | | 淡黄茶 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部櫛描波状文 | | 24住No7<br>851108 |
| 245 | | | 19.0 | 良好，硬質 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→ナデ | | |
| 88 | | | | | | | 24-5 |
| 24住 | 甕 | 口ほぼ完 | | 黄褐 | 口唇部縄文，頸部簾状文，胴部ハケ目→縦の羽状条線 | | 24住No3 |
| 246 | | | 17.5 | 良好 | 口縁ヨコナデ，ハケ目→ナデ | | |
| 88 | | | | | | | 24-4 |
| 24住 | 甕 | 口ほぼ完 | | 暗黄褐 | 口縁ヨコナデ，口唇部指圧痕，頸部簾状文，胴部縦の羽状条線 | | 24住No32 |
| 247 | | | 18.0 | 良好 | ハケ目→ナデ | | |
| 88 | | | | | | | 24-3 |
| 24住 | 甕 | 底1/2 | | 茶褐～黒褐 | ヘラミガキ | | 24住フク土<br>851105 |
| 248 | | | | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | |
| 88 | | | 5.0 | | | | 24-8 |
| 24住 | 高坏？ | | | 茶褐～橙褐 | ハケ目→隆帯貼り付け→刻み | | 24住No31<br>851108 |
| 249 | | | | やや悪 | 見込部ヘラミガキ，脚部ハケ目→ヘラミガキ | | |
| 88 | | | | | | | 24-11 |
| 24住 | 鉢 | 口1/2 | | 橙赤褐 | ナデ→ヘラミガキ・赤彩 | | 24住フク土<br>851031 |
| 250 | | | 11.0 | 良好，堅 | ナデ→ヘラミガキ・赤彩 | | |
| 88 | | | | | | | 24-7 |
| 24住 | 鉢 | 口1/8 | | 明橙褐 | 摩滅 | | 24住<br>851030 |
| 251 | | | 14.0 | やや良 | 横方向のヘラミガキ | | |
| 88 | | | | | | | 24-9 |
| 26住 | 甕 | 口1/5 | | 淡黄褐 | 口唇部縄文，口縁ヨコナデ，胴部横の羽状条線→頸部雑な簾状文 | | 26住フク土<br>851113 |
| 252 | | | 13.8 | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | |
| 88 | | | | | | | 26-1 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26住 | 甕 | 底4/5 | | 淡黄褐 | 縦方向のヘラミガキ | | 26住フク土 |
| 253 | | | | | | | 851113 |
| 88 | | | 6.7 | 良好，硬質 | 横・斜方向のヘラミガキ | | 26-2 |
| 29住 | 高坏 | 口1/12 | | 赤 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 29住床面 |
| 254 | | | 24.2 | | | | 851116 |
| 88 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 29-1 |
| 30住 | 甕 | 底完 | | 黒 | ハケ目→ヘラミガキ，底部ハケ目→ナデ（？） | | 30住 |
| 255 | | | | | | | 851114 |
| 88 | | | 3.1 | 良好，硬質 | 細かいハケ目，底部ナデ | | 30-1 |
| 27住 | 甕 | 口1/10 | | 淡褐 | 口縁櫛描波状文，頸部擬状文，胴部縦の羽状条痕 | | 27住フク土 |
| 256 | | | 13.6 | | | | 851112 |
| 89 | | | | 良好，硬質 | 横方向のヘラミガキ | | 27-1 |
| 27住 | 甕 | 口1/4 | | 淡茶褐 | 口縁強いヨコナデ→櫛描波状文，胴部縦の羽状条痕 | | 27住P1 |
| 257 | | | 25.8 | | | | 851024 |
| 89 | | | | 良好，硬質 | ハケ目→一部ヘラミガキ？ | | 27-2 |
| 28住 | 壺 | | | 黄褐 | 頸部ハケ目→横線・波状文，胴部ハケ目→ナデ | 外面に少量の炭化物付着 | 28住No12 |
| 258 | | | | | | | 851029 |
| 89 | | | | 良好 | ナデ | | 28-1 |
| 28住 | 甕 | 口1/3<br>底完 | 17.8 | 黒 | 口縁部横方向の強いナデ，頸部擬状文，胴部上半ハケ目→横横斜線文，胴部下半ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 28住No5 |
| 259 | | | 14.4 | | | | 851024 |
| 89 | | | 7.4 | 良好，硬質 | ハケ目→横方向のヘラミガキ | | 28-2 |
| 28住 | 壺 | 底完 | | 淡茶褐 | ハケ目→斜方向のヘラミガキ | | 28住No2 |
| 260 | | | | | | | 851029 |
| 89 | | | 9.8 | 良好，硬質 | 板状工具によるナデ | | 28-3 |
| 31住 | 高坏 | 口1/4 | | 赤 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 31住検出面 |
| 261 | | | 18.3 | | | | |
| 89 | | | | 良好，硬質 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 31-2 |
| 31住 | 高坏 | 口1/12 | | 赤 | 丁寧なヘラミガキ・赤彩 | | 31住 |
| 262 | | | 26.1 | | | | 881121 |
| 89 | | | | 良好，硬質 | 丁寧なヘラミガキ・赤彩 | | 31-5 |
| 31住 | 高坏 | 口1/10 | | 赤 | 口唇部面取り，ヘラミガキ・赤彩 | | 31住床直上 |
| 263 | | | 24.2 | | | | 851119 |
| 89 | | | | 良好，硬質 | 口縁横方向のヘラミガキ，体部斜方向のヘラミガキ・赤彩 | | 31-3 |
| 31住 | 壺 | 底1/4 | | 橙褐 | ヘラミガキ | | 31住No1 |
| 264 | | | | | | | 851129 |
| 89 | | | 8.1 | 良好，硬質 | 横方向のナデ | | 31-4 |
| 31住 | 壺 | 底1/3 | | 淡黄褐 | 縦方向のヘラミガキ | | 31住No2 |
| 265 | | | | | | | 851129 |
| 89 | | | 7.3 | 良好，硬質 | 細かいハケ目 | | 31-1 |
| 32住 | 甕 | 底完 | | 淡褐 | ハケ目→ケズリ状のナデ・一部ヘラミガキ→胴部上半縦の羽状条痕 | | 32住No2 |
| 266 | | | | | | | 851129 |
| 90 | | | 5.4 | 良好，硬質 | 横方向のハケ目，底部ナデ | | 32-1 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34住 | 壺 | 底完 | | 淡黄褐 | ハケ目→ナデ | 内・外面に黒斑 | 34住 |
| 267 | | | | | | | 851201 |
| 90 | | | 5.7 | 良好，硬質 | ナデ | | 34-1 |
| 42住 | 壺 | 口1/3 | | 黄褐 | ハケ目→ヘラミガキ | | 42住フク土 |
| 268 | | | 15.8 | 良好 | ハケ目→ヘラミガキ | | 851205 |
| 90 | | | | | | | 42-11 |
| 42住 | 壺 | 底1/2 | | 黄褐 | ナデ・赤彩 | | 42住フク土 |
| 269 | | | | やや不良 | ハケ目，底部ナデ | | 851205 |
| 90 | | | 6.4 | | | | 42-2 |
| 42住 | 壺 | 口はぼ完<br>底完 | 14.0 | 黄褐 | 口唇部縄文，口縁・胴部ハケ目→頸部刺突文・胴部上半ヘラミガキ，胴部下半ナデ | | 42住No1 |
| 270 | | | 6.3 | 良好 | 口縁部ハケ目，胴部ナデ | | |
| 90 | | | 6.0 | | | | 42-1 |
| 42住 | 壺 | 底完 | | 黄褐 | ハケ目→胴上部綱曲文・中央部棒状工具による連弧文・内部に縄文→円形浮文，下部縦方向のヘラミガキ，赤彩 | | 42住No11 |
| 271 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | |
| 90 | | | 10.7 | | | | 42-20 |
| 42住 | 壺 | 底完 | | 暗褐 | 頸部2段の籠状文，ヘラミガキ | | 42住No2 |
| 272 | | | | 良好 | ハケ目 | | 851204 |
| 90 | | | 7.4 | | | | 42-13 |
| 42住 | 壺 | 口1/4 | | 黄褐 | 口唇部縄文，ハケ目→頸部縄文・胴部ヘラミガキ | | 42住No11・68・78 |
| 273 | | | 13.2 | やや不良 | 口縁・頸部ナデ，胴部ハケ目→ナデ | | 851206 |
| 90 | | | | | | | 42-19 |
| 42住 | 壺 | 底完 | | 黄褐 | ハケ目→頸部横線→刺突文，胴部ヘラミガキ | | 42住No11.フク土 |
| 274 | | | | 良好 | 上半ハケ目→ナデ，下半ハケ目 | | 851204～5 |
| 90 | | | 11.2 | | | | 42-17 |
| 42住 | 壺 | 底3/4 | | 黄褐 | ナデ？ | | 42住No14 |
| 275 | | | | 良好 | ハケ目 | | 851205 |
| 91 | | | 8.9 | | | | 42-9 |
| 42住 | 台付甕 | 口1/9 | | 赤褐 | 口唇部縄文，口縁部棒状工具による2条の波状文，胴部コの字重ね文 | | 42住 |
| 276 | | | 18.4 | 良好 | ナデ？（摩滅） | | 851204 |
| 91 | | | | | | | 42-14 |
| 42住 | 甕 | | | 赤褐 | 頸部籠状文，ハケ目→胴部櫛描斜線文 | | 42住No12 |
| 277 | | | | 良好 | ナデ，一部ハケ目 | | 851205 |
| 91 | | | | | | | 42-10 |
| 42住 | 甕 | 口4/5 | | 黄褐 | 口唇部縄文，口縁・胴部ハケ目→櫛描波状文，胴下部縦方向のヘラミガキ | | 42住フク土 |
| 278 | | | 18.6 | 良好 | 口縁部横方向のヘラミガキ，胴部ナデ | | 851205 |
| 91 | | | | | | | 42-18 |
| 42住 | 台付甕 | 底1/4 | | 暗褐 | 縦方向のヘラミガキ，脚部ナデ | | 42住フク土 |
| 279 | | | | 良好 | 底部ハケ目，脚部ナデ | | 851205 |
| 91 | | | 6.6 | | | | 42-7 |
| 42住 | 台付甕 | | | 暗褐 | 縦方向のヘラミガキ | | 42住フク土 |
| 280 | | | | 良好 | 底部ナデ，脚部ハケ目 | | 851204 |
| 91 | | | | | | | 42-8 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 42住 | 高坏 | 底1/6 | | 黄褐 | ハケ目→ヘラミガキ？・赤彩 | | 42住No13 |
| 281 | | | | | | | 821205 |
| 91 | | | 7.9 | 良好 | 見込部ナデ，脚部ハケ目 | | 42-6 |
| 42住 | 壺 | 底1/3 | | 灰褐 | ナデ，赤彩 | | 42住フク土 |
| 282 | | | | | | | 851205 |
| 91 | | | 5.5 | 良好 | ナデ | | 42-3 |
| 42住 | 鉢 | 口破片<br>底1/6 | 5.4 | 赤褐 | ナデ，赤彩 | | 42住フク土 |
| 283 | | | 14.2 | | | | 851205 |
| 91 | | | 7.0 | 良好 | ナデ，赤彩 | | 42-4 |
| 42住 | 鉢 | 口1/10 | | 橙褐 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 42住フク土 |
| 284 | | | 21.9 | | | | 851205 |
| 91 | | | | 良好 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 42-15 |
| 43住 | 甕 | 口完 | | 黄褐 | 口縁部ハケ目→ナデ，頸部ハケ目→指描波状文，胴部ハケ目→ナデ | 内面頸部以下に炭化物付着<br>炉体上器 | 43住 |
| 285 | | | 22.5 | | | | 8512 |
| 91 | | | | 良好 | ハケ目→ナデ | | 43-1 |
| 78住 | 壺 | 口1/3 | | 薄橙 | 口唇部縄文，口縁ハケ目，→ヘラミガキ，胴部ハケ目 | | 78住フク土 |
| 286 | | | 10.0 | | | | 871003 |
| 91 | | | | 良好 | ハケ目 | | 78-2 |
| 78住 | 甕 | 口完 | | 薄橙 | 口唇部縄文，口縁部ハケ目，頸部縄文→竹管による横線・山形沈線，文様帯以下ハケ目→縦方向のヘラミガキ | | 78住トレンチ |
| 287 | | | 14.3 | 良好 | 口縁部横方向のハケ目→ヘラミガキ，頸部・胴下部ハケ目，胴上部ナデ | | 871002 |
| 91 | | | | | | | 78-1 |
| 79住 | 壺 | | | 橙褐～薄橙 | 全面斜方向のハケ目→頸部縄文→竹管による沈線→山形浮文，文様帯以下縦方向のヘラミガキ | | 79住フク土上層 |
| 288 | | | | | | | |
| 92 | | | | 良好 | ナデ | | 79-5 |
| 79住 | 壺 | 底1/3 | | 赤橙 | 胴上部ハケ目→粗いヘラミガキ，胴下部ヘラミガキ | 外面被熱で落剥著しい | 79住フク土上層 |
| 289 | | | | | | | 891008 |
| 92 | | | 7.0 | 良好 | 横方向のハケ目→横方向の粗いヘラミガキ | | 79-7 |
| 79住 | 甕 | 口1/8 | | 暗褐 | 口唇部刻み，口縁部横方向のヘラミガキ，頸部櫛状文，胴部ハケ目→縦の羽状条痕 | | 79住フク土 |
| 290 | | | 12.6 | 良好 | 横方向のハケ目→横方向のヘラミガキ | | 871013 |
| 92 | | | | | | | 79-1 |
| 79住 | 甕 | 口1/3 | | 薄橙 | 縦方向のヘラミガキ | | 79住No1 フク土 |
| 291 | | | 8.6 | 良好 | 底部付近は斜方向のヘラナデ，他は横方向のヘラミガキ | | 871014 |
| 92 | | | | | | | 79-2 |
| 79住 | 甕 | 口1/10 | | 暗橙褐 | 口縁ヨコナデ，頸部櫛描波状文，胴部縦の羽状条痕→下半ヘラミガキ | | 79住No1<br>871014<br>フク土871011 |
| 292 | | | 19.3 | 良好 | 口縁ヨコナデ→横方向のヘラミガキ，胴部ナデ→縦方向のヘラミガキ | | |
| 92 | | | | | | | 79-6 |
| 79住 | 高坏 | 底1/3 | | 薄橙 | 端部横方向・他は縦方向のヘラミガキ・赤彩 | | 79住フク上 |
| 293 | | | | | | | 871011 |
| 92 | | | 9.0 | 良好 | 上半部ナデ・オサエ，下半部ハケ目 | | 79-8 |
| 79住 | 鉢 | 口4/5<br>底5/6 | 6.0 | 赤 | ヘラミガキ・赤彩 | | 79住フク土 |
| 294 | | | 13.2 | | | | 871013 |
| 92 | | | 4.8 | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 79-4 |

| 出土地点<br>土器番号<br>図版番号 | 器種 | 残存度 | 器高<br>口径<br>底径 | 色調<br>焼成 | 外面施文・調整<br>内面調整 | 備考 | 注記<br>実測番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 79住 | 鉢 | 口1/4<br>底1/3 | 8.9 | 赤 | 口縁縄文→山形沈線，体部ヘラミガキ・赤彩 | | 79住フク土上層 |
| 295 | | | 15.8 | 良好 | ヘラミガキ・赤彩 | | 871003 |
| 92 | | | 5.4 | | | | 79-3 |
| 209土 | 壺 | 口1/2 | | 黄褐 | ハケ目→ナデ | | 土9 |
| 296 | | | 12.4 | 良好 | ナデ | | 850111 |
| 92 | | | | | | | 土9-1 |
| 208土 | 壺 | 口1/10 | 4.4 | 灰褐 | ヘラミガキ・赤彩 | | 土8 No1 |
| 297 | | | 11.3 | 良好 | ナデ，一部にハケ目 | | |
| 92 | | | | | | | 土8-1 |
| 209土 | 台付甕 | 底1/2 | | 黒褐 | ナデ | | 土9 |
| 298 | | | | 良好 | 底部ハケ目 | | 850111 |
| 92 | | | 5.4 | | | | 土9-2 |
| 340土 | 鉢 | 口1/5 | | 赤 | 横方向の丁寧なヘラミガキ・赤彩 | | 土40 |
| 299 | | | 9.6 | 良好，硬質 | 横方向の丁寧なヘラミガキ・赤彩 | | 851127 |
| 92 | | | | | | | 土40 |
| 206土 | 坩 | | | 赤褐 | ヘラミガキ・赤彩 | 土師器か？ | 集石1 |
| 300 | | | | 良好 | 板状工具によるナデ | | 84 |
| 92 | | | | | | | 集1-1 |
| 検 | 壺 | 口1/5 | | 橙褐 | 口縁ヨコナデ | | 表サイ |
| 301 | | | 13.5 | 良好，硬質 | 細かいハケ目 | | 851202 |
| 92 | | | | | | | 検-1 |
| 202溝 | 高坏？ | 口1/10 | | 灰黄褐 | 横方向のヘラミガキ・赤彩 | | 溝2 P1 |
| 302 | | | 23.4 | やや不良 | 横方向のヘラミガキ | | 850111 |
| 92 | | | | | | | 溝2-1 |
| 303溝 | 台付甕？ | | | 暗褐 | ナデ→縦方向のヘラミガキ | | 溝3 No1 |
| 303 | | | | 良好，硬質 | ハケ目 | | 851112 |
| 92 | | | | | | | 溝3 |
| 304溝 | 高坏 | 底1/5 | | 淡茶褐 | 縦方向のヘラミガキ，端部横方向のヘラミガキ，赤彩 | 三角形透かし | 溝4 |
| 304 | | | | 良好，硬質 | 下部ハケ目，上部ナデ | | 851130 |
| 92 | | | 11.0 | | | | 溝4 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

# 第9表　古墳時代土器観察表

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 108 | 1 | 42住 | H | 坏 | | 9.0 | | | 橙褐 | 黒 | 外面ナデ、内面ミガキ | 41、42住 8512 | 5 |
| | 2 | 58住 | H | 甑 | | 8.3 | | (1/6) | 赤褐 | 赤褐 | 斜め方向と縦位のミガキ、端部横位のミガキ | 58住検 870915 | 23 |
| | 3 | 61住 | H | 坏 | 11.9 | | | 1/8 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、体部外面ミガキ・下半手持ちヘラケズリ・内面ミガキ | 61住フク上 871002 | 5 |
| | 4 | 61住 | H | 坏 | 13.4 | | | 1/5 | 暗赤褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、体部外面上半ミガキ・下半手持ちヘラケズリ後一部ミガキ・内面ミガキ、内黒 | 61住フク土 871002 | 2 |
| | 5 | 61住 | H | 坏 | 11.6 | | | 1/6 | 橙褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、体部内外面ミガキ、内黒 | 61住No6 871011 | 3 |
| | 6 | 61住 | H | 坏 | 11.4 | — | 7.6 | 1/3(完) | 黄褐～橙褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、体部外面上半ミガキ・部ハケ目後ミガキ・内面板状工具によるナデ、内黒 | 61住No4 871010 | 4 |
| | 7 | 61住 | H | 壺 | 14.7 | | | 1/12 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 61住フク土 871002 | 7 |
| | 8 | 61住 | H | 壺? | 15.8 | | | 1/8 | 淡黄褐 | 淡橙褐 | 口縁ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデ | 61住フク上 871002 | 8 |
| | 9 | 61住 | H | 甕 | | 3.7 | | (1/2) | 淡黄褐 | 淡黄褐 | ナデ（板状工具によるものか？） | 61住ベルト 871002 | 6 |
| | 10 | 61住 | H | 甕 | | 8.0 | | (1/2) | 淡黄～淡褐 | 淡黄 | 外面ナデ、内面板状工具によるナデ、木葉底、底部ドーナツ状 | 61住No5 871010 | 9 |
| | 11 | 63住 | H | 坏 | 15.6 | | 6.1 | 2/3(完) | 橙褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、底部手持ちヘラケズリ後ミガキ、内黒 | 63住P1 No1 871005 | 1 |
| | 12 | 63住 | H | 壺 | 14.8 | | | 1/4 | 橙褐 | 淡黄褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 63住トソウ 870920 | 2 |
| | 13 | 64住 | H | 坏 | 11.7 | | | 1/10 | 淡黄 | 淡黄 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、体部外面下半手持ちヘラケズリ後ミガキ | 64住フク上 870910 | 2 |
| | 14 | 64住 | H | 坏 | 8.2 | | | 1/8 | 黄橙～黒 | 黒 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、内黒 | 64住ベルト 870922 | 1 |
| | 15 | 64住 | H | 坏 | 12.3 | — | 6.8 | 底片(完) | 淡橙褐 | 淡橙褐～淡暗褐 | 口縁ヨコナデ、外面ミガキ、内面ケズリ？後ミガキ、底部手持ちヘラケズリ後ミガキ | 64住No3 870923 | 5 |
| | 16 | 64住 | H | 坏 | 15.6 | | | 1/8 | 橙褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、体部外面下半煤煙、内黒 | 64住フク土 870920 | 3 |
| 108 | 17 | 64住 | H | 坏 | 12.3 | | 5.7 | 3/4(完) | 暗褐 | 黒(一部暗褐) | 口縁ヨコナデ、内外面ハケ目後ミガキ、底部手持ちヘラケズリ後ミガキ、内黒 | 64住No2 870923 | 4 |
| 109 | 18 | 64住 | H | 甕 | 25.5 | 7.0 | 20.8 | 3/4(1/8) | 淡橙褐～黒 | 淡橙褐 | 口縁ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケ目？、胴部内外面ハケ目後ミガキ | 64住No7-9-11、カマド内 | 9 |
| | 19 | 64住 | H | 甕 | 23.0 | 7.7 | 24.0 | 3/4(完) | 橙褐～黒 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ハケ目 | 64住No8 | 8 |
| | 20 | 64住 | H | 鉢 | 6.9 | — | 8.0 | 完存 | 橙褐 | 淡橙褐～黒 | 口縁ヨコナデ後ミガキ、胴部外面ミガキ・内面ナデ・指圧痕、底部ケズリ？ | 64住No1 | 6 |
| | 21 | 64住 | H | 蓋 | 16.0 | | | 1/8 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ハケ目後ミガキ | 64住フク土 870910 | 7 |
| | 22 | 65住 | H | 坏 | 10.8 | 2.6 | 4.2 | 1/12(1/6) | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、体部外面上半ナデ・下半一底部下持ちヘラケズリ・内面ミガキ、底部ナデ | 65住No8？ 870927 | 7 |
| | 23 | 65住 | H | 坏 | 12.9 | | 6.8 | 1/2(2/3) | 淡灰～淡橙 | 淡灰～淡橙 | 口縁ヨコナデ、体部外面ミガキ？・内面板状工具によるナデ後ミガキ、底部手持ちヘラケズリ | 65住No1 870927 | 4 |
| | 24 | 65住 | H | 坏 | 15.0 | | | 1/6 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、体部内外面ハケ目後ミガキ | 65住フク土検出面 870922 | 6 |
| 109 | 25 | 65住 | H | 甕 | 18.5 | | | 1/15 | 暗橙褐 | 暗橙褐 | 口縁ヨコナデ・内面ミガキ、体部外面ミガキ？・内面ミガキ | 65住No7 870927 | 12 |
| 110 | 26 | 67住 | H | 坏 | 20.2 | | | 1/6 | 淡褐～橙褐 | 淡褐 | 口縁ヨコナデ、外面ミガキ？、内面ハケ目もしくはナデ後一部ミガキ | 67住フク土 870921 | 7 |
| | 27 | 68住 | S | 鉢 | 10.6 | | | 1/12 | 灰 | 灰 | ロクロナデ？ | 68住ベルト 870927 | 8 |
| | 28 | 68住 | H | 坏 | | — | | (1/3) | 橙～淡黄褐 | 黒 | 内面ミガキ、底部ヘラケズリ後ミガキ、内黒 | 68住フク土 870923 | 14 |
| | 29 | 68住 | H | 壺 | 9.2 | | | 1/5 | 橙 | 淡橙 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 68住フク土 870923 | 12 |
| | 30 | 69住 | S | 坏？ | 8.1 | | | 1/5 | 暗灰 | 灰 | ロクロナデ、外面に連弧文、内面に自然釉 | 69住フク土 870927 | 7 |
| 110 | 31 | 71住 | H | 坏 | 11.2 | 5.9 | 4.5 | 1/6(2/3) | 淡橙 | 淡橙 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、底部ヘラケズリ後ナデ後ミガキ | 71住フク上 871004 | 6 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 110 | 32 | 71住 | H | 坏 | 13.8 | | | 1/8 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、外面ミガキ、内面摩滅 | 71住フク上 871004 | 3 |
| | 33 | 71住 | H | 坏 | 11.9 | | | 1/8 | 淡茶褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、外面ミガキ？、内面ケズリ後ミガキ、内黒 | 71住フク中 870922 | 2 |
| | 34 | 71住 | H | 坏 | 13.2 | | | 1/4 | 淡茶褐 | 黒 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ、内黒 | 71住フク中 871004 | 1 |
| | 35 | 71住 | H | 坏 | 12.5 | | | 1/5 | 茶褐 | 暗褐 | 口縁ヨコナデ、外面摩滅、内面ミガキ | 71住フク土 870922 | 4 |
| | 36 | 71住 | H | 坏 | 14.3 | | | 1/5 | 淡橙 | 黄橙～黒 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 71住フク中 871004 | 5 |
| | 37 | 71住 | H | 坏 | 19.5 | | | 1/6 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 71住フク土 871004 | 9 |
| | 38 | 71住 | H | 坩 | 7.8 | | | 1/6 | 淡橙褐 | 黒 | 内外面ミガキ、内黒 | 71住フク土 871004 | 12 |
| | 39 | 71住 | H | 高坏 | | | | 坏部破片 | 淡橙 | 淡橙 | 内外面ミガキ | 71住 871004 | 11 |
| 110 | 40 | 71住 | H | 高坏 | | 14.0 | | 1/4 | 淡茶褐 | 淡黄褐 | 外面ミガキ、脚部端部～内面ヨコナデ | 71住フク土 871004 | 10 |
| 111 | 41 | 71住 | H | 壺 | 13.9 | | | 1/8 | 橙褐 | 暗黄灰 | 外面肩より上ヨコナデ後ミガキ・肩より下ハケ目後ミガキ、内面摩滅 | 71住フク上 871004 | 13 |
| | 42 | 71住 | H | 甕 | 16.8 | | | 1/10 | 淡橙褐 | 淡橙褐～黒 | 口縁ヨコナデ、胴部内外面ナデ、口縁内面に斜め方向の擬板 | 71住フク土 870923 | 14 |
| | 43 | 71住 | H | 甕 | | 3.8 | | (1/2) | 淡褐～暗褐 | 淡茶褐 | 外面ナデ、内面ハケ目、底部ナデ後一部ミガキ？・内面ナデ | 71住フク土 871004 | 15 |
| | 44 | 71住 | H | 坏 | 18.2 | | | 1/5 | 暗褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 71住フク土 871004 | 8 |
| | 45 | 71住 | H | 鉢 | | 7.6 | | (1/2) | 橙 | 橙 | 内外面ミガキ、底部内面ケズリ | 71住フク上 871004 | 7 |
| | 46 | 83住 | H | 壺 | 14.1 | | | 1/10 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ、内外面ミガキ | 83住フク土 871013 | 2 |
| | 47 | 206土 | H | 坏 | 12.4 | | | 1/5 | 暗黄褐 | 黒～黄褐 | 内外面ミガキ、内黒 | 集GT 841213 | 集1 2 |
| | 48 | Ⅲ次検 | H | 壺 | | 2.9 | | (1/3) | 淡橙茶 | 淡橙茶 | 胴部外面ハケ目・内面ナデ、底部ナデ | 検出面 851128 | 検-2 |
| | 49 | Ⅳ次検 | H | 高坏 | | | | 脚部1/2 | 橙褐 | 橙褐 | 外面縦位のミガキ、内面ナデ、内面にしぼり痕 | 検出面 861025 | 検Ⅳ-11 |
| | 50 | Ⅴ次検 | H | 高坏 | | | | 脚部破片 | 淡褐 | 黄橙 | 外面縦位のミガキ、内面ナデ | 検出面 870910 | 検-20 |
| | 51 | Ⅴ次検 | H | 高坏 | | 13.5 | | (2/3) | 橙褐 | 明橙 | 外面縦位のミガキ、内面ナデ | 検出面 870910 | 検-19 |
| 111 | 52 | Ⅴ次検 | H | 壺？ | 23.4 | | | 1/8 | 灰褐 | 灰褐 | 口縁ヨコナデ、外面ミガキ、内面ナデ後ミガキ | 検出面 870910 | 検 15 |

# 第10表　奈良・平安時代土器観察表

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 112 | 1 | 8住 | H | 坏 | 11.5 | 4.5 | 2.5 | 1/5(1/3) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ？ | 8住東西ベルト 850108 | 4 |
| | 2 | 8住 | K | 椀？ | 13.7 | | | 1/8 | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、口縁強いヨコナデ、漬け掛け | 8住カクラン 841219 | 1 |
| | 3 | 8住 | K | 段皿 | 10.7 | | | 1/3 | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、口縁強いヨコナデ、漬け掛け | 8住 | 2 |
| | 4 | 8住 | K | 椀 | | 6.5 | | (1/12底) | 淡白黄 | 淡白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 8住カクラン 841229 | 3 |
| | 5 | 12住 | K | 椀 | | 7.6 | | (1/2) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、重ね焼痕、刷毛塗り | 12住カクラン 841225 | 9 |
| | 6 | 16住 | H | 羽釜 | | | | | 赤褐 | 黄褐 | ナデ | 16住 841226 | 16 |
| | 7 | 22住 | H | 坏D | 11.2 | 5.0 | 3.1 | 1/5(1/3) | 明橙 | 明橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 22住 850417 | 1 |
| | 8 | 22住 | H | 坏D | 12.5 | 5.1 | 3.4 | 3/5(完) | 黄土 | 黄土 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 22住 850417 | 2 |
| | 9 | 22住 | H | 椀A | 14.4 | | | 1/3 | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、暗文 | 22住 850417 | 4 |
| | 10 | 22住 | H | 椀C | 14.2 | 7.0 | 5.6 | (1/3底)(完) | 明橙 | 明橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 22住 850417 | 3 |
| | 11 | 34住 | K | 椀 | | 6.7 | | (1/3) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、付け高台後ナデ、底部回転ヘラケズリ、漬け掛け | 34住区域外表採 851121 | 2 |
| | 12 | 38住 | K | 椀 | | 5.9 | | (完) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、付け高台後ナデ、漬け掛け、底部に墨書 | 38住フク土 851130 | 1 |
| 112 | 13 | 42住 | K | 段皿 | 12.6 | 7.5 | 2.2 | 1/4(1/5) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り | 42住検出面 8512 | 12 |
| 113 | 14 | 44住 | H | 坏D | | 5.7 | | (完) | 橙～暗褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 44住No20 861107 | 9 |
| | 15 | 44住 | H | 坏D | 12.0 | 5.3 | 3.5 | 1/6(1/4) | 明赤褐 | 明橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 44住No18 861106 | 5 |
| | 16 | 44住 | H | 坏D | 11.1 | 5.6 | 4.0 | 1/6 | 淡黄褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 44住北東隅 861104 | 6 |
| | 17 | 44住 | H | 椀B | | 8.0 | | (3/4) | 暗赤褐 | 黄褐～暗黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台 | 44住フク土 | 8 |
| | 18 | 44住 | H | 椀B | 15.7 | 9.0 | 6.4 | 1/4(1/3底)(完) | 赤褐～暗黄褐 | 赤褐 | ロクロナデ、付高台 | 44住No4 861030 | 7 |
| | 19 | 44住 | H | 椀A？ | 13.1 | | | 1/5 | 橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、内黒 | 44住フク土 861031 | 2 |
| | 20 | 44住 | H | 椀A | 13.8 | 7.9 | 5.0 | 1/3(1/4) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、付高台、内黒 | 44住No23 861112 | 1 |
| | 21 | 44住 | H | 坏C | 16.0 | 7.7 | 5.7 | 1/5(1/4) | 暗褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 44住南西フク土 861031 | 3 |
| | 22 | 44住 | H | 坏C | 20.4 | 9.0 | 8.8 | 1/6(1/12) | 明赤褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 44住フク土 861031 | 4 |
| | 23 | 44住 | H | 台付鉢 | | 11.9 | | (1/8) | 赤褐 | 暗～黄褐 | ロクロナデ、外面一内面の穿孔 | 44住フク土 861028 | 10 |
| | 24 | 44住 | H | 台付鉢 | (23.0) | | | 1/10 | 黄褐 | 赤褐 | ロクロナデ | 44住フク土 861028 | 18 |
| | 25 | 44住 | R | 壺か甕 | | 6.8 | | (1/4) | 明褐緑 | 明褐緑 | 底部回転ヘラケズリ、付高台 | 44住ＮＥ壁際、カマド上 | 19 |
| | 26 | 44住 | R | 皿？ | | 6.4 | | (1/5) | 褐緑灰 | 褐緑灰 | 体部内面ロクロナデ後横方向のミガキ、外面下半ロクロナデ後回転ヘラケズリ | 44住ＳＷフク | 20 |
| | 27 | 44住 | R | 鉢？ | | | | | 明黄灰 | 明淡緑 | ロクロナデ、体部外面回転ヘラケズリ | 44住５Ｗフク | 21 |
| | 28 | 44住 | K | 皿 | | 8.2 | | (1/5) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り、重ね焼転 | 44住ﾌｸ土 861030 | 16 |
| | 29 | 44住 | K | 椀 | 13.7 | 7.0 | 4.4 | 1/3(1/2) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、刷毛塗り | 44住No10 861104 | 11 |
| | 30 | 44住 | K | 椀？ | 16.3 | | | 1/2 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、刷毛塗り | 44住No15、フク土 | 12 |
| 113 | 31 | 44住 | K | 椀 | | 8.6 | | (完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、刷毛塗り、底部炭化物付着 | 44住No14 861105 | 13 |

| 図番号 | 土器No | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 113 | 32 | 44住 | K | 皿 | | 8.7 | | (ほぼ完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台 | 44住No1 861028 | 14 |
| | 33 | 44住 | K | 鉢? | 17.4 | | | 1/10 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ | 44住フク土 861030 | 17 |
| 113 | 34 | 44住 | K | 長頸瓶 | 10.2 | | | 1/6 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ | 44住フク土 861030 | 15 |
| 114 | 35 | 45住 | H | 皿A | | 4.4 | | (完) | 黒 | 黒 | 見込部ヘラミガキ、底部回転糸切り、付高台、内黒 | 45住フク土 861030 | 12 |
| | 36 | 45住 | H | 坏D | 11.8 | 5.8 | 3.3 | 1/3(ほぼ完) | 赤褐 | 赤褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住フク土 861029 | 4 |
| | 37 | 45住 | H | 坏D | 12.0 | | | 1/4 | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ | 45住フク上 861030 | 7 |
| | 38 | 45住 | H | 坏D | 12.6 | 5.8 | 3.5 | 1/3(完) | 赤褐 | 赤褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住フク土 861029, 1031 | 3 |
| | 39 | 45住 | H | 坏D | 12.2 | 5.8 | 3.4 | 1/9(3/4) | 灰赤褐 | 灰赤褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住フク上 861030 | 8 |
| | 40 | 45住 | H | 坏D | 13.6 | | | 1/4 | 赤褐 | 赤褐 | ロクロナデ | 45住フク土 861030 | 6 |
| | 41 | 45住 | H | 坏D | 12.6 | 6.0 | 4.3 | 1/2(1/2) | 灰褐 | 灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住No6 861101 | 2 |
| | 42 | 45住 | H | 坏D | 13.2 | 4.8 | 3.9 | 1/2(完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住No10 861114 | 1 |
| | 43 | 45住 | H | 坏 | 12.2 | 4.4 | 4.7 | 1/4(1/10) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 45住フク土 861114 | 5 |
| | 44 | 45住 | H | 耳皿 | | 3.5 | | (完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住No4 861101 | 19 |
| | 45 | 45住 | H | 小形甕 | 7.4 | 5.6 | 6.2 | 1/3(1/2) | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ | 45住ベルト内、P2、3内 | 9 |
| | 46 | 45住 | H | 甕E | | 7.4 | | (3/4) | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住フク土 861030 | 10 |
| | 47 | 45住 | H | 甕E | | 8.1 | | (3/4) | 灰黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 45住ベルト 861031 | 11 |
| | 48 | 45住 | H | 高台 | | 15.0 | | (1/5) | 赤褐 | 赤褐 | ロクロナデ | 45住南東フク土 861029 | 18 |
| | 49 | 45住 | K | 鉢? | | 7.9 | | (ほぼ完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕 | 45住フク土 861101 | 16 |
| | 50 | 45住 | K | 皿 | 13.4 | 6.6 | 2.4 | 1/8(1/2) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕 | 45住No8 861101 | 13 |
| | 51 | 45住 | K | 皿 | 13.8 | 7.0 | 2.7 | 1/10(2/3) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕 | 45住No2 861101 | 14 |
| | 52 | 45住 | K | 椀 | 14.0 | 7.3 | 3.8 | 1/7(1/3) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕 | 45住フク上 861113 | 15 |
| 114 | 53 | 45住 | H | 壺E | 23.3 | 10.0 | (26.0) | 1/6(1/3) | 黄褐 | 暗褐 | 口縁ヨコナデ・内面ナデ、体部内面ナデ・外面ハケ目のちナデ | 45住No3、床、フク土 | 17 |
| 115 | 54 | 46住 | S | 坏D | 12.8 | 6.4 | 3.8 | 1/2(ほぼ完) | 明褐灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、底部回転糸切り | 46住No17 861106 | 6 |
| | 55 | 46住 | S | 坏E | 12.2 | 5.8 | 3.7 | 完 | 明橙灰 | 明褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 46住No12 861106 | 2 |
| | 56 | 46住 | S | 坏E | 11.0 | 4.6 | 4.2 | 1/10(完) | 明褐灰 | 明灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 46住フク土 861031 | 3 |
| | 57 | 46住 | S | 坏D | 12.2 | 6.0 | 3.2 | 1/3(完) | 暗橙灰 | 明橙灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 46住フク土 861106 | 1 |
| | 58 | 46住 | S | 甕 | | 7.8 | | (1/2) | 明灰 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面タタキ目 | 46住No1 861106 | 20 |
| | 59 | 46住 | S | 甕 | | 13.4 | | (1/5) | 明灰白 | 暗紫灰 | 内面ナデ、体部外面タタキ目 | 46住No14 861106 | 19 |
| | 60 | 46住 | H | 坏D | 11.8 | 5.0 | 3.7 | 1/12(1/3) | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 46住フク土 861030 | 5 |
| | 61 | 46住 | H | 坏D | 11.8 | 6.0 | 3.9 | 1/8(2/5) | 明褐灰 | 明黄褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 46住フク上 861013 | 4 |
| 115 | 62 | 46住 | H | 坏C | 12.2 | 5.6 | 3.6 | 1/4(1/4) | 明黄灰 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内黒 | 46住フク土 861030 | 7 |

| 図版No. | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法 (cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 115 | 63 | 46住 | H | 坏C | 13.8 | 6.4 | 4.0 | 1/6(ほぼ完) | 明黄灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 46住フク土 861030 | 10 |
| | 64 | 46住 | H | 坏C | 14.8 | 7.0 | 4.5 | 1/10(1/2) | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 46住フク上 861030 | 8 |
| | 65 | 46住 | H | 皿A | 14.0 | 7.0 | 2.9 | 1/2(完) | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、付高台、内黒 | 46住No21 861111 | 9 |
| | 66 | 46住 | H | 椀A | | 5.0 | | (完) | 明褐灰 | 暗灰 | ロクロナデ、体部内面放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、付高台、内黒 | 46住No13 861106 | 11 |
| | 67 | 46住 | H | 鉢 | | | | 破片 | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ヘラミガキ、内黒 | 46住フク土 861030 | 25 |
| | 68 | 46住 | H | 鉢 | | | | 破片 | 暗黄灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ヘラミガキ、内黒 | 46住フク土 861031 | 24 |
| | 69 | 46住 | H | 壺 | 18.1 | | | 1/10 | 橙褐 | 暗橙褐 | ロクロナデ | 46住フク土 | 26 |
| | 70 | 46住 | K | 竈の蓋 | 11.6 | — | | 1/5 | 明緑灰白 | 明黄灰 | ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ | 46住フク土、I区検 | 22 |
| | 71 | 46住 | K | 皿 | | 6.4 | | (1/8) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部ヘラケズリ、付高台、見込部に朱付着（朱墨硯に転用） | 46住フク土 861027 | 23 |
| | 72 | 46住 | K | 皿 | 12.2 | 6.3 | 2.5 | 1/16(1/2) | 明黄灰 | 明灰白 | ロクロナデ、底部ヘラケズリ、付高台 | 46住フク上 | 14 |
| | 73 | 46住 | K | 皿 | 12.8 | 5.6 | 2.8 | 1/8(1/2) | 明黄灰 | 明灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台、漬け掛け、重ね焼痕 | 46住フク土 861106 | 13 |
| | 74 | 46住 | K | 皿 | 17.4 | | | 1/4 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、刷毛塗り | 46住フク土 861106 | 15 |
| | 75 | 46住 | K | 皿 | 14.2 | 7.0 | 3.5 | 1/3(1/2) | 暗灰白 | 暗灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り後回転ヘラケズリ、付高台、刷毛塗り、重ね焼成 | 46住フク上 861111 | 12 |
| | 76 | 46住 | K | 皿 | 14.8 | 6.4 | 3.2 | 1/40(3/4) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、付高台、見込部に朱付着（朱墨硯に転用）、重ね焼痕 | 46住No20 861111 | 21 |
| | 77 | 46住 | K | 椀 | 16.6 | 8.0 | 4.7 | 1/10(ほぼ完) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、刷毛塗り、重ね焼痕 | 46住No19 861106 | 17 |
| | 78 | 46住 | K | 椀 | 17.0 | 9.4 | 5.0 | 1/16(3/4) | 明黄灰 | 明灰白 | ロクロナデ、付高台、刷毛塗り、底部の内外面に炭化物付着 | 46住No7 861106 | 16 |
| 115 | 79 | 46住 | K | 椀 | 19.4 | | | 1/5 | 明灰 | 明灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り | 46住フク土、集石3フク上 | 18 |
| 116 | 80 | 46住 | R | 椀か皿 | | 6.8 | | (破片) | 明緑灰 | 明緑灰 | ロクロナデ、付高台 | 46住SWフク上 | 28 |
| | 81 | 46住 | R | 椀 | 20.2 | | | 破片 | 明緑灰 | 明緑灰 | ロクロナデ、体部外面回転ヘラケズリ | 46住Eフク土 | 27 |
| | 82 | 46住 | R | 皿？ | | 6.2 | | (1/5) | 明緑灰 | 明緑灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ・内面ヘラケズリ、内底に陰刻？ | 46住ベルト内フク土、I区検 | 29 |
| | 83 | 47住 | S | 坏 | 11.6 | 5.8 | 4.2 | 1/10(1/5) | 暗赤褐 | 明赤褐 | ロクロナデ、火ダスキ | 47住フク土 861106 | 7 |
| | 84 | 47住 | S | 長頸壺 | | | | 体部1/3 | 淡青灰 | 淡青灰 | ロクロナデ | 47住フク土 861027 | 9 |
| | 85 | 47住 | H | 坏D | 10.0 | 5.0 | 3.3 | 1/4(完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 47住フク土 861025 | 8 |
| | 86 | 47住 | H | 椀A | | 7.5 | | (1/4) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内黒 | 47住フク土 861106 | 4 |
| | 87 | 47住 | H | 盤B | 10.5 | 6.0 | 3.6 | 7/8(完) | 明橙褐 | 明橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台 | 47住No11 861105 | 1 |
| | 88 | 47住 | H | 盤B | 12.5 | 7.1 | 3.5 | 2/3(3/4) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、付高台 | 47住No14 861105 | 2 |
| | 89 | 47住 | H | 甕E | 15.3 | | | 1/3 | 暗～黒褐 | 黄褐 | ロクロナデ、体部外面に炭化物付着 | 47住フク上 861029 | 3 |
| | 90 | 47住 | K | 椀か皿 | | 6.4 | | (破片) | 明灰白 | 明灰白 | 付高台 | 47住フク土 861029 | 10 |
| | 91 | 47住 | K | 椀 | 17.0 | | | 1/3 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、重ね焼痕 | 47住No2 861105 | 6 |
| | 92 | 47住 | K | 椀 | 16.2 | 8.0 | 5.4 | 2/3(完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ | 47住No1、4 861105 | 5 |
| 116 | 93 | 48住 | S | 甕 | 37.6 | | | 1/10 | 明黄灰 | 明灰 | ロクロナデ、体部外面タタキ目 | 48住No1 | 48 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 117 | 94 | 48住 | H | 椀B | | 6.0 | | (3/4) | 明褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ、付高台 | 48住No50 861112 | 34 |
| | 95 | 48住 | H | 椀Bか盤B | | 6.8 | | (完) | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、付高台 | 48住No16 | 33 |
| | 96 | 48住 | H | 椀B | | 5.4 | | (3/4) | 明黄白 | 明黄白 | ロクロナデ、付高台 | 48住フク土 851031 | 19 |
| | 97 | 48住 | H | 盤B | 10.6 | | | 1/3 | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、付高台 | 48住No32 | 8 |
| | 98 | 48住 | H | 盤B | 11.4 | | | 1/2 | 明褐灰 | 明褐白 | ロクロナデ、底部ナデ、付高台 | 48住No38 | 29 |
| | 99 | 48住 | H | 椀B | | 6.0 | | (1/3) | 暗褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台 | 48住No44 861107 | 36 |
| | 100 | 48住 | H | 盤B | 10.2 | 4.8 | 3.0 | 完(ほぼ完) | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、付高台 | 48住No7 | 10 |
| | 101 | 48住 | H | 盤B? | 10.0 | 6.0 | 2.9 | 1/2(完) | 明灰褐 | 明灰褐 | ロクロナデ、付高台、体部の一部を補修 | 48住No13 | 11 |
| | 102 | 48住 | H | 盤B | 10.4 | 5.7 | 3.5 | ほぼ完(完) | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、付高台 | 48住No10 | 9 |
| | 103 | 48住 | H | 盤B | 10.5 | 5.5 | 3.6 | 1/2(3/4) | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、付高台 | 48住No28 | 55 |
| | 104 | 48住 | H | 坏D | 10.0 | 4.7 | 3.1 | 1/16(完) | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住2区検 | 32 |
| | 105 | 48住 | H | 坏D | 9.6 | 4.2 | 3.3 | 完存 | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り | 48住No4 | 5 |
| | 106 | 48住 | H | 坏D | 10.4 | 4.8 | 2.4 | 完存 | 暗褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住No59 | 7 |
| | 107 | 48住 | H | 坏D | 9.8 | 5.0 | 2.7 | 1/2(1/2) | 明褐灰 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住検 | 30 |
| | 108 | 48住 | H | 坏D | 9.8 | 3.7 | 3.3 | 7/8(完) | 明褐 | 明褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住No14 | 1 |
| | 109 | 48住 | H | 坏D | 9.8 | 4.2 | 3.2 | ほぼ完 | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住No55 | 3 |
| | 110 | 48住 | H | 坏D | 10.0 | 6.2 | 3.2 | 5/6(完) | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切りのちナデ | 48住No47 | 4 |
| | 111 | 48住 | H | 坏D | 10.5 | 3.7 | 3.2 | 2/3(完) | 明褐 | 明褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住No17 | 6 |
| | 112 | 48住 | H | 坏D | 9.8 | 4.2 | 3.3 | 完 | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住No36 | 2 |
| | 113 | 48住 | H | 坏D | 10.4 | 5.0 | 3.5 | 1/4(1/2) | 暗褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 48住? 861039 | 35 |
| | 114 | 48住 | H | 坏D | 10.8 | 4.0 | 3.3 | 1/4(完) | 暗褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部静止糸切り? | 48住 | 31 |
| | 115 | 48住 | H | 椀B | 11.5 | 6.3 | 5.1 | ほぼ完 | 暗褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ、付高台 | 48住No11 | 12 |
| | 116 | 48住 | H | 椀B | 12.2 | | | 1/4 | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、付高台 | 48住No51 861107 | 15 |
| | 117 | 48住 | H | 椀A | 13.6 | 7.0 | 4.5 | ほぼ完(完) | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台、内黒 | 48住No5 | 18 |
| | 118 | 48住 | H | 椀B | 14.8 | | | 1/6 | 明褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ | 48住No52 861107 | 16 |
| | 119 | 48住 | H | 椀B | 15.8 | | | 1/5 | 明黄灰 | 明黄灰 | ロクロナデ | 48住フク土 861031 | 17 |
| | 120 | 48住 | H | 椀B | 15.2 | | | 1/2 | 明黄灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、付高台 | 48住 861104 | 14 |
| | 121 | 48住 | H | 椀B | 12.6 | 5.6 | 5.2 | 1/3(1/2) | 明褐白 | 明褐白 | ロクロナデ、付高台 | 48住 861029 | 13 |
| | 122 | 48住 | H | 盤B | 13.4 | 3.5 | 5.6 | 1/5(完) | 明褐白 | 明黄灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台 | 48住No43 | 28 |
| 117 | 123 | 48住 | H | 椀B? | 15.0 | | | 2/5 | 明黄灰 | 明黄白 | ロクロナデ、付高台 | 48住No45 | 54 |
| 118 | 124 | 48住 | H | 椀B? | 11.8 | 4.5 | 3.9 | 1/2(完) | 明褐 | 明褐灰 | ロクロナデ、外面部分的に炭化物付着、暗文 | 48住No12 | 50 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 118 | 125 | 48住 | H | 椀A | 10.9 | 6.1 | 4.9 | 3/4(完) | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、内面ミガキ、暗文、内黒 | 48住No15 | 49 |
| | 126 | 48住 | H | 小形甕 | 10.4 | | | 1/6 | 暗褐 | 暗褐灰 | 口縁ヨコナデ、内面板ナデ・外面ナデ | 48住フク土 861101 | 20 |
| | 127 | 48住 | H | 羽釜 | 21.2 | | | 1/5 | 明褐灰 | 明褐灰 | 内外面ナデ | 48住No24・29 | 46 |
| | 128 | 48住 | H | 羽釜 | 22.2 | | | 1/10 | 明褐灰 | 明褐灰 | 内外面ナデ | 48住No20 | 47 |
| | 129 | 48住 | K | 段皿 | 11.5 | 6.0 | 2.3 | 完 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕、底部に朱付着 | 48住No62 | 24 |
| | 130 | 48住 | K | 段皿 | 12.8 | 7.8 | 2.3 | 1/4 | 明灰緑 | 明灰緑 | ロクロナデ、付高台、重ね焼痕 | 48住No31 | 25 |
| | 131 | 48住 | K | 皿(転用硯) | 12.2 | 6.9 | 2.9 | 1/5(1/2) | 明灰 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、見込部に朱及び墨付着 | 48住北東フク土 | 39 |
| | 132 | 48住 | K | 段皿 | 13.4 | | | 1/8 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面下半ヘラケズリ | 48住No31? | 27 |
| | 133 | 48住 | K | 皿 | 13.4 | 7.4 | 2.2 | | 明灰白 | 明黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切痕、付高台、見込部に薄い朱付着 | 中央部環周フク土、床面ベルト | 26 |
| | 134 | 48住 | K | 段皿 | 12.4 | 7.6 | 2.3 | 5/6(完) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部ヘラケズリ、付高台、漬け掛け | 48住No2 | 23 |
| | 135 | 48住 | K | 段皿 | 13.8 | 7.3 | 2.3 | 完 | 明灰白 | 明黄灰 | ロクロナデ、底部ヘラケズリ、付高台、漬け掛け | 48住No8 | 22 |
| | 136 | 48住 | K | 椀 | | 8.0 | | (1/2) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台 | 48住No40 861107 | 44 |
| | 137 | 48住 | K | 椀 | 12.2 | 6.4 | 3.8 | 2/3(完) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部糸切り、付高台、漬け掛け | 48住フク土、No27 | 42 |
| | 138 | 48住 | K | 段皿 | 13.3 | 6.3 | 3.6 | 完 | 明褐灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、底部ナデ、付高台、漬け掛け | 48住No63 | 21 |
| | 139 | 48住 | K | 椀 | 15.6 | | | 1/4 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、漬け掛け | 48住2区北東 | 43 |
| | 140 | 48住 | K | 椀 | 15.3 | 7.2 | 5.3 | 1/3(2/3) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、重ね焼痕、底部に刻書 | 48住床面ベルト | 49 |
| 118 | 141 | 48住 | K | 椀 | 15.6 | 8.0 | 6.4 | 1/4(3/4) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台 | 48住No26、2区北東 | 41 |
| 119 | 142 | 48住 | K | 長頸瓶 | 10.7 | | | 1/10 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ | 48住ベルト、フク土 861106 | 37 |
| | 143 | 48住 | K | 瓶 | | 12.0 | | (1/6) | 明灰白 | 明黄灰 | 体部内面ロクロナデ・外面回転ヘラケズリ、底部ナデ | 48住No39 | 38 |
| | 144 | 48住 | R | 椀 | 14.6 | | | 1/8 | 明褐緑 | 明褐緑 | 体部内面ロクロナデ・外面縦位のミガキ?、内面に陰刻花文?・外面に煤様、口縁に炭化物付着 | 48住フク土、2区検 | 52 |
| | 145 | 48住 | R | 椀 | 16.9 | | | 1/8 | 暗緑 | 暗緑 | ロクロナデ | 48住No1中央環内 | 51 |
| | 146 | 49住 | H | 坏D | 9.9 | 5.6 | 1.7 | 1/3(ほぼ完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 49住フク土 861111 | 3 |
| | 147 | 49住 | H | 坏D | 9.8 | 4.9 | 2.1 | 1/10(1/2) | 淡黄茶 | 淡橙茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 49住フク土 861112 | 4 |
| | 148 | 49住 | H | 坏D | 9.9 | 4.7 | 2.3 | 1/4(1/8) | 灰褐 | 灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 49住フク土 861111 | 2 |
| | 149 | 49住 | H | 坏D | 8.7 | | | 1/4 | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ | 49住フク土 861111 | 1 |
| | 150 | 49住 | H | 小形甕F? | | 4.9 | | (ほぼ完) | 淡橙褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 49住フク土 861111 | 5 |
| | 151 | 49住 | H | 坏D | 14.2 | 7.0 | 4.1 | 2/3(完) | 淡黄褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 49住No1 861112 | 6 |
| | 152 | 49住 | K | 段皿 | | 7.4 | | (3/4) | 白灰～灰 | 白緑灰～灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕、漬け掛け | 49住検 861107 | 7 |
| | 153 | 49住 | K | 椀 | | 6.2 | | (1/8) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、重ね焼痕 | 49住ベルト 861112 | 8 |
| | 154 | 50住 | S | 坏D | 12.2 | | | 1/5 | 白灰 | 灰 | ロクロナデ | 50住検 861025 | 6 |
| 119 | 155 | 50住 | S | 坏E | | 6.4 | | (1/3) | 淡黄白 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 50住フク土 861025 | 3 |

| 図番号 | 土器No | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 119 | 156 | 50住 | S | 坏D | 12.8 | 3.7 | 4.0 | 1/8(1/5) | 黒灰～灰 | 黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 50住検 861025 | 5 |
| | 157 | 50住 | S | 坏C | 13.0 | | | 1/5 | 灰 | 灰白 | ロクロナデ | 50住検 861025 | 4 |
| | 158 | 50住 | K | 椀 | | 6.6 | | (1/3) | 淡灰白 | 淡緑白～灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り後回転ヘラケズリ、付高台、見込部に炭化物付着 | 50住検 861025 | 8 |
| | 159 | 50住 | K | 椀 | | 6.2 | | (1/5) | 淡黄白 | 淡緑白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台 | 50住フク土 861107 | 7 |
| | 160 | 50住 | H | 皿 | 8.8 | 5.8 | 1.9 | 1/8(1/4) | 橙褐 | 黄褐 | ロクロナデ | 50住検 861025 | 2 |
| 119 | 161 | 50住 | H | 坏D | | 5.6 | | (底1/2完) | 黄灰褐 | 黄灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 50住フク土 861107 | 1 |
| 120 | 162 | 51住 | H | 皿 | 10.1 | 5.1 | 2.1 | 1/4(2/3) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 51住フク上 861105 | 1 |
| | 163 | 51住 | H | 坏D | 13.9 | 6.0 | 3.7 | 1/8(完) | 橙褐 | 褐～暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 51住No2 861112 | 2 |
| | 164 | 51住 | K | 椀 | 15.6 | 7.2 | 6.3 | 1/3(完) | 淡白灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、体部外面下半ヘラケズリ、底部回転糸切り、付高台 | 51住No1 861112 | 3 |
| | 165 | 52住 | H | 坏D？ | | 5.7 | | (4/5) | 淡黄褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 52住検 861029 | 3 |
| | 166 | 52住 | H | 坏D | 12.4 | 6.8 | 3.9 | 1/4(1/2) | 橙褐 | 橙褐～暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 52住検 861029 | 1 |
| | 167 | 52住 | H | 坏D | 14.2 | | | 1/6 | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ | 52住検 861029 | 2 |
| | 168 | 52住 | K | 椀 | | 6.7 | | (1/2) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | 内面ロクロナデ、外面ヘラケズリ、付高台のちナデ、外面に炭化物付着 | 52住検 861029 | 5 |
| | 169 | 52住 | K | 椀 | | 7.3 | | (1/2) | 淡白灰 | 淡白灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、内面に少量の米と炭化物付着 | 52住検 861107 | 6 |
| | 170 | 52住 | K | 椀？ | 12.1 | | | 1/10 | 淡黄白 | 淡黄褐 | ロクロナデ、漬け掛け | 52住フク上 861029 | 4 |
| | 171 | 52住 | R | 段皿 | 14.4 | 8.0 | 2.7 | 1/12(1/4) | 明薄緑 | 明薄緑 | ロクロナデ、付高台、重ね焼痕 | 52住検 他 | 1 |
| | 172 | 53住 | S | 長頸瓶？ | | 4.4 | | (1/2) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部下方ヘラケズリ、付高台、見込部に自然釉 | 53住フク土 861101 | 4 |
| | 173 | 53住 | H | 坏D | | 6.1 | | (完) | 橙褐～黒 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 53住No1 861106 | 1 |
| | 174 | 53住 | H | 坏D | 10.1 | 7.2 | 3.0 | 1/3(1/3) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 53住No2 861106 | 2 |
| | 175 | 53住 | K | 椀 | | 7.2 | | (1/4) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切りのち付高台 | 53住フク土 861106 | 3 |
| | 176 | 53住 | R | 椀 | | | | 体部破片 | 明薄緑 | 明薄緑 | 体部外面下半斜め方向のミガキ・内面ロクロナデ | 53住フク土 | 5 |
| | 177 | 54住 | H | 坏D | | 7.2 | | (1/8) | 淡赤褐～黄赤褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ | 54住フク土 861104 | 3 |
| | 178 | 54住 | H | 坏D | 3.8 | 4.6 | 3.6 | 1/8(2/3) | 淡黄褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ | 不明 | 2 |
| | 179 | 54住 | H | 坏D | 10.0 | | | 1/8 | 橙褐～黒褐 | 橙褐～黒褐 | ロクロナデ | 54住フク上 861104 | 1 |
| 120 | 180 | 55住 | H | 坏C | 14.6 | | | 1/6 | 淡黄橙 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、内黒 | 55住 861115 | 1 |
| 120 | 181 | 55住 | S | 坏D | 12.4 | 5.4 | 3.6 | 1/6(1/8) | 淡黄灰 | 淡黄灰～淡赤灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 55住 861115 | 2 |
| 121 | 182 | 57住 | S | 壺 | 15.2 | — | | 1/8 | 灰褐 | 橙褐 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | 57住フク上 870921 | 14 |
| | 183 | 57住 | S | 壺？ | 13.2 | — | | 1/3 | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、天井部外面回転糸切り | 57住ベルト検 870910 | 13 |
| | 184 | 57住 | S | 坏E | | 5.9 | | (完) | 灰黒 | 灰黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面にタール状の付着物 | 57住ベルト 870919 | 10 |
| | 185 | 57住 | S | 坏E | 13.0 | 6.1 | 3.8 | 1/4(完) | 白～黒灰 | 白～黒灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 57住フク上 | 11 |
| 121 | 186 | 57住 | S | 坏E？ | 13.4 | 6.1 | 3.6 | 1/8(1/2) | 白～灰黒 | 白～灰黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 57住フク土 870916 | 15 |

| 図番号 | 土器No | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 121 | 187 | 57住 | S | 坏E | 13.8 | 5.7 | 4.2 | 1/3(完) | 淡橙～黒 | 淡橙～黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 57住フク上 870916 | 9 |
| | 188 | 57住 | S | 坏E | 13.5 | 5.6 | 3.5 | 1/4(完) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 57住フク十 870916 | 12 |
| | 189 | 57住 | S | 甕 | | 16.9 | | (1/8) | 茶褐～橙褐 | 赤褐 | 胴部外面タタキ目・内面ハケ目、底部摩滅・内面ナデ | 57住No2 870921 | 16 |
| | 190 | 57住 | H | 壷 | 13.1 | 5.4 | 2.0 | 3/5(ほぼ完) | 淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 57住フク上 870916 | 8 |
| | 191 | 57住 | H | 坏D | 12.3 | 5.1 | 3.5 | 4/5(完) | 淡黄褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 57住No3 870821 | 1 |
| | 192 | 57住 | H | 坏C | 12.3 | 4.9 | 3.65 | 1/6(1/4) | 黒～淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部縦位のミガキ、内黒 | 57住フク上 870921 | 4 |
| | 193 | 57住 | H | 坏C | 13.0 | 6.8 | 3.9 | 1/5(2/3) | 淡褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部縦位のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 57住フク土 870916 | 3 |
| | 194 | 57住 | H | 坏C | 12.9 | 5.7 | 3.8 | 3/5(2/3) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部縦位のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 57住No6-7 870921 | 2 |
| | 195 | 57住 | H | 坏C | 14.1 | 6.2 | 4.4 | 3/4(3/4) | 褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内面にタール状の付着物、内黒 | 57住フク土 870916 | 6 |
| | 196 | 57住 | H | 坏C | 14.2 | 6.5 | 3.85 | 1/2(完) | 黒～淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、体部外面下方回転ヘラケズリ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 57住No1 870921 | 5 |
| | 197 | 57住 | H | 坏C | 14.8 | 6.8 | 3.9 | 1/10(1/3) | 橙橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 57住カマド内 870921 | 7 |
| | 198 | 57住 | K | 皿 | 16.6 | | | 1/2 | 明黄灰 | 明灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、重ね焼痕 | 57住フク上 870909 | 18 |
| | 199 | 57住 | K | 皿 | 14.9 | 6.2 | 3.4 | 1/8(ほぼ完) | 明灰白 | 暗灰白 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、重ね焼痕、刷毛塗り | 57住カマド内 870921他 | 17 |
| | 200 | 58住 | S | 坏D | 13.5 | 5.5 | 3.9 | 1/2(1/2) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り後ナデ、体部内面上半に炭化物付着 | 58住No10-11 870926 | 25 |
| | 201 | 58住 | S | 蓋 | 16.6 | - | | 1/6 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ、自然釉 | 58住フク土 870822 | 26 |
| | 202 | 58住 | S | 皿 | 11.4 | 5.3 | 2.1 | 完 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面全体に朱付着（朱墨痕か？） | 58住No26 | 24 |
| | 203 | 58住 | S | 甕 | | 28.4 | | (1/6) | 暗灰 | 灰緑 | ロクロナデ、自然釉 | 58住No27 | 27 |
| | 204 | 58住 | H | 皿 | 13.0 | 6.4 | 2.7 | 1/2(完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ | 58住No33、カマド内870928 | 7 |
| 121 | 205 | 58住 | H | 椀AかB | | 6.9 | | (1/2) | 赤褐 | 黄褐 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り後ナデ | 58住フク土 890927 | 21 |
| 122 | 206 | 58住 | H | 椀 | | 7.7 | | (完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ロクロナデ、内黒 | 58住No25 870916 | 19 |
| | 207 | 58住 | H | 皿A | 12.8 | 6.6 | 3.1 | ほぼ完(完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、内黒 | 58住No13 870926 | 14 |
| | 208 | 58住 | H | 皿A | 13.8 | 6.5 | 3.0 | 1/2(完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、付高台後ロクロナデ、外面炭化物付着、内黒 | 58住No28 | 18 |
| | 209 | 58住 | H | 坏C | 12.8 | 6.7 | 3.4 | 3/4(完) | 淡黄灰 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後粘土貼り付、内黒 | 58住No19 | 9 |
| | 210 | 58住 | H | 坏C | 13.2 | 6.7 | 3.8 | 1/3 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内外面炭化物付着、内黒 | 58住検 870928 | 12 |
| | 211 | 58住 | H | 坏C | 13.2 | 6.5 | 3.6 | 1/4(ほぼ完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、外面炭化物付着、内黒 | 58住No32 870928 | 11 |
| | 212 | 58住 | H | 坏C | 13.2 | 5.4 | 4.3 | 1/3(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 58住No2 870926 | 13 |
| | 213 | 58住 | H | 坏C | 13.7 | 6.9 | 4.2 | 1/3(1/3) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、外面炭化物付着、内黒 | 58住フク土 870927 | 10 |
| | 214 | 58住 | H | 坏C | 13.6 | 6.6 | 4.4 | 完 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、外面炭化物付着、内黒 | 58住No9 870926 | 8 |
| | 215 | 58住 | H | 坏C | 16.0 | 6.0 | 4.7 | 3/4(完) | 赤褐～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 58住No20 | 16 |
| | 216 | 58住 | H | 椀A | 15.5 | | | 完 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、付高台後黒焼、内黒 | 58住No16 870926 | 17 |
| 122 | 217 | 58住 | H | 坏C | 19.8 | 7.1 | 6.2 | 1/4(完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、外面炭化物付着、内黒 | 58住No3 870926 | 15 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 122 | 218 | 58住 | H | 耳皿 | 9.0 | 4.8 | 3.4 | 4/5(完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り後ナデ、付高台後ロクロナデ、内面・外面の穿孔 | 58住No5 870926 | 22 |
| | 219 | 58住 | H | 小形甕E | 20.8 | | | 1/10 | 黄橙褐 | 橙褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ | 58住No8 870926 | 3 |
| | 220 | 58住 | H | 小形甕E | | 6.2 | | | 黄褐 | 淡黄褐 | 胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、底部回転糸切り後ナデ、胴部外面上半炭化物付着 | 58住No17 870926 | 2 |
| | 221 | 58住 | H | 小形甕E | 13.1 | 6.8 | | 1/6(完) | 赤褐 | 橙褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、底部回転糸切り | 58住No31、フク土 870926 | 1 |
| 122 | 222 | 58住 | H | 鉢 | 34.7 | | | 1/5 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、体部外面一部ケズリ、内面上半横位のミガキ・中央～下半放射状のミガキ | 58住No15 870926 | 4 |
| 123 | 223 | 58住 | H | 壺? | 22.1 | | | 1/12 | 赤褐 | 赤褐 | 口縁粗いナデ・内面ヨコナデ、胴部内外面ナデ | 58住フク土、検 | 20 |
| | 224 | 58住 | H | 甕E | 23.1 | | | 1/4 | 黄褐～暗褐 | 橙褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面横位のナデ・上半一部カキ目、胴部外面黒色化 | 58住No21・22・28 | 5 |
| | 225 | 58住 | H | 甕E | 21.8 | 11.4 | 32.0 | 3/4(完) | 赤褐 | 赤褐 | 口縁ロクロナデ・内面のカキ目、胴部外面ハケ目・内面ナデ、底部ナデ、外面に炭化物付着 | 58住No34・35・カマド内 | 6 |
| | 226 | 59住 | H | 小形甕C | | 6.2 | | (1/4) | 暗褐～茶褐 | 暗褐～淡茶褐 | 口縁ヨコナデ、胴部外面ハケ目・内面ナデ、木葉底、内面にスス付着 | 59住フク土 870928 | 1 |
| | 227 | 60住 | S | 坏C | 8.0 | 6.1 | 6.7 | 4/5(完) | 青灰 | 青灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り後周縁ヘラケズリ、付高台後ロクロナデ、底部に墨書 | 60住ベルト(下層) 871013 | 11 |
| | 228 | 60住 | S | 坏D | | 4.0 | | (1/4) | 暗茶褐 | 暗茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り?後ナデ | 60住フク土 871011 | 7 |
| | 229 | 60住 | S | 坏D? | 10.8 | 4.8 | 3.2 | 1/8(1/6) | 黄褐 | 橙褐～茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り? | 60住フク土 871011 | 3 |
| | 230 | 60住 | S | 坏D | 13.0 | 6.8 | 4.0 | 1/6(完) | 黒灰～灰白 | 灰白～黒灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 60住フク土 871012 | 1 |
| | 231 | 60住 | H | 坏D | | 5.2 | | (完) | 暗灰～灰白 | 黒灰～灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面に黒斑 | 60住フク土 871011 | 9 |
| | 232 | 60住 | H | 坏D | 10.8 | | | 1/8 | 淡黄褐～茶褐 | 橙褐 | ロクロナデ | 60住フク土 | 2 |
| 123 | 233 | 60住 | H | 椀Aか坏C | 14.6 | | | 1/4 | 灰～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、内黒 | 60住フク土 871011 | 4 |
| 124 | 234 | 60住 | H | 坏C | 12.6 | 5.6 | 4.0 | 1/8(完) | 灰白～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 60住No1 871014 | 5 |
| | 235 | 60住 | H | 坏 | 15.0 | 6.4 | 5.7 | 1/10(完) | 暗橙褐～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、底部ナデ(切り離し痕不明)、内面に黒斑 | 60住No1 871011 | 6 |
| | 236 | 60住 | K | 椀 | | 5.2 | | (1/2) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台、刷毛塗り、重ね焼痕 | 60住フク土 871014 | 8 |
| | 237 | 60住 | R | 椀か皿 | | 6.8 | | (破片) | 明青緑 | 明青緑 | 内面摩滅、底部回転ヘラケズリ、付高台 | 60住 | 12 |
| | 238 | 60住 | H | 鉢 | | 11.0 | | (1/5) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、底部ナデ(切り離し痕不明)、内黒 | 60住フク土 871011 | 10 |
| | 239 | 61住 | S | 坏C | 14.3 | 11.5 | 3.9 | 1/2(完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、自然釉 | 61住No1 871010 | 1 |
| | 240 | 62住 | H | 坏C | 13.8 | 7.2 | 4.05 | 1/8(完) | 淡橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のヘラミガキ、見込部放射状のヘラミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 62住No5・6 870921 | 6 |
| | 241 | 62住 | H | 坏C | 15.0 | 5.6 | 5.3 | 1/12(1/3) | 黄褐 | 黒～黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、体部外面上半に黒斑 | 62住フク土 870919 | 4 |
| | 242 | 62住 | H? | 坏DかE | 13.2 | 5.4 | 3.7 | 2/3(2/3) | 灰褐～淡橙褐 | 灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 62住No2 870921 | 3 |
| | 243 | 62住 | H | 坏D | 13.8 | 7.0 | 3.5 | 1/12(1/2) | 明橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 62住フク土 870919 | 1 |
| | 244 | 62住 | H | 坏DかE | 13.2 | 6.0 | 4.0 | 1/2(完) | 黒～暗橙 | 黒～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、底部内面に植物の茎の圧痕あり | 62住No3 870921 | 2 |
| | 245 | 62住 | K | 椀 | | 7.2 | | (完) | 灰 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ロクロナデ、刷毛塗り、重ね焼痕 | 62住No1 870921 | 7 |
| | 246 | 62住 | K | 長頸瓶 | | 8.2 | | (1/3) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ロクロナデ | 62住検 87 | 8 |
| | 247 | 62住 | K | 椀 | 14.8 | | | 1/6 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、刷毛塗り | 62住フク土 870921 | 5 |
| 124 | 248 | 65住 | S | 蓋 | 14.1 | -- | | 1/3 | 灰～暗灰 | 灰～暗灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ後ナデ、自然釉 | 65住・1住フク上 870922 | 1 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 124 | 249 | 65住 | S | 坏C | | 6.2 | | (1/5) | 淡橙 | 淡橙～淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ | 65住フク上870922 | 5 |
| | 250 | 65住 | S | 坏C | 14.5 | 10.5 | 4.4 | 1/4(1/2) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 65住No2 870927 | 2 |
| | 251 | 65住 | S | 坏C | 16.3 | 12.0 | 4.4 | 1/10(完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 65住P5 870929 | 3 |
| 124 | 252 | 65住 | S | 壺 | | | | | 淡灰 | 淡灰 | 頸部外面ロクロナデ、胴部外面上半回転ヘラケズリ、内面ナデ | 65住No8 870927 | 8 |
| 125 | 253 | 65住 | H | 小形壺 | | | | 1/4(完) | 淡茶 | 淡茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 65住フク土、検出面 870914 | 9 |
| | 254 | 65住 | H | 鉢A | 8.2 | | | (1/4) | 淡黄褐 | 淡茶褐 | 内外面ナデ、木葉底 | 65住P3、No1 870930 | 11 |
| | 255 | 65住 | H | 鉢A | 7.2 | | | (1/2) | 暗褐 | 茶褐 | 胴部外面ハケ目・内面ナデ、木葉底 | 65住No6 870927 | 10 |
| | 256 | 67住 | S | 蓋 | 16.7 | — | | 1/5 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | 67住フク土 870921 | 1 |
| | 257 | 67住 | S | 坏D | | 6.5 | | (1/2) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、火ダスキ | 67住フク土 871002 | 3 |
| | 258 | 67住 | S | 坏D | 12.2 | 4.9 | 3.9 | 1/3(1/2) | 淡灰 | 淡灰～淡橙灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 67住フク土 870921 | 2 |
| | 259 | 67住 | H | 甕C | 12.8 | | | 1/6 | 淡黄褐 | 淡黄褐～橙褐 | 口縁強いヨコナデ・内面ハケ目、外面ハケ目、胴部内面上半ナデ | 67住フク土 | 4 |
| | 260 | 67住 | H | 小形甕E | | 6.1 | | (完) | 茶褐 | 茶褐 | 胴部外面下半カキ目・内面下半ロクロナデ、底部ナデ | 67住ベルト 871002 | 5 |
| | 261 | 67住 | H | 甕E | | 7.0 | | (1/4) | 橙褐 | 淡灰褐 | 胴部外面下半ハケ目・内面下半ナデ、底部ナデ | 67住No1 871002 | 6 |
| | 262 | 67住 | H | 甕E | 21.3 | | | 1/5 | 茶褐 | 淡茶褐 | 口縁強いヨコナデ・内面ハケ目、胴部外面ハケ目・内面強いナデ、内面に指圧痕 | 67住No1 871002 | 8 |
| | 263 | 68住 | S | 坏D | | | | | 淡茶褐 | 淡茶褐 | ロクロナデ、外面に墨書 | 68住ベルト 870927 | 13 |
| | 264 | 68住 | S | 坏C | | 9.1 | | (1/4) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り後回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 68住フク土 871002 | 7 |
| | 265 | 68住 | S | 坏D | 12.6 | 5.6 | 4.0 | 1/12(完) | 青灰 | 青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、火ダスキ | 68住フク土 871002 | 4 |
| | 266 | 68住 | S | 坏D | 12.0 | 6.0 | 3.4 | 1/3(1/2) | 青灰 | 淡青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、タール状のもの付着（灯明皿として転用？） | 68住カマドNo5 871002 | 18 |
| | 267 | 68住 | S | 坏D | 12.2 | 4.8 | 3.9 | 1/2(1/2) | 淡青灰～黒 | 青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 68住カマドNo5 871002 | 2 |
| 125 | 268 | 68住 | S | 坏D | 12.7 | 5.1 | 3.8 | 5/6(完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 68住カマドNo2 871002 | 6 |
| 126 | 269 | 68住 | S | 坏D | 13.8 | 6.6 | 4.1 | 1/12(1/4) | 黄灰～黒灰 | 灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 68住フク土 871002 | 5 |
| | 270 | 68住 | S | 坏D | 13.6 | 6.0 | 4.0 | 1/6(1/3) | 淡青灰 | 淡青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 68住フク上 870923 | 3 |
| | 271 | 68住 | S | 壺 | | 8.7 | | (1/2) | 淡紫 | 灰 | ロクロナデ、胴部外面下方回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 68住フク土 71002 | 17 |
| | 272 | 68住 | H | 坏D | 12.9 | 5.9 | 3.8 | 完 | 茶褐～淡茶 | 淡茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 68住フク上 870923 | 9 |
| | 273 | 68住 | H | 鉢 | | 9.1 | | (1/5) | 淡褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 68住カマドNo4 871002 | 11 |
| | 274 | 68住 | H | 坏C | 16.7 | 7.4 | 5.4 | 1/2(3/4) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 68住カマドNo1 871002 | 10 |
| | 275 | 68住 | 脚 | 脚？ | | 5.0 | | (1/4) | 赤茶 | 明黄褐 | 内外面調整不明 | 68住南西倉焼乱870923 | 1 |
| | 276 | 68住 | H | 小形甕E | | 6.5 | | (3/4) | 褐 | 淡茶褐 | ロクロナデ、胴部外面下方カキ目、底部回転糸切り | 68住フク土 871004 | 16 |
| | 277 | 68住 | H | 小形甕E | 13.8 | | | 1/12 | 茶褐 | 茶褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、内面にスス付着 | 68住フク土 870928 | 15 |
| | 278 | 69住 | S | 坏C | | 10.2 | | (完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、内面木目状の圧痕、ヘラ記号 | 69住ベルト 870928 | 8 |
| 125 | 279 | 69住 | S | 壺 | | 5.0 | | (1/3) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 69住フク土 870928 | 6 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 126 | 280 | 69住 | S | 坏D | 13.8 | 5.7 | 3.7 | 5/6(完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 69住No1 871008 | 4 |
| | 281 | 69住 | S | 坏B | 13.5 | 7.2 | 3.9 | 1/4(1/2) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部ヘラ切り後手持ちヘラケズリ | 69住P2 870928 | 2 |
| | 282 | 69住 | S | 坏B | 14.0 | 5.7 | 4.0 | 1/3(1/2) | 灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ、火ダスキ | 69住撹乱 870928 | 1 |
| | 283 | 69住 | S | 坏D | 15.0 | 7.8 | 4.1 | 5/6(口縁部完) | 暗灰～灰 | 暗灰～灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、火ダスキ | 69住No1 871018 | 5 |
| | 284 | 69住 | S | 坏 | 16.0 | 5.8 | 4.5 | 1/2(1/2) | 暗灰 | 灰 | ロクロナデ、火ダスキ | 69住No1 871008 | 3 |
| | 285 | 69住 | H | 甕A | | 8.5 | | (1/2) | 茶褐 | 黄褐 | 胴部外面ハケ目・内面ナデ・ドキ一部ハケ目、木葉底 | 69住No5 871008 | 9 |
| | 286 | 70住 | S | 蓋C | 16.0 | | | 1/3 | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | 70住No3 870920 | 1 |
| 126 | 287 | 70住 | S | 蓋C | 18.3 | — | | 1/4 | 灰褐～灰 | 灰褐～灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ後ロクロナデ | 70住フク土 870916 | 2 |
| 127 | 288 | 70住 | S | 坏C | | 10.1 | | (1/5) | 暗紫茶 | 暗紫 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ | 70住フク土 870916 | 3 |
| | 289 | 70住周辺 | S | 坏D | 12.2 | 6.0 | 3.4 | 1/20(完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 70住周辺検包含層 870915 | 70包-2 |
| | 290 | 70住周辺 | S | 坏D | 14.4 | 5.2 | 4.1 | 1/2(完) | 暗灰 | 明灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 70住周辺検包含層 870915 | 70包 3 |
| | 291 | 70住周辺 | S | 坏D | | 5.3 | | (完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 70住周辺包含層 870915 | 70周-10 |
| | 292 | 70住周辺 | H | 鉢A | 12.8 | 5.4 | 3.05 | 1/4(3/4) | 明褐灰 | 暗黒灰 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、付高台後ナデ、内黒 | 70住周辺検包含層 870915 | 70包-4 |
| | 293 | 70住周辺 | H | 坏C | 13.5 | 6.0 | 4.35 | 2/3(完) | 明褐灰白 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 70住周辺検包含層 | 70包-9 |
| | 294 | 70住周辺 | H | 坏D | 14.0 | 7.0 | 3.8 | 1/4(1/4) | 明褐白 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 70住周辺包含層 870915 | 70包-5 |
| | 295 | 70住周辺 | H ? | 坏D ? | 12.6 | | | 1/6 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ | 70住周辺検包含層 870915 | 70包 7 |
| | 296 | 70住周辺 | H ? | 坏D ? | | 6.0 | | (1/2) | 暗灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 70住周辺検包含層 870915 | 70包-8 |
| | 297 | 70住周辺 | H | 坏C | 19.8 | | | 1/5 | 明褐灰白 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、内黒 | 70住周辺検包含層 870915 | 70包-6 |
| | 298 | 70住周辺 | K | 皿 | 15.6 | 6.4 | 3.2 | 1/5(1/4) | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 70住周辺検包含層 870915 | 70包-1 |
| | 299 | 70住 | H | 小形甕E | 11.0 | 7.5 | 15.0 | 1/8 | 赤褐～暗褐 | 黄褐～暗褐 | 口縁内外面カキ目・外面一部ロクロナデ、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、底部糸切り | 70住周辺検 870915 | 4 |
| | 300 | 70住 | H | 甕E | 23.3 | | | 1/6 | 赤褐 | 黄褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目状ロクロナデ、胴部外面ハケ目・内面ナデ、内面に煤状炭 | 70住No11 870920 | 5 |
| | 301 | 70住 | H | 甕E | 19.0 | | | 1/3 | 黄褐 | 黄褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面ナデ | 70住No8 870920 | 6 |
| 127 | 302 | 70住 | H | 甕E | 18.8 | | | 1/2 | 黄褐 | 暗褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面ナデ、外面に炭化物付着 | 70住No5-9 870925 | 7 |
| 128 | 303 | 72住 | S | 甕 | 32.2 | | | 1/4 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、赤部外面ケズリ、胴部外面タタキ目・内面ナデ、胴部内面にて炭化 | 72住No3・4・5 871002 | 21 |
| | 304 | 72住 | S | 坏D | 11.8 | 5.7 | 3.8 | 1/4(1/2) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 72住検出面 870829 | 4 |
| | 305 | 72住 | S | 坏E | 12.6 | 4.8 | 3.3 | 1/4(1/2) | 淡黄白 | 淡黄白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 72住フク土 870927 | 5 |
| | 306 | 72住 | S | 坏D | 13.5 | 6.8 | 3.9 | 1/2(1/2) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 72住No2・ベルト 871002 | 3 |
| | 307 | 72住 | S | 坏D | 12.5 | 6.3 | 4.0 | 完 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、火ダスキ | 72住No11 871004 | 1 |
| | 308 | 72住 | S | 坏D | 13.4 | 7.1 | 3.7 | 3/4(完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 72住No1 871002 | 2 |
| | 309 | 72住 | H | 鉢A | | 6.8 | | (3/4) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 72住フク土 870928 | 12 |
| 128 | 310 | 72住 | H | 鉢A | 12.8 | 6.3 | 2.8 | 1/12(3/4) | 淡橙～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 72住ベルト 870929 | 6 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 128 | 311 | 72住 | H | 坏D | 13.4 | 6.1 | 3.7 | 1/8(完) | 茶褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面にタール状の付着物 | 72住フク上 870929 | 10 |
| | 312 | 72住 | H | 坏C | 13.0 | 5.8 | 4.0 | 5/6(完) | 淡褐～褐 | 黒 | ロクロナデ、底部内面上半横位のミガキ、見込部ミガキ、内黒、外面にタール状の付着物 | 72住No6 871002 | 11 |
| | 313 | 72住 | H | 坏C | 13.5 | 6.2 | 4.1 | 1/4(1/2) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 72住No6 871002 | 7 |
| | 314 | 72住 | H | 坏C | 12.8 | 6.2 | 4.4 | 1/10(1/3) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面暗文状のミガキ、内黒 | 72住フク上 870929 | 8 |
| | 315 | 72住 | H | 坏C | 13.0 | 4.2 | 4.0 | 1/6(完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 72住フク十 870929 | 9 |
| | 316 | 72住 | H | 椀A | 14.8 | 6.4 | 6.0 | 1/6(1/3) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 72住フク上検出面 870928 | 14 |
| 128 | 317 | 72住 | H | 坏C | 17.8 | 8.3 | 5.4 | 4/5(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、内黒 | 72住No11 871002 | 13 |
| 129 | 318 | 72住 | H | 台付鉢 | | | | | 淡黄褐 | 褐 | ロクロナデ、スカシ | 72住No12 871004 | 17 |
| | 319 | 72住 | H | 小形壺E | | 6.6 | | (2/3) | 橙褐 | 橙褐 | 胴部外面下半カキ目・ナデ・内面ロクロナデ、底部回転糸切り後一部ナデ | 72住カマドNo3 871004 | 15 |
| | 320 | 72住 | H | 小形壺E | | 6.0 | | (完) | 橙褐 | 淡橙褐 | 胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、底部回転糸切り | 72住No7 871002 | 16 |
| | 321 | 72住 | H | 甕E | 20.6 | | | 1/4 | 橙褐 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部内外面ハケ目 | 72住No9 871002 | 19 |
| | 322 | 72住 | H | 甕E | 22.1 | | | 1/5 | 橙褐～灰褐 | 茶褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面上半ハケ目、下半ナデ | 72住フク土 870928 | 20 |
| | 323 | 72住 | H | 甕E | 21.2 | | | 1/3 | 淡橙褐 | 淡橙褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面上半ハケ目、下半ナデ | 72住No9、フク土 | 18 |
| | 324 | 73住 | S | 坏D | 13.0 | 4.6 | 3.5 | 1/4(1/8) | 淡灰～淡茶 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 73住フク十 871007 | 3 |
| | 325 | 73住 | S | 坏E | 13.6 | 6.0 | 4.4 | 1/5(1/4) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 73住フク上 871002 | 1 |
| | 326 | 73住 | S | 坏D | 14.3 | | | 1/3 | 淡灰～灰 | 淡灰 | ロクロナデ、火ダスキ | 73住フク十 871002 | 2 |
| | 327 | 73住 | H | 椀A | | 6.7 | | (完) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 73住フク土 871009 | 10 |
| | 328 | 73住 | H | 坏C | 13.8 | 6.2 | 3.9 | 1/8(完) | 茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 73住 871007 | 7 |
| | 329 | 73住 | H | 坏C | 13.8 | 5.0 | 4.2 | 1/2(完) | 淡茶 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ハケ目、内黒 | 73住フク十 871002 | 5 |
| | 330 | 73住 | H | 坏C | 12.9 | 5.3 | 3.9 | 1/6(1/3) | 茶褐～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 73住フク上 871007 | 6 |
| | 331 | 73住 | H | 坏C | 12.7 | 6.0 | 4.0 | 4/5(完) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、外面にタール状付着物、内黒 | 73住集石No3 871007 | 集石-1 |
| | 332 | 73住 | H | 坏C | 14.0 | 6.1 | 4.0 | 1/4(1/4) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 73住ベルト 871007 | 4 |
| | 333 | 73住 | H | 坏C | 13.6 | 6.1 | 3.8 | 4/5(完) | 淡黄 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 73住フク土 871007 | 8 |
| 129 | 334 | 73住 | S | 円筒壺 | | | | | 茶灰 | 茶灰 | ロクロナデ | 73住フク十 871002 | 16 |
| 130 | 335 | 73住 | H | 坏C | 13.0 | 5.5 | 4.7 | 4/5(完) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、外面にタール状付着物、内黒 | 73住集石No2 871007 | 集石-2 |
| | 336 | 73住 | H | 坏D | 14.6 | 6.5 | 4.5 | 4/5(完) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ | 73住集石No1 871007 | 集石-4 |
| | 337 | 73住 | H | 坏D | 13.2 | 4.5 | 4.3 | 1/10(完) | 淡黄 | 淡茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 73住フク十 871007 | 9 |
| | 338 | 73住 | H | 椀A | 14.5 | 7.0 | 5.5 | 1/12(1/4) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、付高台後ナデ、内黒 | 73住フク土 871002 | 11 |
| | 339 | 73住 | H | 椀A | 15.3 | 7.0 | 5.0 | 2/3(2/3) | 淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位のミガキ、付高台後ナデ、内黒 | 73住フク上 871007 | 12 |
| | 340 | 73住 | H | 坏C | 13.0 | 7.0 | 6.8 | 1/3(完) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部螺位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 73住集石No9 871007 | 集石-3 |
| 130 | 341 | 73住 | K | 壺 | | 5.0 | | (1/2) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、漬け掛け | 73住フク上 870929 | 15 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法（cm） | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 130 | 342 | 73住 | K | 椀 | 9.6 | 4.6 | 3.5 | 1/6(1/2) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、重ね焼痕、漬け掛け | 73住検出面 870929 | 13 |
| | 343 | 73住 | K | 皿 | 17.1 | 7.1 | 3.5 | 1/6(2/3) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、外面底部に朱付着か？ | 73住検出面 870929 | 14 |
| | 344 | 73住 | K | 椀 | | 7.1 | | (1/3) | 淡茶 | 淡茶 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ？、付高台後ナデ、重ね焼痕、漬け掛け | 73住墓石検出面 870928 | 集石-5 |
| | 345 | 73住 | H | 甕 | | 12.0 | | (1/6) | 茶褐 | 茶褐 | 胴部外面下半ハケ目・内面板状工具によるナデ、底部内面ケズリ状のナデ | 73住フク上 870929 | 18 |
| | 346 | 73住 | H | 筒形土器 | 10.1 | | | 1/5 | 茶褐 | 茶褐 | 口縁ナデ、胴部外面上半ハケ目・下半ハケ目後ケズリ・内面横位のハケ目状のナデ、内面に輪づみ痕 | 73住フク土 870927 | 17 |
| | 347 | 74住 | S | 坏C | | 9.4 | | (1/2) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 74住No8 871007 | 24 |
| | 348 | 74住 | S | 坏C | | 11.1 | | (2/3) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 74住フク土 871002 | 25 |
| | 349 | 74住 | S | 坏C | | 8.7 | | (1/4) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、底部にヘラ記号 | 74住フク土 871008 | 26 |
| | 350 | 74住 | S | 短頸壺 | | 6.3 | | (完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、胴部外面下半手持ちヘラケズリ後ナデ？、底部回転糸切り後ナデ・内面工具によるナデ | 74住フク土 871002 | 33 |
| | 351 | 74住 | S | 短頸壺 | 8.3 | | | 1/2 | 暗灰 | 灰 | 口縁ヨコナデ、胴部ロクロナデ | 74住No6 871009 | 39 |
| | 352 | 74住 | H | 坏D | 11.0 | 5.3 | 3.0 | 1/4(完) | 淡橙～淡褐 | 淡橙～淡褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面にスス付着 | 74住No9 871009 | 3 |
| | 353 | 74住 | H | 坏D | 11.6 | 5.9 | 3.1 | 1/5(完) | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面にスス付着 | 74住No17 871007 | 13 |
| | 354 | 74住 | H | 坏D | 10.6 | 5.8 | 3.1 | 1/4(1/2) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871005 | 10 |
| 130 | 355 | 74住 | H | 坏D | 10.5 | 5.5 | 3.0 | 3/4(完) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871004 | 7 |
| 131 | 356 | 74住 | H | 坏D | 11.0 | 5.3 | 3.1 | 4/5(完) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面にスス付着 | 74住No25 871007 | 5 |
| | 357 | 74住 | H | 坏D | 10.9 | 5.2 | 3.1 | 1/6(1/4) | 暗茶褐 | 暗茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871008 | 12 |
| | 358 | 74住 | H | 坏D | 10.2 | 5.3 | 3.4 | 1/3(完) | 淡茶 | 淡茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871004 | 9 |
| | 359 | 74住 | H | 坏D？ | 11.4 | 5.8 | 3.1 | 2/3(完) | 淡黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り？後ハケ目状工具によるナデ後ナデ消 | 74住No2 871007 | 15 |
| | 360 | 74住 | H | 坏D | 11.4 | 5.3 | 3.1 | 3/4(完) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住No23 871008 | 2 |
| | 361 | 74住 | H | 坏D | 11.5 | 5.3 | 3.1 | 3/4(完) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住No16 871009 | 6 |
| | 362 | 74住 | H | 坏D | 11.3 | 5.0 | 3.7 | 1/8(完) | 淡褐 | 淡茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内面にスス付着 | 74住フク土 871004 | 14 |
| | 363 | 74住 | H | 坏D | 11.3 | 5.0 | 3.3 | 1/3(1/2) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871004 | 11 |
| | 364 | 74住 | H | 坏D | 11.2 | 5.8 | 3.2 | 完 | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住No1 871007 | 1 |
| | 365 | 74住 | H | 坏D | 11.5 | 6.0 | 3.2 | 4/5(完) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住フク土 871004 | 8 |
| | 366 | 74住 | H | 坏D | 12.2 | 5.9 | 3.0 | 2/3(完) | 橙 | 橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 74住No38 871007 | 4 |
| | 367 | 74住 | H | 椀A | 10.7 | 5.7 | 4.6 | 5/6(完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面暗文状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、外面に墨書？、内黒 | 74住No21 871007 | 17 |
| | 368 | 74住 | H | 椀A | | 5.7 | | (1/4) | 淡黄 | 黒 | ロクロナデ、内面横位・不定方向のミガキ、付高台後ナデ、内黒 | 74住No3 871007 | 16 |
| | 369 | 74住 | H | 椀B | 11.8 | 6.0 | 4.6 | 1/6(1/6) | 淡黄茶 | 淡黄茶 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 74住No20 871007 | 22 |
| | 370 | 74住 | H | 椀B | 12.6 | 6.1 | 4.9 | 1/4(1/4) | 茶褐 | 茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 74住フク土 871004 | 20 |
| | 371 | 74住 | H | 椀B | 13.2 | 7.2 | 4.6 | 1/3(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 74住No7 871007 | 21 |
| 131 | 372 | 74住 | H | 椀B | 13.5 | 17.4 | 5.2 | 1/2(1/2) | 淡茶褐 | 淡茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 74住No24 871007 | 19 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 131 | 373 | 74住 | H | 椀B | 13.9 | 6.5 | 5.4 | 1/3(3/4) | 暗茶褐 | 暗茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内外面にスス付着 | 74住No18 871007 | 18 |
| | 374 | 74住 | H | 椀B | 15.4 | | | 1/2 | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、外面にスス付着 | 74住No28 871007 | 23 |
| | 375 | 74住 | H | 壺? | | | | | 暗褐 | 暗褐 | 胴部外面縦位のミガキ・内面ロクロナデ、底部ナデ | 74住No27 871007 | 34 |
| | 376 | 74住 | 黒 | 小形壺 | 5.3 | 3.4 | 5.2 | 4/5ほぼ完(完) | 黒 | 黒 | 口縁ヨコナデ後外面横・縦のミガキ、内面ロクロナデ、底部回転糸切り一部ミガキ、内外面黒色処理 | 74住フク土 871002 | 32 |
| | 377 | 74住 | H | 小形壺F | 9.6 | | | 4/5ほぼ完 | 暗褐～橙 | 暗褐～淡橙 | 口縁ヨコナデ、胴部外面ロクロナデ・内面上半ケズリ後のナデ・下半ロクロナデ、内面にスス付着 | 74住No15 871007 | 35 |
| | 378 | 74住 | H | 甕A? | 14.0 | | | 1/5 | 橙 | 暗橙 | 口縁ヨコナデ、胴部内外面ロクロナデ | 74住フク土 871008 | 37 |
| | 379 | 74住 | H | 甕 | 17.6 | | | 1/4 | 茶褐 | 淡橙 | 口縁ヨコナデ、胴部外面板状工具によるケズリ・内面ナデ | 74住フク土 871004 | 36 |
| 131 | 380 | 74住 | H | 甕E? | | 10.0 | | (2/3) | 暗褐～茶褐 | 淡褐～褐 | 胴部外面中央ハケ目・下半ナデ・内面ナデ、底部ナデ | 74住フク土No19 871007 | 38 |
| 132 | 381 | 74住 | K | 椀 | | 6.9 | | (完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、重ね焼痕 | 74住No29 871009 | 29 |
| | 382 | 74住 | K | 皿 | 12.5 | 6.5 | 2.4 | 4/5(完) | 灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 74住No22 871009 | 27 |
| | 383 | 74住 | K | 椀 | 15.0 | 7.4 | 4.6 | 1/5(1/4) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 74住フク土 871002 | 28 |
| | 384 | 74住 | K | 椀 | | 8.0 | | (1/4) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、付高台後ナデ、内面に漆あり | 74住フク土 871002 | 30 |
| | 385 | 74住 | K | 椀 | 17.5 | 8.8 | 6.4 | 1/4(5/6) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、重ね焼痕 | 74住No13ベルト 871009 | 31 |
| | 386 | 75住 | S | 坏E | 11.4 | 5.4 | 3.2 | 1/4(1/2) | 黒～灰褐～灰 | 黒～灰褐～灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No20、フク土 | 64 |
| | 387 | 75住 | S | 坏E | 12.6 | 5.2 | 3.8 | 1/10(完) | 黄褐～黒褐 | 淡茶褐～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871008 | 68 |
| | 388 | 75住 | S | 坏E | 11.6 | 5.0 | 3.9 | 1/8(1/2) | 灰褐 | 灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871013 | 63 |
| | 389 | 75住 | S | 坏E | 14.2 | 6.2 | 3.4 | 1/8(1/2) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No16 871008 | 62 |
| | 390 | 75住 | S | 坏D | 12.8 | 5.4 | 4.0 | 1/4(完) | 灰～暗灰 | 灰～淡茶灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871007 | 51 |
| | 391 | 75住 | S | 坏D | 13.2 | 5.8 | 3.9 | 4/5(完) | 灰～淡橙 | 黒～灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No45、フク土 | 59 |
| | 392 | 75住 | S | 坏E | 13.4 | 4.8 | 3.5 | 1/6(9/10) | 灰～黒灰 | 灰～黒灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871008 | 65 |
| | 393 | 75住 | S | 坏D | 12.0 | 4.8 | 4.3 | | 黄褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No1 871008 | 70 |
| | 394 | 75住 | S | 坏E | 17.6 | 7.0 | 5.0 | 3/5(完) | 暗赤褐～暗灰 | 黒褐～暗赤褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No12 871008 | 72 |
| | 395 | 75住 | S | 坏E | 15.4 | 3.6 | 4.9 | 1/8(1/20) | 茶褐 | 茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、外面に黒斑 | 75住 | 77 |
| | 396 | 75住 | H | 坏 | 10.1 | 4.0 | 3.7 | 1/10(1/2) | 暗茶褐～黒褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ?、底部回転糸切り、内黒 | 75住フク土 871008 | 25 |
| | 397 | 75住 | H | 坏C | 12.6 | 3.8 | 3.9 | 1/2(完) | 暗黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住No30 871008 | 34 |
| | 398 | 75住 | H | 坏C | 12.6 | 5.0 | 3.7 | 1/2(完) | 灰褐～黒灰 | 黒～灰褐 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住フク土 871025 | 60 |
| | 399 | 75住 | H | 坏C | 12.8 | 3.3 | 3.5 | 1/2(4/5) | 淡橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住No11 871008 | 69 |
| | 400 | 75住 | H | 坏C | 13.0 | 5.6 | 3.5 | 1/2(1/20) | 橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住フク土 871011 | 28 |
| | 401 | 75住 | H | 坏C | 13.8 | 6.2 | 4.2 | 1/2(完) | 茶褐～黒褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住No21 8710 | 26 |
| | 402 | 75住 | H | 坏C | 12.4 | 5.8 | 4.2 | 1/10(1/2) | 黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住フク土 871008 | 73 |
| 132 | 403 | 75住 | H | 坏C | 13.4 | 5.6 | 4.0 | 1/8(1/3) | 暗橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住フク土 871013 | 71 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 133 | 404 | 75住 | H | 椀A | 12.4 | 5.0 | 3.7 | 完 | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部暗文状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住No35 871011 | 27 |
| | 405 | 75住 | H | 坏C | 12.6 | 4.8 | 3.8 | 2/3(完) | 赤褐～暗褐 | 黒～暗灰 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、底部回転糸切り | 75住No4 871008 | 48 |
| | 406 | 75住 | H | 坏C | 12.2 | 5.6 | 4.1 | 1/2(完) | 橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部静止糸切り？内黒 | 75住No18 871008 | 49 |
| | 407 | 75住 | H | 坏C か椀A | 15.0 | | | 1/8 | 淡黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、内黒 | 75住 | 32 |
| | 408 | 75住 | H | 坏C | 14.8 | 6.0 | 4.7 | 1/2(完) | 暗黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、暗文、内黒 | 75住No27 871008 | 30 |
| | 409 | 75住 | H | 坏 | 16.6 | 6.4 | 11.4 | 1/5(1/2) | 灰褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ？、底部回転ヘラ切り？、内黒 | 75住フク土 871011 | 24 |
| | 410 | 75住 | H | 坏C | 17.0 | 7.0 | 6.6 | 1/4(完) | 黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 75住No9 871108 | 57 |
| | 411 | 75住 | H | 坏C | 17.8 | | | 1/5 | 暗橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面横位のミガキ、内黒 | 75住フク土 871011 | 23 |
| | 412 | 75住 | H | 坏D | | 5.2 | | (4/5) | 明橙褐～茶褐 | 黄褐～暗茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住 | 8 |
| | 413 | 75住 | H | 坏D | 12.8 | 6.4 | 3.0 | 1/4(完) | 暗褐～黒 | 暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No31 871009 | 5 |
| | 414 | 75住 | H | 坏D | 12.4 | 6.0 | 3.3 | 1/6(1/6) | 淡橙褐～淡茶褐 | 橙褐～茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871013 | 6 |
| | 415 | 75住 | H | 坏D | 11.6 | 7.2 | 3.6 | 1/4(1/5) | 明褐 | 明褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871008 | 3 |
| | 416 | 75住 | H | 坏D | 11.6 | 4.8 | | 1/6(1/6) | 橙褐 | 淡褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871013 | 7 |
| | 417 | 75住 | H | 坏D | 12.2 | 5.4 | 3.6 | 1/4(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871011 | 1 |
| | 418 | 75住 | H | 坏D | 12.4 | 6.0 | 3.7 | 1/8(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No10 871008 | 2 |
| | 419 | 75住 | H | 坏D | 12.2 | 6.2 | 3.6 | 完 | 橙褐～淡褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り後ロクロナデ？ | 75住No38 871011 | 10 |
| | 420 | 75住 | H | 坏D | 12.6 | 4.8 | 3.9 | 2/3(完) | 暗茶褐～橙褐 | 暗黄褐～橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No14 871008 | 45 |
| | 421 | 75住 | H | 坏D | 12.4 | 5.0 | 3.9 | 1/3(1/2) | 淡橙褐 | 明橙褐～淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871013 | 67 |
| | 422 | 75住 | H | 坏D | 12.6 | 2.8 | 3.7 | 9/10(完) | 暗橙褐～黒褐 | 茶褐～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、黒斑 | 75住No17 871008 | 43 |
| | 423 | 75住 | H | 坏D | 12.6 | 5.0 | 3.7 | 2/3(完) | 暗橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No7 871008 | 41 |
| | 424 | 75住 | H | 坏D | 12.8 | 5.0 | 3.6 | 3/4(完) | 暗茶褐 | 茶褐～黒茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No8 871008 | 44 |
| | 425 | 75住 | H | 坏D | 12.8 | 5.4 | 3.5 | 1/2(1/2) | 橙褐 | 橙褐～暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No39 871011 | 46 |
| | 426 | 75住 | H | 坏D | 12.6 | 4.7 | 3.7 | 9/10(完) | 暗褐～褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、口縁部にタール状付着物、底部に朱あり | 75住No37 871011 | 42 |
| | 427 | 75住 | H | 坏D | 13.4 | 5.9 | 3.3 | 2/3(完) | 橙褐～黒褐 | 明褐～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に炭化物付着 | 75住フク土 871011 | 47 |
| | 428 | 75住 | H | 坏D | 13.4 | 6.4 | 4.0 | 3/4(完) | 明橙褐～暗赤褐 | 茶褐～黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871008 | 58 |
| | 429 | 75住 | H | 坏D | 12.2 | 5.0 | 4.4 | 1/10(1/5) | 灰～赤褐 | 黒～灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り？ | 75住フク土 871008 | 9 |
| | 430 | 75住 | H | 坏D | 13.0 | 6.0 | 3.6 | 1/4(完) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク上、82住フク土 | 59 |
| | 431 | 75住 | H | 坏D | 12.8 | 6.4 | 4.1 | 1/2(完) | 暗橙褐 | 橙褐～黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No40 871011 | 40 |
| 133 | 432 | 75住 | H | 坏D | 14.6 | 6.8 | 3.7 | 1/2(1/2) | 灰褐～淡黄褐 | 灰褐～淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住No5 871008 | 66 |
| 134 | 433 | 75住 | H | 坏D | 15.2 | 6.2 | 5.3 | 1/3(3/4) | 暗褐～橙褐 | 暗褐～橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク上 871008 | 61 |
| 134 | 434 | 75住 | H | 坏D | 14.2 | 5.1 | 5.2 | 1/3(完) | 暗橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 75住フク土 871011 | 39 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 134 | 435 | 75住 | II | 鉢A | 12.4 | | | | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、暗文、内黒 | 75住フク土 871008 | 76 |
| | 436 | 75住 | H | 鉢A | 14.2 | 5.6 | 3.3 | | 橙褐～黒 | 橙褐～黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 75住フク土 871011 | 22 |
| | 437 | 75住 | H | 椀A | | 6.2 | | (完) | 淡橙褐～淡灰褐 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、高台部内面に爪状圧痕、内黒 | 75住No25 871008 | 29 |
| | 438 | 75住 | H | 椀B | | 7.8 | | (3/4) | 黄褐～灰褐 | 黒灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 75住フク土 871008 | 74 |
| | 439 | 75住 | H | 坏C | 15.6 | 7.6 | 5.5 | 2/3(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、内面に炭化物付着 | 75住フク土 871011 | 53 |
| | 440 | 75住 | H | 椀A | | 7.4 | | (完) | 橙褐～淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 75住フク土 871011 | 75 |
| | 441 | 75住 | H | 椀A | 13.1 | | | 1/10 | 暗橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 75住No22 871008 | 38 |
| | 442 | 75住 | H | 椀A | 12.6 | 5.6 | 4.9 | 9/10(完) | 淡橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 75住フク土 871011 | 55 |
| | 443 | 75住 | H | 椀A | 14.0 | 5.6 | 5.2 | 1/2(完) | 暗赤褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、暗文、内黒 | 75住フク土 871011 | 56 |
| | 444 | 75住 | H | 甕K | 12.8 | | | 1/10 | 黒褐 | 黒 | 外面カキ目、頸部内面ケズリ、胴部内面横位のミガキ、内黒 | 75住フク土 871008 | 31 |
| | 445 | 75住 | II | 台付鉢 | | 12.0 | | (1/2) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、スカシは四面にあったか？ | 75住フク土、81住フク土 | 34 |
| | 446 | 75住 | H | 台付鉢 | | 17.4 | | (1/4) | 暗茶褐 | 淡橙褐～黒 | ロクロナデ、スカシは外面→内面・四単位？ | 75住フク土 871011 | 33 |
| | 447 | 75住 | H | 台付鉢 | | 20.2 | | (1/6) | 淡橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ | 75住フク土 871011 | 35 |
| | 448 | 75住 | II | 台付鉢 | | | | (1/4) | 黄褐～淡橙褐 | 淡橙褐～黄褐 | ロクロナデ、脚部ハリツケ後ナデ | 75住No23 871008 | 79 |
| | 449 | 75住 | H | 台付鉢 | | | | | 淡橙褐 | 淡橙褐～淡赤褐 | ロクロナデ、脚部ハリツケ | 75住フク土 871011 | 78 |
| | 450 | 75住 | H | 台付鉢 | 31.6 | | | 1/8 | 黄褐 | 黄褐～茶褐 | ロクロナデ | 75住No47 | 80 |
| 134 | 451 | 75住 | II | 台付鉢 | 16.0 | | | 1/10 | 黄褐 | 暗褐 | ロクロナデ、内面に炭化物付着 | 75住フク土 871011 | 52 |
| 135 | 452 | 75住 | K | 椀 | 15.4 | | | | 灰 | 灰 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871013 | 17 |
| | 453 | 75住 | K | 椀 | 11.6 | | | 1/8 | 灰 | 灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住 | 19 |
| | 454 | 75住 | K | 椀 | 13.8 | | | 1/5 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871009 | 14 |
| | 455 | 75住 | K | 皿 | 14.4 | 5.2 | 2.9 | | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、刷毛塗り | 75住No41・42 871011 | 4 |
| | 456 | 75住 | K | 椀 | 16.2 | | | 1/4 | 灰 | 灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871011 | 11 |
| | 457 | 75住 | K | 皿 | 13.4 | 5.0 | 3.5 | 1/10(9/10) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り、付高台、刷毛塗り | 75住フク土 871011 | 12 |
| | 458 | 75住 | K | 椀 | 17.0 | | | 1/8 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871013 | 15 |
| | 459 | 75住 | K | 椀 | 15.6 | 8.2 | 5.3 | 1/20(完) | 暗黄灰 | 淡黄灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、重ね焼痕 | 75住フク土 871011 | 21 |
| | 460 | 75住 | K | 椀 | | 6.8 | | (完) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871011 | 13 |
| | 461 | 75住 | K | 椀 | | 10.2 | | (完) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、刷毛塗り | 75住フク土 871011 | 16 |
| | 462 | 75住 | K | 皿 | 13.3 | | | 1/8 | 暗灰 | 灰 | ロクロナデ、刷毛塗り | 75住フク土 871009 | 18 |
| | 463 | 75住 | R | 椀か皿 | | 6.6 | | (1/3) | 明緑灰 | 明緑灰 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 75住中央中層 871004 | 81 |
| | 464 | 75住 | K | 皿？ | | 6.8 | | (1/3) | 暗黄灰 | 暗黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に重ね焼痕、外面ニストチンの痕跡 | 75住フク土、76住フク土 | 20 |
| 135 | 465 | 76住 | S | 坏D | 12.0 | 5.0 | 3.4 | 1/5(完) | 赤褐 | 赤褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 76住フク土、81住フク土 | 12 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 135 | 466 | 76住 | S | 坏D | 13.0 | 6.0 | 4.3 | 1/6(ほぼ完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 76住フク土 871005 | 13 |
| | 467 | 76住 | S | 坏C | 9.6 | 4.6 | 4.3 | 1/8(1/2) | 暗灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 76住フク土 871004 | 39 |
| | 468 | 76住 | S | 坏C | | 9.4 | | (1/3) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、内面回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 76住フク上 871009 | 38 |
| | 469 | 76住 | S | 坏C | 13.6 | | | 1/6 | 暗灰 | 灰 | ロクロナデ、外面に自然釉 | 76住フク土、81住床下 | 14 |
| | 470 | 76住 | S | 坏C | 15.2 | 9.4 | 7.0 | 1/8(1/2) | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ、体部外面下半ケズリ後ナデ、底部回転糸切り・周囲は回転ヘラケズリ | 76住フク上、81住床下他 | 15 |
| | 471 | 76住 | H | 椀A | | 7.4 | | (ほぼ完) | 黄褐 | 黒 | 見込部放射状のミガキ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、内黒 | 76住フク土 871009 | 30 |
| | 472 | 76住 | H | 椀A | | 6.1 | | (完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 76住フク上 871009 | 29 |
| | 473 | 76住 | H | 皿A | 13.2 | 7.0 | 3.6 | 破片(1/6) | 灰褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 76住フク上 871011 | 32 |
| | 474 | 76住 | H | 皿A | 12.3 | | | 1/8 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位・見込部縦位のミガキ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り、内黒 | 76住フクセ 871005 | 33 |
| | 475 | 76住 | H | 坏C | | 6.2 | | (1/2) | 橙褐 | 灰黒 | ロクロナデ、内面ナデ、底部回転糸切り、底部にヘラ記号、内黒 | 76住フク上 871011 | 23 |
| | 476 | 76住 | H | 坏C | | 5.8 | | (3/5) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住 | 24 |
| | 477 | 76住 | H | 坏C | | 5.4 | | (1/2) | 淡黄橙 | 黒 | ロクロナデ、内面横位・縦位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住フク上 871017 | 20 |
| | 478 | 76住 | H | 坏C | 13.6 | 6.2 | 4.5 | ほぼ完(完) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、口縁にタール状付着物、内黒 | 76住No11 871011 | 1 |
| 135 | 479 | 76住 | H | 坏C | 13.0 | 5.4 | 3.7 | 1/3(1/2) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住南ベルト 871011 | 3 |
| 136 | 480 | 76住 | H | 坏C | 11.7 | 5.9 | 3.9 | 1/6(1/5) | 淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面縦位・横位のミガキ、底部摩滅、内黒 | 76住南ベルト 871017 | 19 |
| | 481 | 76住 | H | 坏C | 13.0 | 6.3 | 4.1 | 1/2(ほぼ完) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面横位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、外面にスス付着?、内黒 | 76住フク土 871003 | 21 |
| | 482 | 76住 | H | 坏 | 12.8 | 5.4 | 4.3 | 1/6(1/8) | 赤橙 | 赤橙 | ロクロナデ、内面放射状のミガキ後ナデ?、体部外面下半～底部回転ヘラケズリ | 76住ベルト 871011 | 27 |
| | 483 | 76住 | H | 坏C | 13.3 | 5.4 | 3.6 | 1/2(1/3) | 明橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、体部外面下半ケズリ後ナデ、底部回転糸切り、内黒 | 76住南ベルト 871011 | 2 |
| | 484 | 76住 | H | 坏C | 13.4 | 6.0 | 4.2 | 1/3(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住フクセ 871011 | 6 |
| | 485 | 76住 | H | 坏C | 13.5 | 6.0 | 4.1 | 1/2(1/2) | 明赤褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住No14 871011 | 4 |
| | 486 | 76住 | H | 坏C | 12.1 | 6.8 | 4.2 | 2/5(2/3) | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面縦位・横位・不定方向のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住No8 871011 | 18 |
| | 487 | 76住 | H | 坏C | 13.4 | 6.8 | 4.2 | 1/5(完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住No1 871011 | 25 |
| | 488 | 76住 | H | 坏C | 14.0 | 6.2 | 4.2 | 1/6(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後X字形に線刻、内黒 | 76住南ベルト 871011 | 7 |
| | 489 | 76住 | H | 坏C | 15.0 | 6.7 | 4.8 | 3/4(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 76住No2 871011 | 5 |
| | 490 | 76住 | H | 椀A | 12.2 | 6.2 | 5.1 | 3/4(完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位・見込部放射状のミガキ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転糸切り後付高台、内黒 | 76住No15 871011 | 9 |
| | 491 | 76住 | H | 坏C | 14.2 | | | 1/4 | 淡黄橙 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部縦位のミガキ?、内黒 | 76住フク上 871003 | 22 |
| | 492 | 76住 | H | 椀A | 15.2 | 7.0 | 5.2 | 1/4(1/4) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、内黒 | 76住 | 28 |
| | 493 | 76住 | H | 椀A | | 9.0 | | (1/2) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 76住南ベルト 871011 | 31 |
| | 494 | 76住 | H | 椀C | 16.4 | 6.8 | 5.2 | 1/5(ほぼ完) | 赤褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、内黒 | 76住カマド 871014 | 8 |
| | 495 | 76住 | H | 椀A | 15.8 | 7.0 | 6.3 | 1/8(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面横位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、底部に黒斑、内黒 | 76住フク土 871008 | 10 |
| 136 | 496 | 76住 | H | 坏E? | 14.7 | 7.6 | 6.2 | 1/6(1/5) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、口縁部摩滅、口縁内面縦位のミガキ、見込部放射状のミガキ、体部外面下半～底部回転ヘラケズリ | 76住南ベルト 871011 | 26 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 136 | 497 | 76住 | II | 鉢A？ | 13.3 | | | 1/8 | 淡橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部ナデ、内黒 | 76住北フク土 871008 | 11 |
| | 498 | 76住 | K | 椀 | | 7.2 | | | 灰 | 淡黄白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、重ね焼痕 | 76住フク土 871009 | 37 |
| | 499 | 76住 | II | 小形壺E | | 5.8 | | (ほぼ完) | 黄褐 | 橙褐 | 外面カキ目、内面ロクロナデ、底部回転糸切り | 76住No4 871011 | 36 |
| | 500 | 76住 | H | 甕E | 27.0 | | | 1/6 | 橙 | 橙 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面ナデ | 76住No13 871011 | 34 |
| 136 | 501 | 76住 | H | 甕E | | 8.4 | | (1/4) | 灰褐 | 灰褐 | 外面ハケ目、内面ナデ、底部ナデ | 76住ベルト 871011 | 35 |
| 137 | 502 | 77住 | S | 坏C | | 9.0 | | (3/4) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り・周囲は回転ヘラケズリ・付高台 | 77住ベルト 871013 | 3 |
| | 503 | 77住 | S | 坏C | 14.0 | 10.4 | 3.7 | 1/3(1/3) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転部ヘラケズリ、付高台後ナデ | 77住No2 871014 | 1 |
| | 504 | 77住 | S | 坏CかD | 12.4 | | | 1/5 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ | 77住フク土 871013 | 2 |
| | 505 | 80住 | S | 蓋C | | | | | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ、宝珠つまみ、外面に自然釉 | 80住 871011 | 1 |
| | 506 | 83住 | S | 蓋C | 13.7 | — | | 1/3 | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ、頂部外面に自然釉付着 | 83住No2 871014 | 1 |
| | 507 | 83住 | H | 蓋A？ | 16.8 | | | 1/12 | 茶褐 | 茶褐 | 口縁強いヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ハケ目 | 83住フク土 871013 | 3 |
| | 508 | 81住 | S | 蓋C | 16.2 | | | 1/5 | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | 81住床下 871005 | 11 |
| | 509 | 81住 | S | 坏C | | 9.2 | | (1/4) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、底部ヘラ記号？ | 81住床ド 871013 | 10 |
| | 510 | 81住 | S | 坏D | 12.4 | 6.0 | 3.2 | 1/6(1/6) | 黄灰 | 黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 81住床下 871013 | 9 |
| | 511 | 81住 | S | 坏D | 12.6 | 6.0 | 4.0 | 1/8(1/5) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に火ダスキ | 81住床下 871013 | 7 |
| | 512 | 81住 | S | 坏E | 13.6 | 6.3 | 4.0 | 5/6(ほぼ完) | 橙褐 | 橙褐～灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 81住床ド | 9 |
| | 513 | 81住 | H | 坏D | 11.6 | 5.6 | 4.5 | 破片(1/4) | 淡橙 | 淡白橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 81住フク土 871013 | 3 |
| | 514 | 81住 | H | 坏C | 11.6 | 5.6 | 3.9 | 1/5(1/3) | 淡黄橙 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り・内面強いナデ、内黒 | 81住フク十 871005 | 1 |
| | 515 | 81住 | II | 坏C | 14.0 | 6.5 | 3.9 | 1/4(1/8) | 黄橙 | 黒～橙 | ロクロナデ、内面横位のミガキ、内黒 | 81住フク土 871013 | 2 |
| | 516 | 81住 | H | 坏C | 18.0 | | | 1/6 | 灰褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、内黒 | 81住はり床ド 871005 | 5 |
| | 517 | 81住 | K | 椀 | 17.5 | | | 1/4 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、流れ掛け、輪花椀 | 81住フク十 871005 | 4 |
| | 518 | 81住 | H | 甕E | 22.8 | | | | 淡橙 | 橙褐 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面ナデ後ハケ目 | 81住フク十 871005 | 6 |
| | 519 | 82住 | S | 坏D | 13.2 | | | 1/3 | 灰～橙灰 | 橙灰 | ロクロナデ、口縁部に自然釉付着 | 82住フク土 871013 | 10 |
| | 520 | 82住 | H | 坏D | 13.0 | 6.3 | 3.3 | 1/4(完) | 明褐灰 | 明褐白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に炭化物付着 | 82住フク土 871011 | 7 |
| 137 | 521 | 82住 | H | 坏D | 13.4 | 6.8 | 3.7 | 1/3(完) | 暗褐灰 | 暗褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、底部に炭化物付着 | 82住No1 871011 | 5 |
| 138 | 522 | 82住 | H | 坏D | 11.6 | 5.0 | 3.0 | 2/3(完) | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に炭化物付着 | 82住フク土 871011 | 6 |
| | 523 | 82住 | H | 椀B | | 3.3 | | (ほぼ完) | 明黄灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、付高台後ナデ、内外面に炭化物付着 | 82住フク土 871011 | 8 |
| | 524 | 82住 | H | 椀B | 15.0 | 6.8 | 4.95 | 1/4(完) | 明黄灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 82住フク土 871011 | 4 |
| | 525 | 82住 | H | 椀B | 13.6 | 6.2 | 4.7 | 1/3(完) | 明黄灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、付高台後ナデ、内外面に炭化物付着 | 82住フク十 871031 | 3 |
| | 526 | 82住 | H | 耳皿 | 8.0 | 3.8 | 2.1 | ほぼ完(完) | 明褐灰 | 明黄灰 | ロクロナデ、内→外の穿孔 | 82住中層 871011 | 1 |
| 138 | 527 | 82住 | K | 椀 | 16.2 | 7.3 | 5.7 | 1/5(1/5) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 82住フク土 871011 | 9 |

| 図番号 | 土器No | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 138 | 528 | 82住 | H | 鉢 | 18.0 | | | 1/4 | 明褐灰 | 明褐白 | ロクロナデ、内外面に炭化物付着 | 82住フク上 871013 | 2 |
| | 529 | 84住 | H | 皿 | 9.3 | 5.0 | 1.4 | 完 | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り、底部に板目痕あり | 84住上面 881203 | 1 |
| | 530 | 85住 | II | 小形壺? | 12.0 | | | 1/8 | 淡褐 | 褐 | 口縁ヨコナデ、胴部外面摩滅・内面ナデ | 85住No1 881206 | 1 |
| | 531 | 86住 | S | 坏D | | 4.9 | | (完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部周転糸切り | 86住 860911 | 2 |
| | 532 | 86住 | S | 坏D | 12.3 | 5.8 | 3.4 | 完 | 暗褐 | 暗褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、口縁部に自然釉 | 86住カマド左脇 860911 | 3 |
| | 533 | 86住 | II | 坏B | 19.4 | | | 1/5 | 橙褐 | 黒 | 外面ロクロナデ後ミガキ、体部外面下半回転ヘラケズリ後ミガキ、内面ミガキ、底部回転糸切り後ケズリ、内黒 | 86住 860911 | 4 |
| | 534 | 86住 | II | 壺E? | | 9.4 | | (1/4) | 黄褐 | 黄褐 | 外面ハケ目、内面ナデ、底部ナデ | 86住 860911 | 1 |
| | 535 | 87住 | S | 甕 | | 7.5 | | (1/4) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、外面に自然釉 | 87住 860911 | 4 |
| | 536 | 87住 | H | 坏D | 12.9 | 5.8 | 3.6 | 7/8(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、見込部に炭化物付着 | 87住No2 860911 | 1 |
| | 537 | 87住 | H | 坏D | 13.2 | 5.8 | 4.0 | 6/7(完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 87住No1 860911 | 3 |
| 138 | 538 | 87住 | H | 坏D | 12.9 | 4.9 | 4.0 | 5/6(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に黒斑 | 87住No1右脇 860911 | 2 |
| 139 | 539 | 88住 | H | 坏C | | 6.2 | | (完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、内面放射状のミガキ、底部回転糸切り | 88住フク土 89 | 3 |
| | 540 | 88住 | H | 坏C | 12.0 | 7.9 | 3.8 | 1/8(1/5) | 淡茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、体部ヘラケズリ、見込部放射状のミガキ、内黒 | 88住フク土 89 | 1 |
| | 541 | 88住 | II | 坏D | 13.2 | 5.3 | 4.0 | 1/12(3/4) | 淡緑褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 88住フク土 89 | 2 |
| | 542 | 88住 | S | 甕胴壺? | | | | | 淡灰 | 濃灰 | ロクロナデ | 88住フク土 89 | 4 |
| | 543 | 88住 | K | 壺 | | | | | 白乳 | (釉) 淡緑 | ロクロナデ | 88住フク土 89 | 6 |
| | 544 | 89住 | II | 坏C | 15.6 | 6.8 | 4.6 | 1/3(1/3) | 暗褐 | 黒 | ロクロナデ、内面横位のミガキ、底部回転糸切り、外面に炭化物付着、内黒 | 89住上部平安包層 871003 | 1 |
| | 545 | 401土 | S | 坏E | 5.9 | 4.8 | 3.9 | 1/5(1/5) | 灰褐～黒 | 灰褐～黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 土1 861114 | 土1-5 |
| | 546 | 401土 | H | 坏D | 9.9 | 5.0 | 2.4 | 1/2(完) | 橙褐 | 橙褐～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土1No8 861031 | 土1-2 |
| | 547 | 401土 | H | 坏D | 9.6 | 4.0 | 2.5 | 1/8(完) | 淡橙褐～明黒褐 | 暗黒褐～明黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土1No5 861031 | 土1-4 |
| | 548 | 401土 | II | 坏D | 10.6 | | | 1/5 | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ | 土1 861114 | 土1-12 |
| | 549 | 401土 | H | 坏D | | 5.2 | | (9/10) | 茶褐～暗褐 | 茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土1フク土 861031 | 土1-9 |
| | 550 | 401土 | H | 坏C | 14.2 | | | 1/4 | 灰褐 | 黒褐 | ロクロナデ、体部内面放射状のミガキ、内黒 | 土1No2 861031 | 土1-1 |
| | 351 | 401土 | H | 坏D | 14.6 | 7.0 | 3.8 | 1/6(完) | 橙褐～黒褐 | 橙褐～黒褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土1No9 861031 | 土1-6 |
| | 552 | 401土 | H | 皿 | 10.2 | | | 1/3 | 暗茶褐 | 暗茶褐 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台 | 土1フク土、検出面 | 土1-11 |
| | 553 | 401土 | H | 椀B | | | | | 黒褐～橙褐 | 黒褐～淡橙褐 | ロクロナデ、付高台 | 土1No10 861104 | 土1-7 |
| | 554 | 401土 | H | 鉢 | 22.0 | | | | 淡黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、内黒 | 土1 861114 | 土1-10 |
| | 555 | 401土 | K | 椀 | | 8.6 | | (1/2) | 灰白 | 灰白～暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台 | 土1 861114 | 土1-8 |
| 139 | 556 | 401土 | K | 椀 | 15.2 | 8.4 | 7.0 | 4/5(完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台、重ね焼痕 | 土1No1～No5、検出面 | 土1-3 |
| 140 | 557 | 402土 | S | 坏D | | 6.2 | | (1/5) | 青灰 | 青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土2 861113 | 土2-3 |
| 140 | 558 | 402土 | H | 坏 | 13.6 | 5.2 | 4.3 | 1/4(3/4) | 暗灰褐～黒 | 灰褐～黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面黒色処理 | 土2検 861104 | 土2-6 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 140 | 559 | 402土 | H | 坏D | 13.8 | 6.2 | 4.7 | 1/6(2/3) | 赤褐～黄橙 | 赤褐～黄橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土壙2フク十 861115 | 土2-5 |
| | 560 | 402上 | H | 坏D | 15.0 | 5.8 | 5.0 | 1/5(完) | 明黒褐～淡橙 | 明黒褐～赤褐 | ロクロナデ、底部・体部の下半部に黒斑 | II区上壙2検 861104 | 土2-1 |
| | 561 | 402土 | K | 甕 | 17.4 | 7.6 | 4.0 | 1/20(1/2) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台、流れ掛け | 土壙2フク上 861115 | 土2 2 |
| | 562 | 402上 | H | 台付鉢 | 26.2 | | | | 橙褐～黒褐 | 黒褐～灰褐 | ロクロナデ | 土壙2 861113 | 土2-4 |
| | 563 | 404土 | S | 長頸壺 | 12.7 | 8.0 | 20.3 | 1/4(完) | 明灰 | 明灰 | ロクロナデ、付高台、口縁と肩部に炭化物付着 | 土4Na3 | 土4-8 |
| | 564 | 404土 | S | 坏C | | 8.6 | | (完) | 青灰 | 青灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後付高台 | 土4 861115 | 土4-6 |
| | 565 | 404土 | S | 坏C | 13.6 | 9.0 | 3.5 | 1/6(1/10) | 淡緑灰 | 淡緑灰 | ロクロナデ、付高台後ナデ | 土4 861114 | 土4-3 |
| | 566 | 404上 | H | 坏D | 10.6 | 5.0 | 2.3 | 1/3(1/3) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土4 861114 | 土4-2 |
| | 567 | 404上 | H | 椀B | | 6.6 | | (1/2) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ後付高台、内面に朱付着 | 土4 861114 | 土4-5 |
| | 568 | 404十 | H | 椀B | 13.2 | 6.6 | 5.9 | 2/3(5/6) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り後付高台 | 土4Na2 861115 | 土4-1 |
| | 569 | 404土 | H | 椀A | 11.7 | 5.8 | 4.8 | 完(完) | 淡橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、付高台後ナデ、体部内面ミガキ、内黒 | 土4Na4 861115 | 土4-4 |
| 140 | 570 | 404土 | H | 羽釜 | | | | | 暗茶褐 | 暗茶褐 | ナデ、内面に指圧痕、鍔の下部に炭化物付着 | 土壙4 861114 | 9 |
| 141 | 571 | 405十 | S | 坏D | 12.8 | 6.9 | 3.0 | 1/4(1/2) | 暗灰 | 明灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、外面に植物繊維状の痕跡 | 土壙5 891005 | 土5-4 |
| | 572 | 405土 | S | 坏D? | 12.0 | 5.8 | 3.5 | 8/9(完) | 明灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部静止糸切り? | 土壙5Na2 871005 | 土5-1 |
| | 573 | 405上 | S | 坏D | 13.0 | 5.3 | 3.9 | 3/4(完) | 暗灰 | 暗褐灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、外面に自然釉?、火ダスキ | 土壙5Na1 871005 | 土5 3 |
| | 574 | 405十 | S | 坏D | 11.8 | 5.4 | 3.9 | 5/6(完) | 明灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土壙5Na3 871005 | 土5-2 |
| | 575 | 405土 | H | 小形壺E | 16.0 | | | 1/6 | 明褐灰白 | 明褐灰 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ | 土壙5ﾄﾚﾝﾁ土 871005 | 土5-5 |
| | 576 | 408十 | S | 坏D | 12.0 | 6.4 | 4.2 | 1/4(完) | 明黄灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 土壙8Na1 871005 | 土8-1 |
| | 577 | 408土 | S | 甕 | | | | 肩部破片 | 明灰 | 明灰白 | ロクロナデ、外面に自然釉 | 土壙8Na2 871005 | 土8-2 |
| | 578 | 409土 | S | 壺C | 8.6 | | | 1/12 | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ | 土壙 881205 | 土-1 |
| | 579 | 409上 | S | 坏D | | 5.8 | | (1/4) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 十壙 881205 | 土-2 |
| | 580 | 409土 | H | 椀A | | 6.2 | | (1/2) | 淡黄 | 黒 | 内面ミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 七壙 881205 | 土-3 |
| | 581 | 305溝 | K | 椀 | 8.4 | | | (1/5) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、付高台後ナデ | 溝5Na2 851119 | 溝5 2 |
| | 582 | 305溝 | H | 椀 | | | | | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、底部回転糸切りのちナデ | 溝5Na1 851119 | 溝5-1 |
| | 583 | 401溝 | K | 椀 | | 7.2 | | (1/4) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台 | 溝1フク十 861115 | 溝1-2 |
| | 584 | 401溝 | K | 長頸瓶 | | 15.4 | | (1/5) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、体部外面回転ヘラケズリ、付高台 | 溝1フク土 861113 | 溝1-1 |
| | 585 | 402溝 | H | 坏C | 13.9 | | | 1/3 | 黄褐～橙褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面斜め方向のミガキ、内黒 | 溝2フク土 861113 | 溝2-2 |
| | 586 | 402溝 | H | 坏C | | 7.0 | | (1/3) | 橙 | 黒 | 体部内面ミガキ、底部回転糸切り | 溝1 861111 | 溝2-5 |
| 141 | 587 | 402溝 | H | 坏C | 17.0 | | | 1/8 | 黄橙褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、内黒 | 溝2フク土 861113 | 溝2-1 |
| 142 | 588 | 402溝 | H | 須恵かD | | 8.8 | | (1/8) | 灰茶褐 | 灰黒 | 体部内面及び外面底部付近にハケ目 | 溝2フク 861113 | 溝2-3 |
| 142 | 589 | 402溝 | H | 坏D | 13.4 | 6.0 | 4.9 | 1/4(完) | 淡黄褐～橙 | 淡黄橙～橙 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 溝Na2 861115 | 溝2-4 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 寸法(cm) 底径 | 寸法(cm) 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 142 | 590 | 402溝 | 青磁 | 碗 | | | | | 明緑青 | 明緑青 | 釉のため調整不明 | 溝2-狭 | 溝2 10 |
| | 591 | 402溝 | S | 甕 | | 14.4 | | (1/8) | 灰褐 | 灰褐 | 体部外面タタキ目、体部内面工具によるナデ | 溝2 861113 | 溝2-7 |
| | 592 | 1集 | H | 甕E | 21.0 | 8.7 | 32.0 | 3/4(1/2) | 黄褐 | 暗褐 | 口縁ヨコナデ、内面カキ目、胴部内面ナデ・外面ハケ目、底部ナデ | 集石1No.10・11・12・13・14・18・21 | 1 |
| | 593 | 3集 | S | 壺 | | | | | 乳黄白 | 乳黄白～淡暗灰 | ロクロナデ、付高台後ヨコナデ、底部回転糸切り | 集石3 861114 | 7 |
| | 594 | 3集 | S | 坏B | | 6.4 | | (1/5) | 灰～橙灰 | 灰～橙灰 | ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ | 集石3No.22 861115 | 6 |
| | 595 | 3集 | S | 坏D? | 14.6 | | | 1/4 | 黒～淡黄白 | 黒～淡黄白 | ロクロナデ | 集石3 861114 | 4 |
| | 596 | 3集 | S | 坏D | 13.2 | 5.5 | 4.1 | ほぼ完 | 淡黄白 | 淡黄白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石3No.23 861115 | 5 |
| | 597 | 3集 | H | 坏D | 13.0 | 6.4 | 4.25 | 1/4(ほぼ完) | 淡褐 | 明褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石3No.10 861115 | 1 |
| | 598 | 3集 | H | 坏Cか椀A | 12.8 | | | 1/3 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面放射状のミガキ、内黒 | 集石3 861114 | 2 |
| | 599 | 3集 | H | 坏C | 13.0 | 6.3 | 4.2 | 1/2(完) | 明褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、底部回転糸切り、内面に付着物、内黒 | 集石3No.5 861115 | 20 |
| | 600 | 3集 | H | 椀A | 16.7 | 6.8 | 5.6 | 1/4(1/2) | 明橙褐 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、付高台後ヨコナデ、底部摩滅、内黒 | 集石3No.18 861115 | 3 |
| 142 | 601 | 3集 | H | 坏C | 17.8 | | | 1/8 | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、内黒 | 集石3No.20 861115 | 17 |
| 143 | 602 | 3集 | K | 椀 | | 7.2 | | (完) | 灰白 | 灰白 | 底部内面ロクロナデ後ナデ?、付高台後ヨコナデ、刷毛塗り?、底部墨書 | 集石3No.11 861115 | 13 |
| | 603 | 3集 | K | 段皿 | 16.3 | | | 1/8 | 灰黄白 | 灰黄白 | ロクロナデ | 集石3No.25 | 12 |
| | 604 | 3集 | K | 椀 | | 8.8 | | (1/3) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、体部内面ロクロナデ後ナデ、付高台後ヨコナデ、刷毛塗り | 集石3No.25 861115 | 10 |
| | 605 | 3集 | K | 皿 | 15.4 | 7.6 | 3.2 | 1/5(1/3) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ヨコナデ、刷毛塗り、重ね焼痕 | 集石3No.1 861115 | 9 |
| | 606 | 3集 | K | 椀 | 15.8 | | | 1/7 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、刷毛塗り?、重ね焼痕 | 集石3フク土 841114 | 11 |
| | 607 | 3集 | K | 椀 | 15.2 | 7.8 | 4.6 | 1/8(3/5) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ヨコナデ、刷毛塗り | 集石3No.4 861115 | 8 |
| | 608 | 3集 | S | 甕 | | 14.4 | | | 暗灰 | 明灰 | 胴部外面下半ヘラケズリ・内面下半ロクロナデ、底部摩滅、内面に付着物 | 集石3No.8 861115 | 15 |
| | 609 | 3集 | S | 甕 | | 18.8 | | (2/5) | 暗青灰 | 明灰 | 胴部外面下半回転ヘラケズリ・内面下半ロクロナデ、底部ヘラ切り、付高台、内面に付着物・自然釉 | 集石3No.13 861115 | 14 |
| | 610 | 3集 | H | 小形甕E | 13.6 | | | 1/2 | 明褐 | 明褐灰 | 口縁摩滅・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ | 集石3No.7 861115 | 18 |
| | 611 | 3集 | H | 甑 | | 10.2 | | (1/4) | 明褐灰 | 明褐灰 | 胴部外面下半ハケ目・内面下半ナデ、底部摩滅 | 集石3フク土 861114 | 19 |
| | 612 | 3集 | H | 筒形土器 | 12.8 | | | 1/6 | 明褐 | 明褐灰 | ロクロナデ、外面に黒斑 | 集石3No.8 861115 | 16 |
| | 613 | 4集 | S | 坏E | 13.0 | 6.1 | 3.6 | 1/4(完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、内面はロクロナデ後ナデ、底部回転糸切り | 集石4No.8 8709 | 集4-10 |
| | 614 | 4集 | S | 坏E | 12.9 | 6.2 | 4.0 | 3/4(完) | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石4No.33 870919 | 集4-11 |
| | 615 | 4集 | S | 坏E | 12.8 | 6.0 | 4.2 | 2/3(完) | 黄褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、全面に黒斑 | 集石4No.15・19 | 集4-19 |
| | 616 | 4集 | H | 坏C | 13.0 | 6.0 | 3.7 | 3/4(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No.3～5 8709 | 集4 3 |
| | 617 | 4集 | H | 坏C | 13.0 | 6.7 | 3.5 | 1/3(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4周辺包含層 870919 | 集4周辺-2 |
| | 618 | 4集 | H | 坏C | 13.9 | 6.0 | 3.8 | 1/5(完) | 灰褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No.34 8709 | 集4-9 |
| | 619 | 4集 | H | 坏C | 13.2 | 6.4 | 3.8 | 1/2(完) | 淡灰褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No.32 870919 | 集4-6 |
| 143 | 620 | 4集 | H | 坏C | 12.2 | 5.4 | 3.9 | 完 | 淡黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No.28 870919 | 集4-16 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法 (cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 143 | 621 | 4集 | H | 坏C | 13.0 | 5.9 | 4.4 | ほぼ完(完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No25 870919 | 集4-15 |
| | 622 | 4集 | H | 坏C | 13.8 | 6.8 | 4.3 | 3/4(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部ナデ、内黒 | 集石4No9 8709 | 集4-17 |
| | 623 | 4集 | H | 坏C | 13.4 | 6.7 | 4.1 | 3/4(完) | 淡灰褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No3～5 8709 | 集4-4 |
| 143 | 624 | 4集 | H | 坏C | 13.4 | 5.6 | 4.0 | 1/2(ほぼ完) | 暗橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No1 8709 | 集4-18 |
| 144 | 625 | 4集 | H | 坏 | 13.0 | | | 1/12 | 明褐灰 | 黒 | ロクロナデ、内面調整不明、外面に墨書、内黒 | 集石4同包含層 870920 | 集4包-1 |
| | 626 | 4集 | H | 坏C | 13.5 | 6.5 | 4.7 | 1/4(完) | 橙褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No6、フク土 | 集4-19 |
| | 627 | 4集 | H | 坏C | 12.6 | | | 完(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、内黒 | 集石4No29 | 集4-21 |
| | 628 | 4集 | H | 坏C | 13.3 | 5.6 | 4.1 | 完(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No30 870919 | 集4-22 |
| | 629 | 4集 | H | 椀A | 15.2 | | | 1/3 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No7 8709 | 集4-13 |
| | 630 | 4集 | H | 坏C | 19.4 | 7.4 | 6.0 | 3/4(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No3～5 8709 | 集4-23 |
| | 631 | 4集 | H | 坏C | 18.4 | 7.3 | 7.2 | 1/5(完) | 黄褐～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4 870916 | 集4-24 |
| | 632 | 4集 | H | 皿A | 13.4 | 5～6 | 2.8 | 1/4(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、内黒 | 集石4No31 870929 | 集4-8 |
| | 633 | 4集 | H | 皿A | 14.5 | 7.6 | 3.6 | 1/5(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り後ナデ、内黒 | 集石4No23 870919 | 集4-7 |
| | 634 | 4集 | H | 椀A | 15.2 | 6.8 | 5.1 | 1/2(完) | 淡褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石4No2 8709 | 集4-5 |
| | 635 | 4集 | H | 椀A | 14.5 | 6.2 | 5.2 | 1/2(完) | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 集石4No35 8709 | 集4-14 |
| | 636 | 4集 | H | 小形甕 | 20.4 | 8.2 | 11.6 | 1/9(1/2) | 黄褐 | 黄褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面カキ目・内面ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石4No16・24・37 | 集4-26 |
| | 637 | 4集 | H | 甕E? | | 8.3 | | (完) | 黄褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石4No17 8709 | 集4-25 |
| | 638 | 4集 | S | 長頸壺 | | 8.1 | | (1/4) | 暗褐 | 淡褐 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 集石4フク土 871003 | 集4-12 |
| | 639 | 4集 | S | 甕? | | 10.8 | | (1/3) | 灰 | 灰 | 外面タタキ目、胴部外面下半ロクロナデ、内面ナデ、底部ナデ | 集石4No22 870919 | 集4-27 |
| 144 | 640 | 4集 | K | 短頸壺 | 12.9 | | | 1/9 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ、胴部外面下半回転ヘラケズリ、[illegible] | 集石4 870914 | 集4-28 |
| 145 | 641 | 4集 | H | 甕E | 20.6 | | | 1/2 | 黄褐 | 橙～暗褐 | 口縁ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・内面カキ目、ナデ | 集石4No11・14 8709 | 集4-1 |
| | 642 | 4集 | H | 甕E | 21.0 | 8.6 | 33.7 | 1/2(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、カキ目後ロクロナデ・内面カキ目、胴部外面ハケ目・[illegible]ナデ・回転ヘラケズリ・内面カキ目・ナデ、底部ナデ | 集石4No36 | 集4-2 |
| | 643 | 5集 | S | 坏D | 13.3 | 5.8 | 3.7 | 1/4(完) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、口縁に自然釉 | 集石5フク土 870915 | 集5-1 |
| | 644 | 5集 | H | 坏D | 12.4 | 5.5 | 3.6 | 完 | 淡黄 | 淡黄 | ロクロナデ、底部回転糸切り、底部に[illegible] | 集石5No9 870922 | 集5-3 |
| | 645 | 5集 | H | 坏D | 12.9 | 6.2 | 3.4 | ほぼ完 | 褐～橙褐 | 淡褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、内外面に炭化物付着 | 集石5No16 870924 | 集5-4 |
| | 646 | 5集 | H | 坏D | 12.6 | 6.2 | 3.6 | 1/4(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石5No13 870922 | 集5-5 |
| | 647 | 5集 | H | 坏C | 15.4 | 6.0 | 5.2 | 4/5(完) | 茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石5No8 870922 | 集5-7 |
| | 648 | 5集 | H | 坏C | 15.3 | 6.5 | 5.4 | 1/12(完) | 淡黄 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石5フク土 870921 | 集5-6 |
| | 649 | 5集 | H | 皿A | 13.1 | 5.4 | 3.4 | 1/10(完) | 茶褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り後ナデ?、付高台後ナデ、内黒 | 集石5No2 870922 | 集5-2 |
| | 650 | 5集 | K | 鉢 | | 7.1 | | (1/5) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 集石5フク土 870915 | 集5-8 |
| 145 | 651 | 5集 | H | 鉢 | 19.0 | 8.1 | 8.9 | 4/5(完) | 淡橙 | 淡黄 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石5No5 検出面 | 集5-9 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) | | | 残存度 | 色調 | | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | 外面 | 内面 | | | |
| 145 | 652 | 5集 | H | 甕E？ | 17.7 | | | 1/10 | 淡黄 | 淡黄 | 口縁ヨコナデ・内面カキ目、胴部内外面ロクロナデ | 集石6フク土 870915 | 集5-10 |
| | 653 | 6集 | K | 小形壺 | | 4.8 | | (1/2) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石6フク土 870922 | 集6-5 |
| | 654 | 6集 | S？ | 坏E | 12.6 | 5.0 | 3.5 | 1/12(1/4) | 暗灰～淡灰 | 暗灰～淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石6フク土 870922 | 集6-1 |
| | 655 | 6集 | H | 坏C | 13.4 | 5.6 | 3.8 | 1/2(完) | 淡橙～暗褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 集石6No2 870923 | 集6-2 |
| | 656 | 6集 | H | 椀A | 14.5 | 7.2 | 4.5 | 2/3(完) | 橙褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部暗文状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 集石6No4 870923 | 集6 3 |
| | 657 | 6集 | K | 椀 | | 6.6 | | (1/3) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 集石6フク土 870922 | 集6-4 |
| 145 | 658 | 6集 | H | 台付鉢 | | 12.1 | | (1/5) | 淡橙 | 淡橙 | ロクロナデ、端部ヨコナデ、スカシは4単位か？ | 集石6フク土 870922 | 集6 6 |
| 146 | 659 | 6集 | S | 甕 | 40.3 | | | 3/4 | 灰褐 | 灰褐 | ロクロナデ、頸部内面ナデ、体部外面タタキ目・内面あて具痕 | 集石6No8・10、西検出面 | 集6-7 |
| | 660 | 7集 | H | 坏D | 13.4 | 4.8 | 3.6 | 1/5(1/3) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 集石7周辺 870928 | 集7-2 |
| | 661 | 7集 | H | 坏？ | 11.9 | 5.3 | 3.5 | 2/3(2/3) | 黒 | 黒 | ロクロナデ、体部外面下半手持ヘラケズリ、底部板状工具によるケズリ状のナデ | 集石7周辺 870928 | 集7-1 |
| | 662 | 7集 | K | 甕 | 12.5 | | | ほぼ完 | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、端部ヨコナデ、頸部ナデ | 集石7？ 870928 | 集7-3 |
| | 663 | ピット群 | S | 坏C | | 8.7 | | (2/3) | 暗灰 | 暗灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 北東ピット群検出面 881203 | ピット群2 |
| | 664 | ピット群 | S | 坏D | | 4.5 | | (1/2) | 青灰 | 青灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 北東ピット群検出面 881203 | ピット群-1 |
| | 665 | Ⅳ次P40 | S | 坏B | 13.2 | 7.0 | 3.2 | 1/3(1/2) | 白灰～淡黒灰 | 白灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ | P40フク土 861115 | P40 1 |
| | 666 | Ⅳ次P41 | S | 高坏 | | | | 脚部2/3 | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ | P41フク土 861115 | P41-1 |
| | 667 | Ⅳ次P43 | H | 坏 | 16.2 | | | 1/4 | 淡黄褐～黒 | 黒 | ロクロナデ、体部内面ミガキ、内黒 | P43フク土 861115 | P43 1 |
| | 668 | Ⅳ次P43 | H | 小形壺F | 11.2 | | | | 暗茶褐 | 黄褐 | ロクロナデ、体部外面下方にハケ目 | P43 861115 | P43-2 |
| | 669 | Ⅳ次P43 | H | 甕F | 12.8 | | | 1/2 | 橙褐～黒褐 | 黒～橙褐 | ロクロナデ、体部外面ヘラケズリ | P43 861115 | P43-3 |
| | 670 | Ⅴ次P1 | S | 坏D | 18.1 | 7.2 | 3.6 | 1/2(完) | 暗灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | P1 870929 | P1-3 |
| | 671 | Ⅴ次P1 | S | 蓋C | 14.2 | — | | 1/3 | 明灰白 | 明灰白 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ、重ね焼痕 | P1 870929 | P1-2 |
| | 672 | Ⅴ次P1 | S | 蓋C | 16.0 | — | | 1/3 | 暗灰 | 明灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | P1 870929 | P1-1 |
| 146 | 673 | Ⅴ次P61 | S | 長頸壺 | | 3.4 | | (ほぼ完) | 暗灰 | 明灰 | ロクロナデ、胴部外面ド半同転ヘラケズリ、付高台後ナデ、底部内面に自然釉 | P61 871004 | P61-1 |
| 147 | 674 | Ⅲ次検 | S | 坏？ | 11.8 | 4.4 | 3.5 | 1/10(ほぼ完) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラ切り | 検出面 851108 | 検-3 |
| | 675 | Ⅲ次検 | H | 坏D | 10.6 | 4.6 | 3.4 | 1/10(1/3) | 淡黄褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、外面に朱墨書か？ | 表採 851021 | 検-4 |
| | 676 | Ⅲ次検 | S | 短頸壺 | 10.9 | | | 1/8 | 紫灰 | 淡紫灰 | ロクロナデ、外面肩部に自然釉 | 北東検出面 851109 | 検-5 |
| | 677 | Ⅳ次検 | H | 皿 | 8.8 | 4.0 | 1.2 | 1/5(1/2) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 検出面 851088 | 検-1 |
| | 678 | Ⅳ次検 | H | 坏D | 19.9 | 3.6 | 3.1 | 1/8(完) | 黄褐 | 淡黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | Ⅱ区検出面 861025 | 検Ⅱ-1 |
| | 679 | Ⅳ次検 | H | 坏D | 10.4 | 4.6 | 3.1 | 1/20(4/5) | 橙褐 | 黄褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | Ⅰ区検出面 861105 | 検Ⅰ-10 |
| | 680 | Ⅳ次検 | H | 皿 | 12.6 | 4.2 | 2.45 | | 黄褐 | 薄橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り？ | Ⅰ区検出面 861105 | 検Ⅰ-1 |
| | 681 | Ⅳ次検 | H | 坏C | 12.1 | 4.6 | 3.4 | 1/6 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面ヘラミガキ、内黒 | Ⅰ区検出面 861014 | 検Ⅰ-4 |
| 147 | 682 | Ⅳ次検 | K | 皿？ | | | | (1/3) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下方回転ヘラケズリ、扇毛塗り | Ⅱ区検出面 861018 | 検Ⅱ 3 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 色調 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 147 | 683 | IV次検 | K | 椀 | 12.6 | | | 1/6 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下方回転ヘラケズリ、刷毛塗り | I区検出面 861014 | 検I-3 |
| | 684 | IV次検 | K | 皿 | 13.1 | 5.2 | 3.0 | 1/8(1/3) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、付高台後ロクロナデ、刷毛塗り | I区検出面 861014 | 検I-2 |
| | 685 | IV次検 | K | 椀 | | 9.4 | | (1/5) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下方回転ヘラケズリ | 2区検出面 861025 | 検II-5 |
| | 686 | IV次検 | K | 椀? | | 6.4 | | (1/2) | 灰 | 灰白 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ロクロナデ | 2区検出面 861025 | 検II-4 |
| | 687 | IV次検 | H | 椀B | | | | 体部破片 | 茶褐 | 暗茶褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ロクロナデ | I区検出面 861105 | 検I-5 |
| | 688 | IV次検 | R | 椀 | | | | (1/5) | 明薄緑 | 明薄緑 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 2区検出面 | 15 |
| | 689 | IV次検盛 | R | 椀 | | | | 体部破片 | 明緑緑 | 明薄緑 | ロクロナデ、内面に陰刻花文 | 1区外盛表採 | I区外盛-1 |
| | 690 | IV次検 | R | 段皿 | | | | 体部破片 | 明緑灰 | 明緑灰 | 釉のため調整不明 | 2区中央検 | 2区検-16 |
| | 691 | IV次検 | 陶 | 椀 | | | | 体部破片 | 明淡青 | 明淡青 | 体部外面下半回転ヘラケズリ | 1区検出面、青磁 | 14 |
| | 692 | IV次検 | H | ? | 17.6 | | | 1/16 | 淡橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ | II区検出面 861025 | 検II-14 |
| | 693 | IV次検 | K | 椀 | 15.0 | | | 1/8 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、体部外面下半回転ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り、刷毛塗り | II区検出面 861018 | 検II-2 |
| | 694 | IV次検 | S | 長頸壺 | | | | 頸部2/3 | 薄青灰 | 灰 | ロクロナデ、内面にしぼり痕 | 2区検 861018 | 検II-10 |
| | 695 | IV次検 | S | 長頸壺 | | | | 頸部1/3 | 青灰 | 薄青灰 | ロクロナデ、外面に自然釉 | 1区検 861105 | 検I-13 |
| | 696 | IV次検 | H | 鉢 | | 12.0 | | 1/8 | 薄茶褐 | 暗茶褐 | ナデ?、胴部外面下方ケズリ | II区検出面 861025 | 検II-13 |
| 147 | 697 | IV次検 | H | 羽釜 | | | | 胴部破片 | 橙褐 | 橙褐 | 胴部内面ロクロナデ・外面ハケ目、鍔部ロクロナデ、内面に炭化物付着 | I区検出面 861016 | 検I-12 |
| 148 | 698 | IV次検 | H | 甕A | 21.2 | | | 1/5 | 橙褐 | 暗橙褐 | 口縁ヨコナデ、胴部内外面ハケ目 | S-3 W-15、検出面 | 検-1 |
| | 699 | IV次検 | H | 甕? | 21 | | | 1/10 | 暗茶褐～暗橙褐 | 橙褐～黒 | ロクロナデ、内面に黒斑 | I区検出面 861016 | 検I-11 |
| | 700 | IV次検 | H | 甕E | 22.2 | | | 1/15 | 暗茶灰 | 暗茶灰 | 口縁ロクロナデ、内面カキ目 | II区検出面 861025 | 検II-9 |
| | 701 | IV次検 | H | 台付鉢 | 24.8 | | | 1/20 | 橙褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、口縁外面面取り | II区検出面 861025 | 検II-6 |
| | 702 | IV次検 | H | 台付鉢 | 39.4 | | | 1/30 | 黄褐 | 暗赤褐 | ロクロナデ、内面に植物の茎の痕あり | II区検出面 861018 | 検II-8 |
| | 703 | IV次検 | H | 台付鉢 | 43.6 | | | 1/30 | 橙褐 | 茶褐 | ロクロナデ、内面に指圧痕 | II区検出面 861018 | 検II-7 |
| | 704 | IV次検 | K | 長頸瓶 | 9.0 | | | 1/20 | 灰白 | 灰白 | ロクロナデ | I区検出面 861115 | 検I-9 |
| | 705 | IV次検 | K | 壺 | 23.0 | | | 1/24 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、内面に重ね焼き痕 | I区検出面 861014 | 検I-6 |
| | 706 | IV次検 | K | 短頸壺 | 17.8 | | | 1/20 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、頸部内面回転ヘラケズリ、刷毛塗り | I区検出面 861115 | 検I-8 |
| | 707 | IV次検 | K | 長頸瓶 | | 17.0 | | (1/20) | 灰 | 灰白 | ロクロナデ、胴部外面下方回転ヘラケズリ、付高台 | I区検出面 861014 | 検I-7 |
| 148 | 708 | IV次検 | K | 壺? | | | | 肩部破片 | 明黄灰 | 灰白 | 内面ロクロナデ、外面釉のため調整不明、外面に陰刻花文 | I区検出面 | 検I-15 |
| 149 | 709 | IV次排 | K | 壺? | | | | 肩部破片 | 明灰 | 明灰白 | 内面ロクロナデ、外面釉のため調整不明、外面に陰刻花文 | 排土 | 排土-1 |
| | 710 | V次検 | S | 坏D? | | 6.0 | | (1/2) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 検出面 870910 | 検-23 |
| | 711 | V次検 | S | 坏E | 12.6 | 5.2 | 3.4 | 2/5(完) | 明褐灰 | 明褐灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 検出面 870910 | 検-21 |
| | 712 | V次検 | S | 椀か鉢 | 13.0 | | | 1/12 | 灰 | 灰 | ロクロナデ | 検出面 870910 | 検-24 |
| 149 | 713 | V次検 | S | 坏B? | 13.9 | 7.6 | 4.5 | 1/3(1/2) | 淡青灰 | 淡灰 | ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ | 検出面 | 検-22 |

| 図番号 | 土器No. | 出土地点 | 種別 | 器形 | 寸法(cm) 口径 | 底径 | 器高 | 残存度 | 色調 外面 | 内面 | 成形・調整・形態の特徴 | 備考、注記 | 実測No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 149 | 714 | V次検 | S | 坏C | | 5.8 | | (1/3) | 濃灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 検出面 870910 | 検-25 |
| | 715 | V次検 | S | 坏C | | 8.6 | | (1/4) | 灰 | 灰 | ロクロナデ、底部回転糸切り、付高台後ナデ | 北端レキ間辺 881206 | 検-1 |
| | 716 | V次検 | S | 坏C | 10.8 | 6.8 | 3.0 | 1/6(1/6) | 淡灰 | 淡灰 | ロクロナデ、付高台後ナデ、自然釉 | 検出面 870910 | 検-30 |
| | 717 | V次検 | S | 坏C | | 9.2 | | (2/3) | 濃灰 | 濃灰 | ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ | 検出面 870910 | 検-26 |
| | 718 | V次検 | H | 坏D | 12.2 | 5.4 | 3.3 | 2/3(完) | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り、タール状の付着物 | 中央南検出面 870910 | 検-8 |
| | 719 | V次検 | H | 坏D | 12.2 | 5.8 | 3.7 | 1/3(1/2) | 暗褐 | 淡橙褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 検出面 870910 | 検-10 |
| | 720 | V次検 | H | 坏D | 12.7 | 5.5 | 3.6 | 2/3(完) | 灰赤褐 | 淡灰褐 | ロクロナデ、底部回転糸切り | 中央南検出面 870910 | 検-9 |
| | 721 | V次検 | H | 坏 | | 7.4 | | (1/2) | 橙 | 黒 | ロクロナデ、内面摩滅、底部ヘラケズリ、内黒 | 検出面 870910 | 検-11 |
| | 722 | V次検 | H | 坏C | 13.5 | 5.6 | 3.7 | 1/6(完) | 茶褐 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部暗文状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 検出面 870910 | 検-32 |
| | 723 | V次検 | H | 坏C | 12.4 | 6.0 | 4.2 | 1/4(ほぼ完) | 黒～白黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面放射状のミガキ、底部回転糸切り、内黒 | 西検出面 870910 | 検-5 |
| | 724 | V次検 | H | 椀A? | 15.4 | | | 1/3 | 黄褐 | 黒 | ロクロナデ、内面横位のミガキ、内黒 | 検出面 870910 | 検 4 |
| | 725 | V次検 | H | 椀A | 14.8 | 7.4 | 5.1 | 1/8(ほぼ完) | 橙 | 黒 | ロクロナデ、口縁内面横位のミガキ、見込部横位・放射状のミガキ、底部回転糸切り、付高台、内黒 | 中央南検出面 870910 | 検-6 |
| | 726 | V次検 | H | 椀A | | 6.0 | | (1/2) | 灰褐 | 黒 | ロクロナデ、見込部暗文状のミガキ、底部回転糸切り、付高台後ナデ、内黒 | 検出面 870910 | 検 7 |
| | 727 | V次検 | K | 椀 | 10.4 | 7.7 | 3.3 | 1/8(1/8) | 淡灰白 | 淡灰白 | ロクロナデ、付高台後ナデ、漬け掛け | 検出面 870910 | 検 31 |
| | 728 | V次検 | S | 蓋C | 15.6 | - | | 1/6 | 灰 | 灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ、外面自然釉 | 検出面 87 | 検-28 |
| | 729 | V次検 | S | 蓋C | 19.2 | | | 1/5 | 濃灰 | 濃灰 | ロクロナデ、天井部外面回転ヘラケズリ | 検出面 870910 | 検-29 |
| 149 | 730 | V次検 | S | ? | | | | | 明灰白 | 暗灰 | ナデか? | 中央検出面 | 検-34 |
| 150 | 731 | V次検 | H | 甕A | 23.0 | | | 1/8 | 茶褐 | 赤褐 | ナデ、外面一部ヘラによる刻みあり | 検出面 870910 | 検-14 |
| | 732 | V次検 | H | 台付鉢 | 28.8 | | | 1/10 | 橙褐 | 橙褐 | ロクロナデ、端部ヨコナデ | 流路北隅検出面 881205 | 検 3 |
| | 733 | V次検 | H | 台付鉢 | 31.8 | | | | 黄褐 | 橙褐 | ロクロナデ、口縁ヨコナデ | 検出面 87 | 検-13 |
| | 734 | V次検 | H | 台付鉢 | 33.2 | | | 1/8 | 橙褐 | 橙褐～黒褐 | ロクロナデ、口縁ヨコナデ | 検出面 87 | 検-12 |
| | 735 | V次検 | S | 長頸壺A? | | 5.9 | | (完) | 濃灰 | 濃灰 | ロクロナデ、体部外面下半～底部回転ヘラケズリ、付高台後ナデ、内面に自然釉 | 検出面 870910 | 検 27 |
| | 736 | V次検 | H | 甕EかF | | 6.2 | | (1/2) | 淡橙褐 | 淡橙褐 | 外面縦位のケズリ、内面ナデ、底部ケズリ | 北端レキ間辺 881206 | 検-2 |
| | 737 | V次検 | K | 小瓶 | | 6.0 | | 1/5 | 明灰白 | 暗灰白 | ロクロナデ、胴部外面下方回転ヘラケズリ | 掛ト 871008 | 掛-1 |
| | 738 | V次検 | H | 小形甕? | | | | | 黄褐 | 黄褐 | 外面カキ目・ナデナデ・ケズリ、内面ナデ | 検出面 87 | 検-18 |
| | 739 | V次検 | H | 甕E | | 9.6 | | (3/4) | 茶褐 | 明褐 | 外面ハケ目後カキ目状のナデ、内面ナデ、底部ナデ | 検出面 870910 | 検 17 |
| | 740 | V次検 | H? | 甕? | | 9.0 | | (2/3) | 淡白褐 | 白灰 | ロクロナデ、体部外面下半ケズリ、底糸回転糸切り | 検出面 870910 | 検-16 |
| 150 | 741 | 59住 | 陶 | ? | | 3.3 | | (2/3) | 淡灰 | 淡灰 | 体部外面回転ヘラケズリ・内面ロクロナデ、ケズリ出し高台、底部内面に墨書 | 59住フク上 870923 | 2 |
| 151 | 742 | 75住 | H | 筒形土器 | | | | | 橙褐 | 暗茶褐 | 外面ハケ目、内面ナデ | 75住フク上 871011 | 37 |
| | 743 | 76住 | H | 筒形土器 | | | | | 橙褐 | 橙褐 | 外面ハケ目、内面ナデ | 76住フク土 871009 | 17 |
| | 745 | 76住 | H | 筒形土器 | | | | 4/5 | 赤褐 | 暗赤褐 | 外面ハケ目、内面ナデ、底面面取り・ナデ | 76住No7・9 871011 | 16 |
| 151 | 746 | 402溝 | H | 鉢? | | | | | 黄褐 | 黄褐 | 摩滅、面取り、脚付鉢? | 溝2 861113 | 6 |

# 第11表　石器一覧表

## ①打製石鏃

| No. | 図No. | 分類 | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 平基・有茎 | 7住 | (1.86) | 1.70 | 0.48 | (1.20) | チャート | 先端欠 | |
| 2 | 2 | 凹基・有茎 | 8住No.1 | (2.77) | (1.70) | 0.46 | 1.60 | 黒曜石 | 先端・片脚欠 | |
| 3 | 3 | 凹基・無茎 | 8住No.2 | 2.20 | 1.45 | 0.29 | 0.65 | チャート | 完形 | |
| 4 | 4 | 不明・有茎 | 8住No.12 | (1.40) | (0.97) | 0.36 | 0.45 | 黒曜石 | 先端・両脚欠 | |
| 5 | 5 | 凹基・無茎 | 16住No.32 | 1.91 | 1.28 | 0.24 | 0.40 | 黒曜石 | 完形 | |
| 6 | 6 | 不明・不明 | 18住No.4 | (3.02) | 1.62 | 0.77 | (2.80) | 黒曜石 | 下部欠 | 未成品？ |
| 7 | 7 | 平基・有茎 | 18住ピット2 | (1.70) | 1.37 | 0.17 | (0.35) | 黒曜石 | 基端欠 | |
| 8 | 8 | 凹基・無茎 | 23住ピット1 | 2.12 | (1.51) | 0.36 | (1.05) | チャート | 片脚端欠 | |
| 9 | 9 | 凹基・無茎 | 26住 | (2.36) | (1.42) | 0.31 | (1.10) | 黒曜石 | 片脚欠 | |
| 10 | 10 | 凹基・有茎 | 42住 | (1.51) | (1.39) | 4.50 | (0.70) | 黒曜石 | 上部欠 | |
| 11 | 11 | 平基・無茎 | 42住 | (1.66) | (1.20) | 4.20 | (0.65) | 黒曜石 | 先端・片脚端欠 | |
| 12 | 12 | 凸基・無茎 | 46住No.18 | (3.46) | 1.13 | 0.43 | (1.60) | チャート | 下端欠 | |
| 13 | 13 | 凸基・有茎 | 78住下層 | (2.59) | 1.30 | 0.49 | (1.20) | 黒曜石 | 先端欠 | |
| 14 | 14 | 凹基・有茎 | 79住下層 | 3.29 | 2.51 | 0.43 | 2.55 | チャート | 完形 | |
| 15 | 15 | 平基・有茎 | 溝203 | (2.22) | 1.40 | 0.45 | (1.00) | 黒曜石 | 基部欠 | |

## ②磨製石鏃

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 16 | 5住 | 4.23 | 1.55 | 0.20 | 1.60 | 千枚岩 | 完形 | 孔なし |
| 2 | 17 | 5住 | (1.92) | (1.08) | (0.23) | (0.70) | 千枚岩 | 一部残 | 孔不明 |
| 3 | 18 | 6住ピット1 No.3 | (5.05) | 1.78 | 0.25 | (2.60) | 珪質凝灰岩 | 先端欠 | |
| 4 | 19 | 6住ピット1 | 2.60 | 1.65 | 0.26 | 1.40 | 粘板岩 | 完形 | 孔なし |
| 5 | 20 | 8住No.58 | (4.42) | (1.60) | (0.16) | (1.65) | 千枚岩 | 縦半欠 | 2 孔穿孔途中痕1 |
| 6 | 21 | 11住 | (1.25) | (2.10) | 0.17 | (0.60) | 珪質凝灰岩 | 上部・片脚端欠 | |
| 7 | 22 | 16住No.15 | (3.06) | 1.80 | 0.16 | (1.05) | 粘板岩 | 先端欠 | 穿孔途中痕1 |
| 8 | 23 | 16住No.25 | (4.03) | 1.56 | 0.16 | (1.15) | 千枚岩 | 先端欠 | |
| 9 | 24 | 16住No.40 | 4.05 | 2.21 | 0.32 | 2.75 | 粘板岩 | 完形 | 穿孔途中痕1 |
| 10 | 25 | 16住No.44 | (2.29) | (1.67) | (0.23) | (0.95) | 珪質凝灰岩 | 両脚欠 | |
| 11 | 26 | 16住No.59 | (2.84) | (1.65) | (0.27) | (1.25) | 千枚岩 | 先端・両脚欠 | |
| 12 | 27 | 16住No.89 | (2.65) | (1.40) | 0.26 | (1.15) | 硬砂岩 | 片脚欠 | |
| 13 | 28 | 16住No.128 | (3.65) | (1.60) | 0.21 | (1.50) | 千枚岩 | 片脚欠 | |
| 14 | 29 | 41住 | (1.54) | (0.94) | 0.16 | (0.30) | チャート | 先端・片脚欠 | 穿孔途中痕1 |

## ③磨製石鏃未成品

| No. | 図No. | 分類 | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 30 | 剥離調整 | 6住No.9 | 5.80 | 2.79 | 0.60 | 13.00 | 粘板岩 | | |
| 2 | 31 | 研磨II | 6住ピット2 | (5.80) | 1.81 | 0.32 | (5.01) | 珪質凝灰岩 | 欠端欠 | |
| 3 | 32 | 剥離調整 | 7住 | (5.03) | (3.17) | 0.52 | (10.85) | ホルンフェルス(砂岩) | 先端・下部欠 | |
| 4 | 33 | 研磨III | 7住 | 3.85 | 2.57 | 0.37 | 5.04 | ホルンフェルス(砂岩) | | |
| 5 | 34 | 剥離調整 | 7住 | 5.05 | 3.07 | 0.50 | 9.00 | ホルンフェルス(砂岩) | | |
| 6 | 35 | 剥離調整 | 8住No.3 | 5.23 | 2.19 | 0.45 | 7.03 | 珪質凝灰岩 | | |
| 7 | 36 | 剥離調整 | 8住No.4 | 4.83 | 2.90 | 0.37 | 6.50 | 結晶片岩 | | |
| 8 | 37 | 剥離調整 | 8住No.9 | (3.15) | 2.85 | 0.26 | (3.30) | 粘板岩 | 上部欠 | |
| 9 | 38 | 研磨ＩＡ | 8住No.41 | (1.91) | (1.68) | (0.48) | (2.05) | 珪質凝灰岩 | 下部欠 | |
| 10 | 39 | 研磨ＩＢ | 8住No.56 | (4.47) | 2.60 | 0.56 | (7.45) | 千枚岩 | 先端欠 | 赤色顔料付着 |
| 11 | 40 | 研磨ＩＢ | 8住炉址 | (4.79) | 2.64 | 0.41 | (7.05) | 結晶片岩 | 先端欠 | |

| No. | 図No. | 分類 | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 41 | 研磨ⅠB | 8住 | 6.96 | 3.35 | 0.57 | 22.50 | ホルンフェルス(砂岩) | | |
| 13 | 42 | 剥離調整 | 11住 | 3.95 | 1.82 | 0.42 | 3.40 | 珪質凝灰岩 | | |
| 14 | | 不明 | 11住 | (－) | (－) | (－) | (2.55) | 千枚岩 | 一部残 | |
| 15 | 43 | 研磨ⅠA | 12住床面 | (4.24) | 2.74 | 0.65 | (8.70) | 珪質凝灰岩 | 先端欠 | |
| 16 | | 研磨(不明) | 12住ピット2 | (－) | (－) | (－) | (0.60) | 千枚岩 | 一部残 | |
| 17 | 44 | 研磨Ⅲ | 12住 | (2.99) | (1.16) | (0.23) | (1.05) | 砂岩 | 一部残 | |
| 18 | 45 | 研磨Ⅱ | 16住No.35 | (3.06) | (1.37) | 0.17 | (1.20) | 千枚岩 | 縦半欠 | 擦切施溝痕 |
| 19 | 46 | 粗割 | 16住No.36 | 4.35 | 1.87 | 0.26 | 3.10 | 千枚岩 | | 擦切施溝 |
| 20 | 47 | 粗割 | 16住No.58 | (2.84) | (2.55) | (0.23) | (2.40) | 千枚岩 | 一部残 | 擦切施溝 |
| 21 | 48 | 穿孔 | 16住No.60 | 2.38 | 1.57 | 0.19 | 1.10 | 千枚岩 | | |
| 22 | | 研磨ⅡA | 16住No.41 | (－) | (－) | (－) | (0.20) | 千枚岩 | 一部残 | |
| 23 | 49 | 研磨B | 16住No.110 | (1.97) | (2.32) | (0.44) | (2.50) | 粘板岩 | 先端・下部欠 | 磨製石斧? |
| 24 | 50 | 研磨B | 18住No.8 | 2.90 | 2.33 | 0.235 | 2.00 | 千枚岩 | | |
| 25 | 51 | 研磨Ⅲ | 18住No.9 | (2.72) | (3.04) | 0.22 | (2.60) | 緑色凝灰岩 | 上部・下部端欠 | |
| 26 | 52 | 研磨ⅠB | 18住No.28 | (4.85) | (2.60) | (0.27) | (3.50) | 千枚岩 | 下部欠 | |
| 27 | 53 | 剥離調整 | 18住No.34 | (4.85) | (2.31) | 0.44 | (4.35) | 珪質凝灰岩 | 下部欠 | |
| 28 | 54 | 研磨Ⅰ | 19住No.1 | (4.85) | 2.20 | 0.30 | (3.40) | 珪質凝灰岩 | 先端欠 | |
| 29 | 55 | 研磨ⅠB | 28住 | (3.05) | 1.95 | 0.13 | (1.15) | 千枚岩 | 先端欠 | |
| 30 | 56 | 剥離調整 | 79住 | 5.68 | 2.54 | 1.60 | 9.25 | 珪質凝灰岩 | | |
| 31 | 57 | 研磨A | 79住 | (5.91) | 2.91 | 0.49 | (9.25) | 珪質凝灰岩 | 先端欠 | |
| 32 | 58 | 研磨Ⅲ | Ⅱ次表採 | (3.14) | (2.65) | 0.33 | (4.25) | 珪質凝灰岩 | 上部・両脚端欠 | |

### ④ピエス・エスキーユ

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 59 | 11住 | 2.76 | 1.67 | 0.61 | 2.85 | チャート | 完形 | |
| 2 | 60 | 12住 | 2.39 | 1.45 | 0.97 | 3.30 | チャート | 完形 | |
| 3 | 61 | 17住 | 2.53 | 1.70 | 0.47 | 2.65 | チャート | 完形 | |
| 4 | 62 | 18住No.8 | 2.05 | 1.78 | 1.07 | 4.00 | 黒曜石 | 完形 | |

### ⑤石錐

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 63 | 5住No.5 | 2.00 | 1.15 | 0.38 | 0.60 | 黒曜石 | 完形 | |
| 2 | 64 | 16住No.10 | (1.89) | (1.03) | (0.46) | (1.00) | 黒曜石 | 上部欠 | 錐部摩耗 |
| 3 | 65 | 18住No.2 | 3.62 | 1.19 | 0.77 | 3.20 | 黒曜石 | 完形 | 錐部摩耗 |

### ⑥スクレイパー

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 66 | 7住 | 2.92 | 1.43 | 0.44 | 2.05 | 黒曜石 | 完形 | |
| 2 | 67 | 11住 | 4.01 | 1.20 | 0.53 | 2.20 | 黒曜石 | 完形 | |
| 3 | 68 | 16住No.105 | 2.94 | 1.25 | 0.59 | 2.35 | 黒曜石 | 完形 | |
| 4 | 69 | 79住 | 3.55 | 1.22 | 0.66 | 2.50 | 黒曜石 | 完形 | |
| 5 | 70 | 11住 | 3.84 | 3.52 | 1.20 | 14.65 | チャート | 上部欠 | |
| 6 | 71 | 24住No.1 | 8.63 | 10.91 | 1.62 | 181.95 | 砂岩 | 完形 | |

### ⑦打製石斧

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 72 | 27住 | (5.00) | (2.33) | 0.86 | (14.50) | ホルンフェルス | 下半欠 | |
| 2 | 73 | 16住No.37 | (8.91) | 5.55 | 2.63 | (174.95) | ホルンフェルス | 下半欠 | |

### ⑧太形蛤刃石斧

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 74 | 5住 | 17.35 | 8.10 | 5.05 | 1200 | 閃緑岩 | 完形 | 刃部再生の未成品 |
| 2 | | 7住 | (－) | (－) | (－) | (1.95) | 閃緑岩 | 一部残 | |
| 3 | 75 | 8住No.6 | (14.02) | (7.33) | 4.43 | (760) | 閃緑岩 | 刃端部欠 | |
| 4 | | 16住No.14 | (－) | (－) | (－) | (8.65) | 安山岩 | 刃端部残 | |
| 5 | 76 | 16住No.53 | 14.45 | 6.71 | 3.72 | (605) | 閃緑岩 | 胴部欠 | |
| 6 | | 27住床面 | (－) | (－) | (－) | (26.65) | 閃緑岩 | 一部残 | |
| 7 | | 42・43住 | (－) | (－) | (－) | (7.80) | 閃緑岩 | 一部残 | |
| 8 | 77 | 不明 | 12.51 | 6.53 | 3.56 | 510 | 閃緑岩 | 完形 | |

### ⑨扁平片刃石斧

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 78 | 7住 | 4.09 | 1.52 | 0.72 | (8.90) | 蛇紋岩 | 刃端部欠 | |
| 2 | 79 | 13住No.1 | 10.14 | (7.64) | 1.03 | (165) | 蛇紋岩 | 刃部欠 | |
| 3 | 80 | 16住No.13 | 7.48 | 6.19 | 1.37 | 135 | 蛇紋岩 | 完形 | |
| 4 | 81 | 16住No.109 | 5.34 | (4.48) | 0.75 | (36.90) | 蛇紋岩 | 頭端部欠 | |
| 5 | 82 | 16住 | (7.09) | 6.40 | 1.15 | (110) | 蛇紋岩 | 刃端部欠 | |
| 6 | | 16住No.100 | (－) | (－) | (－) | (39.50) | 蛇紋岩 | 一部残 | |
| 7 | 83 | 18住No.1 | (2.50) | (2.86) | 0.55 | (7.50) | 蛇紋岩 | 下半欠 | |
| 8 | 84 | 24住 | (4.94) | (3.56) | 0.77 | (22.50) | ホルンフェルス | 刃部欠 | |
| 9 | 85 | 79住 | (7.97) | 6.80 | 1.38 | (163.40) | 閃緑岩 | 刃端部欠 | |
| 10 | 86 | 6住 | 5.38 | 4.74 | 1.39 | 55.25 | 硬砂岩 | | 未成品 |
| 11 | 87 | 7住 | 4.33 | 3.31 | 0.68 | 18.90 | 蛇紋岩 | | 未成品 |
| 12 | 88 | 42住No.19 | 9.57 | 5.70 | 1.56 | 150.00 | ホルンフェルス | | 未成品 |

### ⑩石庖丁

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 89 | 7住 | 4.46 | (9.06) | 0.70 | (49.85) | 粘板岩 | 片側辺端欠 | 1孔 |
| 2 | 90 | 8住No.5 | 4.45 | 10.49 | 0.79 | 49.30 | 石墨片岩 | 完形 | 未成品？ |
| 3 | 91 | 8住No.39 | 3.95 | (7.95) | 0.61 | (27.35) | 凝灰岩 | 片側辺端欠 | 未成品？ |
| 4 | 92 | 11住上層 | (4.88) | (5.23) | (0.59) | (26.50) | 砂岩 | 両側欠 | 2孔・穿孔途中穴4(片面) |
| 5 | 93 | 16住No.106 | 3.15 | 9.56 | 0.47 | 19.75 | 粘板岩 | 完形 | 1孔 |
| 6 | 94 | 16住No.117 | 4.76 | (12.80) | 0.70 | (41.25) | 粘板岩 | 両側端欠 | 1孔・穿孔途中穴2(両面) |
| 7 | 95 | 18住No.3 | 3.53 | (7.94) | 0.63 | (26.70) | 粘板岩 | 片側端欠 | 1孔 |
| 8 | 96 | 27住No.1 | (4.04) | (4.83) | (0.54) | (14.60) | 粘板岩 | 片側欠 | (1孔) |
| 9 | 97 | 41住 | 3.87 | (4.22) | (0.46) | (12.15) | 粘板岩 | 片側欠 | (1孔) |

### ⑪凹・敲・磨石

| No. | 図No. | 凹部 | 敲打痕 | 磨面 | 出土地点 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 98 | | | ○ | 6住 | 9.78 | 6.20 | 3.07 | 250 | 安山岩 | 完形 | |
| 2 | 99 | ○(1) | ○ | | 7住No.30 | 8.88 | 7.18 | 5.74 | 435 | 安山岩 | 完形 | |
| 3 | 100 | ○(1×2) | ○ | | 12住床面 | 11.92 | 7.20 | 4.35 | 585 | 安山岩 | 完形 | |
| 4 | 101 | ○(1) | | ○ | 13住 | 7.03 | 6.65 | 3.55 | 185 | 安山岩 | 完形 | |
| 5 | 102 | | | ○ | 17住No.2 | 13.23 | 6.16 | 3.58 | 435 | 安山岩 | 完形 | |
| 6 | 103 | ○(2×2) | | ○ | 17住 | 7.73 | 6.42 | 3.63 | 240 | 安山岩 | 完形 | |
| 7 | 104 | | | ○ | 18住ピット7 | 9.40 | 7.35 | 5.81 | 500 | 安山岩 | 完形 | |
| 8 | 105 | | ○ | | 18住 | 8.41 | 7.99 | 6.48 | 540 | 安山岩 | 完形 | |
| 9 | 106 | ○ | | ○ | 18住 | 13.68 | 9.05 | 8.71 | 1550 | 安山岩 | 完形 | |

| No. | 図No. | 凹部 | 敲打痕 | 磨面 | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 107 | | ○ | | 24住 | 13.17 | 11.28 | 6.50 | 1150 | 安山岩 | 完形 | 両面敲打 |
| 11 | 108 | ○ | | | 38住 | (13.68) | (8.82) | (6.67) | (850) | 安山岩 | 1/3 欠 | |
| 12 | 109 | ○(1×2) | | | 42住No.8 | 8.94 | 8.60 | 3.83 | 280 | 安山岩 | 完形 | |
| 13 | 110 | | | ○ | V次検出面5 | 9.55 | 8.09 | 5.62 | 625 | 安山岩 | 完形 | |
| 14 | 111 | ○(1×2) | ○ | ○ | 不明 | (12.25) | (10.14) | (5.02) | (910) | 安山岩 | 1/4 欠 | 磨面両面 |

## ⑫砥石（弥生）

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 112 | 5住No.4 | 6.91 | 3.40 | 1.04 | 37.90 | 砂岩 | 完形 | 砥面6 |
| 2 | 113 | 6住 | (7.13) | (4.22) | (1.49) | (90) | 砂岩 | 両側欠 | (砥面2) |
| 3 | 114 | 7住 | 9.89 | 6.38 | (1.56) | (130) | 砂岩 | 片面上部剥落 | 砥面2 |
| 4 | | 7住 | (－) | (－) | (－) | (14.85) | 砂岩 | 一部残 | (砥面2) |
| 5 | | 7住 | (7.50) | (7.12) | (1.48) | (105) | 砂岩 | 一部残 | (砥面4) |
| 6 | 115 | 8住No.11 | (4.36) | (8.73) | (1.00) | (52.60) | 砂岩 | 一部残 | (砥面3) |
| 7 | 116 | 8住No.29 | (3.59) | (4.79) | 1.09 | (23.95) | 砂岩 | 一部残 | (砥面2) |
| 8 | | 8住No.42 | (－) | (－) | (－) | (17.90) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) 9・10と同一個体? |
| 9 | | 8住No.57 | (－) | (－) | (－) | (29.50) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 10 | | 8住 | (－) | (－) | (－) | (10.55) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 11 | 117 | 11住 | 8.63 | 6.61 | 1.32 | 97.95 | 砂岩 | 完形 | 砥面1 |
| 12 | 118 | 11住 | (7.73) | (5.65) | (1.78) | (131.80) | 砂岩 | 一部残 | 砥面2 |
| 13 | 119 | 11住 | (6.95) | (5.95) | 1.02 | (72.70) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 14 | | 11住 | (－) | (－) | (－) | (16.80) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 15 | | 12住 | (－) | (－) | (－) | (22.10) | 砂岩 | 一部残 | (砥面3) |
| 16 | 120 | 16住No.55 | (5.39) | (3.82) | (1.15) | (31.40) | 砂岩 | 両側欠 | (砥面5) |
| 17 | 121 | 16住No.96 | 8.18 | 4.59 | 1.50 | 90 | 砂岩 | 完形 | 砥面2 |
| 18 | 122 | 17住No.111 | 8.79 | 3.57 | 1.09 | 55.35 | 砂岩 | 完形 | 砥面2 |
| 19 | 123 | 18住No.6 | 9.66 | 5.24 | 1.73 | 100 | 砂岩 | 完形 | 砥面3、凹部1・先端敲打 |
| 20 | 124 | 18住 | (5.81) | (3.90) | (0.93) | (33.70) | 砂岩 | 上部欠 | (砥面3) |
| 21 | 125 | 21住 | (7.75) | (7.86) | 1.09 | (85.55) | 砂岩 | 1/2 欠 | (砥面4) |
| 22 | 126 | 28住床面 | (4.50) | (3.17) | (0.62) | (13.75) | 砂岩 | 下部欠 | (砥面5) |
| 23 | 127 | 40・41住 | 7.90 | 10.35 | 1.70 | 205 | 緑色凝灰岩 | 完形 | (砥面1) |
| 24 | 128 | 41・42住 | 8.71 | 4.28 | 1.54 | 83.05 | 砂岩 | 完形 | (砥面4)長側辺剥離 |

## ⑬置き砥石（弥生）

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 129 | 8住No.55 | (19.60) | (28.30) | (6.19) | (4,490) | 砂岩 | 両側欠 | (砥面2) |
| 2 | 130 | 12住No.6 | (20.50) | (25.50) | (8.05) | (7,620) | 閃緑岩 | 片側欠 | (砥面2) |
| 3 | | 16住No.126 | (－) | (－) | (－) | (145) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 4 | 131 | 18住 | (12.13) | (8.38) | (5.66) | (880) | 砂岩 | 両側欠 | (砥面3) |
| 5 | 132 | 18住 | 12.36 | 18.00 | 1.77 | 655 | 砂岩 | 完形 | 砥面1 |
| 6 | 133 | 42住No.3 | (18.80) | (16.00) | (4.51) | (1850) | 砂岩 | 周囲欠 | (砥面2) |
| 7 | 134 | 79住 | (9.07) | (12.49) | (3.68) | (550) | 砂岩 | 一部残 | (砥面2) |

### ⑭砥石（奈良・平安）

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 135 | 75住 | (5.41) | 2.91 | 2.25 | (41.20) | 凝灰岩 | 上端欠 | (砥面5) |
| 2 | 136 | 75住 | (4.78) | (6.42) | (1.57) | (79.00) | 砂岩 | 一部残 | (砥面2) |

### ⑮置き砥石（奈良・平安）

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 137 | 44住 | 18.50 | 7.90 | 5.52 | 950 | 砂岩 | 完形 | 砥面4 |
| 2 | 138 | 47住 | (8.20) | (12.00) | (6.27) | (790) | 砂岩 | 片側欠 | (砥面2) |
| 3 | 139 | 47住 | (16.30) | (6.10) | (4.36) | (595) | 砂岩 | 片側欠 | (砥面3) |
| 4 | 140 | 48住No.50 | (16.10) | (7.80) | (3.85) | (635) | 砂岩 | 一部残 | (砥面1) |
| 5 | 141 | 74住 | (9.60) | (14.30) | (2.15) | (485) | 砂岩 | 両側欠 | (砥面3) |
| 6 | 142 | 74住 | 21.20 | 6.80 | 5.68 | 1250 | 緑色凝灰岩 | 完形 | 両端敲打 |
| 7 | 143 | 76住 | (12.10) | 9.10 | 6.23 | (840) | 砂岩 | 片側欠 | (砥面5) |
| 8 | 144 | 土坑404 No.5 | (10.20) | 14.10 | (3.29) | (635) | 砂岩 | 片側欠 | (砥面3) |

### ⑯凹石（奈良・平安）

| No. | 図No. | 出土地点 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石質 | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 145 | 12住No.1 | 13.10 | 10.60 | 8.12 | 1300 | 安山岩 | 完形 | 両面凹部 |
| 2 | 146 | 47住No.25 | 10.70 | 9.50 | 4.80 | 565 | 安山岩 | 完形 | |
| 3 | 147 | 75住No.3 | 9.02 | 8.29 | 4.65 | 450 | 安山岩 | 完形 | 両面凹部 |
| 4 | 148 | 67住 | 18.30 | 18.30 | 15.40 | 6350 | 安山岩 | 完形 | |
| 5 | 149 | 74住 | 20.60 | 16.20 | 11.60 | 4250 | 安山岩 | 完形 | |
| 6 | 150 | 76住 | 13.07 | 11.81 | 7.73 | 1700 | 安山岩 | 完形 | 裏面に敲打痕 |
| 7 | 151 | 76住 | (6.90) | 7.30 | (5.13) | (315) | 安山岩 | 1/3 欠 | |
| 8 | 152 | 88住 | 14.30 | 13.30 | 12.20 | 2650 | 安山岩 | 完形 | |
| 9 | 153 | 4次検出面 | (9.97) | (5.26) | (4.20) | (230) | 安山岩 | 2/3 欠 | |

## 第12表　鉄滓一覧表

| 出土地点 | 点数 | 総重量(g) | 形状(点数) | 重量範囲(g) | 出土地点 | 点数 | 総重量(g) | 形状（点数） | 重量範囲(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44住 | 3 | 273 | 椀状(1)　塊状(2) | 5～255 | 70住 | 1 | 28 | 塊状 | |
| 45住 | 1 | 100 | 塊状 | | 75住 | 3 | 429 | 椀状(1)　塊状(2) | 6～413 |
| 46住 | 1 | 230 | 板状 | | Ⅳ次P31 | 1 | 43 | 塊状 | |
| 47住 | 36 | 1291 | 塊状(36) | 1.3～320 | Ⅲ次P35 | 2 | 460 | 塊状(2) | 165～295 |
| 48住 | 9 | 726 | 板状(1)　塊状(8) | 3.5～180 | 3 集 | 3 | 286 | 塊状(3) | 36～200 |
| 49住 | 5 | 252 | 塊状(5) | 18～85 | 溝402 | 1 | 35 | 塊状 | |
| 50住 | 5 | 544 | 塊状(5) | 6～212 | 土坑402 | 2 | 134 | 塊状(2) | 28～106 |
| 51住 | 1 | 24 | 塊状 | | 検出面 | 16 | 1361 | 椀状(2)　小塊(14) | 7～482 |
| 52住 | 1 | 56 | 〃 | | 計 | 92 | 6342 | 椀状(4) 板状(2) 塊状(86) | |
| 64住 | 1 | 70 | 〃 | | | | | | |

# 第13表　金属製品一覧表

| No | 図No | 出土地点 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 破損状況 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 7住南サブトレ | 鏃? | (3.10) | (1.38) | (0.91) | (3.4) | 不明 | 木質部付着 |
| 2 | 1 | 28住 No13 | 不明 | (13.38) | 1.10 | 1.04 | (53.1) | 上部欠 | |
| 3 | 2 | 44住 No3 | 刀子 | (4.78) | (0.95) | (0.42) | (3.4) | 茎～刃部欠 | |
| 4 | 3 | 44住 No12 | 釘 | (4.16) | (0.92) | (0.55) | (4.4) | 上・下端欠 | |
| 5 | 4 | 44住 カマド内 | 〃 | (2.95) | 0.76 | 0.90 | (1.7) | 下端欠 | |
| 6 | 5 | 44住 南東 | 〃 | (5.65) | (1.2) | (1.07) | (7.6) | 上・下部欠 | |
| 7 | 6 | 44住 南東 | 〃 | (2.90) | 0.67 | 0.85 | (2.3) | 下部欠 | |
| 8 | | 46住 南東 | 不明 | (2.92) | (2.83) | (0.21) | (7.4) | 不明 | 銅製品 |
| 9 | 7 | 47住 No12 | 刀子 | (8.37) | (1.45) | 0.64 | (12.4) | 両側欠 | |
| 10 | | 47住 北東 | 刀子? | (3.18) | (2.17) | (0.96) | (5.5) | 刃・茎部欠 | |
| 11 | 8 | 48住 北東 | 不明 | (4.83) | (3.09) | (2.02) | (20.4) | 不明 | 他に破片1点 |
| 12 | 9 | 48住 中央 | 不明 | (5.60) | 1.22 | 0.86 | (15.0) | 下端欠 | |
| 13 | 10 | 48住 北東 | 釘 | (2.53) | 0.83 | 1.02 | (1.9) | 下端欠 | |
| 14 | | 48住 南東 | 不明 | ( ) | ( — ) | ( — ) | (1.8) | 鏃片 | |
| 15 | 11 | 50住 北東 | 刀子? | (4.81) | (0.77) | (0.57) | (4.8) | 刃部欠 | |
| 16 | 12 | 72住 | 刀子 | (2.45) | (0.96) | (0.51) | (1.8) | 茎部片 | |
| 17 | | 72住 北西 | 不明 | (4.27) | (1.94) | (0.79) | (15.4) | 不明 | 鞘・木質部付着 |
| 18 | 13 | 73住 南東 | 刀子 | (9.20) | 0.99 | 0.58 | (8.7) | 茎部欠 | |
| 19 | 14 | 74住 No33 | 釘 | (13.41) | 1.71 | 2.01 | (37.8) | 側辺端欠 | 鞘付着 |
| 20 | 15 | 74住 No33 | 〃 | (7.73) | (0.79) | (0.76) | (12.0) | 上部欠 | |
| 21 | 16 | 74住 南西 | 刀子? | (4.52) | (1.20) | (0.30) | (3.7) | 両側欠 | |
| 22 | 17 | 74住 | 釘 | (5.77) | (1.08) | (0.94) | (8.0) | 両端欠 | |
| 23 | 18 | 74住 | 〃 | (3.91) | 0.70) | (0.73) | (2.5) | 上・下部欠 | |
| 24 | 19 | 74住 南西 | 刀子 | (6.25) | (1.51) | (1.05) | (8.1) | 両側欠 | |
| 25 | 20 | 74住 南西 | 釘 | (5.10) | (0.91) | (0.83) | (8.0) | 上・下部欠 | |
| 26 | 21 | 75住 No48 | 鏃 | 13.09 | (6.35) | 0.72 | (14.1) | 先端欠 | |
| 27 | 22 | 75住 | 刀子 | (5.89) | (0.82) | (0.40) | (2.1) | 刃部欠 | |
| 28 | 23 | 75住 南東 | 釘 | (6.20) | (0.97) | (0.91) | (8.1) | 両端欠 | |
| 29 | 24 | 75住 | 刀子 | (2.81) | (0.81) | (0.64) | (1.8) | 茎部片 | |
| 30 | 25 | 75住 | 不明 | (2.90) | (1.78) | (0.76) | (2.6) | 一部残 | 木質部付着 |
| 31 | 26 | 78住 | 釘 | (4.72) | (0.74) | (0.49) | (1.6) | 下端欠 | |
| 32 | 27 | Ⅳ次 P43 | 〃 | (5.39) | (0.81) | (0.86) | (6.8) | 両端欠 | 木質部付着 |
| 33 | 28 | Ⅴ次 P69 | 刀子 | (6.61) | (1.42) | (0.49) | (7.5) | 刃～茎部欠 | |
| 34 | 29 | 1集 | 釘 | (2.63) | 0.68 | 0.55 | (0.9) | 下端欠 | |
| 35 | 30 | 1集 | 〃 | (5.79) | (0.52) | (0.48) | (2.1) | 上端欠 | |
| 36 | 31 | 5集 No17 | 〃 | (3.24) | (0.85) | (0.76) | (3.4) | 上・下部欠 | |
| 37 | | 3集 No21 | 不明 | (3.07) | (2.01) | (1.20) | (9.1) | 下部欠 | |
| 38 | 32 | 7集 | 刀子 | (5.92) | 1.11 | 0.91 | (7.0) | 両側欠 | |
| 39 | 33 | 溝2 | 釘 | (5.39) | (0.65) | (0.79) | (3.0) | 上・下端欠 | |
| 40 | | 〃 | 釘? | (3.84) | (1.63) | (1.34) | (6.3) | 不明 | 他に小破片1点 |
| 41 | 34 | Ⅳ次1区検出面 | 不明 | (4.07) | (2.31) | (1.18) | (11.9) | 両側欠 | |
| 42 | 35 | 〃 | 〃 | (5.18) | (6.73) | (0.73) | (20.2) | 不明 | 板状鉄を曲げている |
| 43 | 36 | 〃 | 鏃 | (3.89) | (1.95) | (0.54) | (5.5) | 鏃部片 | |
| 44 | 37 | 〃 | 不明 | (4.17) | 1.36 | 1.20 | (13.4) | 上～下部欠 | |
| 45 | 38 | 〃 | 刀子 | (6.72) | 1.66 | 0.93 | (13.4) | 両端欠 | |
| 46 | 39 | 〃 | 不明 | (4.68) | (1.86) | (1.29) | (10.7) | 下～上半部欠 | |
| 47 | 40 | Ⅳ次2区検出面 | 釘 | (2.76) | 0.79 | 0.38 | (0.8) | 先端欠 | |
| 48 | 41 | 〃 | 不明 | (5.88) | (1.90) | (0.98) | (23.6) | 両側欠 | |
| 49 | 42 | Ⅲ次3区検出面 | 釘 | (6.66) | (0.81) | (0.70) | (7.1) | 上・下部欠 | |
| 50 | | Ⅲ次中央東検出面 | 不明 | (2.60) | (1.59) | (4.48) | (8.5) | 不明 | |
| 51 | 43 | 〃 | 刀子 | (6.62) | (0.81) | (0.74) | (6.8) | 刃部欠 | |
| 52 | | 不明 | 銭貨 | 2.47 | (1.97) | (0.13) | (2.1) | 1/2欠 | 寛永通宝 |

## 第14表　炭化材・獣骨・顔料一覧表

樹種鑑定の精度は
クヌギ、コナラ、クリ、クルミ：100%
それ以外：60～70%

| 調査次 | 遺構 | 遺物取上げ年月日 | 遺物番号 取上場所その他 | 炭化材種別・獣骨・顔料 |
|---|---|---|---|---|
| II | 5住 | 841219 | 炉内 | 骨（種不明） |
| II | 7住 | 841215 | 北東 | クヌギ |
| II | 7住 | 8412-- | 南西 | クヌギ |
| II | 7住 | 841216 | 炭化材No.1 | ケヤキ |
| II | 7住 | 841216 | 炭化材No.2 | クリ |
| II | 7住 | 841216 | 炭化材No.3 | クヌギ |
| II | 7住 | 8412-- | 炭化材No.4 | クヌギ |
| II | 7住 | 8412-- | 炭化材No.5 | クヌギ |
| II | 7住 | 841216 | 炭化材No.6 | クヌギ |
| II | 7住 | 841217 | 炭化材No.7 | クヌギ |
| II | 8住 | 850106 | 北西　No.7 | 獣骨／哺乳類（ニホンシカか？） |
| II | 8住 | 850107 | 北東　顔料 | ベンガラ |
| II | 8住 | 850109 | 顔料2 | ベンガラ・酸化鉄（$Fe_2O_3$） |
| II | 8住 | 850109 | No.18 | 朱 |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.1 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.2 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.3 | スギ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.4 | クリ（凍結） |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.5 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.6 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.7 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.8 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.9 | サワグルミ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.10 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.11 | スギか？ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.12 | クリ |
| II | 8住 | 850109 | 炭化材サンプルNo.24 | ススキか？（屋根材）、他に木の炭片 |
| II | 8住 | 850109 | No.27　充満土 | 焼土片が混在するのみ |
| II | 8住 | 850109 | 骨 | 獣骨／中形の哺乳類（ニホンシカの可能性高い） |
| II | 8住 | 85---- | 完形壷の中の土 | クルミ（弥生時代の火災住居） |
| II | 11住 | 841215 | — | コナラの枝 |
| II | 11住 | 841219 | 覆土上層黒色土 | 獣骨／哺乳類（土器集中区） |
| II | 16住 | 841223 | 骨 | 獣骨／ニホンシカ |
| II | 16住 | 841224 | 骨　No.6 | 獣骨／ニホンシカの焼骨 |
| II | 16住 | 841224 | 骨　No.8 | 獣骨／中・大形の哺乳類（ニホンシカの可能性大） |
| II | 16住 | 841224 | 骨　No.20 | 獣骨／哺乳類（形不明） |
| II | 16住 | 841224 | — | 獣骨／哺乳類（形不明） |
| II | 16住 | 841224 | No.27　骨加工品 | 獣骨／ニホンシカ（足の骨を加工したもの） |
| II | 16住 | 841224 | No.30 | ススキの仲間、炭 |
| II | 16住 | 841224 | No.4 | シルト質粘土 |
| II | 16住 | 841225 | 骨　No.34 | 獣骨／小～中形の哺乳類 |
| II | 16住 | 841225 | 骨　No.38 | 獣骨／中形の哺乳類 |
| II | 16住 | 841225 | 骨　No.45　床直上 | 獣骨／ニホンシカ |
| II | 16住 | 841226 | 骨　南中東床直上 | 獣骨／中形の哺乳類 |
| II | 16住 | 841226 | 骨　南中南 | 獣骨／中～大形の哺乳動物（焼骨） |
| II | 16住 | 841226 | 骨　南西 | 獣骨／ニホンシカの可能性あり |
| II | 16住 | 841226 | 骨　南西 | 獣骨／中形のトリの焼骨 |
| II | 16住 | 841226 | 骨　南西 | 獣骨／ニホンシカの足の骨 |
| II | 16住 | 841226 | 骨No.6続き | 獣骨／ニホンシカの足の骨 |
| II | 16住 | 841226 | 歯　No.5 | 歯／草食獣の焼歯（ニホンシカの可能性あり） |

| 調査次 | 遺構 | 遺物取上げ年月日 | 遺物番号 取上場所その他 | 炭化材種別・獣骨・顔料 |
|---|---|---|---|---|
| II | 16住 | 841226 | 骨　北中 | 獣骨／ニホンシカ |
| II | 16住 | 841226 | No57　炭化種子 | 野性のスモモ |
| II | 16住 | 841226 | 赤色顔料 | 酸化鉄 |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo 1 赤色顔料 | ベンガラ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo 5 | ケヤキ、他にマツ以外の針葉樹多し |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo 6 | ススキ・ヨシ or アシ（屋根用か？） |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo 7 | クリ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo 8 | ヨシ or アシ（屋根用か？） |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo10 | 炭の粉末 |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo11 | スギか？ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo12 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo14 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo15 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo16 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo17 | ヨシ（屋根用か？） |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo18 | クリ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo20 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo21 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo22 | スギ（針葉樹） |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo23 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo24 | ススキ・ヨシ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo25 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | サンプルNo26 | スギ |
| II | 16住 | 841227 | 骨　床直 | 獣骨／ニホンシカ |
| II | 16住 | 841227 | 南北ベルト北東側 | 獣骨／中～大形の哺乳類 |
| II | 16住 | 841228 | サンプルNo27　歯 | 歯／草食動物（ニホンシカの可能性大） |
| II | 16住 | 841228 | サンプルNo28 | 獣骨／ニホンシカの焼骨 |
| II | 16住 | 841228 | サンプルNo29 | ヨシ・アシ |
| II | 16住 | 841228 | サンプルNo30 | スギ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 1 | クヌギ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 2 | スギ小片 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 3 | 木材の小片のみ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 4 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 5 | アキニレ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 6 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 7 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 8 | コナラ炭片 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo 9 | ケヤキ（凍結） |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo10 | コナラ？（凍結のためはっきりせず） |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo11 | ケヤキ・クリ・アキニレ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo12 | ケヤキ（凍結） |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo13 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo14 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo15 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo16 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo17 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo18 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo19 | コナラ・カシワ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo20 | コナラ小片 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo21 | コナラ・クリ |

| 調査次 | 遺構 | 遺物取上げ年月日 | 遺物番号 取上場所その他 | 炭化材種別・獣骨・顔料 |
|---|---|---|---|---|
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.22 | 広葉樹の樹皮 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.23 | コナラ・ニレ・ナラガシワ（凍結） |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.24 | クヌギ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.26 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.27 | ケヤキ・コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.28 | コナラ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.29 | コナラ小片・ヒノキ？小片 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.30 | コナラ |
| II | 18住 | 850111 | 炭化材サンプルNo.31 | ケヤキ・クヌギ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.32 | ケヤキ炭片 |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.33 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.34 | ケヤキ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.35 | ケヤキ・コナラ・カシワ・アキニレ・ニレ |
| II | 18住 | 850104 | 炭化材サンプルNo.36 | クヌギ（凍結、他は不明） |
| II | 19住 | 850111 | 骨（元21住） | 獣骨／中～大形哺乳類 |
| III | 42住 | 851204 | No.2 | ススキ（屋根材？）、針葉樹炭片 |
| III | 42住 | 851204 | No.2 | 木炭＋炭＋砂、穀物なし |
| III | 42住 | 851204 | — | ハンノキ |
| III | 42住 | 851204 | No.9 | ケヤキ（構造材か？） |
| III | 42住 | 851204 | No.20 | スギ |
| III | 42住 | 851204 | 骨　床直 | 獣骨／ニホンシカ |
| IV | 44住 | 861112 | 骨 | 獣骨／哺乳類 |
| IV | 46住 | 861106 | 炭　No.1 | コナラ |
| IV | 46住 | 861115 | 西壁 | 樹皮（樹種不明） |
| IV | 48住 | 861025 | 上面撹乱 | 近世以後の溶融物 |
| IV | 48住 | 861107 | No.49 | 獣骨／大形トリの骨 |
| IV | 48住 | 861112 | No.57 | ウルシの剝げたもの |
| IV | 49住 | 861115 | 北西覆土 | トチ材？ |
| V | 58住 | 870922 | 南東中下層 | ホオノキ |
| V | 61住 | 871011 | 炭化材サンプルNo.1 | コナラの柱、ヒノキの仲間 |
| V | 65住 | 870923 | 南東 | 獣骨／ニホンシカの足の骨 |
| V | 68住 | 870924 | ベルト | 歯／ウマの歯 |
| V | 71住 | 871010 | 炭 | スギか？ |
| V | 73住 | 870929 | 北東上層 | ヤナギ |
| V | 74住 | 871005 | 骨　ベルト | 獣骨／大形トリの骨 |
| V | 74住 | 871005 | 骨　No.34 | 獣骨／大形トリの骨 |
| V | 75住 | 871008 | 上層 | コナラ |
| V | 75住 | 871008 | 上層 | クヌギ、ヤナギか？ |
| V | 75住 | 871009 | 上層 | コナラ・クリ |
| V | 75住 | 871009 | 上層　炭化物 | コナラ・クリ |
| V | 75住 | 871011 | No.37 | コナラ |
| V | 75住 | 871104 | 南西中層 | イヌブナ |
| V | 76住 | 87---- | 炭　覆土 | ツゲか？ |
| V | 77住 | 871005 | 75住南　トレンチ | フサザクラ |
| V | 78住 | 871011 | 顔料 | ベンガラｏｒ酸化鉄 |
| V | 79住 | 871011 | 北西床直 | 獣骨／小動物 |
| III | 340土 | 851127 | 覆土内 | ハンノキの仲間（カバノキ科） |
| III | 302溝 | 851111 | 骨 | 焼骨片（種不明） |
| IV | 402溝 | 861115 | No.1 | 歯／ウマの歯 |
| IV | 402溝 | 861115 | No.3 | 歯／ウマの歯 |



鑑定　森義直

# 第10章　調査のまとめ

## 第１節　遺構について

### 1　弥生時代の住居址

第Ⅰ～Ⅲ次および第Ⅴ次調査では合計42軒の弥生時代に属すると考えられる竪穴住居址が検出されたが、住居址の平面形や住居施設がよく捉えられる例が多い。中期後半と後期以降のものに分けて見てみたい。

（1）　中期後半の住居址

①平面形

平面形がよくわかる例としては、第5・7・8・11・13～19・23・24・28号の各住居で、この他にもかなり類推が可能なものもいくつかある。基本的に楕円形（小判形）と方形に分かれるが、中間的な形も認められるので次の3形態に分類する（以下、住居址は「住」と略す）。

A：楕円形（長軸方向の壁は比較的張り出さない）

B：隅丸長方形と楕円形の中間（隅丸長方形の短辺がわずかに張り出す）

C：隅丸方形・方形・長方形

A形態に属するのは7・8・16・17・28住、B形態に属するのは5・13・18住、C形態は15・23・24・25・42住である。またA形態のなかにも、長軸辺の張るラグビーボール形（28住）と、同辺が比較的直線の小判形（7・8・16・17住）がある。遺構の重複や撹乱などで全形がつかめないものについても、部分的なコーナーの形から推定すると、6・19・78住がA形態、14・33住がB形態、11・20・26・29・79住がC形態に属する。

松本平の弥生時代中期後半から後期にかけての住居址平面形については以前にも触れたことがあるが、その中で基本的に、「隅丸方形（長方形）→楕円形→隅丸方形（長方形）」という形で推移すると考えた（直井1987）。今回の資料は、時期的には土器から見て、中期後半から終末に位置付けられるが、まさしく「隅丸方形（長方形）→楕円形」への変遷過程にあたっていると理解できる。すなわち中期後半的な様相のC形態が、中期終末から後期初頭的なA形態に変化していき、その中間的なものとしてB形態が想定できるのである。

中期後半から後期にかけての住居址平面形の変化について隣接諸地域の動向では、天竜川上流域や佐久地方では全般的に長方形を堅持するようであるが、長野・更埴地方では円形や楕円形、隅丸方形から長方形・方形への変化がある（神村1986）。これらの傾向と本遺跡の状況の間にどのような関連性を考えるかという問題は、部分的には長野・更埴地方に通じるところもあるが、かなりの独自性も認めねば解決できまい。

②炉形態・位置

炉がしっかり確認されたのは、5・8・17・23住の4軒だが、13・20・24・28住もかなり形状が判別できる。いずれも地床炉ではあるが、5・8住には半円形（「コ」の字形）の石囲いがある。床面をわずかに掘り窪めたもので、焼土・被熱層の広がりも最大でも約60cmで、全体的に見て非常に貧弱な感じをうけた。

位置的には、各住居の長軸中心線上にあり、5・24・28住はほぼ中心、8・13・17住はごくわずかに奥寄りにずれる。遺構の破壊が著しく、炉は残存していたが住居内での位置が正しく割り出せない例でも、概略ではほぼ中央部にあたると推定される。

炉形態・位置の時期的な変化についても、かつて宮淵本村遺跡第2次調査報告で簡単に触れたことがある。それによると炉の位置は中期の後半から後期にかけて住居中央部から奥壁寄りの柱穴間にずれていく傾向があり、かなり端的に時期差を反映していた。一方、炉形態は多様で、時期的特徴を導き出せなかった。本遺跡の例はこの宮淵本村遺跡での傾向に合致するもので、より時期的凝集性が高い資料といえよう。

（2）後期以降の住居址

形態がよくわかるものは9・12・31・43住の4軒である。住居平面形はわずかに隅丸の長方形ないしは方形を呈し、炉はいずれも奥壁寄りの柱穴間に位置する。炉形態は31住が地床炉であった他はすべて埋甕炉（土器炉）で、9・43住は櫛描波状文が施文される甕の上半部を逆位に、また12住は同様の甕の胴部を正位に埋設している。4軒とも典型的な後期以降の住居といえるが、炉形態から見ると31住のみが異質で、他とは若干の時期的な違いがあるのかもしれない。

**2　古墳時代以降の住居址**

（1）古墳時代中期末～後期初頭の住居址

第Ⅴ次調査でまとまって発見された61・63・64・71住の4軒で、ほぼ全形が窺えるのは64住のみである。平面形はわずかに隅丸の方形あるいはやや長辺が長い程度の長方形を呈す。平面形、住居施設などはそれ以降の奈良・平安時代の住居と変わらないが、柱穴は4本方形配列でしっかりしている。また64住で確認されたカマドは、長さ1m20cmの長大な袖をもち、しかも袖の構築材は礫を用いずに粘質土だけで構成しているというもので、時期的にも、構造的にも当地方にカマドが普及し始めた頃の貴重な資料であろう。

（2）奈良・平安時代の住居址

第Ⅰ～Ⅷ次の調査で合計42軒が発見されている。ただし遺構の重複や撹乱などによる破壊のため、全形が完全に確認された例は驚くほど少なく、44・57・62・70・72住の5軒しかない。

平面形は基本的に方形だが、若干細長いものや、歪む不整形なものもある。カマドは西壁に設けられるのが2例、東壁が9例、北壁が2例で、東壁がとび抜けて多いが、南壁の例はなく、松本市

内の他遺跡の同時代住居と同様の傾向を示している。柱穴が検出されないこともこの時期の一般的な特徴であるが、本遺跡も例外ではない。

### 3　平安時代の集石

第3～7号集石が該当する（以後、集石を「集」と略す）。これらはいずれも奈良・平安時代遺構と同一の検出面で発見され、しかも掘り込みはまったく伴っていなかった。いちばんの特徴は多数の土器や、熱を受けた痕跡のある礫、炭化物を混じえていたことで、特に3～6集は顕著であった。これらの性格については調査段階からいろいろと考えられたが、はっきりさせることができなかった。整理作業を通じて考えられたことは、第1に、屋外の何らかの祭祀に関連したもの、第2は、平地住居的な施設な痕跡、である。6集には須恵器の大甕の破片が多く、その点から第1の可能性も想定できよう。一方、4集は土師器の甕の一括品があり、一か所にまとめられ、重ねられた坏類なども多出し、礫や遺物の配列からみて、第2の考えによく適合するものと見たい。ここでは結論は保留するが、今回のような包含層あるいはその直下に残る遺構で、表土が浅い遺跡などでは破壊されて通常は検出できない、竪穴状を呈さないものに対して、今後の集成と検討が必要であろう。


**参考文献**

1　神村　透　1988　「3　弥生時代の住居と集落」『長野県史　考古資料編』1－4

2　直井雅尚　1987　「第3章　調査のまとめ」『松本市宮淵本村遺跡II』　松本市教育委員会


## 第2節　弥生時代の土器

### 1　中期後半～末の土器

（1）壺・甕の分類と時期的な前後関係

中期の土器の器種・器形は前章2項で概観したので、ここではそれをもとに主要な器種である壺、甕について、まず簡単な分類を行って各器種に対する着眼点を明らかにするとともに、他遺跡の例(1)から各分類の時期的な前後関係を探り出してみたい(2)。

①壺

器形は口縁部形態に着目しA～D類（第9章で説明）に、文様は基本的に胴部文様帯をもつ（飾られる壺）かそうでないかにより1・2類に分ける。口縁部を欠くものは前者の分類が、また胴部を欠くものは後者の分類が不能となる。胴部の赤彩は加飾と考えるが、それだけのものは3類とする。頸部文様帯を持たない小形品は除外する。個体の残存がよく、組み合わせになるものは併記する。代表例、A1：159、A2：239、B2：47、C2：36・49、D1：6。

器形A類は中期中葉から通常に見られるものであり、中期という範囲内にあっては古い要素とみ

ることができよう。D類は北信地方の中期後半栗林式にみられる翼状口縁に類似し、時期的にもその系譜を引くと考える。C類は、一応、系譜的にA類の受け口化、あるいはD類の退化したものと捉え、それらのあとに位置付けたいが、実際には型式組列上に並べられるものなのか、また後期への発展が無理なく追えるのかは、疑問が多い。B類はC類の亜種とみる。

文様については、まず胴部文様帯の有無（1・2類）は、「飾られる壷」とそうでないものの差異であることが多く、時期差を捉える指標としては不適切と考える。むしろ口縁部文様帯の構成要素と、施文の丁寧さに着目したい。

頸部文様帯の構成要素としては、地文の縄文、箆描横線・山形文・鋸歯文・刺突文・刻み・斜線文（斜行沈線充填）(3)、竹管刺突文、櫛描波状文・簾状文があるが、箆描鋸歯文・斜線文（斜行沈線充填）を除くと、いずれも中期後半から連続するものと考えたい。ただし本例の中で引き続き継続されるものと、まもなく見られなくなってしまうものがある。斜線文（斜行沈線充填）は北信地方の後期前半吉田式(4)や出川遺跡竪3に見られ、後期につながる要素と言える。鋸歯文も前述の吉田式に通有だが、上向きの大きなものはむしろ飯田地方の中期後半北原式に多出するものであって(5)この文様に限っては時期的な特性のほかに地域的な要素が多分に絡んでいる。

施文の丁寧さということでは、箆描山形文と地文の縄文がよい指標となろう。箆描山形文はしっかりと角をもって規則正しく描かれるものから、かなり乱れてむしろ波状文風になっているものまであって、このことはある時期以降、施文の手抜きが行われるようになったためと想定する。地文の縄文は、原則的には施文後に箆描横線で横帯区画を作って、区画内からはみ出した上下部分の縄文を磨き消しており、このため縄文が残る横帯区画がケズリ出しの凸帯のように見えるものもある。縄文も丁寧に施文されて途切れがないが、雑なものになると上下の磨き消しが不完全、あるいはまったくなされておらず、縄文自体も方向が不揃いで途切れている。これも徐々に施文の手法の省略、手抜きが行われたためと考える。

②甕

器形は口縁部形態に着目し、壷と同様にA～Dに、また胴部の張りの有無でa・b（ただしaは通常は略す）に、さらに胴部文様が櫛描波状文か、縦の櫛描羽状条痕文か、横の同羽状条痕文かで1～3類に分ける。組み合さるものは併記する。代表例、A2：247、A3：215、Ab3：170。

時期的な特徴の最大のものは、胴部文様帯の櫛描羽状条痕である。この文様は松本平では後期になると見られなくなり、すべて櫛描波状文に統一される(6)。器形では壷とまったく同じ事がいえる。これをまとめると甕では次のような変化のモデルが想定できる。

〔A2・A3・D2・D3・（A1・D1）〕→〔A1・D1〕→〔C1〕

（2）代表的な土器群（土器組成）

以下に挙げる各遺構出土土器群は、大半が焼失住居出土品で、そうでないものもきわめて一括性の強いものであり、いずれも廃棄の同時性がおさえられるとともに器種組成も良好である。

①第7号住居址出土土器群

器種・器形がわかるものは、壷D1(6)・C(7)・1(9・317・320)・2(8・10)・3(318)、甕A2(25・26・337)・C1(17・24・327)・C2(19・20)・Cb3(18)・C(15・16・331・333)・2(23・325・334・335・336・338)、台付甕(27・28)、鉢B(32)、甑(33・34・35)がある。また壷の頸部文様帯は篦描山形文や刺突文、鋸歯文、櫛描波状文で飾られる。

全体としての特徴は、壷に1類（胴部加飾）が見られること、甕はC類が主体だがA類も見られること、甕の胴部文様は1類より2類が多いこと、が挙げられる。

②第8号住居址出土土器群

本址は焼失住居で完形、半完形の土器が多数出土した。これらはすべて同時廃棄の一括性を強く持つもつのである。器種・器形がわかるものは、壷A(38～40)・B2(47)・C2(36・48・49)・C(41・339・340・348)・1(37・349)・2(45・48・50～52)・3(58)、甕C1(54～56・59・60)・1(57・354～356・361)・2(353・357・362)・3(360)、高坏(67～69)、鉢A(65・66)・B(63)、甑(70)がある。また壷の頸部文様帯は篦描山形文・斜線文、櫛描波状文で飾られる。しかし施文が雑で、地文の縄文が篦描横線の上下にはみ出しても磨り消しが行われていないし、横線や篦描山形文は非常に不揃いである。

全体としての特徴は、壷にC類、1類が多いこと、甕もC類、1類が多いこと、壷の施文が雑なことが挙げられる。

③第13号住居址出土土器群

器種・器形がわかるものは、壷A3(126)・B(127)・1(420)・2(418・419)、甕A1(131)・A2(134)・B1(132)・C2(138)・D1(424)・D2(133)・Db3(135)・2(427)・3(428)、台付甕(140)、鉢A(142)、甑(137・141)がある。139の甕は器形はA類だが、文様は縄文のみという非常に珍しいものである。

全体としての特徴は、甕に器形はA・D類、文様は2・3類のものがいくつも見られることであろう。

④第16号住居址出土土器群

本址は焼失住居で多数のまとまった土器が出土した。これらは同時廃棄の一括性を強くもつものである。器種・器形がわかるものは、壷A1(159)・A2(153)・A(156・435)・C(154・161・436・440)・1(150・163・432・164・437・439)・2(160・165・166・438)、甕A1(168・172・173・175・177・178・180～182)・A2(174・179・448)・Ab2(176)・B1(445)・C2(167・169・184)・C1＋2(183)・Db3(170)・D(443)・1(444・446・447・449・450)・2(185・186)、台付甕(189・190・194・195)、高坏(191～193・196～198)、鉢A(200)、鉢B(201)、甑(203)がある。壷の頸部文様帯は篦描山形文・鋸歯文、櫛描波状文などで施文されるが、山形文には若干の乱れが見られ、地文の縄文も磨り消しがしっかり行われていないものもある。

全体的な特徴は、壷の器形にA類が多く、1類も見られること、甕は圧倒的にA1類が多いこと

である。また183の甕のように胴部文様が例外的に1類と2類が組み合わされるものもある。

⑤第18号住居址出土土器群

本址も第8・16号住居址同様に焼失住居で、廃棄の同時性を強く有する多数の土器がまとまって出土している。器種・器形がわかるものは、壷 A2 (212)・A (211)・D 3 (206)・D (459)・1 (452～454)・2 (207～210)、甕 A1 (223・224)・A2 (216・222)・A3 (214・215)・Ab (221)・C1 (225)・C 3 (219)・1 (464)・2 (465～467)・3 (213)、台付甕(230・231)、鉢A (229)・B (228)がある。227は器形は甕だが文様からみて特殊な広口の壷と理解した。壷の頸部文様帯は篦描山形文・鋸歯文、櫛描波状文・簾状文で飾られている。

全体的な特徴は、甕にA類が多いこと、同じく3類が多いことである。また壷の頸部文様帯に櫛描文が多用される傾向もある。

⑥第24号住居址出土土器群

器種・器形がわかるものは、壷A 1 (241)・A 2 (239)・D (488)・1 (487・489・491)・2 (240・490)、甕A 1 (245)・A 2 (246・247)・D (244・496・499)・1 (495・497・498)・2 (243・500～502)、鉢A (250)である。壷の頸部文様帯には篦描山形文・刺突文・刻み・横線文が見られ、地文の縄文も丁寧である。また頸部文様帯の各横区画が削り出し状にわずかに盛り上がるものもある。さらに口唇部には縄文を施文したのち小さな押圧痕を巡らす、手の込んだ例も見られる。

全体的な特徴は、壷・甕ともB・C類が見られないこと、D類が目立つことである。

⑦第42号住居址出土土器群

本址は焼失住居であるが、前4軒の同住居にくらべて土器の量はやや劣る。とは言え、廃棄の同時性をもった重要な一括資料であることに変りはない。器種・器形のわかるものは、壷A 2 (273)・A (268・573)・B 2 (270)・1 (271)・2 (272・274)、甕A 1 (581)・C 1 (278)・C (580)・1 (575・576)・2 (577～579・582)・3 (277・583)、高坏(281)、台付甕(276・279・280)、鉢A (283・284)がある。壷の頸部文様帯は篦描横線、竹管の円形刺突、櫛描簾状文、縄文で飾られるが、273のように文様部の横帯を削り出し状にしたものも見られる。また271の胴部には他に例のない大きな上向き鋸歯文が見える。

個体数が少ないので、全体的な特徴はつかめない。

（3）土器群の時期的な前後関係

壷と甕の様相で以上の各土器群の時期的な前後関係を簡単に考察してみたい。

第一に指摘できるのは、第8号住居址出土土器群が最も新しい様相をもつということである。壷頸部文様帯の地文の粗雑さや後期につながる斜線文（斜行沈線充填）の存在、甕の受け口口縁中心の器形、あるいは胴部文様の櫛描波状文の多用などがそれを示している。

次に第24号住居址出土土器群については、壷頸部文様帯に刺突・刻みが見られ、しかも甕には受け口口縁のものが見当たらない。また甕の胴部文様は羽状条痕が稜駕している。古相をもつと考え

たい。

第16号住居址出土土器群は、甕の器形はA類で古いが、胴部文様は櫛描波状文が卓越するという様相を示す。また壷頸部文様の箆描山形文はかなり乱れており、先の第8号住居址出土土器群よりは古いが、全体の中では比較的新しいとみる。

第7・18・42号住居址の各土器群は細かい点では時期差に論及することもできようが、概ね第24号住居址と第16号住居址の間に位置付けておきたい。

## 2　後期以降の土器

第9・12・13・43号住居址から出土しているが、12・43住は炉体土器のみである。第9号住居址出土品を中心に考えてみたい。

この中でまず注目すべきは第72図77の甕と第73図81の小形高坏であろう。小形高坏にはかなり違和感もあるが、いずれも北陸地方の月影式を模倣したものと推定される。このため本土器群は弥生時代終末あるいは古墳時代初頭に位置付けられる可能性がある。

この2点以外の壷と甕は在地の弥生時代後期の系譜の中に置かれるものだが、壷に全形がわかるものがないのは残念である。壷の類例を他遺跡に求めると、塩尻市中島遺跡第1号住居址出土品(7)が頸部の文様や器形、口縁端部のわずかに受け口になる形態などでよく似ている。これに対し松本市三の宮遺跡出土の壷(8)は、本例にくらべて頸部の屈曲が強く、「く」の字に近い。わずかに受け口の痕跡を残すとはいえ口縁部も大きく外反して、頸部文様の4単位のT字文（実際は「J」字文）もパターンが崩れている。本例より後出を意味しよう。甕は塩尻市上木戸遺跡出土品のA系甕(9)に対応すると考えるが、本例の方が櫛描簾状文・波状文の施文順以外にはかなり乱雑さが現われている。一方、先述の三の宮例の甕では、壷と同様に頸部が「く」の字に屈曲したり、櫛描文がさらに雑になるものが多い(10)。上木戸、県町（本例）、三の宮、という時期順を想定したい。

註1　松本平の例では、中期中葉の資料は南安曇郡三郷村黒沢川右岸遺跡第1・4号住居址（文献1）、東筑摩郡明科町緑ヶ丘遺跡（文献2）、中期後半は松本市宮淵本村第4・11・48号住居址（文献3）、大町市来見原遺跡（文献4）、後期前半と考えられるものは、松本市出川南A遺跡第4号住居址・竪穴状遺構3（文献5）の各出土品が挙げられる。また松本市百瀬遺跡竪穴出土品（文献6）はほぼ同時期と考えられる。

2　根本的・概略的な編年観は笹沢浩氏の業績に導かれている（文献7）。

3　土器観察表では「箆描」の施文原体については、箆・棒状工具・竹管凸面などと呼称を統一できなかったが、基本的にこれらの箆描文は竹管、あるいは半截・多截竹管凸面で施文していると考える。その根拠は、沈線の溝底が「V」字形ではなく「U」字形をしていること、刺突文がこの工具を使っているのは明瞭なこと、まれに半截竹管凹面を使って施文したため平行沈線になっているものがあること、などである。中期から後期への変化は、この工具による太い沈線と櫛描文、縄文の3点組み合わせから、先端の鋭利な工具による細い沈線、櫛描文の組み合わせへの変化でもある。さらに後期後半には櫛描文のみとなる。

4　文献7・8。特に文献8は長野市域におけるきわめて良好な該期資料である。

5　文献9に飯田地方の弥生中期後半の様相が詳しく述べられている。

6　後期の出川南A遺跡（文献5）ではこの傾向が明瞭である。ただし佐久地方など地域によっては後期まで羽状条痕モチーフが残るところもある（文献10）。

7　文献11。

8　文献12。

9　文献13。

10　擬播流状文の襲は最終的に古墳時代前期にもわずかに残る。松本市向畑遺跡（文献14）に好例がある。


**参考文献**

1　百瀬新治・降旗俊行　1988「第3章　第2節　弥生時代の遺構と遺物」『黒沢川右岸遺跡』三郷村教育委員会

2　太田喜幸・河西清光　1966「長野県東筑摩郡明科町七貴縁ヶ丘遺跡調査」『松本諏訪地区新産都市地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告－昭和40年度－』長野県考古学会研究報告書1　長野県考古学会

3　直井雅尚　1986「松本平における中期後半の弥生土器について」「第7回　三県シンポジウム　東日本における中期後半の弥生土器」北武蔵古代文化研究所　千曲川水系古代文化研究所　群馬県考古学談話会

4　島田哲男　1988「第III章　第3節　弥生時代中期の遺構と遺物」「来見原遺跡II」大町市教育委員会

5　直井雅尚　1987「第3章　第3節1　土器」『松本市出川南遺跡』松本市教育委員会

6　桐原　健　1983「百瀬遺跡」『長野県史　考古資料編』1　3　長野県史刊行会

7　笹沢　浩　1977「弥生土器　中部　中部高地2－」『考古学ジャーナル』133

8　千野　浩　1977「III－3－(1)　土器」『長野吉田高校グランド遺跡』長野市教育委員会

9　山下誠一　1986「V　土器の編年」『恒川遺跡群　遺物編』飯田市教育委員会

10　小山岳夫　1987「第IV章　第1節　弥生時代」『長野県佐久市北西ノ久保遺跡第2次発掘調査報告書』佐久市埋蔵文化財調査センター

11　小林康男・大久保知巳　1980「第IV章　遺物」『中島遺跡』長野県塩尻市教育委員会

12　直井雅尚　1988「第3章　第3節　1－(5)　弥生時代末～古墳時代初頭の土器」『松本市三の宮遺跡』松本市教育委員会

13　宇賀神誠司　1988「第3章　第16節　5－(2)弥生時代後期後半の土器について」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2　塩尻市内その1－』　長野県教育委員会・財長野県埋蔵文化財センター

14　直井雅尚　1988「第3章　第3節　1　(2)　古墳時代の土器」『松本市向畑遺跡I』松本市教育委員会


# 第3節　弥生時代の石器

県町遺跡から出土した弥生時代の石器・石製品は総計163点である。これらの大部分は住居址からの出土で、所属時期を土器から推定される住居址の時期に限定できるものである。また、発掘調査では縄文時代の土器や遺構が見つかっていないので、遺構外の石器についても弥生時代に属するものとして考えることができる。なお、奈良・平安時代の石器が出土しているが、住居址群の分布地域が異なるため、後世の石器の流入はほとんどなかったと考えている。

県町遺跡の弥生時代の石器群は中期後半を中心とするもので、様々な種類の石器が出土している。なかでも磨製石鏃は成品14点、未成品32点が出土しており、本遺跡の石器群を特徴づけるものである。以下では、磨製石鏃を中心に中期後半の石器群について若干の考察を行いたい。

**1．石器の組成**（第15表）

県町遺跡から出土した磨製石鏃を除く弥生時代の石器を以下のように分類した。

・縄文時代に系統をもつ石器―打製石鏃、ピエス・エスキーユ、石錘、スクレイパー、打製石斧

・大陸に系統をもつ石器―太形蛤刃石斧、偏平片刃石斧、石庖丁、紡錘車

・道具を製作するための石器（製作具）―凹・敲・磨石、砥石、置き砥石　　以上である。

なお、縄文系・大陸系のいずれの石器製作にも剥離と研磨の工程があることから、製作具としての石器は縄文系・大陸系と区別せずに考えることにした。

発掘調査では23軒以上の住居址から石器が出土している。大部分は1軒の住居から数点の石器が見つかる程度で、おそらくは住居の廃絶時に使用可能な石器は持ち運ばれたためと考えられる。し

かし、焼失住居の3軒からはまとまった量の石器が出土している。内訳は、第8号住居から20点、第16号住居から31点(1)、第18号住居から17点である。この3軒の石器組成は当時の1軒の石器の保有状況をある程度反映しているものと考えたい。これらの住居では縄文系・大陸系の石器を併せもっているほかに、磨製石鏃の未成品と凹・敲・磨石、砥石等の石器製作用工具が伴出していることを特徴とする。県町遺跡ではこうした住居が8軒見つかっている(2)。また、個別にみると、磨製石鏃の未成品を出土した住居址は10軒、凹・敲・磨石を出土した住居址は9軒、砥石を出土した住居址は13軒、置き砥石を出土した住居址は6軒がある。これらの数字は当時の集落の1/4以上の住居で磨製石鏃の生産や修理が行われていたことを意味している(3)。こうした石器組成のあり方が他の集落遺跡にあてはまるのかは今後の調査例の増加を待って検討したい。

## 2．磨製石鏃について

### （1）磨製石鏃の製作技術（挿図5）

磨製石鏃の製作に関しては、神村透・桜井弘人氏よる研究(4・5)で製作工程が復元されている。さらに、桜井氏の研究では中信地方における「擦切技法」による調整の存在を指摘している。このことは、磨製石鏃の製作技術に地域性が存在する可能性を示唆したものと考えている。すでに遺物の項で述べているように、本遺跡では擦切施溝痕をもつ未成品が出土している。そこで、本遺跡の磨製石鏃の未成品を分析して製作工程を復元し、比較検討を行うことにする（挿図参照）。なお、各製作工程についてはすでに遺物の項で述べているので、本項では特徴的な事柄についてのみ述べることにする。

県町遺跡では磨製石鏃の素材として千枚岩・粘板岩・結晶片岩の薄く剝がれやすい石材と、珪質凝灰岩・ホルンフェンス・砂岩等の石材の2種類が利用されている。この石材の違いによって製作工程は若干異なるようである。

前者においては粗割工程で擦切施溝による分割を行うものと行わないものがある。また、薄い剝片が得やすいため剝離調整を簡略にして、主に側縁研磨で二等辺三角形に成形するものが多い。

後者については粗割工程の未成品がみられないので、粗割と剝離調整は一連の作業の中で行われたと考えている。また、薄い石材が獲得しにくいため、平面研磨の頻度が多いこと、剝離調整が丁寧なことを特徴とする。

県町遺跡の磨製石鏃の製作工程を恒川遺跡例と比較した場合、2種類の石材利用があること、擦切施溝による粗割工程の存在が特徴としてあげられる。なお、未報告であるが市内の宮渕本村遺跡から擦切施溝痕をもつ磨製石鏃未成品が出土している。擦切施溝による分割技法が中信地方で普遍的に行われていたかどうかは今後の課題である。

### （2）磨製石鏃の系譜について

中部高地の磨製石鏃は凹基・無茎で中央下寄りに孔をもつことを特徴とする地域性のある石器である。磨製石鏃はどこにその系譜が求められるだろうか。

| 時代 | | 弥生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 奈良・平安 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構 | 器種 | 磨製石鏃 | | 縄文系 | | | | | 大陸系 | | | | | 製作具 | | | 石製品 | | | 計 | 砥石 | 置砥石 | 凹石 | 帯飾り | 計 | |
| | | | | 打製石鏃 | ピエス・エスキーユ | 石錐 | スクレイパー | 打製石斧 | 太形蛤刃石斧 | 扁平片刃石斧 | | 石庖丁 | 紡錘車 | 凹・敲・磨石 | 砥石 | 置砥石 | 管玉 | 研磨礫 | 海浜石 | | | | | | | |
| | | 完成 | 未成 | | | | | | | 完成 | 未成 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住居址 | 5 | 2 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | | | 1 | | 6 | | | | | | 6 |
| | 6 | 2 | 2 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | 7 | | | | | | 7 |
| | 7 | | 3 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 3 | | | | | 13 | | | | | | 13 |
| | 8 | 1 | 7 | 3 | | | | | 1 | | | 2 | | | 5 | 1 | | | 3 | 23 | | | | | | 23 |
| | 11 | 1 | 2 | | 1 | | 2 | | | | | 1 | | | 4 | | 1 | | | 12 | | | | | | 12 |
| | 12 | | 3 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | 7 | | | 1 | | 1 | 8 |
| | 13 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| | 16 | 7 | 6 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 4 | | 2 | 3 | | 2 | 1 | | | 2 | 33 | | | | | | 33 |
| | 17 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| | 18 | | 4 | 2 | 1 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 3 | 2 | 2 | | | | 17 | | | | | | 17 |
| | 19 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 21 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 23 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 24 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| | 26 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 27 | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| | 28 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | 1 |
| | 38 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 40・41 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 41 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | 3 | | | | | | 3 |
| | 41・42 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 42 | | | 2. | | | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | 5 | | | | | | 5 |
| | 42・43 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 44 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| | 46 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 47 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 | 3 |
| | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| | 67 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| | 74 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 | 3 |
| | 75 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | | 3 | 3 |
| | 76 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | 3 |
| | 78 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | 2 |
| | 79 | | 2 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 6 | | | | | | 6 |
| | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| 溝203 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 404土坑 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| 検出面 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | 1 | 1 | 2 | 4 |
| その他 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 合計 | | 14 | 32 | 15 | 4 | 3 | 6 | 2 | 8 | 9 | 3 | 9 | 3 | 14 | 24 | 7 | 2 | 3 | 5 | 163 | 2 | 8 | 9 | 1 | 20 | 183 |

**第15表　遺構別出土石器一覧表**

県町遺跡からは磨製石鏃と同形態の骨鏃が出土している。県内では湯倉洞窟遺跡・唐沢岩陰遺跡(6)で、縄文時代後・晩期～弥生時代にかけての有孔の骨鏃が出土している。これらは有機質が残りやすい洞窟や岩陰であるので、実際にはもっと存在していたものと考えられる(7)。そこで、磨製石鏃は形態的には骨鏃・牙鏃に系譜をもつと考えたい。また、これらは研磨によって成形されることから、技術的にも系譜をもつ可能性がある。しかし、研磨によって製作される石器類は、磨製石鏃以外は大陸系の石器であることから、大陸系の石器製作技術の影響も当然考えられる。また、擦切施溝による分割技法の系譜については、縄文時代から定角式磨製石斧に行われた擦り切り技法と弥生時代の管玉製作技法の擦り切り技法(8)の2者が考えられる。前者の場合、北信地方では小形の偏平片刃石斧の製作に用いられているようだが(9)、松本平では現在のところ知られていない(10)。後者については本遺跡からも細形管玉が出土しているので、擦切施溝の分割技法の伝播の可能性は否定できない。このように磨製石鏃の技術的系譜については縄文系・大陸系のいずれも考えられる状況で、今後に残された課題である。

**（3）用途について**

県町遺跡では5軒の住居（第7・8・16・18・79号住居址）で打製石鏃と磨製石鏃（未成品を含む）が共伴している。この製作技術が全く異なる2つの鏃はどのように使い分けがなされていたのだろうか。

磨製石鏃の用途に関しては直接的な研究はないが、いくつかの論文・報告書の中で言及されている。これらをまとめると、磨製石鏃の用途には以下の2説がある。

1）非実用品説　橋原遺跡の報告書(11)では、磨製石鏃を『入口に近い主柱に置かれた（掛けておく）非実用の「矢」はさしずめ「破魔矢」とでもいってよいであろうか』と述べられている。

2）実用品説　恒川遺跡の報告書(12)では「狩猟具・武器」、長野県史(13)では、「多量の磨製石鏃は戦争の緊張を示しているとも考えられる」と述べられている。これらは、磨製石鏃を実用の武器または狩猟具として捉えようとするものである。なお、藤森栄一氏は北原遺跡の石器群を分析した上で「長大と短小の二つの別はあるが、一様に軟い粘板岩で作られた扁平有孔の北原の磨石鏃は、武器としての偉力を甚だしく欠除したものと言う他ない」、「扁平有孔磨石鏃が武器として充分な資格を具えていないと言う難点はあるが」(14)と述べて、磨製石鏃を武器と考えることに疑問を呈している。

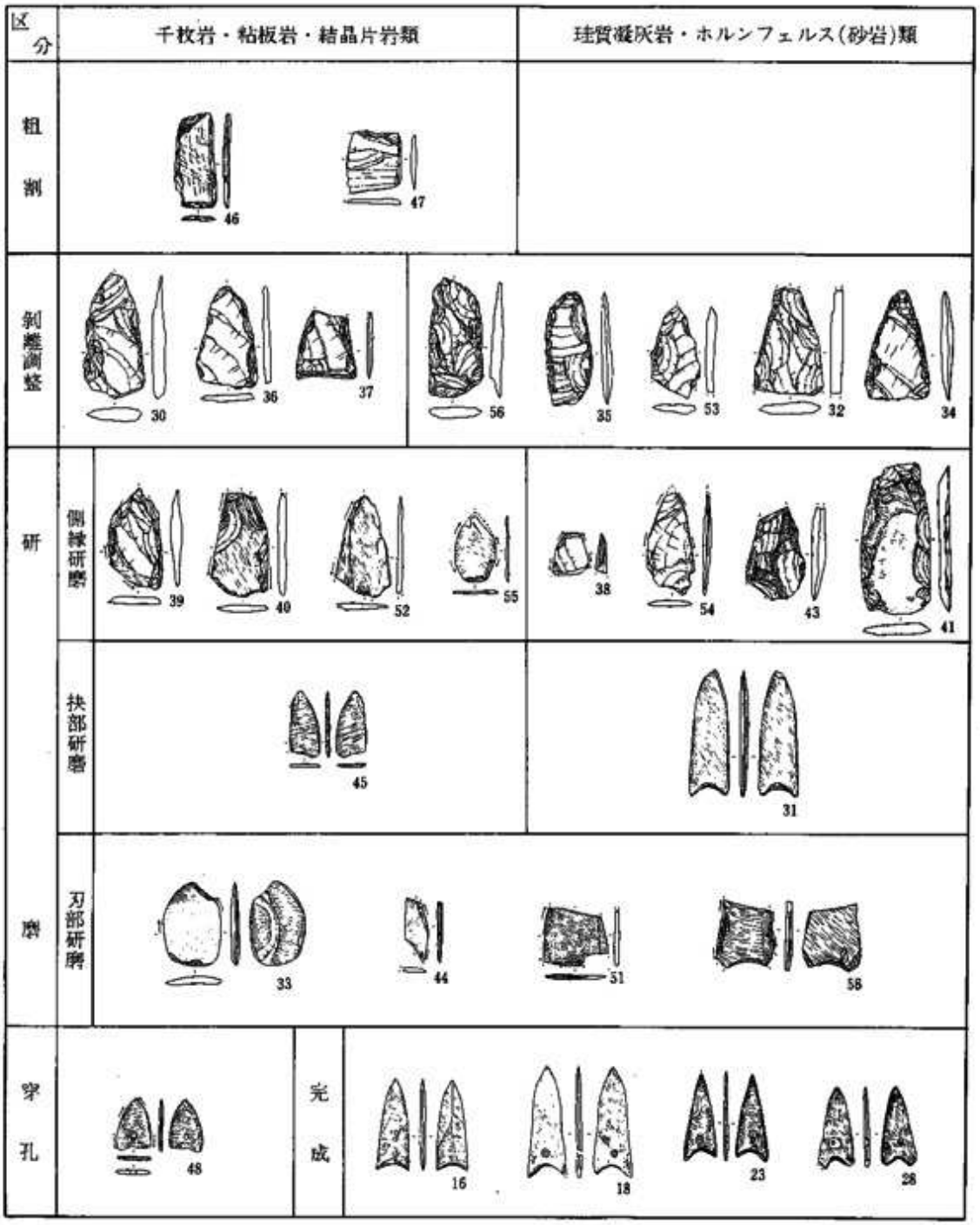
磨製石鏃の用途に関する相反する2説について検討を加えたい。磨製石鏃が非実用品である場合、用途として考えられるのは、祭祀具・呪具等である。このことを遺物の出土状況で裏付けることは困難である(15)。橋原遺跡の報告書では入口近くで出土していることを根拠の一つにしているが、野外で使用する弓矢の場合、入口近くに弓矢が置かれることは十分考えられることである。

磨製石鏃の用途については、むしろ石鏃自体の観察と属性分析から弓矢の矢尻としての機能があるかどうかの検討が必要であると考える。そこで、県町遺跡の打製石鏃と磨製石鏃の重量・幅・長さに関して検討を加えてみた。なお、本遺跡出土の打製・磨製石鏃は破損品が多いが、これらは端

部を破損しただけのものが多いので完形・破損品を合わせて検討している。（挿図6参照）

重量に関しては、両者とも0.3g～2.8gの間にあり、特に0.6g～1.6gの間に集中している。

幅に関しては、打製石鏃は1.2～1.7cm、磨製石鏃は1.4～1.8cmに集中し、わずかに後者の方が幅広な程度である。長さに関しては、打製石鏃は1.4～2.8cm、磨製石鏃は2.3～5.1cmに分布があり、明ら




**挿図5　磨製石鏃の製作工程**

かに後者の方が長大である。以上のことから、磨製石鏃は重量と幅に関して打製石鏃と同じ属性をもつが、長さにおいては長大化の傾向が指摘できる。

磨製石鏃の幅がほぼ同じであることは、打製石鏃と同様の矢柄に着装される実用品の可能性をうかがわせる。そして、長さにおける長大化の傾向は、磨製石鏃が深く突き刺さることを目的としたためと考えたい。そして、二者の鏃に長短があることは標的の違いと考えられる。縄文時代の系統をひく打製石鏃は狩猟用と考えることは妥当である。しかし、狩猟に依存する割合が低いと考えられる弥生時代の中期後半に突然現れ、しかも狩猟に適さない低地の集落で大量生産が行われた磨製石鏃の用途については人間を標的とする武器を考えたい(16)。

## 3．問題点

最後に、県町遺跡の弥生時代中期後半の石器群のもつ問題点を提起したい。

県町遺跡で発掘された中期後半の集落の1/4以上の住居で磨製石鏃の生産が行われていた。こうした石器群のあり方は、県町遺跡独自のものだったのか、あるいはこの時期に普遍的なものだったのだろうか。松本市内で磨製石鏃の未成品・製作工具の石器を出土している遺跡は県町遺跡の他に出川南遺跡・宮渕本村遺跡(17)がある。松本平の該期の集落の発掘例は少ないが、こうしたあり方は磨製石鏃の生産が集落単位で行われていた可能性を示唆するものである。そして、集落内の複数の住居で生産が行われていたことは、集落内で多量の磨製石鏃が必要とされた（＝消費された）ことの反映ではないかと考えたい。そして、磨製石鏃を武器として考えるならば、中部高地の弥生時代の社会が西日本同様に緊張関係にあったことが考えられる。このことを検証するには、石戈・石剣等の武器形石製品の検討(18)、防御の機能をもった環濠集落の検出等が必要であると考えている。

昨年の吉野ヶ里遺跡のブームの中で、倭国大乱や邪馬台国がマスコミにしばしば取り上げられた。しかし、一般にこれらは西日本の出来事として、暗黙の内に考えられている。確かに、中国の文献に現れる記載は西日本の事柄が中心かも知れないが、東日本においてはどうだったのだろうか。西日本が社会的に緊張した状態にあった時、ある所を境に東は明るい農村社会が続いていたのだろうか。中部高地の弥生時代中期後半の石器群のあり方は、この地域が社会的緊張状態にあった可能性を提示するものだと考えている。そして、このことの検証は従来の資料の検討と今後の新資料の増加によって果たされるものと考えている。

註1　第16号住居址からはピエス・エスキーユと凹・敲・磨石を除いたすべての石器が出土している。また、本住居址だけから結論水（3点）が出土している。この住居址は規模が並はずれて大きいことから、特別な機能をもった住居かもしれない。

2　第1次調査でも磨製石鏃の未成品と製作具を伴出した住居址が1軒出土している。
松本市教育委員会　1981　『あがた遺跡』

3　石器生産に関係しない住居でも、修理用の礫石を保有していたことは考えられる。

4　松島遠他　1951　「信濃北原遺跡調査概報」　『諏訪考古学』6号

5　桜井弘人他　1986　『恒川遺跡群　遺物編』

6　長野県史刊行会　1982　『長野県史考古資料編　余1巻（2）　主要遺跡（北・東信）』
なお、唐沢岩陰遺跡例は有茎鏃である。

7 『三国志・魏志巻三東夷伝』の倭人の条に、「兵には矛・楯・木弓を用う。木弓は下を短く上を長くし、竹箭は或は鉄鏃、或は骨鏃なり。」とある。
和田清・石原道博編訳『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』 岩波書店

8 計良由松・椎名仙卓 1961 『後期弥生式文化の攻玉法』 『考古学雑誌』47巻1号
寺村光晴 1980 『古代玉作形成史の研究』

9 藤森栄一『千曲川下流長峯・西丘の弥生式石器』 1937 『考古学』8巻8号

10 大町市の来見原遺跡では擦り切り技法で分割された磨製石斧が出土している。

11 岡谷市教育委員会 1981 『橋原遺跡』

12 註5の文献と同じ。

13 長野県史刊行会 1988 『長野県史 考古資料編 全1巻（4） 遺構・遺物』

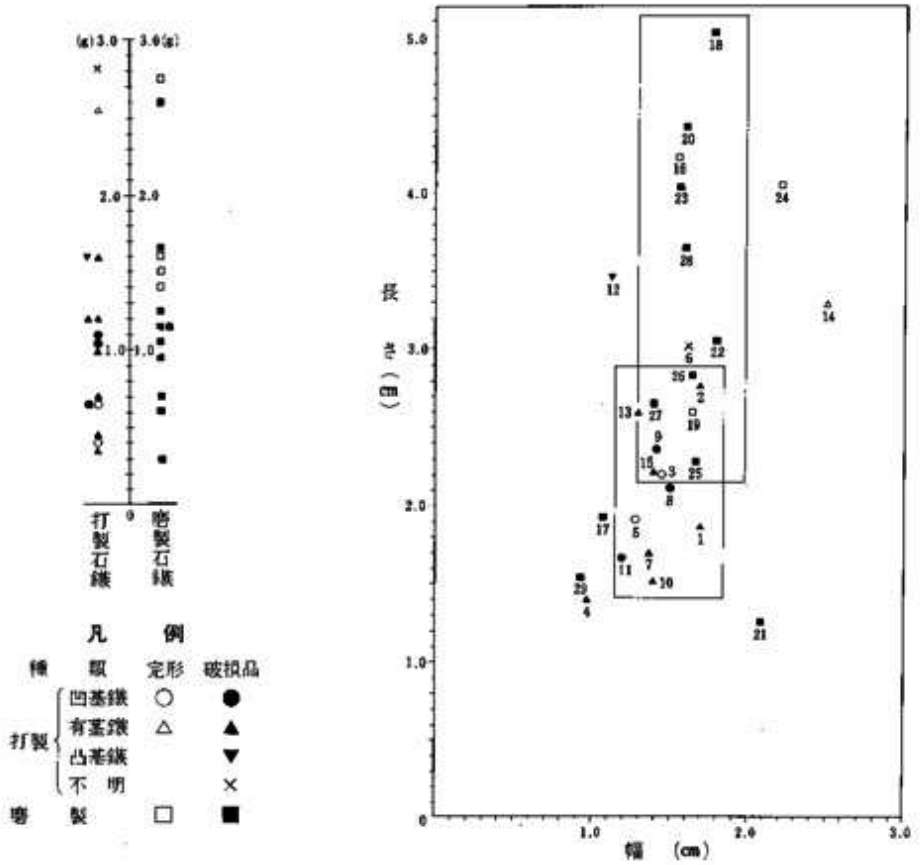
14 藤森栄一 1951 『信濃北原遺跡出土石器の考古学的位置について』 『諏訪考古学』6号

15 松本市内の出川南遺跡では赤色顔料が付着した磨製石鏃が1点出土しているので、磨製石鏃が装飾等で使用されたことも否定できない。しかし、県町遺跡では未成品に赤色顔料が付着している例もあるので、偶然に顔料が付着した可能性も考えられる。
松本市教育委員会 1987 『松本市出川南遺跡』

16 西日本では武器としての鏃は狩猟用と同じ石材が使用され、寸法・重量が大形化している。
一方、中部高地の磨製石鏃は狩猟用の（＝縄文時代からの）打製石鏃と全く異なる石材と技術で製作されている。これは大形鏃を作れる大きさの黒曜石原石が入手できなかったため、他の石材を使用する大形鏃の製作法を追求した結果生まれたものと考えている。

17 註15の文献と同じ。宮御本村遺跡は未報告である。

18 松本市内の北部地域（寓渕・城山・沢村）では石戈・石剣の出土がある。これらの石器に関して実用品の可能性を検討する必要性があると考えている。
東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会 1973 『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』第2巻歴史上




**挿図6 打製・磨製石鏃の重量分布(左), 長さと幅分布(右)**

# 第4節　古墳時代以降の土器・陶器について

## 1　古墳時代の土器

第Ⅴ次調査の第61・64・67・71号住居址から出土した土器は、形態的、手法的にかなり類似するものが多く、ごく近接した時期のものである。松本平ではこの種の類例が少ないため編年観が確立していないが、笹沢浩氏の編年（笹沢1988）に従えば「古墳時代Ⅲ期」の新様相に相当し、概略としては古墳時代中期末～後期初頭に位置付けるのが適当と考える。

（1）形態・手法の特徴

形態（器形）については前章で分類して触れたので重複は避けるが、特徴的なこととしては、土師器坏類の多様性（以下、「土師器」は省略する）や、壺の口縁部の稜、須恵器を模倣した蓋の存在などが指摘できる。特に坏類は、口縁が外反するもの2種(器高の高・低)と、内湾気味に収まるものの計3器形があり、口縁が外反する器高の低いもののなかにも口縁端部が横へ強く張り出すものとそうでないものがみられて、時期的な特徴を良く示している。第108図1の坏は1点のみ第Ⅲ次調査の出土で、古墳時代後期に下るものである。高坏は全形のわかるものはないが、坏部にも稜をもつ、4段成形のものになると推定する。

手法上の特徴は、第一に甕を除く各器種のほとんどに濃密なミガキが施されている点で、しかもミガキの方向がそろって、暗文風になっているものもある。また坏類は外面の体部下半にヘラケズリが施された後ミガキが行われているのが大半を占める。第2は内面の黒色処理技法が既に導入されていることで、坩の口縁内面にも、一部にそれが観察される。

（2）類例と編年観

前述の通り、この時期を前後する古墳時代中期から後期前半の資料は松本平においては非常に少ない。いくつかの住居址と古墳周溝等からの出土品を挙げ得るのみである。とはいえ近年の調査によって良好な資料も増えつつあるので、代表的なものについて第16表に出土遺構の集成を行った(1)。これをもとに、編年観を検討してみたい。次に使うのは標式資料にできるような良好な土器群である。

この時期の土器の変化は、壺形の小型丸底土器の盛行と衰退、坏類の増加、内面黒色処理の発生、などの要素が指標となろう。壺形の小型丸底土器を組成に残している土器群は、竜神平ｃ2住、白神場12住、向畑15住でこれらには坏は伴っておらず、黒色処理もみられない。坏類は混じるが黒色処理された器種がない土器群は平出H68住、向畑11・12古墳、黒色処理された器種が伴う土器群は中挟18・34住、県町64・71住、向畑7号古墳、来見原集石・列石である。それぞれ、第1～3段階と仮称する。ただし第3段階の中挟34住は高坏の型式変化からみるとむしろ第2段階に近い。これらの土器群の中で須恵器を共伴するのは、第2段階の平出H68住、向畑11古墳、第3段階の向畑7

古墳、来見原集石・列石の計4例で、向畑11古墳の坏蓋・坏身・鼈・甕は陶邑編年TK208型式の前半ON46型式、向畑7古墳の甕はTK23～TK47型式、来見原の坏蓋・坏身・鼈はTK208～TK47型式に相当すると考えられている。来見原の例はやや一括性に欠ける部分があるため、若干の時間幅をもつのであろう。以上のことを整理すると次のようになる。

| 段階 | 指　標 | 標式遺構 | 須恵器 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小形丸底土器の残存 | 竜神平c2住、白神場12住、向畑15住 | ＋ |
| 2 | 坏の発生・小形丸底土器の消滅 | 平出H68住、向畑11・12古墳 | TK208 |
| 3 | 黒色処理技法の発生 | 中挟18・(34)住、県町64・71住、向畑7古墳、(来見原集・列石) | TK208～47 |

この結果を、全県を通して古墳時代全般の時期区分を行った、長野県史の編年(笹沢1988)に対比させると、ここでの第1～3の各段階は、古墳時代III期中段階、同新段階、IV期古段階に相当すると考える。

(3) 土器の画期とカマドの出現

土器の問題から離れてしまうが、この時期で決して見逃してはならないのが、当地方における竪穴住居址内の造り付けカマドの出現（初源）に関してである。具体的には、第1段階の竜神c2住、向畑15住では炉・カマドともに検出されず、白神場12住、第2段階の平出H68住には地床炉の存在が報告されている。一方、第3段階になると本遺跡64住にはしっかりした粘土カマドが残っており、中挟18住も同様の報告がある。土器の変遷と照らし合わせると、この2つが今のところ当地域のカマドの最も古い例と言える(2)。カマドの出現が、特定器種の消滅や発生、須恵器の移入など、土器の大きな変化と対応していることが、地方の個別的な事例からも窺えるのである。

**第16表　古墳時代中期～後期前半の土器を出土した主な遺構（中信地区）**

| | 遺跡名 | 遺構名称・番号 |
|---|---|---|
| 塩尻市 | 平出遺跡 | H63・H66・H67・H68・H71・H76・H90・H98・H101・H102・H108・H103・H107号住居址　溝状遺構 |
| | 竜神平遺跡 | C地区1･2号住居址 |
| | 中挟遺跡 | 16･18･30･34･51号住居址 |
| | 久野井遺跡 | 2号住居址 |
| 松本市 | 白神場遺跡 | 12号住居址 |
| | 向畑遺跡 | 15号住居址 |
| | 県町遺跡 | 61･63･64･71号住居址 |
| | 石行遺跡 | 6号住居址 |
| | 向畑古墳群 | 向畑7･11･12号古墳 |
| | 宮淵本村古墳 | 宮淵本村古墳 |
| 大町市 | 借馬遺跡 | 37･46･48･53号住居址 |
| | 来見原遺跡 | 古墳時代中・後期集石・列石 |

## 2　奈良・平安時代の土器・陶器

この時期の土器・陶器については、近年、急速に研究が進み、絶対年代の比定や細部の問題を除いて、ほぼ編年観は確立したといってもよいであろう(3)。このためここでは細かい検討から時期区分を導き出す作業は既に行わず、遺構出土の良好な土器群の認定とそれらが既存のいくつかの編年観にどのように対応するかを指摘するにとどめたい。

（1）代表的な土器群

比較的、出土量が豊富で器形の判別できるものが多く、しかも遺構の重複などによる遺物の混乱が少ない、遺構出土土器群（陶器を含む、以下同じ）を列挙する。

①第48号住居址出土土器群

カマド周辺および壁際からまとまって発見されたものが多く、特殊な廃棄の状況が想定でき、きわめて一括性の高い土器群である。完形やそれに近いものも多い。土師器坏・椀・内黒椀・盤・羽釜・小形甕、灰釉陶器椀・皿・段皿・長頸瓶とわずかな緑釉陶器の椀で構成される。灰釉陶器の量は多い。特徴は、土師器坏類の口径が縮んで10cm内外を測ること、内黒処理のものが少ないこと、土師器の甕が見当たらないこと、などである。

②第57号住居址出土土器群

浅い住居址で、覆土の残存も少なかったにしては多数の土器・陶器が出土しており、床面付近出土品として、ある程度の同時性・一括性を認めることができる。須恵器蓋・坏、土師器内黒坏・内黒皿・坏、灰釉陶器皿で構成される。灰釉陶器は図示した2点のみ、須恵器坏は軟質の坏Eであり、土師器坏・皿はほとんどが内黒処理されている。

③第58号住居址出土土器群

前記の第57号住居址に上部の一部を貼られているが、重複による出土品の混乱はなかった。従って遺構の面からは本址出土土器群の方が第57号住居址からのものより古いはずである。須恵器坏・皿・蓋・甕、土師器皿・内黒皿・内黒坏・椀・内黒椀・耳皿・内黒鉢・小形甕・甕で構成されている。土師器内黒坏が食器の大半を占め同内黒皿がこれに次ぐ。土師器皿・椀は黒色処理が何らかの原因で使用時以後に抜けてしまった感があり、須恵器の食器類はわずか1点ずつの出土にすぎない。須恵器坏は硬質の坏Dである。

④第72号住居址出土土器群

覆土が深く、ある程度の量の土器が出土したが、重複する遺構との混乱はない。須恵器坏・甕、土師器坏・内黒坏・内黒椀・内黒皿・台付鉢・小形甕・甕で構成される。土師器の食器類は内黒ではないのは1点のみ、須恵器坏は硬質の坏Dに軟質の坏Eが1点混じる。

⑤第73号住居址出土土器群

前記の第72号住居址に切られる遺構であるが、調査時の所見では重複による混乱はまったくなかった。須恵器坏・耳付き壺、土師器坏・内黒坏・内黒椀・筒形土器、灰釉陶器椀・皿・瓶で構成さ

れる。内黒処理のない土師器坏、灰釉陶器の量は少ない。須恵器は硬質の坏Dに軟質の坏Eが1点混じっている。

⑥第74号住居址出土土器群

本址の下部に2軒の住居址の重複があったが、それらに所属する土器は取り除くことができる。第130図347～351がそれにあたる。本址に伴う器種は、土師器坏・椀・内黒椀・小形甕、甕、黒色土器小形壺、灰釉陶器皿・椀で構成される。特徴は、土師器坏の口径が11cm前後に縮んでいること、内黒処理は椀の2点にしか見られないこと、である。

⑦第404号土坑出土土器群

第48号住居址の床面直下から発見されたため上部を破壊され、若干同址の土器が混入しているおそれがある。ただし第140図563・568・569の3点は明らかに本土坑に伴う土器群である。土師器椀・内黒椀、須恵器長頸壺によって構成される。

⑧第4号集石出土土器群

集石ではあるが、遺物の出土状態や遺構の性格などは第5章の遺構説明や本章第1節で触れたとおりなので、充分に一括性の高い土器群と認定できる。須恵器坏・壺・甕、土師器内黒坏・内黒椀・内黒皿・鉢（小形甕）・甕、灰釉陶器短頸壺で構成される。灰釉陶器はこの1点のみ、須恵器の坏は軟質の坏Eである。土師器の食器の大半は内黒坏が占めるという特徴がある。

（2）編年観との対比

松本平においても、ここ10年間くらいの間に、土器の編年観あるいは時期区分がいくつかの遺跡毎に発表されている(4)。また全県下を対象としたものもある(5)。それぞれに精粗はあるが、いずれも現段階では有効性を失ってはいないと考える。しかし残念ながらそれら相互を並列させ、整合させる作業・試みは今のところなされておらず、ここではそれらのなかの松本市域に係るものと以下のように対比を行った(6)。

南栗遺跡の時期区分（松本市1985・1988）との対比

南栗IX期：②③④⑤⑧　南栗XI期：⑥⑦　南栗XII期：①

吉田川西遺跡の古代の時期区分（原1989）との対比

SB144段階：③⑧　SB111段階：②④⑤　SB94段階：⑥⑦　SB52段階：①

中央自動車道長野線に係わる松本市内・豊科町内12遺跡古代土器時期区分（小平1989）との対比

7期：③⑧　8期：②④⑤　10期：⑥⑦　11期：①

長野県史古代の土器編年（笹沢1988）との対比

平安時代III期：②③④⑤⑧　平安時代V期：⑦　平安時代VI期：⑥　平安時代VII期：①

### 3　緑釉陶器

30数片の出土で図示できたものは13点に過ぎない。しかし他の遺跡と比較すると、かなり多いと

いえる。しかもそのほとんどは調査面積853㎡という狭い範囲の第Ⅳ次調査地区出土であるから、これは非常に特殊なこととみなければなるまい。またその中には陰刻花文をもつ破片3点、緑彩文陶とみられる破片1点が含まれており、注目に値しよう。

他遺跡の例をみると、松本市周辺では塩尻市吉田川西遺跡(7)で約600点、松本市三間沢川左岸遺跡(8)で約200点と飛び抜けた量の出土があるが、他の遺跡では格段に少ない。類似する時期でありながら、皆無あるいは破片が数個という遺跡がほとんどである。このような状況な中では、本遺跡はむしろ多数の出土があった部類にはいろう。

註1　第16表は文献2－13から作成。なお、大場磐雄他1955『平出』にも該当する資料があったが、今回は対象外とした。

2　樋原健氏は長野県内におけるカマドの出現時期について5世紀後半に画期を求め、県内各遺跡の例に触れて、概ね5世紀末から6世紀初頭の年代を押さえている(文献14)。

3　岡田正彦、林沢清氏による先駆的な研究の後、発掘資料の増大にともなって遺跡単位ごとの時期区分作業が精力的に行われ(註4)、近年ではそれらを踏まえ、新しい視点で広域を対象とした論考・研究(注5)や、膨大な資料の精緻な分析に基く時期区分が発表されている（原1989：文献15　小平1989：文献16）。特に文献15・16は松本平南部では現段階では最も有効であろう。

4　文献17～22。

5　文献1・23・24。なお文献24は文献15の成果をもとに県下全域について時期を限定してみたもの。

6　対比は、各編年・時期区分を筆者なりに理解して行ったものであり、誤解、誤認等があればすべて筆者の責任である。ご指摘、ご叱正いただければ幸いである。

7　文献15による。

8　2次にわたる発掘調査が実施されているが、未報告。第1次調査の概報は文献25。

**参考文献**


1　笹沢　浩　1988　「Ⅱ－4　古代の土器」『長野県史　考古資料編』1－4　長野県史刊行会

2　塩尻市教育委員会　1987『史跡　平出遺跡　昭和61年度県営畑地帯総合土地改良事業松崎ヶ原地区埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』

3　長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター　1988『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2－塩尻市内その1－』

4　塩尻市教育委員会　1988『一般国道20号線（塩尻バイパス）改築工事埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』

5　塩尻市立博物館　1984『平出遺跡考古博物館・歴史民俗資料館紀要』第1集

6　松本市教育委員会　1985『松本市赤木山遺跡群Ⅰ』

7　松本市教育委員会　1988『松本市向畑遺跡Ⅰ』

8　松本市教育委員会　1989『松本市向畑遺跡Ⅱ』

9　松本市教育委員会　1990『松本市向畑遺跡Ⅲ』

10　松本市教育委員会　1987『松本市赤木山遺跡群Ⅱ』

11　松本市教育委員会　1986『松本市宮渕本村遺跡』

12　大町市教育委員会　1980『信濃遺跡Ⅱ』

13　大町市教育委員会　1988『来見原遺跡Ⅱ』

14　樋原　健　1988「Ⅳ－4　古墳時代の住居と集落」『長野県史　考古資料編』1－4　長野県史刊行会

15　原　明芳　1989「第7章　第2節　吉田川西遺跡にみられる食器の変容」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3　塩尻市内その2－』長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター

16　小平和夫　1989「古代土器時期区分の大略」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書　5　松本市内その2－』長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター

17　島田哲男　1981「第Ⅲ章　出土遺物の分類と遺構の時期区分」『信濃遺跡Ⅲ・追分遺跡・前田遺跡・南栗遺跡』大町市教育委員会

18　島田哲男　1983「土器について」『吉田向井』塩尻市教育委員会

19　山下誠永　1985「第3章　第3節　1　土器」『松本市島立南栗・北栗遺跡、高綱中学校遺跡、集落的遺構』松本市教育委員会

20　直井雅尚　1986「第3章　第3節　1　土器」『松本市島立南栗遺跡』松本市教育委員会

21　直井雅尚　1988「第3章　第3節　1　土器」『松本市島立条里的遺構』松本市教育委員会

22　市河晴男　1988「第Ⅲ章　第1節　6－1）土器について」『一般国道20号線（塩尻バイパス）改築工事埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』塩尻市教育委員会

23　藤村俊夫　1988「信濃における平安時代後期以後の土器様相」『東国土器研究』第1号

24　原　明芳　1989「長野県の9世紀後半から12世紀の食膳具の様相」『長野県埋蔵文化財センター紀要2　1988』

25　松本市教育委員会　1988『三間沢川左岸遺跡（1）　平安時代集落址の緊急発掘調査報告』

# 第5節　遺跡と集落

## 1　各時期の遺構分布

昭和61年から平成元年の4年次にわたる調査（第Ⅳ～Ⅷ次調査）により、本遺跡には、弥生時代中期末、古墳時代中期末、奈良・平安時代の遺構が一部で検出層位を異にして、重複しながら広がっていることが判明した。このほか以前の調査地周辺の調査結果では、さらに弥生時代後期末（古墳時代前期初頭）の遺構の存在が明らかになっており、弥生時代以降各時代にまたがる大規模な複合遺跡の様相を示した。とはいえ上記の各時代の遺構がすべて遺跡全体に及んでいる訳ではなく、一定の範囲に集中していく傾向はある。ここでは、まずそのことについて時期毎に範囲を絞ってみたい。

弥生時代中期末の遺構は第Ⅴ次調査地区の西端南寄りからまとまって発見された。その一帯にのみ弥生時代中期の遺物包含層があり、古墳時代中期～奈良・平安時代の遺構検出面下で遺構確認がなされたのである。この包含層は同調査地区の中央部に達するまえに急激に消滅し、同様に第Ⅳ次調査2地区（南地区）でも存在していなかった。このことから第Ⅴ次調査地区西端が弥生時代遺構分布の東限だったことがわかる。一方、以前の第Ⅰ～Ⅲ次調査では該期遺構が主体的に検出されているから、少なくとも第Ⅴ次調査地区の南西200m、南150mまでは広がりが及ぶことは確かである。本遺跡の北西を占める農林水産省蚕糸試験場の敷地内での本格的な調査がないのでこの部分の資料は空白だが、該期遺構はあがたの森公園の北半分付近を中心に東西、南北ともに200m以上の範囲で展開していたことが想像できる。

弥生時代後期末（古墳時代前期初頭）の遺構は今回の一連の調査での検出はなかったが、第Ⅱ・Ⅲ次調査では弥生時代中期と同一の検出面で発見されている。従って弥生時代中期の包含層のない地域には存在しないであろう。北限は第Ⅱ次調査地区の南部で、第Ⅰ次調査での確認はない。このことから弥生時代中期よりは遺構分布の範囲は狭く、あがたの森公園東半部の中央から南一帯がほぼその領域と想定できる。

古墳時代中期末～後期初頭の遺構は、第Ⅴ次調査地区の中央部一帯に点々と発見されたのみである。ただし検出面は奈良・平安時代の遺構と同一で、弥生時代の遺構よりは高いため、以前の調査である第Ⅱ・Ⅲ次調査では検出面ごと削平してしまい遺構の検出がなかったという可能性もある。それにしても遺物は206土から少量出土したにすぎないので、この方面はやはり除外できるとみたい。第Ⅳ次調査地区では遺構はなかったが若干の遺物があり、近接した遺構の存在を匂わせる。総合すると、あがたの森公園の北縁が南限となり、北に伸びていたと考えるのが今のところ妥当であり、案外、蚕糸試験場敷地内が分布の中心になるのかもしれない。

奈良・平安時代の遺構は各地区から発見されており、住居址1軒しか捉えられなかった第Ⅱ・Ⅲ

次調査地区でも、遺物は各地に散見していたので、上層に遺構が存在したのは確実であろう。即ち、遺跡全体にこの時期の遺構は広がっていると考えて間違いはない。特に第IV次調査地区では緑釉陶器が際立って多出し、むしろこの時期の分布の中心（あるいは政治的な中心といったほうが象徴的か）は第IV次調査地区以北にあたる可能性も濃厚である。

## 2　集落の断続

前記で推定した各時期の遺構（特に住居址）の分布範囲を、集落として捉える。これらの集落は決して連続したものではなく、時期的に断絶がある。具体的には弥生時代後期前半、古墳時代前期・後期などであり、奈良・平安時代に至っても8世紀前半、9世紀前半にはわずかな空白がある。居住（定住）と断絶の理由は何であろうか。

弥生時代中期は松本平では大規模な遺跡が少ない(1)。可耕地との関連が集落立地にとってきわめて重要であったためであろう。本遺跡は基本的には薄川の扇状地扇央部に位置するが、西に500mも行くと各所に扇端部の湧水が現われ始めるという好地にあたる。また弥生時代中期遺構の掘り込み面は基本的に黄褐色の砂質土やシルト質土が多く、ある程度安定した地形であったことも考慮する必要があろう。しかし、そうはいっても近代まで何度も氾濫を繰り返した薄川の流域地帯である。第III次調査地区南端部の該期遺構上には覆土上部を削るように洪水性の砂礫がのっており、この時期の断絶はそれによる集落の一部の破壊、あるいは可耕地の破壊によるものとの想像もできる。しかし集落の移動の規模は小さかったのかもしれない。弥生後期後半になってまた同じ地点に住居が営まれるのは、同一のエリア内で転々としていたということも考えられるからである。

弥生時代後期になると遺跡は小規模なものも含めてかなり拡散する傾向をみせる。また後期後半になると、古墳出現前夜として社会的な変動もあったと考えられ、単なる地形的な要因のみから遺跡立地を論ずることはできない(2)。本遺跡の第II次調査の該期住居からは北陸系の土器の出土があり、そのことを強く感じるのである。したがってこの時期の断絶については洪水等の自然的な要因以外の理由を考えたい。

次に遺構が現われるのは古墳時代中期末になってからである。実際のところ、この時期の集落遺跡は松本市内に限らず、松本平一円でも極端に少ない(3)。人口の極端な減少や流出を簡単に想定することはできないので、やはりいくつかの大規模な拠点的集落があったと理解されているが、本遺跡がこれに該当するのであろうか。今後、前述の該期遺構分布推定範囲の調査を進め、多数の遺構の存在を確認しなければ明言はできないが、本遺跡の地形などを勘案するとその可能性は充分あると推定したい。

最後は奈良・平安時代についてだが、奈良時代といっても土器からみると8世紀前半頃以降と限定できよう。この頃の遺構は少ない。一つのピークになるのは9世紀後半～末である。その後、わずかづつ途切れながらもほぼ11世紀まで続いており、遺跡の範囲内に各時期の中心が移動しながら

存在したと考えたい。しかも緑釉陶器を周辺集落より多数保有していた点からみれば、かなり有力な集落が継続されたのであろう。しかし平安時代以降は決して住みやすいところではなかっと思う。それは調査所見によると多くの洪水の痕跡が明瞭に残る洪水常襲地帯であったからで、特に第IV次調査2地区や第VI次調査地区南部の砂礫を充満させる大きな溝（流路址）はそのことを如実に物語っている。加えて、平安時代の検出面上数10cmにわたって遺跡全面に川砂が覆っていた。この洪水性の流路はいずれも南東から北西方向へ走っており、遺跡の南を西流する薄川が上流で頻繁に決壊したことを示している。古代全般にわたってこの地域の維持にかなり努力が払われたたとは想像に難くない。この地域が社会的な要地であったことは、須々岐水神に関する歴史からも窺える。本遺跡に洪水をもたらす元凶である薄川が、山辺の谷から抜けた付近の右岸には、薄川の神である須々岐水神が奉祀されており、この神が、貞観9年（867）に梓水神と並んで正六位上から従五位下に昇叙された記事が『日本三代実録』にあることはそのことを示すのであろう。

註1　中期の遺構が発見されている遺跡自体が少ない。報告例は第1節文献1、第2節文献1・2・4・6。

2　本遺跡の南方、約2kmの仁能山山頂には前方後方墳の弘法山古墳があり、出土土器から古墳時代前期に位置付けられている。この古墳の造営集団に絡む広範囲な動きに本遺跡も当然関わるであろう。

3　古墳時代中期から後期前半の遺構が多数発見されている遺跡は、現在のところ、塩尻市平出、大町市借馬の2遺跡しかない。しかしこの時期に比定される古墳は松本市岚山麓を中心にいくつか確認されているので、当然集落も存在するはずである。

# 第11章　結語

本遺跡の平安時代までの変転については前述の通りである。ではその後はどうだったのであろうか。前章で述べたように、平安時代の遺構面の上部には、ところによって数10cmの厚さで砂層が覆っていた。これは弥生時代中期から平安時代に至る間の堆積の倍以上の量である。しかも層中に腐植土を挟むこともなく急速に堆積が進んだことを示している。また平安時代の遺構を破壊する、洪水性の大小の流路もいくつか確認されたことは既に述べた。弥生～平安時代にかけて比較的（といっても洪水はいくつかあったが）安定していたこの地も、中世以降はその上層が物語るように大規模な洪水に襲われて地形を一変し、往時の賑いを取り戻すことはなかったようだ。近世にも村落となることはなく、大正８年の松本高等学校（旧制）、同12年の松本第二中学校（現松本県ヶ丘高校）開校の頃までは一面桑畑であった。旧制松本高等学校の敷地には同校開校まで県の宮が鎮座しており、また「県」という地名が周辺に残っていたとしても、平安時代に遡る集落景観はまったく想像できない現況を呈していた、遺跡の辿った姿であったといえる。

本稿を上梓する平成２年３月における本遺跡一帯の状況は、松本市街東部の住宅地として虫食い状に宅地化が進行し果てて、60年前とはまさに景観が逆転している。その喧騒のなかにあって、幸いなことに、あがたの森公園（旧松本高等学校敷地）、蚕糸記念公園、農園水産省蚕糸試験場、あるいは県ヶ丘高校など本遺跡の中心部分を占める一帯は、無秩序な宅地の波の中で、わずかな、と言うには余りに広範囲なのだが、広場を維持し、緑と憩いとスポーツの空間を市民に提供し続けている。穏やかな陽光の下、遺跡の眠る大地の上で、人々は今日も寛ぐ。一市民として、また調査に携わった者として、この光景の久しからんことを祈るばかりである。

昭和61年度から平成元年度にかけて行われた松本県ヶ丘高等学校の校舎改築に伴う一連の発掘調査は本報告をもって終了するわけだが、本遺跡の範囲は広く、今後も各所で緊急発掘調査が必要になることもあろうかと思う。その時には本書の内容が少しでも役に立てば幸いであるが、果たしてその責を全うしているかは、内心忸怩たるものがある。特に弥生時代、古墳時代ともに貴重な資料の検出をみて、これを正しく評価するには誠に力不足だと感じ、努めて資料提示に徹したつもりだが、各所に不整合が噴出したことについては重ねてお詫びをする次第である。

最後になったが、本調査の実施にあたり、多大なご援助を頂いた県ヶ丘高校の安江、小林両校長先生をはじめ関係者各位、調査・整理に適切なご助言を賜った研究者各位、ならびに厳しい現場作業に従事してくださった調査参加者の皆様に心からお礼を申し上げ、結びとしたい。

# 写　真　図　版

1 地区全景(南東から)

2 地区全景(東から)

第 1 図版　昭和61年度(第Ⅳ次)の調査

第44号住居址

同左　カマド

第45号住居址

第46号住居址

第46号住居址　遺物出土状況

第47号住居址

第48号住居址

同左　遺物出土状況

**第２図版　昭和61年度(第Ⅳ次)の調査**

第48号住居址　遺物出土状況

第49号住居址

第49号住居址

第50号住居址

第51号住居址

第56号住居址

第404号土坑　遺物出土状況

第3号集石

**第3図版　昭和61年度(第Ⅳ次)の調査**

調査区全景(東から)

同　上(西から)

**第4図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

第57号住居址

第58号住居址

第58号住居址　カマド

第59号住居址

第60号住居址

第61号住居址

第61号住居址

第62号住居址

**第５図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

第63号住居址

第64号住居址

同上　カマド

第64号住居址　カマド正面

第65号住居址

第66号住居址

同　左

**第６図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

第67号住居址

第68号住居址

第68号住居址　カマド

第69号住居址

第70号住居址

第71号住居址

第72号住居址

第73号住居址

**第７図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

第74号住居址

同　左

同上　カマド

第76号住居址

第76号住居址

第75・77号住居址

第78号住居址

第79号住居址

**第8図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

第80号住居址

第83号住居址

第4号集石　遺物出土状況

同　左

同　上(部分)

同　上(部分)

第6号集石　遺物出土状況

同　左

**第9図版　昭和62年度(第Ⅴ次)の調査**

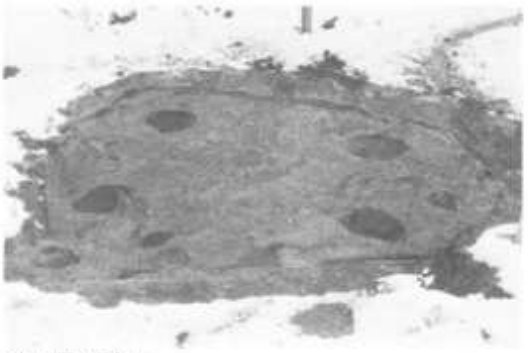
第84号住居址

調査地区全景

第85号住居址

調査地区全景

第10図版　昭和63年度(第Ⅵ次)の調査



第5号住居址

同　左

第6号住居址

第7号住居址

第7号住居址

同左(部分)

第8号住居址

同　左

**第11図版　調査地周辺の調査(第II次)**

第8号住居址　炉

第9号住居址

第9号住居址

同左　炉半割状況(東上半部埋設)

第10号住居址

第11・15号住居址

第12・13号住居址

第12号住居址

**第12図版　調査地周辺の調査(第II次)**

第12号住居址　炉半割(裏側部埋設)

第14号住居址

第15号住居址

第16号住居址

第16号住居址

第17号住居址

第17号住居址

第18号住居址

**第13図版　調査地周辺の調査(第II次)**

第23号住居址

第24号住居址

第24号住居址

第26号住居址

第27号住居址

第28号住居址

第29号住居址

第31号住居址

**第14図版　調査地周辺の調査(第III次)**

第31－33・39号住居址

第33号住居址

第34号住居址

第36号住居址

第39号住居址

第43号住居址　炉半割(東上部埋設)

第42号住居址

同　左

**第15図版　調査地周辺の調査(第Ⅲ次)**

4住1

5住3

7住6

7住10

7住21

7住27

7住20

7住33

7住33

8住37

8住38

8住41

第16図版　弥生時代の土器(1)

8住45

8住48

8住50

8住51

8住57

8住62

8住70

9住71

9住72

9住73

9住75

9住76

第17図版　弥生時代の土器(2)

9住77

9住78

9住81

11住86

11住87

11住89

11住108

11住109

12住117

13住134

13住139

13住140

**第18図版　弥生時代の土器(3)**

13住141

13住141

13住146

16住150

16住152

16住151

16住153

16住159

16住160

16住161

16住166

16住170

第19図版　弥生時代の土器(4)

16住171

16住172

16住173

16住174

16住175

16住177

16住178

16住181

16住183

16住189

18住220

17住204

第20図版　弥生時代の土器(5)

18住206

18住207

18住209

18住211

18住212

18住214

18住215

18住216

18住217

18住219

18住223

18住226

第21図版　弥生時代の土器(6)

18住227

19住236

24住239

24住240

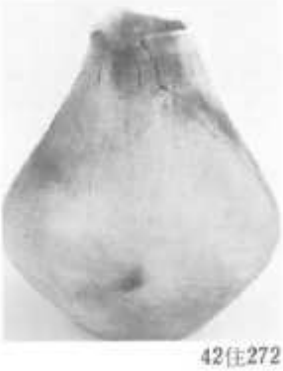
24住241

28住258

28住259

34住270

42住271



42住272

42住278

43住285

第22図版　弥生時代の土器(7)

78住287

79住288

79住294

208土297

206土300

79住295

63住11

61住6

209土296

64住19

64住18

64住17

64住20

65住23

68住28

第23図版　弥生時代の土器(8)・古墳時代の土器

22住8

22住10

44住29K

45住38

46住54

46住55

47住87

47住88

47住91K

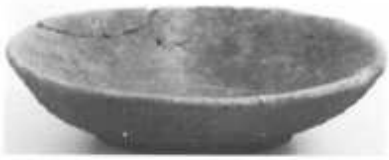
47住92K

48住100

48住101

48住102

48住105


48住106

48住107

48住109

48住110

第24図版　奈良・平安時代の土器・陶器(1)

48住111

48住115

48住121

48住122

48住125

48住130K

48住133K

48住135K

48住137K

48住138K

48住140K

48住141K

49住148

57住183

57住190

57住191

57住194

57住196

**第25図版　奈良・平安時代の土器・陶器(2)**

57住197

58住200

58住202

58住204

58住207

58住208

58住209

58住214

58住215

58住216

58住217

58住218

60住227

58住222

61住239

60住227

62住244

65住250

**第26図版　奈良・平安時代の土器・陶器(3)**

65住253

69住283

68住265

68住267

68住268

68住272

69住280

70住290

70住293

70住299

72住303

72住312

70住302

72住307

72住308

**第27図版　奈良・平安時代の土器・陶器(4)**

72住317

73住331

73住333

73住335

73住336

73住339

74住355

74住356

74住360

74住361

74住364

74住366

74住369

74住372

74住373

74住376

74住382K

74住385K

**第28図版　奈良・平安時代の土器・陶器(5)**

75住391

75住394

75住404

75住405

75住406

75住410

75住417

75住422

75住423

75住424

75住426

75住431

75住439

75住442

75住443

75住445

75住455K

76住478

第29図版　奈良・平安時代の土器・陶器(6)

76住485

76住489

76住490

76住494

76住745

76住745

77住503

81住512

76住745

76住743

82住524

84住529

87住537

82住526

86住532

87住536

**第30図版　奈良・平安時代の土器・陶器(7)**

87住538

401土556K

404土569

404土568

404土563

1集592

405土572

405土573

405土574

3集599

3集596

4集620

3集599

3集602K

4集614

**第31図版　奈良・平安時代の土器・陶器(8)**

4集621

4集623

4集627
628

4集630

4集634

5集644

4集641

4集635

5集645

5集647

7集661

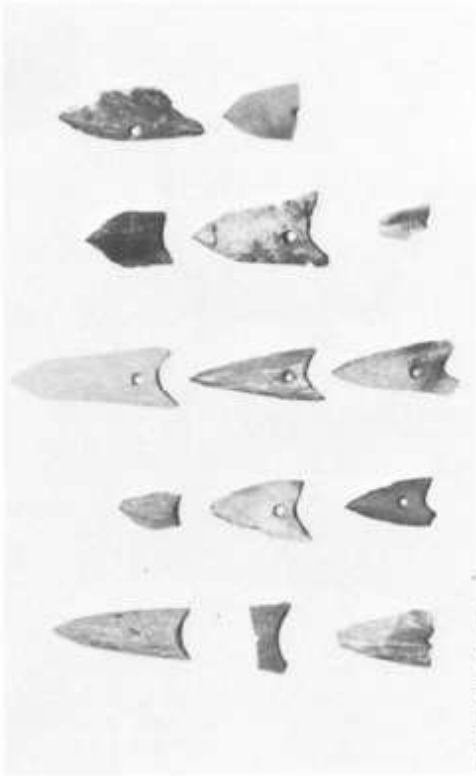
5集651

6集656

6集659

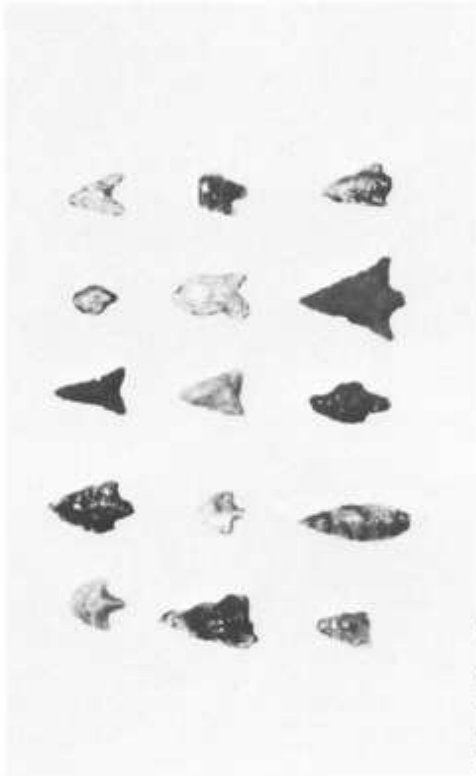
V検741陶

第32図版　奈良・平安時代の土器・陶器(9)



磨製石鏃(16～29)

磨製石鏃未成品(45～58)

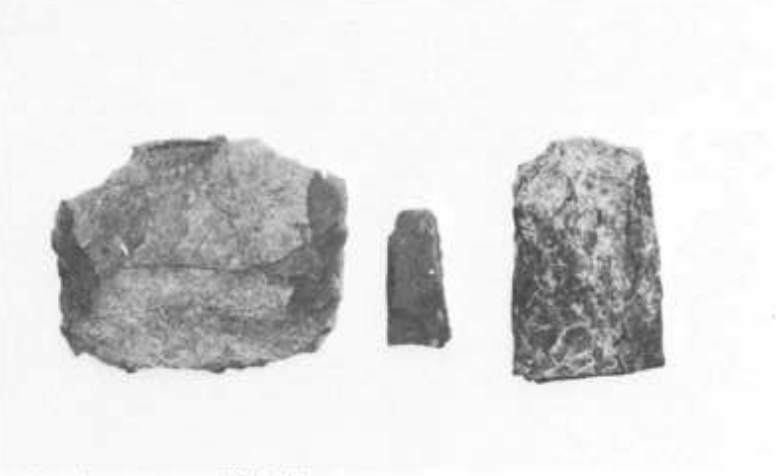


打製石鏃(1～15)

磨製石鏃未成品(30～44)

第33図版　弥生時代の石器(1)

ピエス・エスキーユ(59～62)、石錐(63～65)
スクレイパー(66～70)



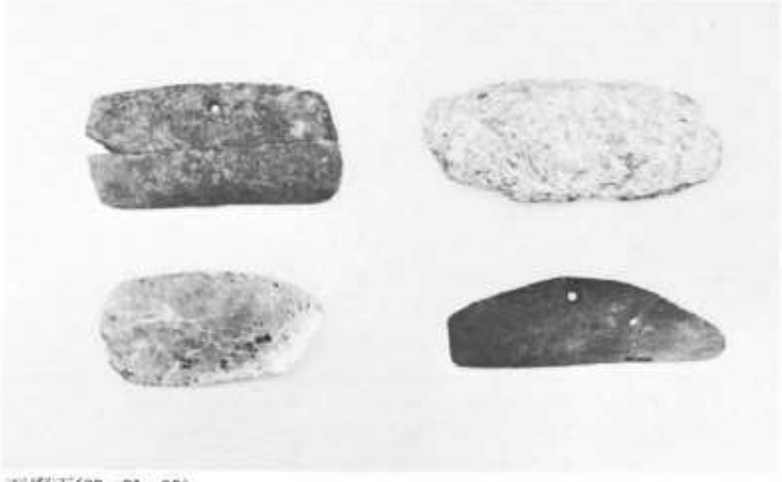
スクレイパー(71)、打製石斧(72・73)

太形蛤刃石斧(77・74)

太形蛤刃石斧(75・76)

扁平片刃石斧(78～85)

扁平片刃石斧未成品(86～88)



石庖丁(89～91・93)

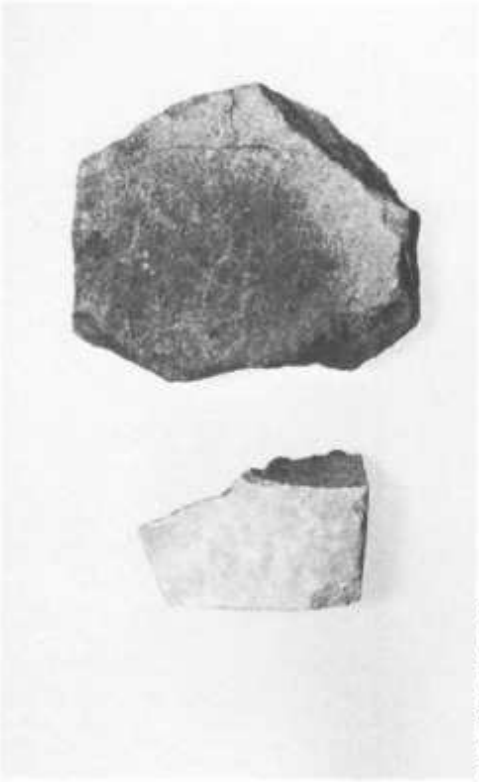
石庖丁(92・94～97)

敲・凹・磨石(98~105·109·110)

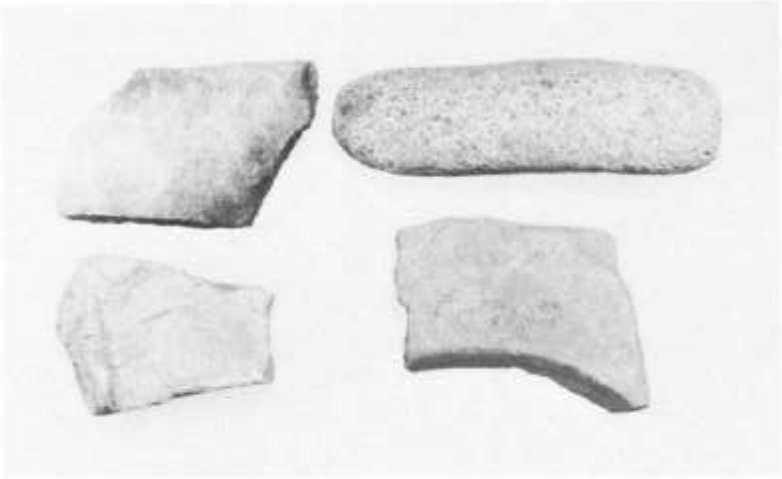
敲・凹・磨石(106~108·111)

砥石(112~120)

砥石(121~128)



**第37図版　弥生時代の石器(5)**

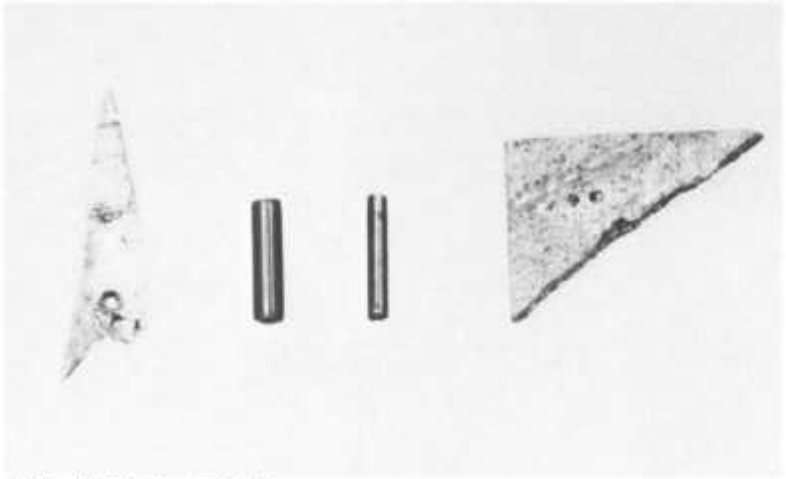


置き砥石(141～144)

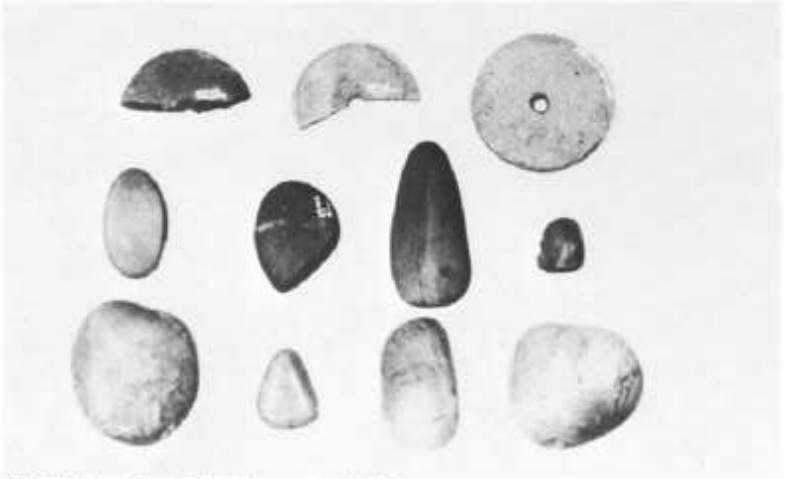
凹石(145～147・150・151・153)

凹石(148・152)

凹石(149)

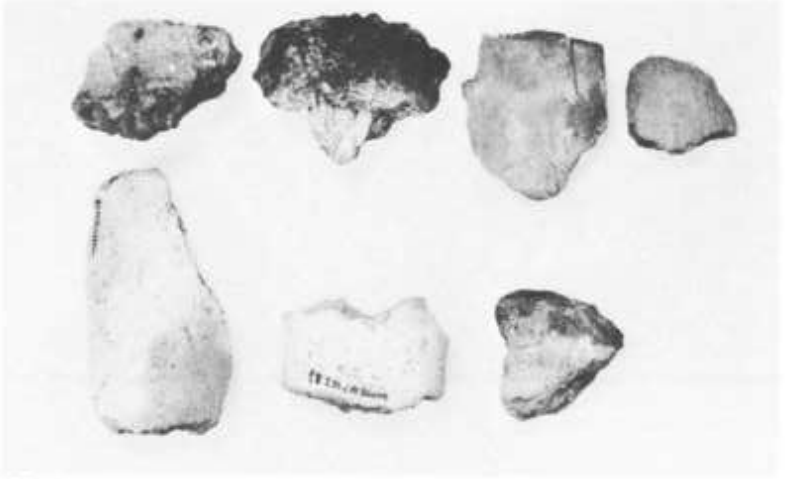


骨鏃・管玉(1·2)・巡方(9)

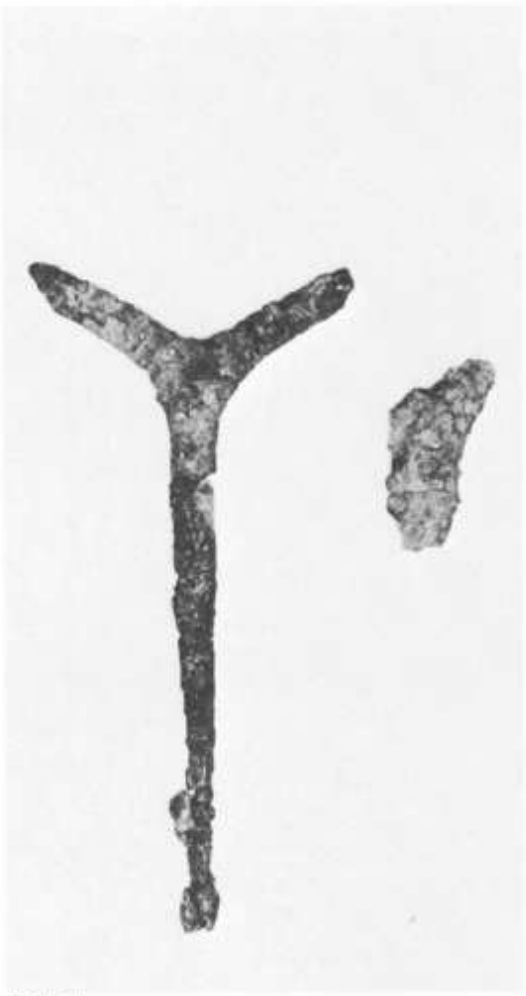


紡錘車(3～5)・研磨環(6～8)・海浜石

有孔土製品(12)・土製円盤(3·4)
ミニチュア土器(5)・土錘(6)



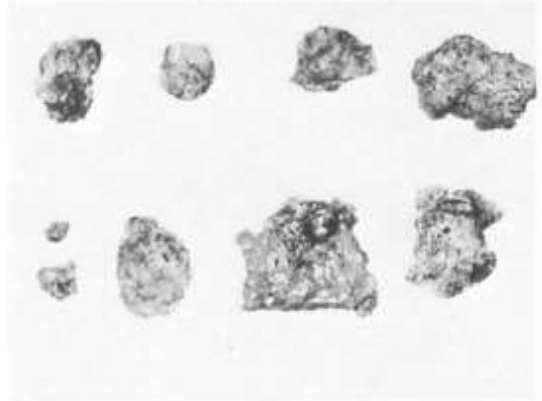
羽口(7～13)



雁股鏃

刀子

釘



鉄滓

不明鉄製品

**第40図版　鉄器**

松本市文化財調査報告No.82

# 松本市県町遺跡(本文編)

平成2年3月20日　印刷
平成2年3月30日　発行

編集　松本市教育委員会
〒390　長野県松本市丸の内3-7
TEL 0263（34）3000

発行　長野県松本県ヶ丘高等学校
　　松本市教育委員会

印刷　アサカワ印刷株式会社